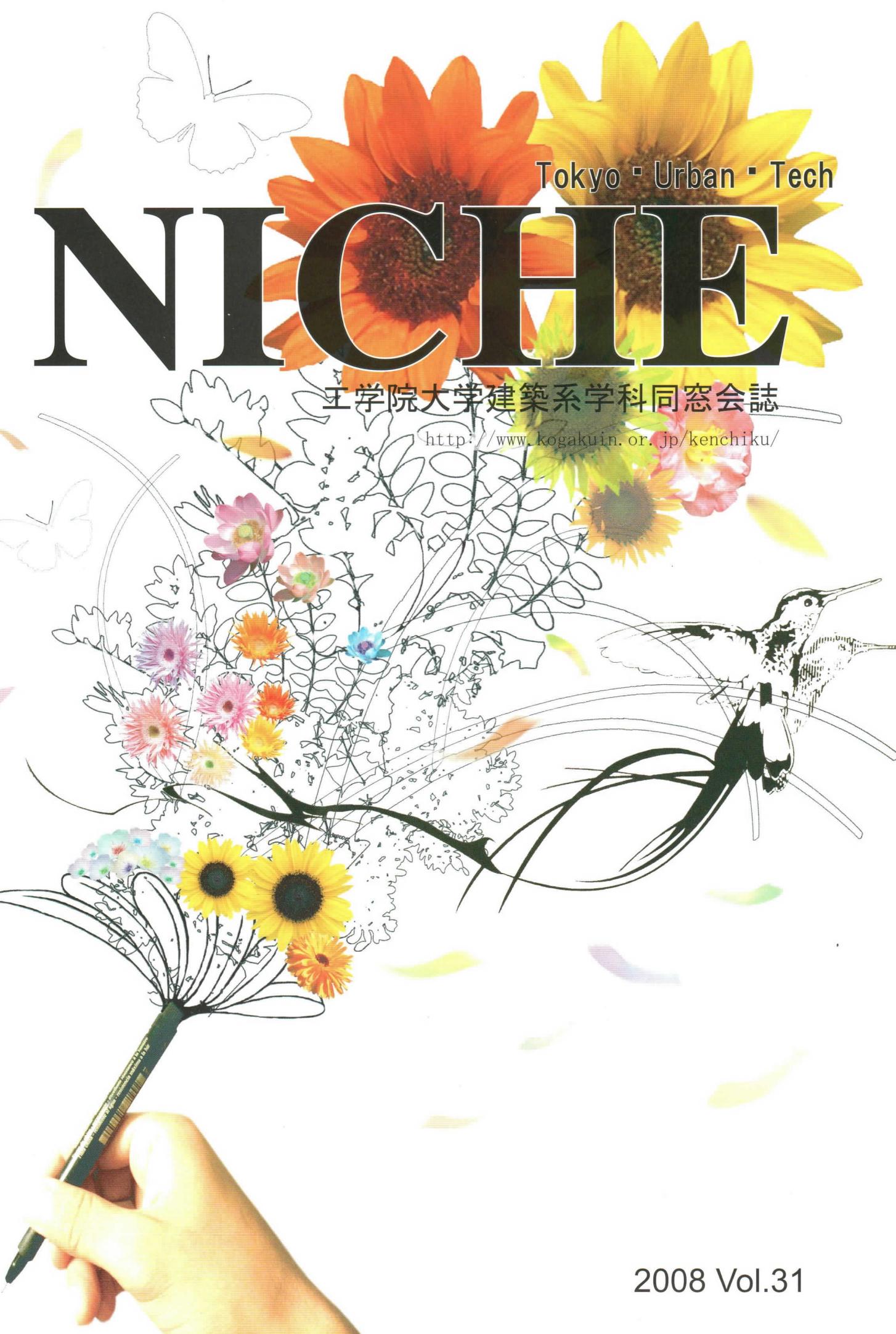


NICHE

Tokyo · Urban · Tech

工学院大学建築系学科同窓会誌

<http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/>



2008 Vol.31



国土交通大臣 登録住宅性能評価機関
住宅金融支援機構 協定指定機関

国土交通大臣 指定確認検査機関
(財)住宅保証機構 検査機関

株式会社 住宅性能評価センター

| | | |
|--------------|---|---|
| ・代表取締役会長兼CEO | 田野邊 幸裕 | (建築学科 昭和44年卒) (建築系学科同窓会 会長) (校友会 副会長) |
| ・代表取締役社長 | 杉山 正博 | (建築学科 昭和45年卒) |
| ・技術推進室 | 宮田 奈津 | (建築学修士 平成15年卒) |
| ・建築基準適合判定資格者 | 石川 良男 蒂金 貞介 林 英雄 藤橋 修 加藤 肇 赤池 正幸 平野 久雄 江成 武久 勝谷 尚武 中島 範義 | (建築学科 昭和37年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和38年卒) (建築学科 昭和39年卒) (建築学科 昭和40年卒) (建築学科 昭和41年卒) (建築学科 昭和41年卒) (建築学科 昭和45年卒) (建築学科 昭和47年卒) |
| ・審査統括部・検査統括部 | 曹 政雄 中村 克宏 漆間 幹 並木 靖 門脇 賢治 佐山 弘枝 望陀 佐和子 小田 恵美子 須藤 光俊 西川 恵理 泉澤 恵子 船原 友子 富田 純子 吉田 研史 | (建築学科 昭和44年卒) (建築学科 昭和44年卒) (建築学科 昭和47年卒) (建築学科 平成09年卒) (建築学修士 平成11年卒) (建築学科 平成12年卒) (建築学修士 平成13年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成15年卒) (建築学科 平成16年卒) (建築学科 平成16年卒) (建築学修士 平成17年卒) (建築学修士 平成17年卒) |

工学院大学・大学院の先輩・後輩が多数在職しています。

建築基準適合性判定資格者 の方、

構造計算適合性判定員 の方、

平成20年度・21年度新卒 の方、募集中です！

問い合わせ先:03-5367-8730(代) 杉山(S45年 建築学科)まで



本 社 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-3-11 御苑前311ビル 5階
03-5367-8730 (代) www.seinouhyouka.co.jp

出張所 北関東地区出張所・西関東地区出張所・山陰地区出張所・中部北陸地区出張所

住宅性能評価、【フラット35】適合証明、住宅保証機構:

日本全国

建築確認、現場検査:

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、山形県、群馬県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、石川県、富山県、新潟県、福島県、島根県、鳥取県、広島県及び宮城県の全域

職員募集

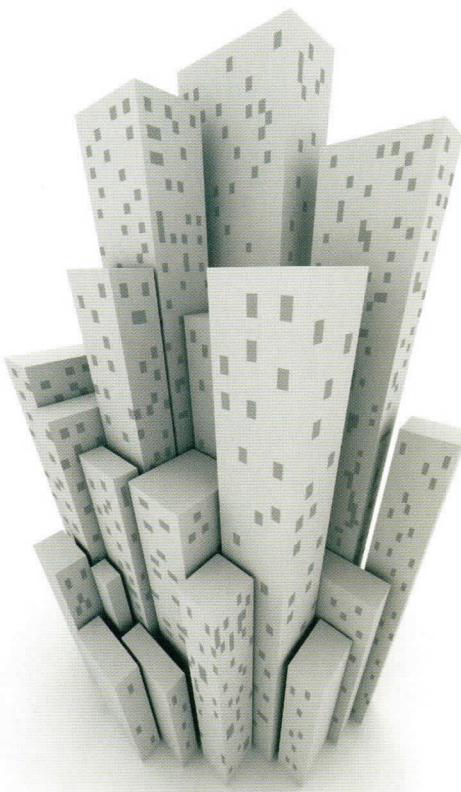
構造計算書偽装問題の再発防止のため、平成19年6月20日に改正建築基準法が施行されました。それにより、高さ20mを超える鉄筋コンクリート造などで、一定の高さ以上等の建築物や高度な構造計算をした建築物については、指定構造計算適合性判定機関による構造計算適合性の判定(ピアチエック)が義務付けされました。

多くの工学院大学の先生方や卒業生の皆様にご協力を頂き、専門家知識を持つ第三者機関として、東京都・埼玉県・神奈川県で判定業務を開始いたしました。

私たちは、国民の建築業界に対する不安から信頼を取戻し、業界の発展と安心な建造物造りに貢献してまいります。また、建築構造を学ぶ学生達に、生きた現場構造に触れる機会として「インターフィップの場」を提供し、後進の育成に協力してまいります。

——代表取締役社長 田野邊幸裕(建築学科1969年卒業)

構造に興味のある新卒・第二新卒の方、また構造の専門家の方、一緒に働きませんか。



まずはご連絡下さい。
saiyo@kozocenter.co.jp



国土交通大臣指定構造計算適合性判定機関
株式会社建築構造センター

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-11-4 龍生堂ビル6階
TEL:03-6413-5777 FAX:03-3350-1261
<http://www.kozocenter.co.jp>

次の世代の資産を創る。

わたしたちは、不動産流動化事業の

フロントランナーとして、時代と土地を凝視し、

その地にあるべき「建築の姿」を追求しています。

そしてそれは、レジデンス、オフィス、ショッピングモール

となって続々と誕生しています。

「ものづくり」の原点を見つめ、ひとつひとつ、丹精を込めて

建物を創り上げること、そして、人が真に心地よさを感じる

空間を創り続けること——。

わたしたちは、この基本姿勢を大切に守りながら、

未来を見据え、次の世代に引き継がれる、

優れた社会資産の創造に寄与して参ります。

www.retec-duplex.co.jp



DUPLEX

リテック・コンサルタンツ

国土交通大臣(2)第5847号(社)不動産流通経営協会会員
(社)全日本不動産協会会員(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟
〒112-8683 東京都文京区自白台2-9-13 自白台デューブレックスタワー
TEL.03-5976-8888

トルテック都市建築設計事務所

一級建築士事務所 登録番号 東京都19172号
〒112-8684 東京都文京区自白台2-9-13 目白台デューブレックスタワー
TEL.03-5976-8881

デューブレックス・ギャザリング

東京都知事免許(2)第76366号
〒112-8685 東京都文京区目白台2-9-13 目白台デューブレックスタワー
TEL.03-5976-8885

デューブレックス・アセット・マネジメント

関東財務局長(企画)第358号(金融商品取引業者)
国土交通大臣認可第49号(取引一任代理等認可)
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-8-10 秋葉原リーブレックスR's
TEL.03-5812-6730

● DUPLEX DESIGN LIST

- 1 MUSASHINO DUPLEX
- 2 TSUKIMINO DUPLEX
- 3 FUCHU MIYOSHICHO DUPLEX
- 4 SHIMOMEGURO DUPLEX
- 5 MUSASHISHINJO DUPLEX
- 6 HAMADAYAMA DUPLEX
- 7 IKEBUKURO DUPLEX
- 8 TAKAIDOHIGASHI DUPLEX
- 9 KAMIKEIKAI DUPLEX
- 10 KAMIKEIKAI DUPLEX II
- 11 OKUSAWA DUPLEX
- 12 SHIMOOCCHAI HIGASHI DUPLEX
- 13 SHIMOOCCHAI MINAMI DUPLEX
- 14 F.G.TAKAIDO DUPLEX
- 15 TODOROKI DUPLEX
- 16 DAIKANYAMA DUPLEX
- 17 GOTENYAMA DUPLEX
- 18 TENNOZ DUPLEX
- 19 NISHIOGIKUBO DUPLEX
- 20 MUSASHINO DUPLEX II
- 21 KITAYONO DUPLEX
- 22 HOYA DUPLEX
- 23 KINUTA DUPLEX
- 24 NISHIOGIKUBO DUPLEX II
- 25 SHIOMIDAI DUPLEX I&II
- 26 TAKADANOBABA DUPLEX I&II
- 27 MEGURO DUPLEX
- 28 YOYOGI DUPLEX
- 29 ULS TSUKUSHINO DUPLEX
- 30 MEJIROOTOMEYAMA DUPLEX
- 31 KUNITACHI DUPLEX I&II
- 32 NIHONBASHI YAESU DUPLEX PORTION
- 33 MIYAMAEAIRA DUPLEX
- 34 HIGASHI NIHONBASHI DUPLEX PORTION
- 35 NIHONBASHI MUROMACHI DUPLEX PORTION
- 36 OCHANOMIZU DUPLEX R's
- 37 MEGUROMITA DUPLEX R's
- 38 KITAZAWA DUPLEX R's
- 39 MEJIROOTOMEYAMA DUPLEX R's
- 40 FUJIMI DUPLEX R's
- 41 NISHIAZABU DUPLEX R's I&II
- 42 YOYOGI ICHOUUME BUILDING
- 43 NIHONBASHI HAMACHO DUPLEX R's
- 44 AKASHICHO DUPLEX R's
- 45 TAKANAWA DUPLEX C's
- 46 HIGASHGINZA DUPLEX R's
- 47 KAMIYACHO DUPLEX C's
- 48 TORANOMON DUPLEX R's
- 49 YOKOHAMA YAMATE DUPLEX R's - horse park side
- 50 KOJIMACHI DUPLEX B's
- 51 DUPLEX GINZA TOWER 3/11
- 52 DENENCHOFU DUPLEX R's
- 53 YOKOHAMAKOEN DUPLEX R's - stadium side
- 54 KUDAN DUPLEX R's
- 55 YOYOGI DUPLEX TOWER
- 56 DUPLEX GINZA TOWER 1/15
- 57 NINGYOCHO DUPLEX R's
- 58 DUPLEX GINZA TOWER 7/10
- 59 TSUKIJIAKASHICHO DUPLEX R's
- 60 HIGASHIIKEBUKURO DUPLEX R's - PET ARENA
- 61 KICHIOJI GOTENYAMA DUPLEX R's
- 62 SENDAGAYA DUPLEX R's
- 63 HANZOMON DUPLEX B's
- 64 ROPPONGI DUPLEX TOWER
- 65 DUPLEX GINZA TOWER 5/13
- 66 SANBANCHO DUPLEX B's
- 67 ROPPONGI DUPLEX M's
- 68 IKEBUKURO DUPLEX TOWER
- 69 YAESU DUPLEX R's
- 70 DUPLEX GINZA TOWER 2/11
- 71 DUPLEX GINZA TOWER 8/14
- 72 MINAMIAZABU DUPLEX C's
- 73 SHIBUYA DUPLEX B's
- 74 MINAMIAZABU DUPLEX R's
- 75 MITA DUPLEX C's
- 76 SHIBUYA DUPLEX TOWER
- 77 UENONOMORI DUPLEX E's
- 78 IKEBUKURO DUPLEX R's - PET ARENA
- 79 MITATSUNAMACHI DUPLEX R's - culture promenade
- 80 EBISU DUPLEX R's
- 81 YAMASHITAKOEN DUPLEX TOWER

(achievements)

● BRAND MESSAGE

Tenderness

人が単位の思想



建築は住まいから始まった。
やがて神を祀る神殿が出来た。
それらの小さな空間も大きな空間も
人を単位として成り立っている。
快適さや心地よさは、
そこにいる人が感じるもの。
空間と人が呼応して初めて空間が息づく。
あらゆる建築に忘れてはいけないものは、人という単位だ。

Dear

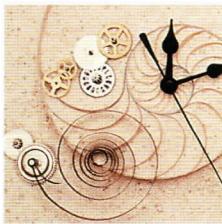
土地の記憶



その土地の望むべき姿がある。
語り継ぐ長い歴史がある。
水の記憶、火の記憶、風の記憶、
そして人の記憶。
ていねいにその土地の記憶をたどり、
“今”その土地の声に耳を傾け、素直な心で形にしたい。

Value

時代の成長と変化



世の中には代えられるものと
代えられないものがある。
また、変わるものと
変わらないものがある。
時代の変化と共生する建築、
成長の意味を知り尽した建築をわたしたちは提案します。

DUPLEX B's

DUPLEX C's

DUPLEX R's

DUPLEX SEMINAR HOTEL

REEPLEX

ビジネス拠点としての
快適性を追求するオフィスビル

集合住宅の快適性とホテルの利便性を
兼ね備えた家具付サービスアパートメント

居住性と機能性を追求する
賃貸マンション

研修施設としての使いやすさを徹底的に
磨き上げたホテル

新たな価値を創造する
リニューアル・エンジニアリング

※「DUPLEX」とは「対話」を意味する株式会社リック・コンサルタンツの集合住宅のブランド名であり、商標登録を致しております。

建築士・宅建資格の日建学院グループがお届けする

工学院大学・「NICHE」応援企画

特別ご優待のご案内

1泊2食付

¥6,500~



鬼怒川の
自然に囲まれた癒し宿

皆さまのお越しをお待ちしております。

学校行事に。サークル活動に。家族サービスに。



鬼怒川の中心部に位置するニッケン舟見荘は、東京からのアクセスもよく日光などの観光にも便利。そんな立地に、自信をもって提供するお食事と源泉100%掛け流しの温泉があり、合宿や研修に最適な施設も完備。トレーニングルームもございます。

最良のオンと最高のオフの両立



*研修室／会議室のご利用料金はお問い合わせ下さい。トレーニングルーム、開幕、将棋はご自由にお使いいただけます。

下記の特別割引券をご利用で、4名様まで通常ご宿泊料金より
1泊につきお一人様2,000円の割引でご利用いただけます。

NICHE vol.31 限定
特別割引券

通常ご宿泊料金より、1泊につきお一人様

¥2,000 off

*ご予約の際に本券ご利用の旨をお申し出下さい。

*ご到着(チェックイン)時に本券をフロント係員にお渡し下さい。

*他のサービス券との併用は出来ません。

*本券1枚で4名様まで有効です。



天然温泉源泉100%

ニッケン 舟見荘
FUNAMISO

<http://www.funamisou.com>

〒321-2522 栃木県日光市鬼怒川温泉大原2
TEL.0288-77-3030 FAX.0288-77-3131

通常ご宿泊料金(1泊2食付)

| ご宿泊日 | 舟見料理 | くえコース | ふぐコース |
|----------------|---------|---------|---------|
| ・日～木(平日) | ¥8,500 | ¥12,000 | ¥13,000 |
| ・金、土、祝祭前日 | ¥9,500 | ¥13,800 | ¥14,900 |
| ・GW(4/25～5/10) | ¥11,000 | ¥14,500 | ¥15,500 |
| ・お盆(8/8～8/16) | ¥13,000 | ¥15,800 | ¥16,900 |

*15名様以上の場合は幹事1名様無料特典など、研修や合宿用の食事内容、料金へのアレンジも別途相談承ります。

快い時間の流れを感じる



*ニッケン舟見荘では、野外バーベキュー用にIH式のテーブルを無料でご用意しております。

NICHE 2008 Vol.31

CONTENTS

同窓会会長挨拶

6 NICHE 2008 Vol.31 の発刊に寄せて 田野邊幸裕

NICHE Topics

- 8 工学院大学校友会 沖縄全国大会
9 南国のは 岩城へめんそーれ！ 芳田眞喜人
10 卒業生（校友会会員）の求職・転職をサポートします！
八王子キャンパス・スクエア・デベロップメントセンターの設計にあたって
澤岡清秀
12 石見銀山が世界遺産に正式登録決定！
その真の功労者は本学OBの渡部孝幸氏 NICHE 編集部
14 第27回東北建築賞および2007年度アジアデザイン大賞の受賞について 鈴木敏彦
15 東芝エレベータ主催「未来エレベーターコンテスト2007」優秀賞受賞 藤木研究室一同
15 「第2回 大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会 in 墨田」東商支部会長賞 「ものづくり都市 すみだ」 初田研究室 川島チーム
16 2007年グッドデザイン賞、地域住宅計画賞、エコビルド大賞受賞 半田雅俊
16 「24時間耐久ワークショップ」審査員篠原聰子賞受賞 高山基
17 「9坪ハウス」コンペ2007濱口重乃賞 溝口崇 岡田和人
17 That's八王子学、～学生が提言するまちづくりとは～優秀賞受賞（八王子市主催） 高野哲矢
18 佐原・地上機、電源ボックス修影コンペ 最優秀賞～NPO 小野川と佐原の町並みを考える会主催～ 佐藤夢津美 渡辺靖晃
18 町並み案内図 最優秀賞 NPO 小野川と佐原の町並みを考える会主催 五十嵐梨香
19 平成18年度の「秋の叙勲」を授受して 矢田清治
19 海外木質構造設計事例調査 津田千尋

20 新刊書紹介

特別企画

- 22 ミッドランドスクエア 佐藤健
28 超高層建築の新たな挑戦 —モード学園コクーンタワー— 本田昌義
32 都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」受賞 一再生豊前街道復活— 福山博章
36 今和次郎コレクション 萩原正三

特集

- 40 コンペティション凱旋報告 平井充

NICHE PASSPORT

- 44 ドイツの旅 森本之
47 大都市NYと自然の共存計画を体感する 木下志帆
50 「環境と建築の融和を求めて」オランダ・オーストリア・イスラエルを巡る 小山洋太
52 独自の個性・魅力をもつロンドン・パリ 丸山希恵

around the world

- 54 中国での作品と計画案 マイク真秀鈴木

世界の建築家と工学院大学⑤

- 60 フィンランドの建築家アルヴァ・アアルトと武藤章 南迫哲也

輝かしき先輩達⑨

- 68 河村伊蔵を父に、内井昭蔵を息子に持つ 内井進

同窓生を訪ねて

- 74 旧「日本火災横浜ビル」の工事に携わって 市川喜彦
80 東京大学柏キャンパス環境棟における環境配慮計画 小内實

同窓生からの便り

- 84 左官工事の潜在能力 鈴木光
86 近代住宅の保存と再生～今泉篤男邸（旧飯箸邸）の移築事業について～ 永井敬子
88 施工団事務所からソフトハウス設立へ 千葉宣明
90 「大成の大成です！」 大成社

My Favorite Time

- 92 「星の降るまち」 武井伸吾

NICHE PASSPORT

- 94 構造の役割とその可能性 戸澤知仁
96 トルコの神聖な建築群の空間体験記 渋谷有紗
98 建築×教育～シャティナーの足跡から学ぶ旅～ 森藤智子
100 北欧の高齢者と、内部環境を体感 篠原怜子

around the world

- 102 師訓 Leaning from Vietnam 井川潤
106 Better City for Better Life 保清人

ニッチギャラリー

- 108 クイーンズメドウ・カントリー・ハウスの馬付住宅（馬100頭）プロジェクト 高木雅行
112 木の中学校 矢田和弘
116 幻想の森 市営斎場 横田歴男
120 30年前の今 一ベンガラ塗りをテーマにした一連の住宅群について 藤本幸充

新しい風に聞く

- 124 新任の挨拶 長澤泰教授
125 新任の挨拶 木下庸子教授
126 新任の挨拶 山下哲郎准教授

また会う日まで

- 127 建築都市デザイン学科退職にあたり 望月大介
128 建築都市デザイン学科退職にあたり 嵩英雄
129 旧国鉄宮原線のコンクリートアーチの幸野川橋梁（熊本県小国町）で竹筋を確認 嵩英雄
130 また会う日まで 瀬田亜矢准教授

131 工学院大学建築系学科ホームページの紹介

学科だより

- 132 第1部 建築学科の近況 大橋一正教授
133 建築都市デザイン学科の近況 野澤康准教授
134 第2部建築学科の近況 倉田直道教授
135 大学院建築学専攻の近況 宮澤健二

136 2007年度 各研究室の在籍者名簿

137 2006年度 卒業設計・卒業研究題目

NICHE Topics

- 140 建築系学科同窓会総会開催 NICHE 編集部

140 2008年度 運営委員会名簿

141 2007年度 年会費・寄付金

146 表紙デザインのコンセプト・表紙デザインコンペ・編集後記

NICHE 2008 Vol.31 の 発刊に寄せて

工学院大学建築系学科同窓会 会長

田野邊幸裕

昭和 44 年 工学院大学 1 部建築学科卒業
鹿児島県立鹿屋高等学校 出身



はじめに

■ 構造計算書偽装問題の再発防止のため、2007年6月20日、「改正建築基準法」が施行されました。しかし、運用面の問題で建設業界に対する周知や、業界の準備不足から建築確認の申請・審査に混乱が生じています。建築着工遅れが大きな社会・経済問題となる中、昨年追い打ちを駆けるように、サブプライムローン問題が起こりました。これが引金となった株安は、今も日本経済立ち直りを不気味に停滞させています。この混乱は、しばらくは解消されていない状況でしょう。会員の皆様もこの問題解決に、さぞ苦慮されていることと思います。

■ 更にこの一環として、瑕疵被害を補償する制度が、2009年10月1日から開始します。これは引渡す全ての新築住宅に対して、供給業者は瑕疵担保責任の履行を確保しなければなりません。その「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」が施行されます。

この制度は、供託又は保険の方法によって、建設業者（注文住宅・賃貸住宅等の受注業者）や宅地建物取引業（共同住宅や分譲住宅等の販売業者）の住宅を供給している会社に対して、品確法で定める10年間瑕疵担保責任の履行に必要な資力確保義務付けることです。多くの業者が利用する保険の場合は、設計審査や現場検査が必要なことから、この NICHE が皆様に届くころには、共同・分譲住宅は手続きが開始される時期でしょう。

■ また、来年2009年の6月に予定していた「建築確認・検査の特例制度」（4号特例）廃止のスケジュールについて、国土交通省は今回の混乱を反省し、一旦廃止時期を延期しました。しかし、見直しが白紙に戻ったわけではなく、引き続き準備をしておく必要があると思われます。廃止された場合、2階建ての木造住宅においても、基礎伏図などの各種伏図や設備図・構造計算書が確認申請時点での必要となります。

■ ただ、新設される構造一級建築士や設備一級建築士が設計した場合は、特例が適用される見込みです。また、2007年度12月末現在では、建築基準法等の法律に抵触した資格者に対して、一級建築士の免許取消10名、業務停止51名の処分が行われました。このことは、これまで見過ごされがちであった建築士の資格責任を、社会的に明確に示す時代となったのです。めぐるしい業界環境が変化する中、色々な分野でご活躍の「卒業生会員の皆様」には、逆にこの時期が事業のチャンスと認識され、各自の目的に邁進されることをご期待いたします。

■ さて我が母校は、今から4年後の2012年（平成24年）10月31日は、学園創立125周年を迎えます。1887年（明治20年）この日、「工手学校設立協議会」が開催されました。渡邊洪其が設立委員長となり、建築関係から辰野金吾と藤本重吉の2人（全14名）が署名した設立趣意書を発表しています。以来120年。工手学校から工学院大学と続く長い歴史の中で、私立学校のパイオニアとして日本の工業立国（明治・大正・昭和・平成時期）を支える大きな役割を担ってきたわけです。

■ すでに学園では、創立125周年記念事業委員会が発足（2007年10月）し、125周年ロゴマークが学内応募作品の中から選ばれ、封筒や刊行物に刷り込むなど、使用が開始されています。記念事業は次の3つの柱が基本となり進められます。

- ① 工学院大学のブランド力を上げるために役立つ広報的な視点に立った「地域・社会貢献事業」
 - ② 学生・生徒参加型のイベント、学生・生徒の自覚を尊重した「学生・生徒の自主的活動支援事業」
 - ③ 建物や設備の新設は、新教育事業の具体的な展開や新企画を実現する「教育研究環境整備事業」を予定。建築系学科同窓会及び校友会は、この事業委員会に参画し全面的に学園に協力し、推進することに致しました。
- 皆様には、この趣旨にご賛同いただき、募金活動を含めて絶大なるご支援をお願いいたします。

校友会、沖縄全国大会にご参加下さい

2008年10月11日（土曜日）に、沖縄県那覇市で開催。この頃の那覇の気候は日中27～28度、夜間は22～23度と、年間でも大変過ごしやすい。参加希望者から建築専門のツアーコースを検討して欲しいという希望も届いており、現在企画中です。全国の多くの同窓生の方々も、ご夫婦同伴で都合をつけて戴き、是非ご参加をお願い致します。詳しくは「南国の島、沖縄へめんそーれ！」8ページを参照してください。

八王子キャンパスに、 スチューデントセンター竣工

八王子キャンパス「スチューデントセンター」が2007年12月竣工。食堂、ラウンジ、学生委員会室、多目的ホール等で構成する福利厚生施設で、学生が集い、語らう憩いの場として八王子キャンパスの新しい顔となりました。設計者の建築都市デザイン学科教授澤岡清秀先生談。「八王子キャンパスの『顔』となるような建物として半外部空間を積極的に取り入れた大変素晴らしい建物です。同窓生の方々も是非ご利用してみてください。



求職・転職希望者の同窓生へサポート

昨年度の反省にたって今年からは校友会事務局を経由せず、個人情報尊重の立場から、専門企業と直接本人がコンタクトをとつて対応するようにしました。建築系業務が中心になりますので、建築全般はもとより、管理業務は熟年世代、設備関係は機械・電気関係者、材料などは応用化学などの幅広い卒業生の対応などもサポートが考えられます。同窓生皆様の、忌憚のないご意見お寄せ下さい。9ページ参照。

1級建築士、2級建築士など資格習得へのサポート

建築系学科同窓会では、5年前から同窓生や、在校生を対象に1級建築士、2級建築士、宅地建物取引主任の「資格支援Web講座」を特別価格でサポートしています。設計事務所のオーナーからも「資格・支援事業は非常に大切で、新入社員が2級建築士をすぐに取得しても大変戦力になる」と意見がありました。多くの同窓生や在校生がこのシステムを活用してグレードアップして、社会的貢献に役立ててください。

海外渡航奨励金支給について

在校生を対象に、海外渡航のサポートを建築系学科主催（建築系同窓会の寄付金を源資に運用）で実施しています。毎年7～8名の該当者が世界中に渡航して見聞を広めています。最新事例は本誌の NICHE PASSPORTをご覧下さい。それぞれの企画でオリジナルな紀行文を掲載しました。在校生の方々は早めに渡航先や視察したい内容を煮詰めて応募しては如何ですか？募集時期は例年10月1日頃になりますので、学科の掲示をご注意ください。渡航者は帰国後1ヶ月以内にNICHE編集部に、紀行文の提出をお願い致します。

平成19～20年度、同窓会総会開催

2007年5月27日に出席者41名のもと、工学院大学新宿キャンパス563教室で開催。議案1、第41期（2006年度）事業結果の報告、議案2、第42期（2007年度）事業計画（案）の報告が行われ、議案及び同窓会役員について、全員の拍手をもって承認されました。平成20（2008）年度の同窓会総会も2008年5月24日（日曜日）に開催の予定です。同窓生皆様のご出席をお願い致します。

NICHEの表紙デザインコンペ 一 個性ある作品を、期待していますー

締め切り / 2008年9月29日（月曜日）午後5時
・提出物と提出先／応募するデザインをCDに焼いて、
163-8677東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学建築系
学科 都市建築デザイン学科 谷口研究室内、
NICHE編集部に提出。
☎ 03-3340-3529 Fax 03-3340-0588
詳細は146ページをご覧下さい。

年会費納入のお礼

我々建築系学科同窓会の活動は、卒業生の支援のみならず、在校生への各種支援や、建築系学科を受験した全国の1,800高校（昨年実績）、及び卒業生の就職希望企業1,000社へも同窓会誌「NICHE」を配布して、母校躍進に大きく貢献しています。こうした活動を発展・持続させるためには、我々同窓会役員の日々のたゆまぬ努力と、卒業生皆様のご協力が必要です。この意義をご理解戴き、会費を納入していただきました卒業生の皆様、ありがとうございます。この誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。

「NICHE」応援企画 鬼怒川温泉ニッケン舟見荘の特別割引券

東京から身近な日光鬼怒川の天然温泉「ニッケン舟見荘」の半年間有効・特別割引券のご協力を戴きました。卒業生・在校生・学園関係者・ご家族の皆様。ご家族お揃いで、またはOB会や合宿・研修や社内旅行などにもご活用下さい。4ページ参照。



工学院大学校友会 沖縄全国大会

南国の島

沖縄へめんそれ！

毎年発行の校友会会報VOL. 127、128にて第16回工学院大学校友会全国大会沖縄大会（平成20年10月11日（土）開催）へのご挨拶文を掲載さて頂きました。

今回は大会期日・大会場所・申し込みの方法や開催県沖縄の特色など、詳細に亘ってのPRをさせて頂きます。

沖縄県の面積は2,275Km²、53万世帯、人口約140万人の大きな島です。県庁所在地である那覇市の人口が31万人で、ミニ東京と言われるまでに発展している都市です。先ず全国大会が開催される沖縄の10月の季節ですが、スポーツの秋にふさわしく日中の気温が27, 28度、夜は22, 23度で凄くしのぎ易いです。

沖縄の伝統芸能と言えば歌三線による琉球舞踊、空手、獅子舞、エイサー等ユニークな芸能など独特な伝統芸能があります。その他沢山の世界遺産が有ります。

沖縄の観光地、旨いものの店、土産品店等は後で紹介します。

全国大会実行委員会では、500名の参加を目標に準備を進めています。ぜひ一人一人が会員への参加呼び掛けをして頂きたいと思います。

大会実施要領

開催日：2008年（平成20年）10月11日（土）

会場：沖縄県那覇市西3-11-1

（沖縄県男女共同参画センター ているる）

那覇空港よりタクシーで15分

電話番号：098-866-9090

大 会

[受付]：16:00～17:00 ロビー

[大会式典]：17:00～17:30 大ホール

[記念講演]：17:40～18:40 大ホール

[祝賀会]：19:00～21:00 パシフィックホテル
(式典会場より徒歩3)

参加費：10,000円／1人 同伴者；7,000円／1人

*郵便振込先：口座名義 工学院大学校友会沖縄県支部
番号：1740-2-134492

*参加できなくて寄付をしていただける方も上記口座への振込みをお願い致します。（1口・5,000円）



芳田眞喜人

沖縄県立沖縄工業高等学校 卒業
工学院大学工学部電気工学科 卒業
中森研究室
e-mail:bmdqw501@yahoo.co.jp

事務局：沖縄県西原町字翁長920-57

T E L 兼 F A X 098-946-7062

沖縄県支部長：芳田眞喜人

祝賀会では沖縄の独特的伝統芸能が鑑賞できるよう企画しています。

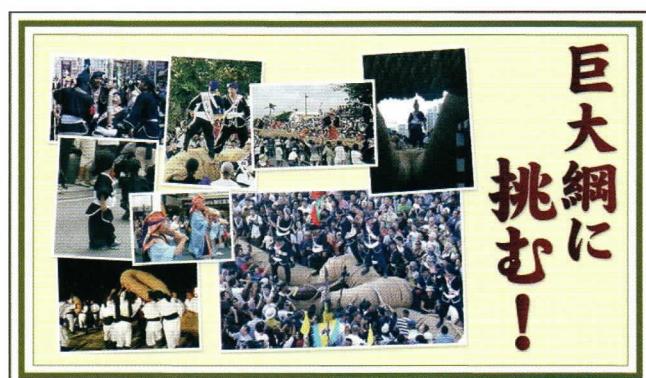
沖縄ツアー（航空運賃+宿泊費）のご案内

参加希望者の航空券・宿泊等の手配はパック料金などを検討（2008年2月末日現在）しています。
5月連休頃にお手元に届く校友会広報誌や、校友会H.Pでのご案内を参照して下さい。

*沖縄での全国大会は、沖縄らしい大会にしたいのとから「かりゆしウエア」か「クールビズ」着用での参加をお願い致しております。かりゆしウエアの調達は各人でお願いします。GoogleかYahooで「かりゆしウエア」と入力し検索すれば、サイズ、柄、値段等が判り調達方法も判ります。

「全国大会翌日は」ギネスブックに登録されている那覇大綱挽の無料イベントに参加出来るように企画しています。

10月12日（土）有料イベントとして首里城・玉泉洞観光コースを設定していますが、この観光コースを観光した後、那覇の大綱挽に参加出来るように時間設定しております。10月12日（日）午後3時より17時30分までの間30万人の観光客が熱狂する那覇祭りの最大イベントの大綱挽の大綱は、重さが43トン、直径1.7m、長さ200mもあり、ギネスブックに登録されています。
約1万の方々が東西に分かれて銅鑼や鐘の音と、掛け声に合わせて引っ越し合いをします、迫力満点のイベントです、20分～30分ほどで決着が付きます。大綱挽会場から那覇空港までは車でなら15分で行けます。



卒業生(校友会会員)の求職・転職をサポートします!

現在、多様化する社会的情勢に対応するため、各企業ではより確かな知識と技術を持った人材の獲得が必要となっています。確かなノウハウを持った優良な若手から中堅経験層、シニア層人材の活用など活発化してきております。是非、本サポートシステムをご利用下さい。

■校友会会員の求職・転職をサポート

校友会では、昨年、建設・土木・不動産系を中心とした、日建学院グループ職業紹介専門企業「ニッケン・キャリア・ステーション」とタイアップし、会員の皆様の求職・転職に対するご要望にお応えするサポート体制を整えました。また、建築系以外の職業紹介サービスも実施しています。

(1) 職業紹介事業に対する意識

より確かな人材を求める企業側の需要と、優良人材の引き合わせを行なう職業紹介事業－「たくさんの情報の中から、選択することができる」「専門機関として第3者が間に入ることで、企業側の正確な情報を知ることができます、応募する前の選別がしやすくなる」など、多くのメリットが認知されています。就職活動に当たっては、職業紹介会社を第一に選択するという流れが出来つつあります。

(2) ニッケン・キャリア・ステーション(厚生労働省大臣許可13-ユ-090149)とは

日建学院グループ、建築業界中心に特化した職業紹介・人材派遣のエキスパート企業です。より前向きなスキル

アップ・ステップアップ転職へ「心をこめたお手伝い」：コンサルティングを通して、その方の可能性を拓げる就職・転職のお手伝いを心がけています。また、2006年、活発化しつつあるシニア需要に対応するシニア事業部を立ち上げ、積極的な活動を行なっています。

現在社員数145名(社員35名、派遣社員110名)、顧客企業3,800社、登録人数8,500名。

実績紹介(平成14年～)全体：派遣650件、紹介850件
工学院大学関連卒業生 200名(全学科の登録者) 紹介者26名

(3) ニッケン・キャリア・ステーションの親会社・日建学院(建築資料研究社)とは

全国130校、建築系国家資格取得教育業務を主体に、建築関連専門誌の発行なども手掛ける企業。建築系資格取得では40年近くの歴史を持ち、毎年約10万人の講座終了実績があります。

■登録希望者本人が直接「ニッケン・キャリア・ステーション」にお申込み下さい。

「ニッケン・キャリア・ステーション」へ求職登録は電話もしくはメールで、連絡。窓口の担当から今後の流れをご説明致します。東京・横浜・大阪・名古屋の拠点にて登録をして頂きますが、その他の方法についても相談できます。

*登録から仕事の紹介まですべて無料です。

*個人情報など厳守されます。

■お仕事ご紹介システムのご案内



[求職登録申込]

- ① TEL
- ② MAIL

以上、いずれかの方法でお申込み下さい。



求職登録完了

【求職登録申込連絡先】

| | |
|--|----------------------------|
| | 0120-810-298 |
| | TEL 03-3980-5181 |
| | FAX 03-3980-5552 |
| | ncs@to.ksknet.co.jp |



求人企業紹介

八王子キャンパス・スチューデントセンターの設計にあたって

私たちはこの建物を八王子キャンパスの新しいシンボルになるようにしたいと考えました。そのために、緑あふれる環境の中にとけあうように建物を配置すること、斜面地という敷地の特性を最大限に生かすこと、さらに内部と外部の中間領域となる半外部空間を積極的に取り入れること等をデザインの基本方針としました。

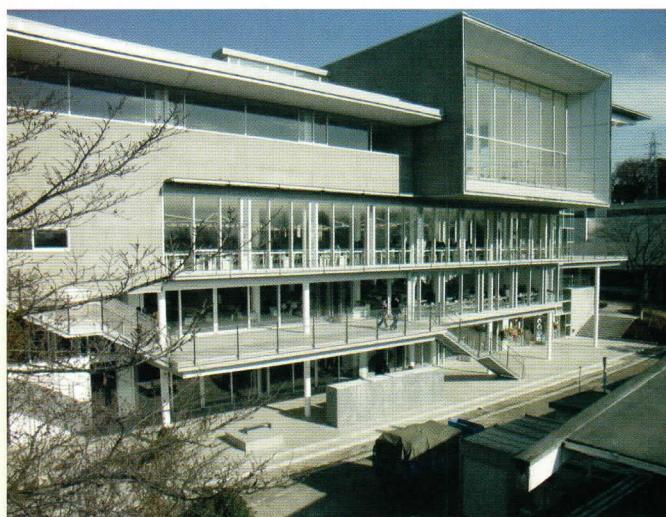
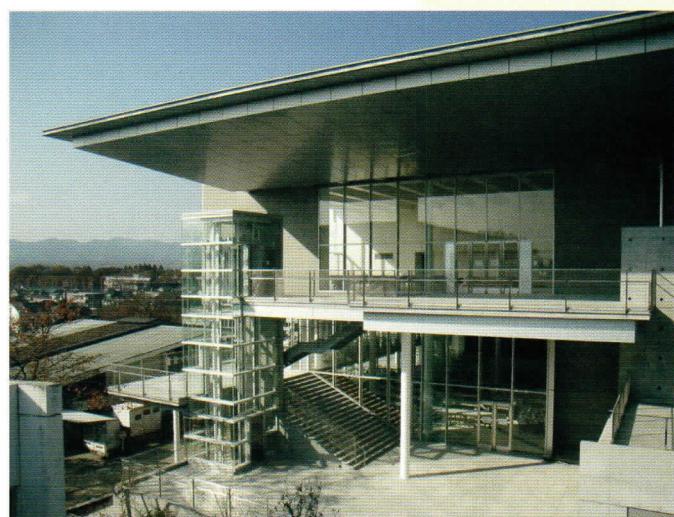
まずキャンパスを南北に貫く並木道の連続性を尊重して、桜並木を連続させつつ、建物を並木道から十分にセットバックさせて配置しました。敷地はこの南北軸の並木道と、バスロータリーから図書館のピロティ下を抜けてくる東西軸とがクロスする交差点、つまりキャンパスの中心に位置しています。従って多くの学生たちが集う賑わいの場となるポテンシャルを持っているので、ここにおおらかな半外部の空間を取り入れた気持ちの良い半外部空間を創ろうと考えました。

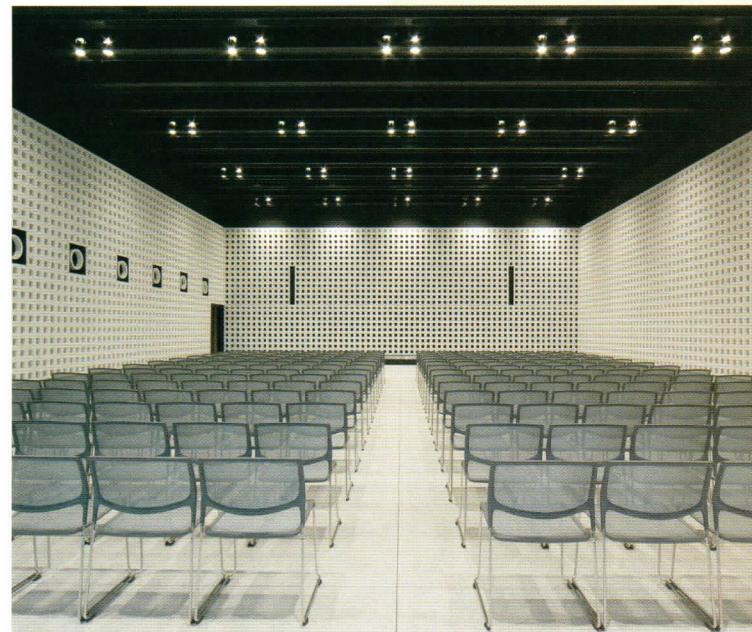


澤岡清秀

工学院大学建築都市デザイン学科教授

私たちがここで提案したのは、斜面立地を生かしてキャンパスの南北から集まってくる人の流れを自然に引き込むように動線を処理しながら、大きな庇の下に展開する半外部空間です。「オープンステップテラス」と名付けたこの場所は、建物の各階が階段とエレベーターで結ばれる主動線空間であり、そこに学生たちが日常的に最もよく利用する主要な機能（店舗、カフェ、ダイニング、ラウンジ）への入口をすべて集めました。そこでは学生





たちが行き交い、立ち止まり、談笑し、くつろぎ、常に生き生きとしたにぎわいが生まれるだろうと期待しています。

内部空間の中心である 790 席という大規模なダイニングホールは、2 層にわたりながら、半外部のテラスを織り交ぜつつ、家具のしつらえなどによっていくつかの個性的な部分に分節してデザインしました。大食堂でありながら、単調にならないように少しずつ性格の異なる場所の集合体のようにすることが狙いです。そして 1 階から始まるスパイラル状の空間の展開に沿って、2 階と 3 階を吹き抜けによって繋ぎ、さらに吹き抜けは 4 階まで繋がって全体に一体感と回遊性をもたせています。

最上階のラウンジは、南に遙か丹沢山系を見渡せる開放的な空間とし、中庭を介して学生活動室とも緊密に連携

できる構成としました。また一角に大きなバーカウンターを設けて、各種歓迎会やパーティーにも活用できるようにしました。

1 階の多目的ホールは、多様な催し物に対応できるよう十分な天井高をもつフレキシブルな平床間の空間とし、平素はクリエーションラボや半外部のロッジアと一緒に使える開放的な空間としますが、必要に応じて可動間仕切りで閉じて独立させ、学園祭の催し物、講演会や演奏会などの催し物にも対応できるような構成としています。他にも、屋上庭園を囲む学生活動室や、創作のためのクリエーション・ラボなど、いずれも外部空間との空間的連続性を尊重して設計していました。

この建物が今後八王子の学生生活の中心となり、大いに楽しく活用されていくことを切に願っています。



▲大森町の町並み



◀神社の祭り
町内を練り歩く



▲国重文熊谷家の前で登録の立看板に墨書する地元の人



▲仙ノ山から町並みを俯瞰



渡部孝幸

島根県立大田高等学校 1969年卒業
工学院大学建築学科 1973年卒業
十代田研究室
1級建築士事務所ゆまとてく
yumanitec@dream.bbexcite.jp

になって取り組み、施主や施工業者への対応を一番に考えて動いていた。やがて、管理職に就くが、彼のスタンスは大きく変わることはなかった。2003年には、限定特定行政庁として権限委譲を受け、以後3年間は建築主事として住宅などの4号建物の確認・完了検査などの業務を並行して行ってきた。伝統的な町並みの修理、あるいは修景などの建築基準法の適用について、建築主事の判断が問われるが、その都度状況に応じ、個別に解釈して出来るだけ景観を壊さないような摘要を心がけたそうである。現在の建築基準法では、伝統的な工法の木造建築、例えば、筋違いを用いず貫構造で壁を作り、金物を極力少なくした足固め差し鴨居で組む在来の構法では出来ないのである。

彼が手がけた町並みの復原修理は、既に百数十棟になる。建築基準法との整合性には、法自体の矛盾を覚えつつ日夜格闘した。「建物の安全性は法を頼ること以上に経験が重要だ…」と彼は言う。

彼はイコモスから来た世界遺産の調査官を案内し、その価値を熱く紹介した。しかし、世界遺産決定する直前の3月、彼は大田市役所を退職した。現在、大田市は彼を高く評価し、大森地区と温泉津の二つの町並みの調査や修理指導を依頼してきている。嘱託として、あるいは建築設計事務所として活躍している。世界遺産決定の眞の功労者は、この渡部孝幸氏と言えよう。

(取材／NICHE 編集部)

第27回東北建築賞および2007年度 アジアデザイン大賞の受賞について



日本建築学会 第27回東北建築賞／作品奨励賞

受賞作品は、本誌 Vol.30 にも掲載していただいた拙作「山のアトリエ」です。本作品は、家具と建築の中間的な概念をかたちにしたものです。大規模な建築作品が受賞する中、小規模ながら特色のあるコンセプトが評価されたことを光栄に思っています。選考委員長・小林淳氏には以下のように講評していただきました。「今回評価の対象としたのは鋼板製の『シェルター』と茶室を始めとするアルミの調度品の精度の高さとデザイン上の工夫、居室空間の構成方法である。部品が工場生産を前提としてデザインされアッセンブルするために、一般的な建築物とは異なる精度を獲得している一方で、ハレとケの機能分けや居室空間をシェルターと調度とに分離する構成法は、寝殿造りなどの日本の伝統的な住宅を想起させる。プロダクトデザインのアプローチと日本の伝統を思わせる空間構成法は新たな建築空間の可能性を感じさせるに十分で、作品奨励賞に値すると評価された。」

セルフビルトを協働した鈴木研究室の有志諸君に改めて感謝します。



2007年度アジアデザイン大賞

アジアデザイン大賞 (Design for Asia Design Award) は、優れたデザインを通じて、ビジネス上の成功を収めた世界各国の企業に授与される世界規模のグッドデザイン賞です。例年、10個の大賞 (DFA GRAND AWARD) が選出されます。今年は、全世界から約600の作品がノミネートされ、その中から中川パッケージの「Cubic floater」が大賞を受賞しました。プロダクトでは、ソニーのPCM-D1 レコーダー、ソフトバンクの812SH PANTONE 携帯、サムソンのNV10 デジタルカメラなど合わせて5作品が選出されています。Cubic floater



は、2003年に筆者が株式会社中川パッケージからデザイン開発を依頼され、产学協同研究の成果として商品化したパッケージ・デザインです。梱包したものがたかも宙に浮いているように見えるため、機能だけでなく、驚きと楽しさといった付加価値が好評を博してきました。2004年にイタリア、ミラノ・サローネで発表し、2005年には日本パッケージデザイン賞を受賞。本年末からは、ドイツにてヨーロッパ市場向けの販売を開始しました。そんな中で、今回の香港でのアジアデザイン大賞の授賞式に招かれることになりました。国境を越えてデザインが評価されたことを大変光栄に思っております。審査委員の Kyung Won Chung 韓国高等理工学院教授には、以下のように講評していただきました。「Cubic floater は、段ボールの外装材とウレタンフィルムの内装材だけで構成している。シンプルかつ経済的で、アジアで成功した革新的なプロダクトだと言えるだろう。」



鈴木敏彦

1978年 東京都 東京工業大学工学部
附属工業高等学校 卒業
1982年 工学院大学建築学科 卒業
1984年 工学院大学大学院修士課程 修了
波多江研究室
suzuki@atelier-opa.com

略歴

建築家・デザイナー

- 84-90 黒川紀章建築都市設計事務所
- 85-86 フランス新都市開発公社 EPA marne
- 92-93 文化庁芸術家インターン
- 95-99 早稲田大学建築学専攻博士課程
- 99-07 東北芸術工科大学生産デザイン学科助教授
首都大学東京システムデザイン学部准教授

東芝エレベータ主催 「未来エレベーターコンテスト2007」 優秀賞受賞



「未来エレベーター コンテスト2007」は、10年後を想定し、都市におけるIT技術等を活用した新しい交通のアイデアを求めるもので、第1回目となる今回は、全国から10校の建築系・デザイン系大学の研究室が選ばれ、指名コンペの形で行われました。相手は皆強豪ぞろいのため、入賞することよりも藤木研究室の構想力をアピールすることを目標としました。多くの案を検討した末、要項を無視して、敢えて100年後の未来を想定して

提案したので、審査会では物議を醸したようですが、思いがけず優秀賞という形で評価されて喜んでいます。交通システムを変えることで社会が変わり、環境問題を解決できる可能性があることに気づいたことが一番大きな収穫でした。(研究室一同)



藤木研究室一同

「第2回 大学・地域の協働による学生 まちづくりプレゼンテーション大会 in 墨田」 東商支部会長賞 「ものづくり都市 すみだ」

東京商工会議所では昨年度より、教育機関と連携したまちづくり支援策の一環として「学生まちづくりプレゼンテーション大会」を開催している。第2回となる今大会は東京都墨田区がテーマである。墨田区は2011年に「新東京タワー」が完成予定で、それに伴い区全域をどのようなまちの姿にしていくかが求められた。

墨田区は、隅田川花火大会や両国国技館等で有名だが、べっ甲や江戸切子等の伝統工芸も盛んで、また日本有数の工業都市としてのものづくりの文化もある。そこで私



たちは、このような文化を示す装置をつくることで、人々が歩きながらまちの文化を「知り」、さらにそれらを目印としながら、単に知るだけでなく、知ったことを人々が自由に組み合わせて形にするという、ものづくり文化を活かした墨田区ならではの「自慢」したくなる新たなまちのスタイルを提案した。



初田研究室 川島チーム(修士1年:川島一記、佐藤勇輝 学部4年:安島裕香、石山良平、古坊威人、山路祐一郎、渡邊祐介)

初田研究室 川島チーム

木造ドミノと名付けられたこの住宅は、平成16年に東京都が行ったコンペ「東村山市本町地区プロジェクト実証実験」への提案である。



東京都が掲げた誘導目標は、汎用性の高い合理的な生産システムを用い、広さと質を確保しながら建物価格が市場価格より3割程度安い戸建て住宅を供給することである。具体的に73万円／坪程度の建物を50万円／坪(税込)で25棟販売することが求められた。

我々の提案は、建物の外周と床だけで、長期的性能（構造安定性と良好な温熱環境）を確保し、設備や間仕切りは可変するものと割り切ることである。室内に耐力壁は全くない。部屋は家具やパーティションで仕切る。設備は構造体より寿命が短いので、躯体内に隠蔽せず、すべて更新しやすいことを念頭に入れている。

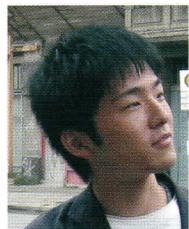
2007年 グッドデザイン賞 地域住宅計画賞 エコビルド大賞受賞



半田 雅俊

1968年新島学園高等学校卒業
1973年工学院大学建築学科卒業
遠藤楽建築創作所を経てフランク・ロイド・ライトの設計組織「タリアセン」留学
1983年半田雅俊設計事務所設立 現在に至る

「24時間耐久ワークショップ」 審査員篠原聰子賞受賞



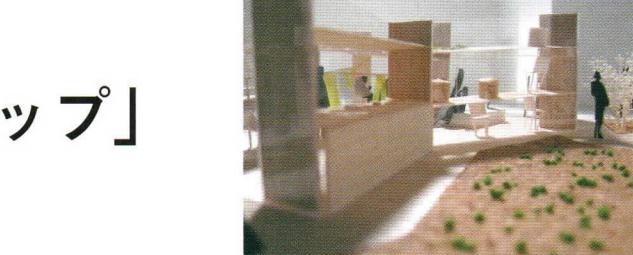
工学院大学谷口研究室研究生

高山 基

栃木県立鹿沼高等学校 2003年3月卒業
工学院大学建築学科建築学コース
山本研究室 2007年3月卒業
メールアドレス d103058@yahoo.co.jp

「都市と人をつなぐ装置」というテーマで行われたコンペで、私は“捨てる”という日常的に行われている行為に着目し、ゴミステーションをゴミの利用していく場として変化させる提案を行いました。

現在の消費社会の中で「買う→消費→捨てる」という流れは、一つの流れを生み出し、ゴミ処理などを通して都市の中にネットワークを作り出している。そして、これから都市を考える上で、「捨てる」ではなく「循環する」ということを考えることで、「買う→消費→循環」



という新たな流れをつくりだし、ゴミを捨てる場からゴミを利用する場所へとゴミステーションを変化させ、それが「都市と人をつなぐ装置」となるのではないかという計画をした。

「9坪ハウス」コンペ 2007濱口重乃賞



この度、「9坪ハウス」コンペ2007において特別賞である濱口重乃賞を獲得しました。審査員は、ロボットデザイナーの松井龍哉氏、建築史家の五十嵐太郎氏、建築ディレクターのクライン・ダイサムなど7名で「つながる」というテーマのもと675作品の中から上位10作品の一つとして選ばれました。



溝口 崇

建築学専攻 谷口研究室
神奈川県立厚木西高等学校 2001年3月卒業
工学院大学建築都市デザイン学科 2006年3月卒業
谷口研究室工学院大学修士課程 2008年3月卒業見込
m-i-z-o@hotmail.co.jp



岡田 和人

建築学専攻 谷口研究室
東京都私立渋谷教育学園渋谷高等学校 2003年3月卒業
工学院大学建築都市デザイン学科 2007年3月卒業
谷口研究室工学院大学修士課程 2009年3月卒業見込
kazuticket9260@yahoo.co.jp

今回のテーマである「つながる」とは様々な視点からいかようにも解釈できます。そこで私たちは、限られた9坪ハウスだからこそ、プライベートな領域を内側に作るよりも、物理的に外とつながる道によって快適な居住空間を広げていけるのではないかと考えました。

外とつながることで、家族や近所の人や友人たちとコミュニケーションしながら暮らしていくことが楽しくなるような家を発想しました。家のなかに路地のような“通り道”をつくることで、ここでの生活が通り道によってどこまでも広がっていく提案です。

通り道のあるプランはいくつかあった中で、プレゼンテーションとリアリティを評価して頂きました。

That's 八王子学、 ～学生が提言するまちづくりとは～ 優秀賞受賞(八王子市主催)

高野哲矢



昨年11月25日(日)、八王子市内にて「学生と市長とのふれあいトーク」が行われ、6大学10団体のトップバッターとして、「八王子キャンパスシティライフ～各世代へ開かれた学園都市を目指して」の発表をしました。

4月から約半年かけて、「学園都市八王子」がまち全体で学びの場となるためには、どのような仕組みが必要で、そこにどのような学びの空間が描かれるのか。前半は修士1年だけで議論していましたが、夏休みがあけて研究室に新しく3年生が加わり、彼らにも議論に加わってもらい、提案を詰めてきました。3年生は初めてやる都市的な提案で戸惑いもあったようですが、うまく連携をとりながら議論ができました。これからも研究室での活動にも精一杯取り組んでいきたいと思っています。

佐原・地上機・電源ボックス修景コンペ 最優秀賞 ～NPO 小野川と佐原の町並みを考える会主催～

地上機・電源ボックスの修景にあたり、基本的な修景デザインの他にどう都市デザイン的に関わっていけるかが論点になりました。

そして前年の調査を踏まえ、再び現地を訪れ感じたことは、佐原は経年変化を感じとれることはまちの本物性と深く関わっていること、小野川沿いの美しい景観が夜になると暗く寂しいものになってしまうことでした。

その結果、柳と格子をモチーフにした銅板で覆われた



佐藤 夢津美

神奈川県立小田原高等学校、2002年3月卒業
建築都市デザイン学科、2007年3月卒業、窪田研究室
現在工学院大学建築学専攻修士1年
naganejiman623@yahoo.co.jp



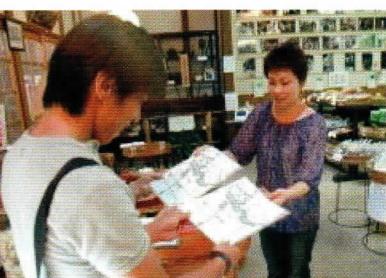
渡辺 靖晃

千葉県立木更津高等学校、2003年3月卒業
建築学科建築学コース、2008年3月卒業予定、窪田研究室
現在工学院大学建築学科建築学コース学部4年
nunber27a@gmail.com

照明として、経年変化を楽しめ、かつその風合いは次第に佐原に馴染み、夜を美しく照らす修景とすることが出来ました。

また、アイディアから実施に至るプロセスを経験出来たことは、普段実施までを考えない設計課題とは大きく違い、貴重な体験となったと思います。

町並み案内図 最優秀賞 NPO小野川と佐原の町並みを考える会主催



千葉県香取市佐原のNPOでは地図をコピーした紙に蛍光ペンなどで印を付けた手書きの案内図を配布していたが、



五十嵐 梨香

東京都私立白百合学園高等学校、2003年卒業
工学院大学建築学科建築学コース、2007年卒業、窪田研究室
工学院大学工学研究科建築学専攻、2009年卒業見込み、窪田研究室
メールアドレス：rikaldent@gmail.com



「コピーの地図では、観光客の思い出に残らない」「今までにない地図を作ろう」と、新しい観光マップのデザインコンペを実施。

提案した観光マップは「家に帰っても捨てられない」「何度も繰り返し使える」をコンセプトに、小野川を中心とした道路が印刷されたクリアファイルに、「佐原の町並み」「指定文化財」「土産・食事・宿泊」のシートを挟み込み、目的に合わせた案内図を入れて使うことができる。

「町並みを描いた絵の美しさ、透明フィルムに下地となる地図を挟み込んだこと、テーマによって自由に内容を更新できること」などの点が高く評価され、最優秀賞に選定されました。この案は、NPO法人 小野川と佐原を考える会の方々と具体的な詰めを行ない、現在実際に配布されている。



平成 18 年度の 「秋の叙勲」を拝受して

私は平成 18 年度の秋の叙勲において建築設計監理業振興功労により「旭日小綬章」を拝受しました。

私の場合、建築設計監理業振興功労と申しますと具体的には、平成 3 年より（社）島根県建築士会の会長を 6 期 12 年間つとめたこと、そしてその間に島根県建築行政推進協力会会长、島根県建築審査会会长等として建築行政に、しまね景観賞審査委員、松江市デザイン委員等として景観、まちづくり行政に、そして（財）島根県建築住宅センター副理事長等として住宅行政に協力してきたことなど、一方、（社）日本建築士会連合会の理事を中四国ブロックの代表として 4 期 8 年間つとめたこと等、それらの業績を評価していただいたものと思います。

私は平成 18 年の 8 月、脳出血に倒れ、叙勲の内示を受けたのも、叙勲伝達式の出席も入院中で、車椅子による出席がありました。ただ車椅子がゆえに皇居では天皇陛下がわざわざ近くに歩み寄られ、劳わりのことばを賜りましたことは、大変な感激がありました。



矢田清治

島根県立出雲産業高等学校建築科、1953 年卒業
工学院大学建築学科、1959 年卒業
略歴
1959 年 3 月
工学院大学建築学科卒業
1959 年 4 月～1967 年 4 月
株式会社 野生司建築設計事務所（東京）
1967 年 5 月～
有限会社 矢田建築設計事務所開設（松江）
今日に至る

春の園遊会に招待されて

団らぬ天皇、皇后両陛下の主催で平成 19 年 4 月 26 日に赤坂御苑で開催された春の園遊会に家内ともども招待されました。私の場合は、建築設計監理業振興功労者として、国土交通省から推薦され、宮内庁より招待いただいたものであります。

当日は、小説家の瀬戸内寂聴さん、建築家の故黒川紀章さん、また能登半島地震で被災した石川県の谷本正憲知事なども招かれて、天皇陛下と親しく歓談をされていました

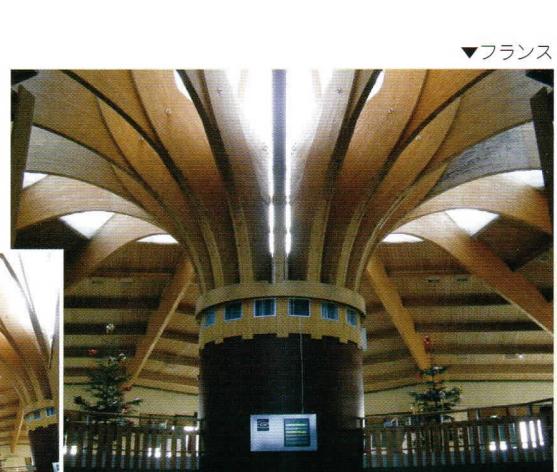
この度の叙勲および園遊会は、私の人生に訪れた最高の慶事として、いつまでも心にのこるものであります。

海外木質構造設計事例調査

本学建築系学科では、構造系の視覚教育教材の開発を進めている（代表・宮澤健二教授、小野里憲一准教授・山下哲郎准教授協力、3 年計画）。その一貫として、国内外の優れた構造設計事例を収集し、映像データベースとして DVD やホームページで公開することとしている。海外の木造建築物について 2006・2007 年の 2 カ年に亘り、



▲スイス



▼フランス

1

ソーラーアーキテクチュア・デザインブック

日本建築学会編 彰国社
Tel / 03-3359-3231
135 ページ、定価 3,200 円（税込）
2007 年 2 月発売、A4 版



世界中から集めた、優れたソーラーアーキテクチュアの実例を、「太陽光発電」や「自然換気」といった要素技術ごとにまとめ、初めて学ぶ人にも分かりやすく編集されている。主に、建築家や建築を学ぶデザイン志向の学生を対象として書かれており、これからの建築を考える上で必読の一冊である。

藤木隆明（工学院大学建築学科教授）

2

漫なみ はいけん

オンライン
Tel / 0853-21-0068
Fax / 0853-21-4511
111 ページ、定価 1,850 円
2008 年 1 月 31 日発売、B5 版



やがて建物の寿命と共に失われゆく漫絵。名もなき庶民のささやかな遊び心。
左官職人が残した島根県下の約 300 点のうち、約 80 ケ所百数十点をカラー写真と平易な文で紹介。世代が変わり、作った職人も家の人もなくなりつつあり、僅かな記憶を掘り起こし紹介した貴重な証言ともなっている。

渡部孝幸（工学院大学建築学科卒（千代田研究室））

3

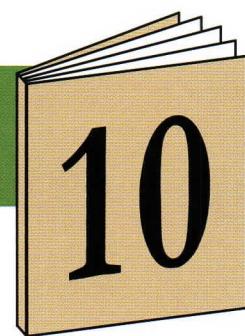
住宅設計のレッスン

学芸出版社
Tel / 075-343-0811
200 ページ、定価 2,200 円（税別）
2007 年 9 月 10 日発行、A5 版



これまで設計した住宅実例を中心に、住宅を設計する基本的条件から敷地の読み方、設計の手がかり、配置計画と平面計画の有様、あるいは平面パターンの分類とその応用など、さらには立面と断面、美しい屋根と外観を整える方法等、実践的入門書です。多くの卒業生の方々に読んで頂ければ幸いです。

望月大介（工学院大学建築都市デザイン学科教授）



新刊書紹介

同窓生や建築学科の教員など関係者が執筆しました新刊書をご紹介致します。

4

青森県史叢書 青森の暮らしと建築の近代化に寄与した人々

「青森の暮らしと建築の近代化に寄与した人々／一部に今和次郎の記事」/ 青森県史叢書
編集青森県環境生活部 県民生活文化課県史編さんグループ
Tel / 017-734-9238
220 ページ、定価 2,500 円（税込）
青森県史友の会 2007 年 3 月 30 日発行、A4 版



青森県では、平成 8 年度から歴史と文化を県民の共有財産とするために、県史編さん事業を開始した。先人たちの足跡を明らかにし、歴史と文化を発信していくことを目指している。全 2 章の内、第 2 章で、工学院大学図書館所蔵の今和次郎（青森県出身）コレクション、竹内芳太郎コレクションをもとに、暮らしの近代化について、生活と住宅の改善を中心に考察した。

荻原正三（工学院大学名誉教授）他

5

楽しく建てる —建築家遠藤楽作品集—

丸善株式会社
Tel / 03-3272-0521
174 ページ、定価 2,800 円（税別）
2007 年 6 月 10 日発行、A4 版



フランク・ロイド・ライトに学び、生涯 300 余の作品を遺した建築家 遠藤 楽の有機的建築とその哲学を網羅した珠玉の作品集。“良い建築”とは何だろう？“良い音楽”と同様に、人の心に感じる世界。形ばかりの流行は、直ちにすたれるが、大自然から学んだ“本物の建築”は何年たっても古くならない。これこそが“ライトの建築”だ。必要な部分だけで全体がつくられているもの… それが“有機的建築”と呼べるものなのだ。（帯封より）

南原哲也（工学院大学名誉教授）



ふくろうの本 図説/東京 都市と建築130年

河出書房新社
Tel / 03-3404-1201
160 ページ、定価 1,800 円（税別）
2007 年 6 月 30 日発行、変形 A5 版

この街は、常に変わり続ける運命を背負っている。明治維新、関東大震災、大空襲…そして近年のバブルや再開発ラッシュと、時代の荒波にもまれ、その度に変貌を遂げてきた街。東京の明治から 21 世紀に至る激動の歴史を詳細にたどる。東京の変遷をみていく方法はいろいろあるが、ここでは、誰もが生活してきた都市、そして目にしてきた建築というできる限り具体的なものを通して、東京という見えないもの語りたいと考えたのである。（帯封より）

初田 亨（工学院大学建築学科教授）



新宿文化絵図 重ね地図 新宿まち歩きガイド

「新宿文化絵図」新宿区地域文化部文化国際課
Tel / 03-5273-4069
本編 224 ページ、新宿文化絵地図特別付録 1~9
定価 1,200 円（税別）
2007 年 3 月 25 日発行、変形 A4 版

新宿の歴史文化大全。第一部／新宿まち歩き 10 コース（区内の由緒ある歴史や文化を徹底取材しイラストマップを辿りながら新宿の魅力を紹介。妹尾河童、唐十郎、吉行和子、伊藤四朗、三遊亭金馬、山下洋輔他）。第二部／新宿 万華鏡（シネマの町新宿、スクリーンに躍る新宿の街、作家の筆が描いた新宿、近代文学が生きた街・新宿、新宿はじめ物語、新宿立志伝、新宿戦後グラフィ、新しい都市のデザインをめざして、新宿探検コラム他）（帯封より）

初田 亨（工学院大学建築学科教授）他

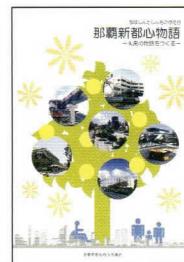


「安里大親清信」物語

「安里大親清信他」発行
Tel / 098-343-0811
株式会社翔文
31 ページ、非売品
2006 年 3 月発行、A5 版

「安里大親清信 1388 ~ 1473」と第二尚氏王統時代の幕開け。百浦添御殿前の群臣に、白髪の老人（安里大親清信）が叫んだ「国家は人民のものであり、国王一人のものではない。物呉ゆしう我國王」。第二尚氏王朝時代の幕開けであった。大親の子孫、与儀清春氏は建築家として現代の技術に「連携」と「共同」の精神を生かし、那覇市立寄宮中学校や沖縄県立武道館などの作品で高い評価を受けている。

与儀清春他 1 級建築士・那覇市議会議員・
工学院大学大学院（荻原研）



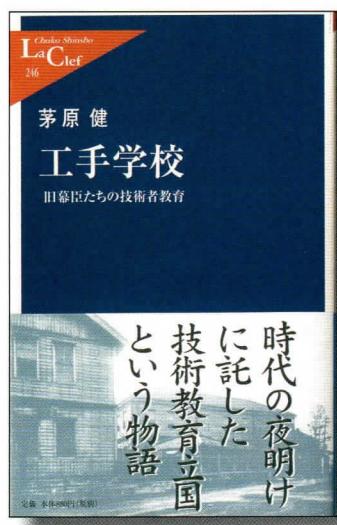
那覇新都心物語 —未来の物語をつくる—

発行 / 那覇新都心地主協議会
Tel / 098-941-5522
192 ページ、非売品
2006 年 9 月 30 日発行、B5 版

琉球王朝・第二尚氏時代以前に起源するといわれる銘苅、天久、安謝、上之屋、安里、古島、真嘉比と歴史を始めた集落が戦後史とともに豊かな田園風景から米軍住宅用地に…。そして近代都市に生まれ変わりました。那覇新都心地主協議会が発足して 16 年経過し「那覇新都心物語」を発刊しました。

与儀清春他 那覇新都心地主協議会幹事、那覇市議会議員、
工学院大学大学院（荻原研）

工手学校 旧幕臣たちの技術者教育



中公新書ラクレ 246
中央公論新社
Tel / 03-3563-1431
200 ページ、定価 880 円（税別）
2007 年 6 月 10 日発行、新書版

時代の夜明けに託した技術教育立国という物語

旧幕臣たちが近代の夜明けに託した「技術教育立国」の夢。それはわが国最初の私立工科系学校の設立へと向かう。本書はそこに関わった歴史群像と学校の生成発展の姿を生き生きと描き出す。（帯封より）

全 15 章 + 1 の内容

- 第 1 章 旧幕臣たちの教育ネットワーク
- 第 2 章 工手学校の誕生
- 第 3 章 渡邊洪基と 14 人のサムライ
- 第 4 章 大鳥圭介たちの技術立国
- 第 5 章 渋沢栄一の工業立国
- 第 6 章 築地工手学校
- 第 7 章 国木田独歩の「非凡なる凡人」
- 第 8 章 焼失と再出発
- 第 9 章 自己評価と精神教育
- 第 10 章 明治から大正へ
- 第 11 章 創立 25 周年
- 第 12 章 淀橋工手学校
- 第 13 章 中興の祖・古市公威
- 第 14 章 工手学校スピリット
- 第 15 章 不死鳥のごとく
- 補 章 はみだし人物列伝～反骨と異端～

茅原 健
昭和 9 年 10 月 23 日生

●学歴・職歴
1934 年東京に生まれる。
中央大学法学部卒。
工学院大学総務部次長、同学
校法人評議員、同学園開発本
部部長。学園街区共同事業体
のエスティック（株）の専務取締役。後、（財）日本私学教
育研究所の選任研究員、事務局長、理事を歴任。



●主な著書
『民本主義の論客 茅原肇山伝』、『工手学校人物誌』、
『新宿・大久保文士村界隈』、『工手学校』など。

特別企画

ミッドランドスクエア

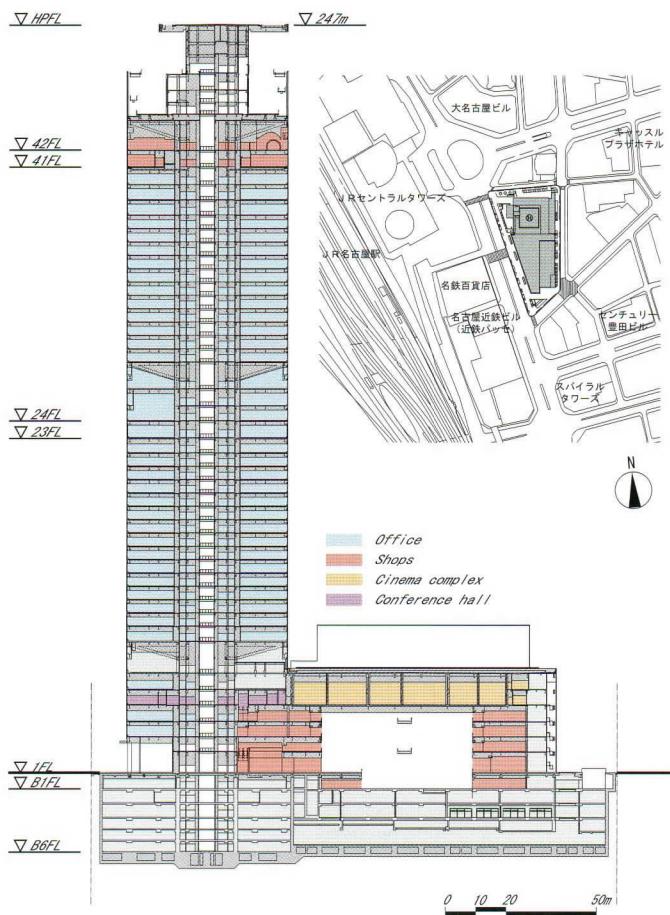


さとう 健
佐藤 健

1987年 都立国分寺高等学校 卒業
1991年 工学院大学建築系学科 建築学科（谷口研究室）卒業
工学院大学大学院 修士課程2年修了（谷口研究室）
1993年 （株）日建設計入社
現在 同社 建設部門 設計主管
メールアドレス satouke@nikken.co.jp

はじめに

入社6年目からプロジェクトを担当し、竣工まで7年間があっという間に月日が流れた感じです。
当時生まれた子供も小学1年生になり妻からは子供よりも建物に愛をいれていると、嫌みをいわれますが30代をささげた建物を紹介します。



■ヘリポートと一体化した逆L字型が特徴的な外観

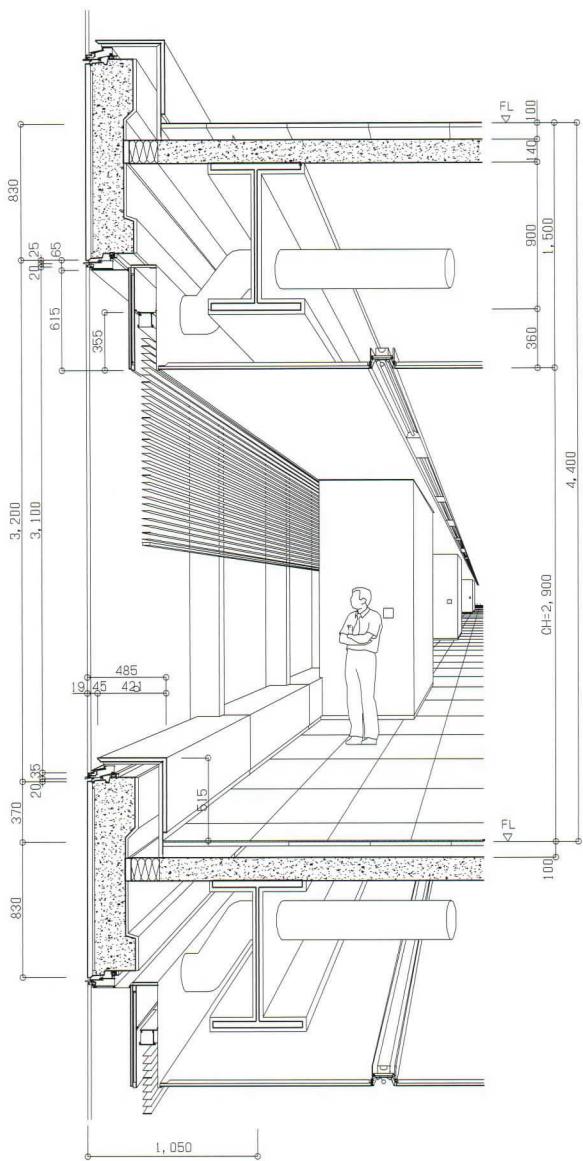


計画概要

名古屋駅前に位置し、昭和30年代に建設され長年親しまれてきた豊田ビルと毎日ビルの建替えの計画である。都市再生特別地区の申請第1号プロジェクトで、超高層ビルにおいて、パブリックスペースをいかにつくるかを設計テーマの一つとして進めた。

建物は、高さ247mのオフィスタワーと50mの商業施設で構成される。オフィスタワー部分は賃貸オフィスを中心に頂部には屋外型展望施設と飲食店舗、低層部にはカンファレンス施設を配置している。商業施設は、地下物販・飲食店舗、シネマコンプレックスを設けており、地下には駐車場と地域冷暖房施設を設けている。

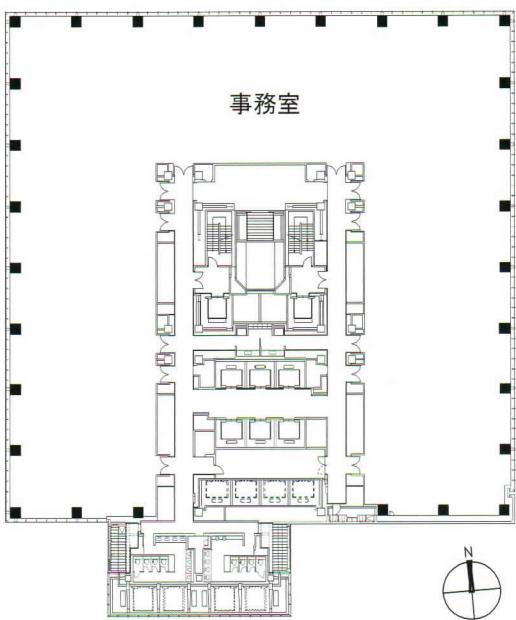
■断面パース



■航空写真



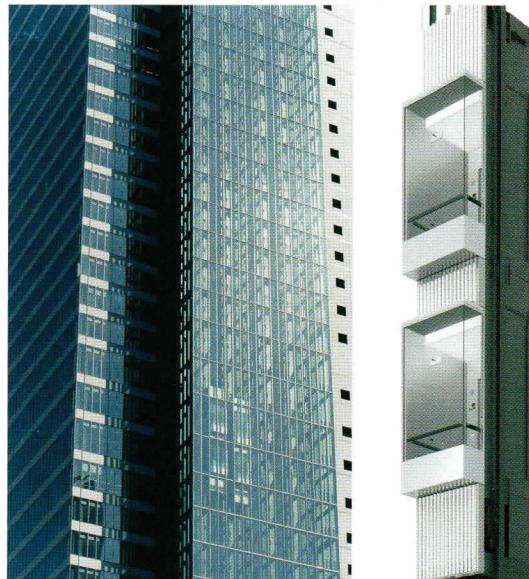
■基準階平面図



外装計画

約 53 m 角のオフィスタワーは名古屋の都市軸に合わせて配置し、シースルーダブルデッキシャトルエレベーターを付加した形状としている。西側を除く外装はビジョン部を縦長のガラスカーテンウォールとし、スパンドレル部を事業者の要望である花崗岩張りとした。ミニマムな部材構成による納まりとすることで、ガラスの透明感と石の安定感を共存させ、プロポーションとシンプルなフォルムで外観を引き立たせることを意図している。また、熱負荷の大きい西側部分の花崗岩張りの壁面と最頂部のヘリポートを一体とした逆 L 字型形状することで外観に特徴をもたせ都市景観に対するひとつの考え方を示した。

■シースルーダブルデッキシャトルエレベーター



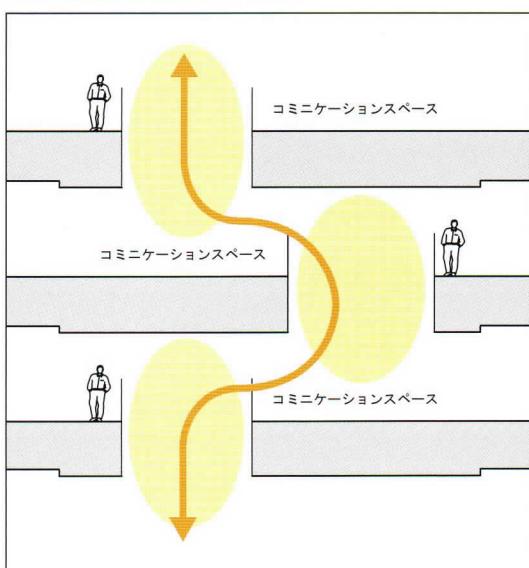
■コミュニケーションエリア見下図



生産性の向上の仕掛け

オフィスタワーの 17 階から 40 階にトヨタ自動車の国内外の営業部門などが入居している。南北に 120 人が収容可能な執務スペースを設け、眺望の良い東側中央部にはコミュニケーションスペースと呼ばれる 2 層吹き抜け空間を互い違いに構成し、多目的空間を配置した。吹き抜けの周辺部には人が自然に集うように打ち合わせコーナーやパントリー、自販機コーナー、喫煙室などのアメニティー機能を配置し、上下をつなぐ専用階段を設置している。この仕掛けは日常的に起こる偶発的な出会い

■コミュニケーションエリア概念図



■名古屋城から



によりインフォーマルなコミュニケーションを誘発する場となり、従業員同士のコミュニケーションを活性化することで生産性の向上をはかり執務環境の“カイゼン”を目的としている。

開かれたオフィスタワーを目指して

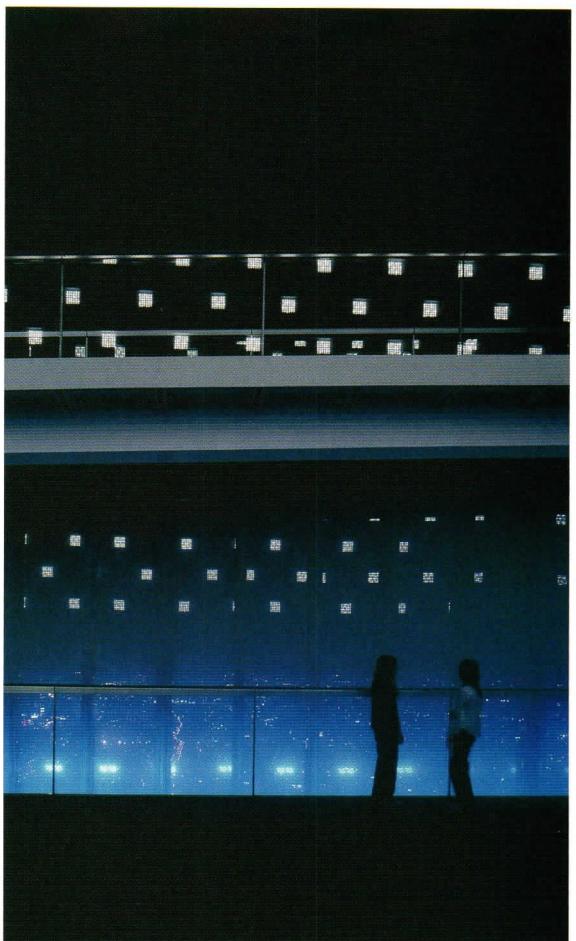
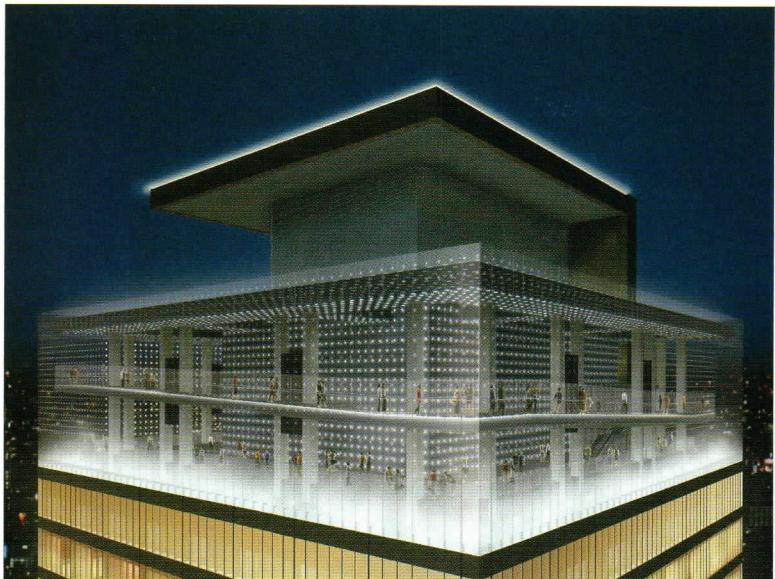
頂部に開放された都市空間を目的とし、中部地区一の高さに位置するスカイプロムナードと名付けた屋外型展望施設を設置している。施設は最上部よりゆるやかなスロープで下りながら、周辺の素晴らしい景観を楽しむことができ、LEDによる幻想的なライトアップや、人工的に霧をつくり出す水噴霧装置などにより、空に浮かぶ都市空間をドラマティックに演出している。

世界初のシースルーダブルデッキシャトルエレベーターは超高層ビルでの平面効率の追求によるエレベーター輸送能力の向上とともに、垂直方向の視覚的な動きで都市空間のダイナミズムを与えることで“元気な街”と称される名古屋駅前のアイデンティティの創出することを目的としている。

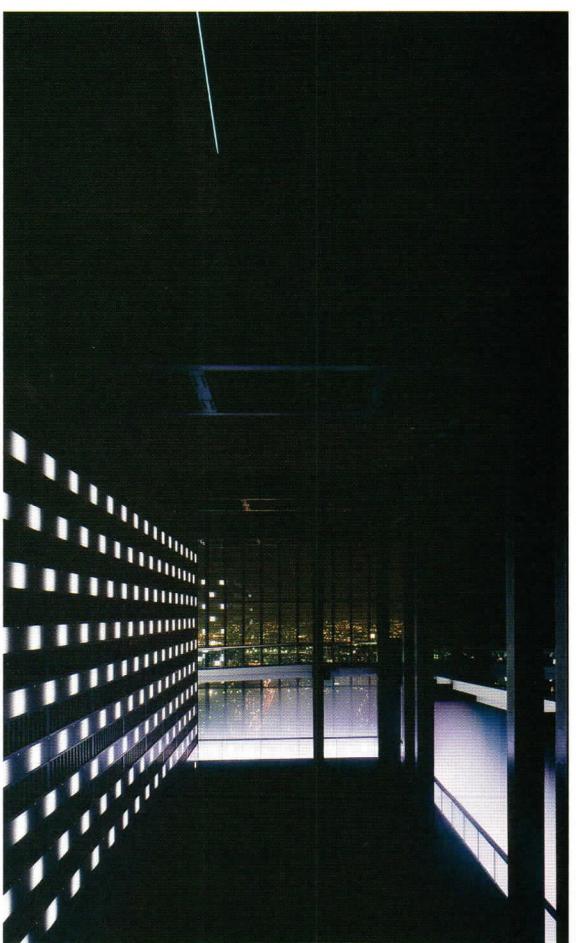
■名古屋駅前より



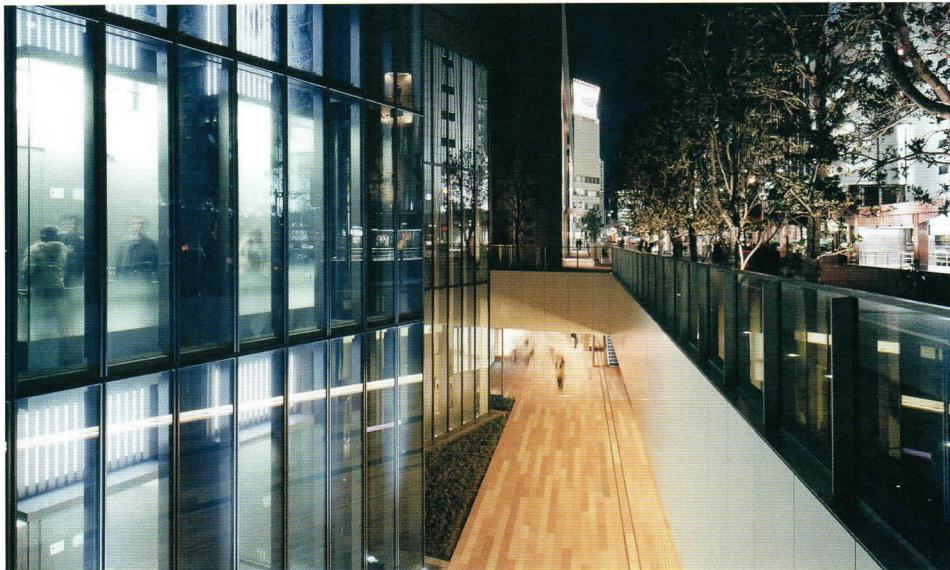
■スカイプロムナード



■夜景



■サンクンガーデン



賑わいと品格

商業施設は5層吹き抜けのアトリウム空間を中心にして、石と木質による品格のある内装とし、水平方向への人の動きを誘発する回遊型施設とした。また、アトリウム内に垂直方向の動きが生まれるエスカレーター、エレベーターは軸をずらしながら配置することで、アトリウム全体のにぎわいやヒューマンスケールを感じさせる空間としている。

建物の南北を横断するミッドランドストリートと呼ばれる地下の歩行者空間は旧豊田ビルと旧毎日ビルにあった4箇所の地下街との連絡口、2箇所の隣接ビルとの連絡口をそのままの位置で継承している。空間は床と壁を一体感のあるように空間構成し、花崗岩を800mmX200mmの大きさとし、3種類の表面仕上げにすることで石によるフローリングを表現した。歩行者空間はサンクンガーデンを介し連絡することで地下街の安全性の向上に貢献するとともに名古屋駅地区の地下空間の歩行者ネットワークを補完する役割を担っている。

■5階吹抜けのアトリウム



特別企画



本田 昌義

生年月日 1976年
富山県高岡高校第一高校 卒業
2001年3月 工学院大学大学院 修士課程 建築学（山下司研究室）修了
2001年4月 丹下健三・都市・建築・設計研究所 入社
2003年1月 丹下都市建築設計（社名変更）
2003年6月 西新宿プロジェクト（モード学園）指名コンペに参加
2007年7月 現在、モード学園コクーンタワー新築工事現場事務所にて
設計・監理

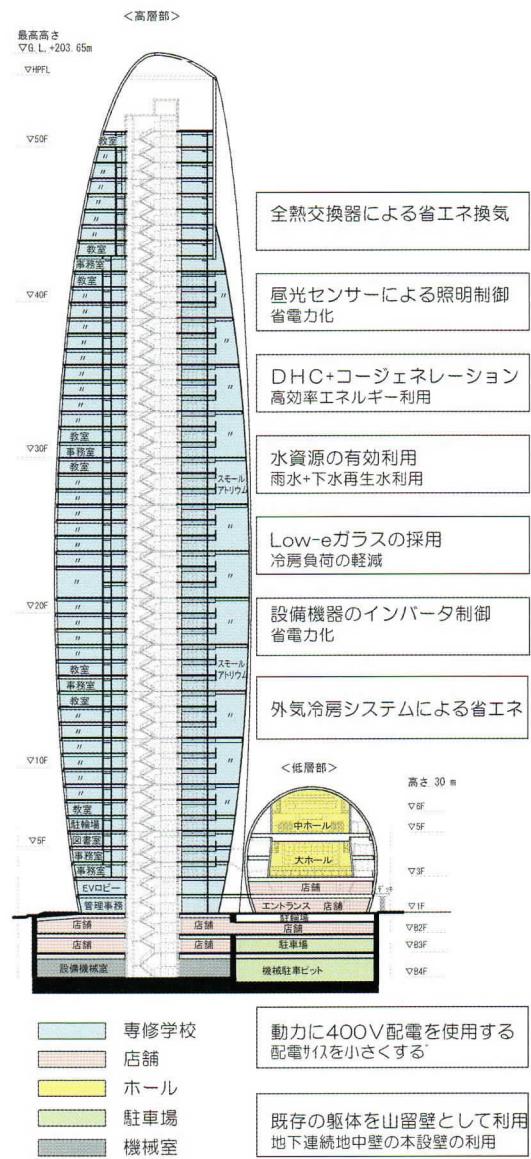
超高層建築の新たな挑戦 —モード学園コクーンタワー—

現在新宿西口駅前に建設中の「モード学園コクーンタワー」は、2003年に学校法人モード学園主宰で行われたコンペにより丹下都市建築設計が一等に選ばれたものである。コンペには、国内外の設計事務所、ゼネコン各社より100案以上の作品が提出され、ジャンヌーベルやノーマンフォスターなども応募していたと聞く。

■模型写真



■空間構成と環境配慮



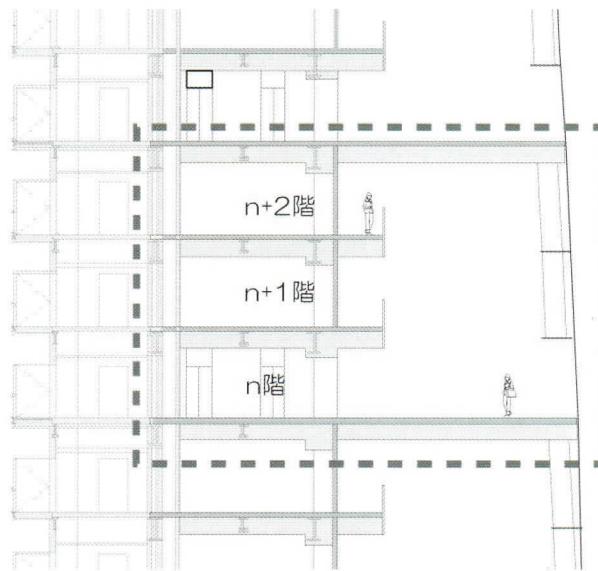
断面図 S=1:1,500

施主である学校法人モード学園は「創造力教育」を教育理念に掲げ国内では東京・大阪・名古屋の3箇所に、ファッション系（モード学園）・コンピュータ系（H A L）・医療福祉系（医専）の三分野に亘る6校の専修学校を、国外ではパリにファッション系（モード学園）の学校をそれぞれ展開している。現在東京では、ファッション系専修学校の東京モード学園を展開しているが、新校舎計画には、新たにコンピュータ系（H A L 東京）・医療福祉系（東京医専）が加わり3分野の学校が入ることとなる。尚、新校舎計画は現在の東京モード学園校舎とほぼ隣接した位置にあり、新宿駅西口駅前広場と西新宿の超高層ビル街とを連携させ、新都心を形成する為の重要な位置を担う場所となっている。

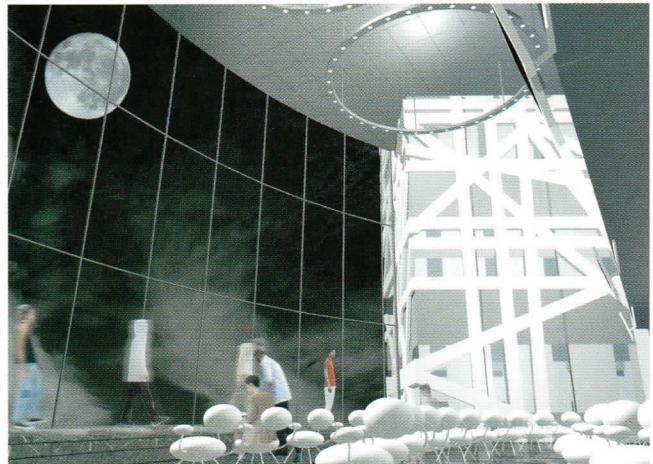
計画敷地は以前朝日生命の本社ビルが建っていた場所で、工学院大学斜め向かいに位置している。用途地域は商業地域に指定されているが時限立法である都市再生特別地区を活用し土地の有用性を図っている。敷地面積は約 5,100m²、建築面積約 3,500m²、延床面積約 80,900m²、階数は地下 4 階・地上 50 階・塔屋 2 階で建物高さは 203.65m となっている。完成すると敷地向かいに建つている損保ジャパンとほぼ同じ高さとなる。

現在建設は続いているが既に新宿西口駅前からでも十分にその存在を現し始めている。その特異な形状は設計当初より多くの方々より意見を戴いているが、「コクーン」＝「繭」を意味するその建物は、衣服の基礎である生糸を纏った繭をイメージさせ、明日のモード界を担う若い才能が孵化してゆく場であり、創造する若者を包み込み、触発させるインキュベーション空間を意味している。また、教育施設として機能を持たすべく立体キャンパス・スペース（スマールアトリウム）を配置し、従来

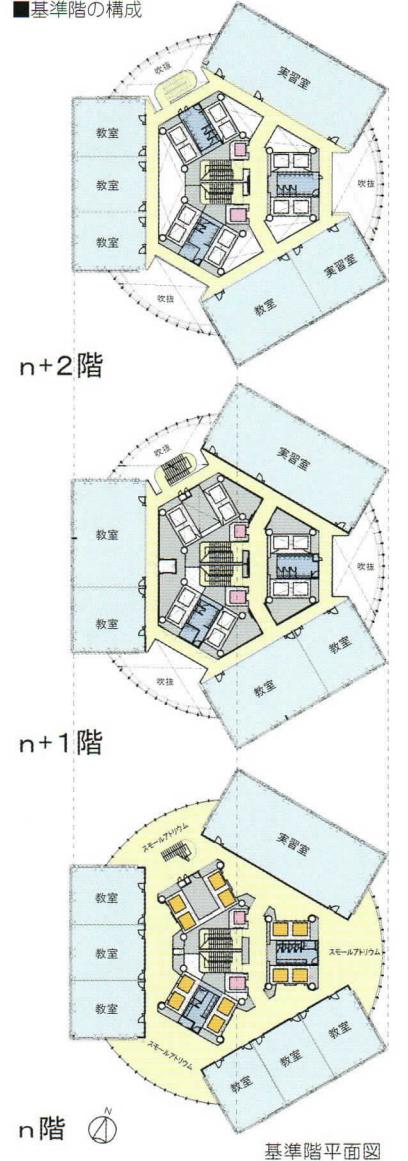
■立体キャンパス（スマールアトリウム断面図）



■立体キャンパス（イメージパース）

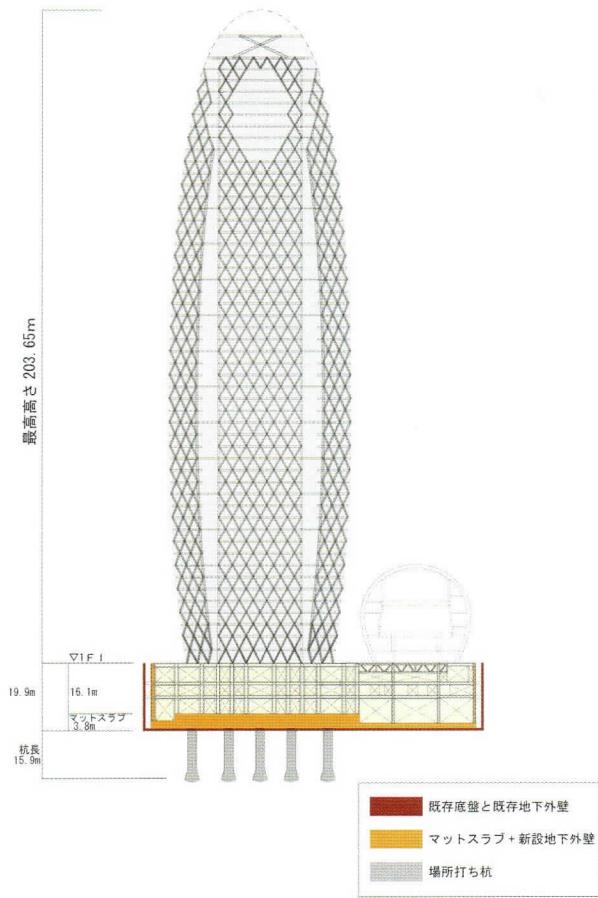


■基準階の構成

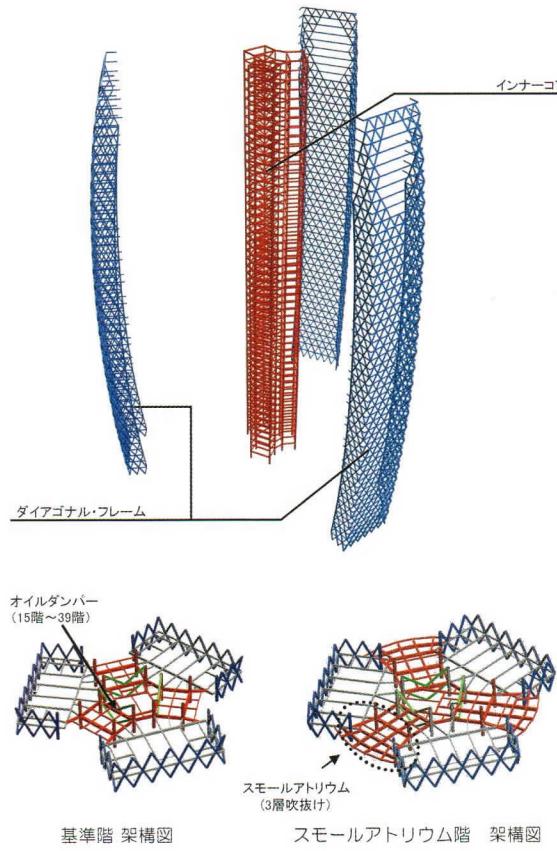


| | |
|-----------------------|------------------|
| [Symbol: Room] | 教室 |
| [Symbol: Yellow Area] | 廊下・スマールアトリウム |
| [Symbol: Pink Area] | 非常用エレベーター |
| [Symbol: Yellow Line] | 常用エレベーター（3層に1着床） |
| [Symbol: Blue Area] | トイレ |
| [Symbol: Grey Area] | 設備 |

■全体構成概念図



■地上高層部の構造システム



の学校建築とは異なる構成により今までに無い超高層建築を計画している。

空間構成は下記のように形成されている。

平面は同一円を中心として3つの矩形が120度回転した状態で構成されており、矩形部には教室、実習室などが入る。その中央部にE L V、階段、設備シャフトなどで構成されたコアを配置しており、教室とコアの間に廊下が設けられている。矩形部は1階～50階に至るまで緩やかな楕円曲線を描くように配列され、カーテンウォールはその一端を覆うようになっている。また矩形部を繋ぐように三層毎にスラブを設け立体キャンパスであるスモールアトリウムを配置している。立体キャンパスは、郊外の学校のように広大な屋外キャンパスが持てない代替として設けており、そこが学生達の憩い集える場となることを望んでいる。

構造システム

高層部の構造は、上図に示すとおり、インナーコアと3つのダイアゴナル・フレームによって構成される。外周を斜め格子架構によって取り囲むことにより建物に作用する鉛直力や水平力を効率よく地下構造へと伝達する。一方、内部には12本のCFT（コンクリート充填鋼管）柱を用いたラーメン・フレームを配置し、さらに15階～39階にはオイルダンパーを配置して減衰力を附加することにより、地震や風による揺れを低減する計画となっている。

西新宿といえば、丹下健三が設計した東京都庁舎

そして東京ガス本社ビルがある。コンペ当時、丹下健三は一線を退き、丹下憲孝を中心に全く新しい組織が作られ新たな試みを模索し新生丹下を世に広めていこうとしている最中であった。丹下健三がこの作品を西新宿に建てるといったらなんと言ったであろう。丹下健三の代表作でもある東京都庁舎と東京ガス本社ビルから目と鼻の先である。丹下健三は著書「建築と都市」に代表されるように、都市的スケールの必要性をうたった最初の日本人建築家である。都市は建築により構築され、都市的スケールで建築を見たときであっても建築は美しくなくてはならないというように非常に俯瞰した目で建築を見ることのできる稀な建築家であった。コクーンタワーはそれに答えられるであろうか。また市民に対してこの建築は受け入れられるであろうか。計画当初より建物に対する反響は大きく、行政を問わず数多くの場では非が問われてきた。その中のひとつが都市計画審議会であり、新宿区景観審議会である。新宿の町並みにそぐわない、

目立つ建物を作つてよいのかという厳しい意見も出た。その一方で、昭和40年から始まつた新宿の都市計画は、都市のゴースト化を生み出し活力が足りないので、この計画が新たな新宿の起爆剤になるのではないかという意見もいただいた。多くの意見に対してひとつひとつ丁寧に答えていくうちに市民の方々より多くの賛同をいただき計画に対する応援へと変わっていった。建築は都市をつくる。一方で建築はそこで働き、また暮らす人によって培われてゆく。コクーンタワーは民間の建物でありながら、その周りに大きな影響を与えようとしている。

現在、建物は30階程度まで鉄骨建方が終わり2008年2月には上棟し、同年10月末には完成する予定である。日を追う毎に建物は全体像をあらわにし、それと比例して建物に対する反響は大きくなっている。

丹下健三が1955年に発表した論文の一文に「安易な機能主義を否定し、社会を形成する建築は、美しいことによってのみ流布し、やがて機能として根付く」という言葉がある。この建築はどのような評価が下されるのか。私たちは全ての問い合わせに答えられるよう残り少ない設計活動に全力を尽くすつもりである。



■都庁舎



■パークタワー



■現場撮影 0821



■空撮 CG

都市景観大賞

「美しいまちなみ大賞」受賞 —再生豊前街道復活—



■ 豊前街道山鹿温泉界隈



ふくやまひろあき
福山博章

執筆者紹介 (株)福山空間建設研究所 代表取締役

1960年 熊本県山鹿市に生まれる

1979年 熊本工業大学高等学校 卒業 (現文徳高校)

1984年 工学院大学 建築学科 波多江研究室 卒業

毛綱毅曠建築事務所 総建築設計事務所 高崎物人研究所
村山雄一建築設計事務所など

1989年 帰郷

2000年 (社)山鹿青年会議所理事長

2001年 第13回くまもと景観賞「さわやか賞」木場邸 受賞

所 属 熊本県建築士会山鹿支部

まちづくり景観研究部会(部会長) 山鹿八千代座棧敷会

住所:〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿 541-1

電話:0968-43-3477 FAX:0968-43-8319

メールアドレス:kuuk@mx7.tiki.ne.jp 携帯:090-8910-0000

2007年度国土交通省都市景観大賞に我が町「豊前街道山鹿温泉界隈」が選ばれた。まちづくりに20年近く携わって来た1人として、仲間とおおいに喜んだ。

山鹿市は熊本県北に位置し細川藩参勤交代の宿場町として栄え、また米の集散地として菊池川の水運により明



■熊本県山鹿市



■菊池川の水運、緩やかな S 字の坂道



■山鹿灯籠祭

治、大正、昭和、と発展、古くからの温泉町でもあり、特に8月の山鹿灯籠祭りは有名である。古き良き町も1975年町の中心に国道が通りまちのシンボルである温泉広場と桜湯をつぶし再開発ビルが完成している。私は絶賛されるこのビルに比べ寂れしていく古い街並を憂い、1984年卒論で、埃だらけのシャッター通りの町を再生する為、この町を調査。大学で学んだ色々な手法を使うと、この町は良くなると言う様な、青い論文を書いたのを覚えている。この時、先のビジョンはおぼろげだが、再生の切り札は明治の芝居小屋「八千代座」の存在しかない、そしてソフトとハードの両輪による再生が必要だと書いた。

この頃の八千代座は娯楽の多様化とTV文化の影響を受けて廃墟のごとく解体寸前、雨漏りにより、青空も見え行政も危険な建物と見ていた。そんな中1985年老人会は立ち上がり復興の為「瓦1枚運動」を展開、地元の青年会議所や商工会議所青年部、建築士会も参加、ついに、1988年国の重要文化財に指定「八千代座を核としたまちづくり」運動が広がっていった。その中でも市民で作った「玉三郎実行委員会」による板東玉三郎公演の実現は大きな弾みとなり、晴れの日のまちづくりの幕開けとなった。八千代座を中心に活動する「棧敷会」が生まれ私も参加、そして芝居小屋復興によるまちづくりが全国的にも幾つかあり第1回「全国芝居小屋会議」が山鹿で開かれた。寄付を募りのぼりを制作、晴れの日には町じゅう昇りでいっぱいになった。そのほか興行にあわせてお練りを企画花吹雪舞い散る豊前街道の演出等々まちづくり実行実践あるのみであった。

ハード的には、八千代座再生に始まり、道向こうの崩れそうな町家蔵改修による八千代座管理資料館「夢小蔵」の再生開館（我社施工）と熊本県景観賞「八千代座界隈」の受賞、豊前街道の自己資金による堀商店再生、市と県



■八千代座夜景



■八千代座内観



■夢小蔵（再生施工）



■井手古美術店（設計及び修景）



■県景観賞木場邸（設計及び施工）



■米米惣門ツアー



■灯籠民芸館ライトアップ

の利子補給を活用した「井出古美術店」修景、山鹿市町並み整備資金活用した、豊前街道下町への修景の広がり、八千代座界隈新築町屋「木場邸」の熊本県景観賞「さわやか賞」受賞、電線の地中化に伴う側溝の再生、道路レベルを昔に戻し地域特産の鍋田石による歩道整備、そして何よりも八千代座の半解体平成の大修理と活用文化財としての再生と歌舞伎片岡仁左右衛門公演によるこけら落とし、修景された町屋も30軒を越え修景レベルも上がり文化財再生手法に近いレベルの物も幾つか出てきた。一昨年本物文化財指向の「池田質屋」の修景も熊本県の景観賞に輝いた。これも国の重要文化財八千代座の御陰である。修景においての取り組み方では、調査観察、材料吟味古材使用、技術継承、時代考証など、すべて八千代座が手本となり引っ張っている。

今豊前街道下町では、酒蔵など米関連の場所を巡る「米米惣門ツアー」が観光客を集めている。平日でも旅行客が訪れる様になり日常でも散策する人が増え始めている。観光の目玉は8月の山鹿灯籠祭であるが、まちなみを目当てに訪れる人も少なくない。夜のライトアップも八千代座、灯籠民芸館、湯の端公園足湯、各商店の管理による篝火型照明なども雰囲気がよい。特に冬の竹明かりによる「百華百彩」は古い町並みにあわせてロウソクの炎と山鹿和傘のコラボレーションが美しい。このイベントは町並みを活用し市民と大学生による物である。我が建築士会まちづくり景観研究部会では子供を中心とした「豊前街道まちなみスケッチ大会」の開催や小学生、PTAと共に校門と衛生室の保存運動も展開中である。

このように「豊前街道山鹿温泉界隈」は晴れの日も普通の日も魅力にあふれている。造り酒屋を修景した子供たちがあつまる駄菓子屋、蔵づくりで夕暮れの買い物客でにぎあう角の魚屋、最高の晴れの日「板東玉三郎公演」着物姿の人でいっぱいの豊前街道九日町、のぼりが揺れ人力車が走り芝居の触れ太鼓が響く。町並みは平入り蔵づくり、壁はネズミ漆喰、基礎石は凝灰岩の鍋田石、豊前街道役者揃いである。

しかし崩れ行く大きな町家蔵もあり水戸黄門にでも助けてほしい。まちを愛しまちで遊びまちでおもてなし。子供も年寄りもこのまちが好きである。山鹿は晴れの日も日常も、歴史も文化も色々、まちなみの時代も様式も様々、しかし不連続だが統一感のある多様な古いまちである。むかし大学の構造の授業で習ったことを思い出す「同じ粒ばかりだと固まらずに弱い」山鹿はさざれ石のごとく永遠に在りたい。



■県景観賞池田質屋



■文化財の修景



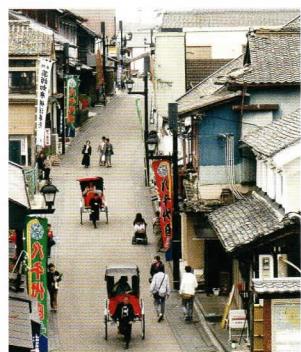
■湯の端公園足湯



■箸大型ライトアップ



■酒造跡の駄菓子屋



■豊前街道九日町



■角の魚や「寺田屋」(設計及び修景)



■豊前街道と人力車



■晴れ日の八千代座

特別企画

WAJIRO KON COLLECTION

今和次郎コレクション



1950年3月 武藏高等学校 卒業
 1954年3月 東京大学工学部建築学科 卒業
 1963年4月 工学院大学建築学科専任講師
 1964年4月 同 助教授
 1974年4月 同 教授
 工学博士（東京大学）
 1996年4月 農村計画学会賞（論文）受賞
 1999年4月 工学院大学名誉教授

おぎはら まさみつ
荻原 正三

今和次郎コレクションは、大正から昭和にかけて、民家研究から考現学と生活学の創始にいたる多彩な分野で研究活動を続けた元早稲田大学教授今和次郎先生（1888 - 1973）の蔵書、スケッチ、研究ノート、写真など研究資料一式を中心としたコレクションである。コレクションは始め建築学科に置かれ、各地で開催された展覧会や研究者に公開されてきたが、2000年に蔵書とともに図書館で一元的に管理することになり、収蔵室も整備されて現在に至っている。

工学院大学図書館特別コレクションには、今コレクションのほかに、今の弟子で農村建築研究の先駆者竹内芳太郎先生（1897 - 1987）のコレクションと、八王子図書館竣工を記念してアメリカから購入されたヒッチcock（Henry Russel Hitchcock 1903-87）コレクションの三大コレクションが収蔵されている。

工学院大学 図書館 特別コレクション

今和次郎コレクション

WAJIRO KON



民家研究から考現学、生活学創始に至る多彩な研究活動を続けた元早大教授今和次郎の蔵書と研究資料を紹介

[■ to COLLECTION >>>](#)

竹内 芳太郎コレクション

YOSHITARO TAKEUCHI



一九二六年銀座
カフェーWetzel
服飾採集 1926

今和次郎に師事し、農村建築、農村住宅改善、農村舞台研究に力を尽くした元中部工大教授竹内芳太郎の蔵書と研究資料を紹介

[■ to COLLECTION >>>](#)

ヒッチcockコレクション

H.R.HITCHCOCK



ドメス出版
1961.11刊
ドメス出版
1965.9刊

アメリカにおけるインターナショナルスタイルの定着に努めた H.R.ヒッチcock（Henry Russel Hitchcock 1903-87）の蔵書の一部を紹介

[■ to COLLECTION >>>](#)

新着情報

工学院大学図書館
特別コレクションの最新情報

展覧会情報

特別コレクション
出展展覧会のご案内

蔵書検索

特別コレクションの検索
(※研究資料は除く)

利用案内

特別コレクションの
利用案内・お問い合わせ

今和次郎文庫目録

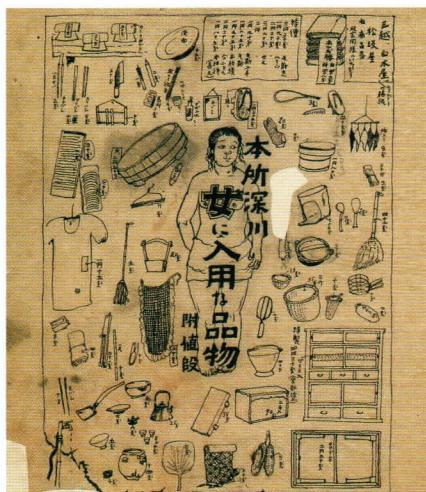
今和次郎が所蔵した蔵書は和書約5千冊、洋書約1千冊、雑誌約130種で、目録は1991年に「今和次郎文庫目録」として大学図書館から刊行されている。蔵書の構成をみると、和書では民俗学を含む社会科学分野が全体の四分の一、続いて文学、歴史地理、芸術、哲学・心理学、建築学の順で、洋書ではラスキンの著書や旅行関連のカール・ベデカー社もの、今が訪れた欧州の美術館・博物館の図録や都市案内書、地図などが目に付く。

また雑誌は、アルト（紀伊国屋書店）、インターナショナル建築（日本インターナショナル建築会）、建築新潮（洪洋社）、建築世界（建築世界社）、民家（民家研究会）、ドルメン（岡書店）、建築工芸アイシイオール（洪洋社）、装苑（文化出版局）など約130種にのぼり、戦前の創刊号を含むものが多いのも特徴の一つである。

蔵書以外のコレクション諸資料

蔵書以外で注目されるのは、『日本の民家』で世に知られるようになった民家・農村建築調査、関東大震災前後に活発に調査された考現学・風俗調査とバラック建築研究・バラック装飾社関係の資料、竹内と共同して進めた（財）同潤会の東北地方農山漁村住宅改善調査（次頁参照）、地理学の小田内通敏と同行した朝鮮民家調査、欧州・米国視察（1930）時の人物スケッチ・写真・絵ハガキ通信などの諸資料である。中でも、30冊を超える民家、考現学調査時の野帖（今は見聞野帖と呼んだ）は貴重で、保存のためデジタル写真撮影がされている。

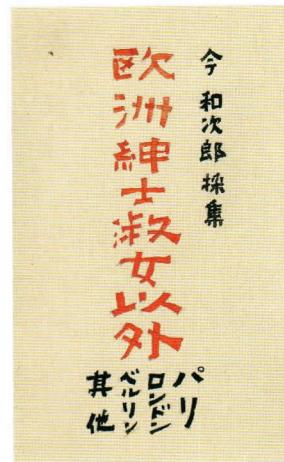
この内、今が「考現学（モデルノロジオ）」と自ら命名した新しい学問の成果を示すスケッチの幾つかを示せば次図の通りである。



「本所深川貧民窟付近風俗採集、女に入用な品物、附値段」 大正14年



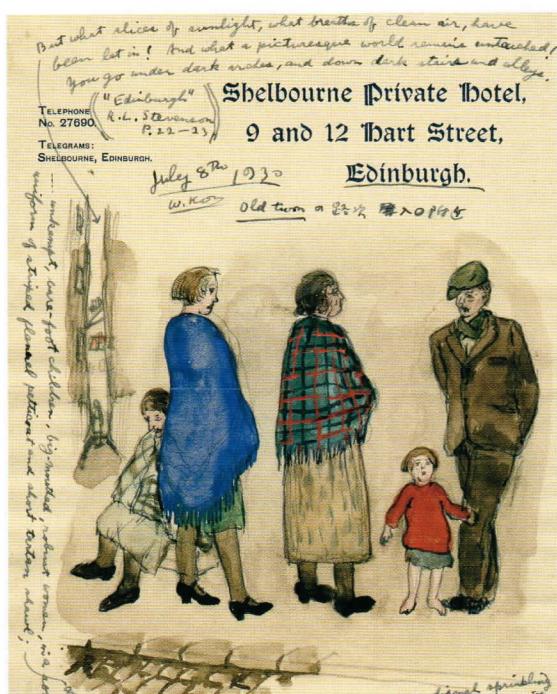
「本所深川貧民窟付近風俗採集、男の欲しいもの、値だん一覧」 大正14年



今和次郎採集
「欧洲紳士淑女以外」(風俗スケッチ) 表紙 昭和5年



ハンブルグ、男の調髪とひげ



エジンバラ（スコットランド）old town（旧市街）路地入口



オスロー（ノルウェー）ホテル食堂、女中と朝食

青森県史叢書『青森県の暮らしと建築の近代化に寄与した人々』 第二章 今和次郎篇

今和次郎の故郷青森県の青森県史編さん事業は平成8年度から開始され、縄文時代の遺跡では国内有数の三内丸山遺跡発掘で弾みがつき、平成16年度までに資料編13、民俗編1、自然編2、別編・三内丸山が刊行された。続いて平成17年度に、本編『青森県史 文化財編 建築』(未発行)に収録しきれない「暮らしらしと建築の近代化に寄与した人物」に焦点を当てた叢書編が刊行された。

叢書編の第一章は「建築の近代化に寄与した青森県出身の人々」として、地元で活躍した堀江佐吉、桜庭駒五郎、西谷市助、関野太郎治、J. M. ガーデナー、本間俊平、前川国男などを取り上げ、高島成侑前八戸工大教授と小笠原真理子青森県環境生活部主事が分担執筆した。

続く第二章は「生活と住宅の改善に寄与した人々」の中の今和次郎に焦点を当て、始めの二つの節で今の多彩な研究成果を紹介し、次の二つの節で青森県と関係の深い(財)同潤会東北調査での今の業績を中心に取り上げ、黒石いづみ青山学院短大教授と荻原正三が分担執筆した。

第二章 生活と住宅の改善に寄与した人々。(今和次郎篇)

第一節 青森県における暮らしの近代化と生活改善、そして今和次郎。

第二節 今和次郎の生涯と青森県における活動。

弘前出身の建築家今和次郎、日本の民家、朝鮮の民家、バラック研究とバラック装飾社、考現学研究、青森の考現学調査、和次郎と純三、欧州視察と考現学、服装研究、農村セツツルメント。

第三節 今和次郎と(財)同潤会・東北農山漁村住宅改善調査。経済更生運動と東北地方集団農耕地開発事業、積雪地方農村経済調査所、(財)東北更新会の設立と(財)同潤会・東北地方農山漁村住宅改善調査、昭和初期の青森県農山村の暮らしと住宅。

第四節 東北地方農山漁村住宅改善計画。

農山漁村住宅改善の目的と意義、現在住宅の保健衛生・建築技術・産業能率上の欠点と改善、漁村住宅の欠点と改善方法、同潤会提案の農山漁村住宅標準設計案、住宅改善指導者・大工講習会。

第五節 農村生活・住宅改善運動における今和次郎の活動とその影響。

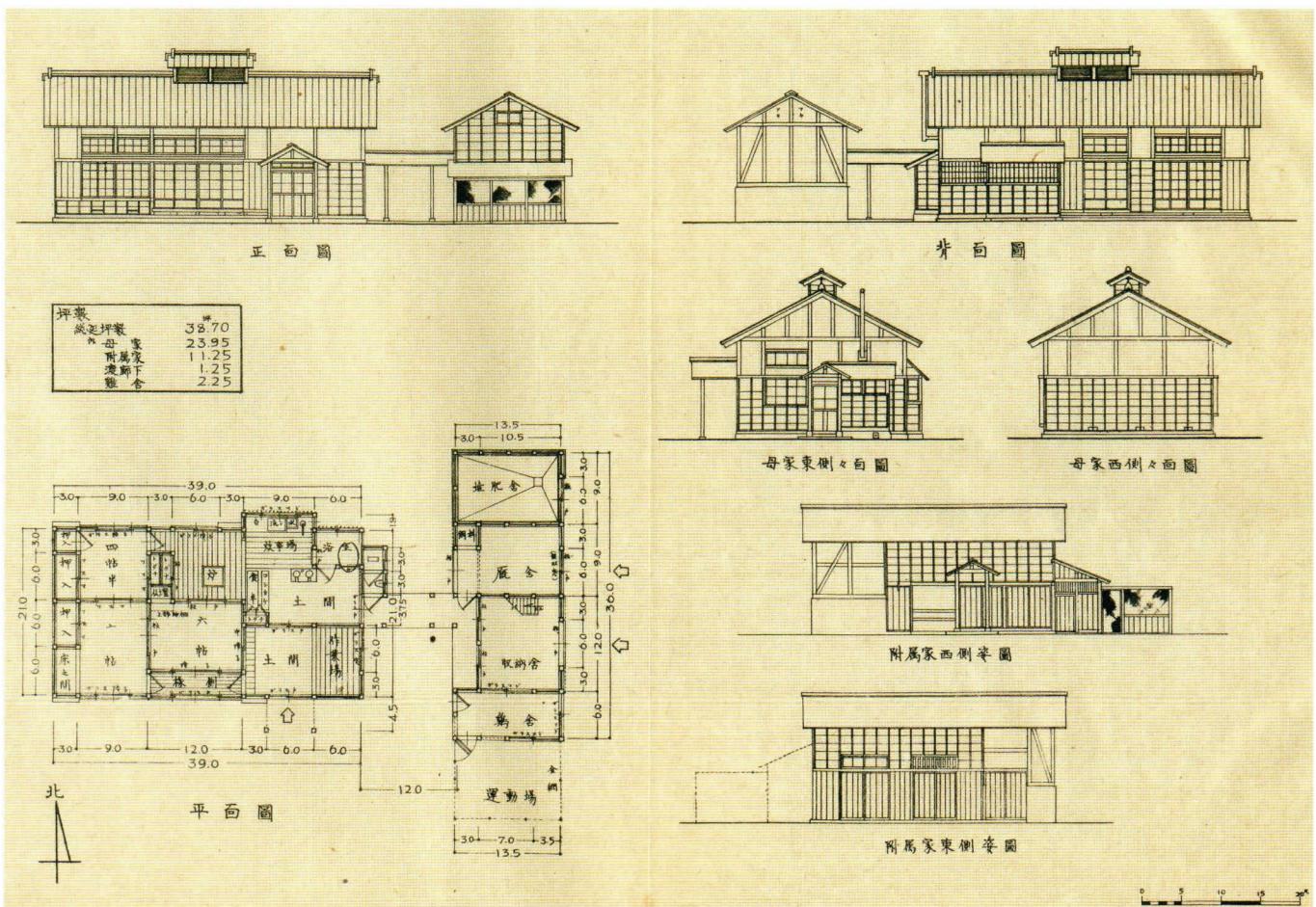
第六節 まとめ

今和次郎 年譜 / 著書目録。

あとがき。参考・引用文献。用語解説。

編集：青森県環境生活部 県民生活文化課県史編さんグループ、発行：青森県、平成19年3月30日。

A4版、カラー図16p. 本文219p.



今和次郎コレクションの展覧会出展実績

今コレクション所蔵のスケッチ、調査資料等を各地の美術館等の展覧会に展出した。その実績は、1988年に開催された「今和次郎生誕100年・15周年記念展」(日本生活学会、1988年6月、銀座ポケットパーク)を皮切りに、「日本の眼と空間:もうひとつのモダン・デザイン」(1990年9月、セゾン美術館)、「銀座モダンと都市意匠」(1993年3月、資生堂ギャラリー)、「田辺茂一と新宿文化の担い手たち」(1995年10月、新宿歴史博物館)、「東京一ベルリン展」(2006年1月、森美術館)と続き、2000年以後には和次郎と弟の版画家今純三の二人の作品を中心とした新たな展開が始まった。

□「今純三・和次郎とエッティング作家協会:採集する風景/銅版画と考現学の出会い」(東京都)渋谷区立松涛美術館、2001年4月。

□「今純三・今和次郎展:ふたりが描いた大正・昭和のくらしと風景」青森県立郷土館、2002年11月。(右図)更に、2004年度に今兄弟の故郷弘前市百石町展示館では地元有志による手弁当の3回の連続展示も行われた。

□「帰ってきた今和次郎コレクション展」第1回日本の民家、第2回津軽(南部)の農家写真、第3回風俗と考現学、青森県弘前市百石町展示館、2004年8月、同年11月、05年3月。(右図下)

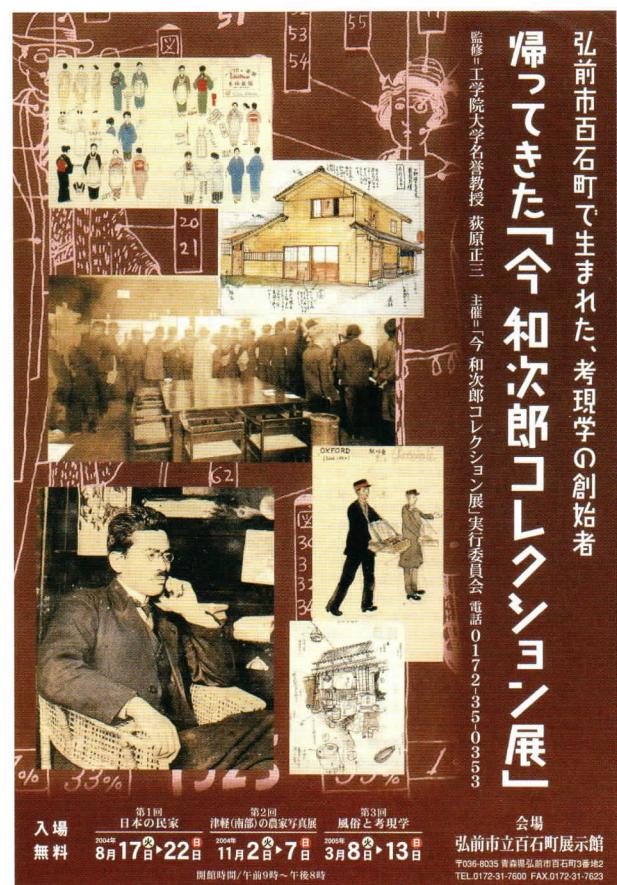
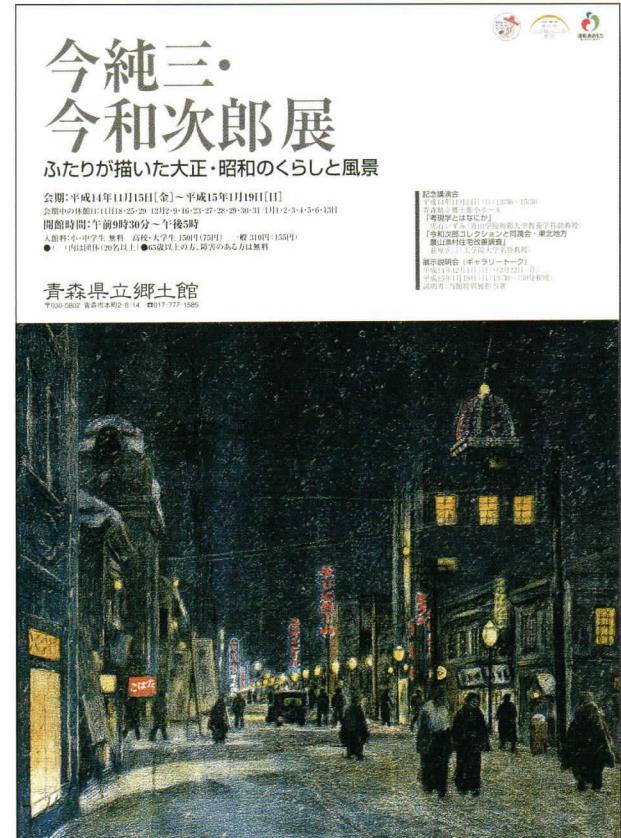
□「東京一ベルリン展」東京六本木 森美術館、2006年1月。

また、昨年7月に新設された青森県立美術館の常設展示の中に今和次郎・今純三室が設けられ、当面年間2テーマ程度の連続した展示が始まった。

□「青森県立美術館・常設展」今和次郎・今純三室、青森県立美術館、2006年7月—現在。

今和次郎コレクション資料を掲載した主な出版物

1. 「日本の民家」再訪2、準備編、中谷礼仁、10+1 (Ten Plus One) No.44 (2006. 9) INAX出版。再訪3、都市の水面 内郷村再訪、中谷礼仁、No.45 (2006. 12)。再訪4、郊外町の痕跡 甲州街道再訪、石川初、No.46 (2007. 3)。再訪5、「民家の範疇」 四国再訪・山村編、清水重敬+御船達雄、No.46 (2007. 6)。(継続中)
- 2.『野暮天先生講義録』 今和次郎、ドメス出版、2002. 11.
- 3.『「建築外」の思考—今和次郎論』 黒石いずみ、ドメス出版、2000. 9。
- 4.『今和次郎見聞野帖—歐州紳士淑女以外』 今和次郎著、荻原正三編、柏書房、1990. 12。
- 5.『今和次郎—その考現学』 川添登、リブロポート、1987. 7 (再版、筑摩学芸文庫、筑摩書房、2004. 5)。
- 6.『考現学入門』 今和次郎著、藤森照信編、筑摩文庫、筑摩書房 1987. 1。



[写真・図版資料は、工学院大学図書館「特別コレクション 今和次郎コレクション」所蔵を使用]

コンペティション凱旋報告

「7つのコンペに連続受賞！」

初田研の平井充さんが、短期間に7つのコンペに連続受賞されました。
NICHE編集部で受賞の秘訣を伺いました。



平
井
充

北海道立稲北高等学校、1992年卒業

工学院大学建築系学科 2部建築学科 初田研究室 2004年卒

工学院大学大学院 博士後期課程2学年在学 初田研究室

メールアドレス peiju98@yahoo.co.jp

吉原設計事務所（旧天野吉原設計事務所）を経て、現在は設計活動を行うほか2004年から東京工科専門学校講師

2001年度大学成績優秀学生奨励金対象者／2003年度卒業設計優秀賞／2003年度2部建築学科首席卒業／2003年度大学院

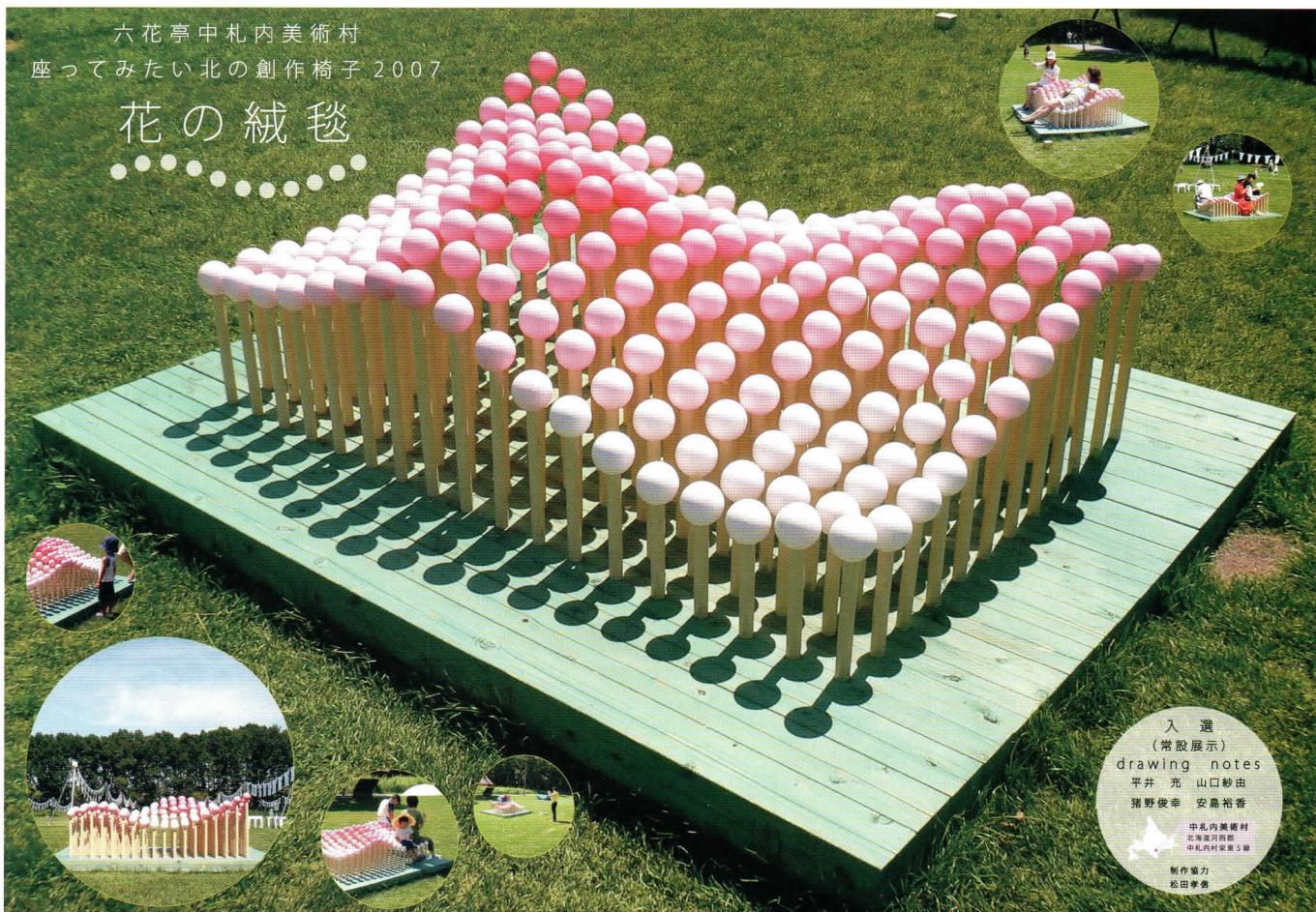
進学奨励金学費減免対象者／2005年度大学院進学奨励金学費減免対象者

それぞれのコンペの内容を簡単にお聞かせ下さい。

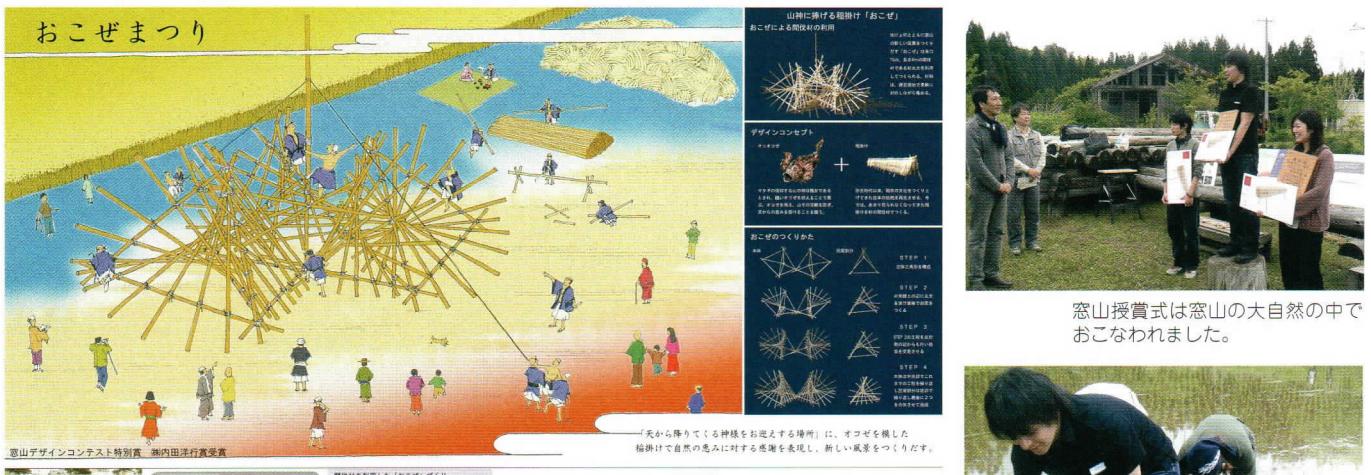
今回のコンペで応募したものは、全てが何らかのかたちで実現することが前提のものを選びました。確かに、よくあるアイデアコンペのように概念的にラディカルで、センスの良いボードを作って審査するものには、それなりの魅力を感じますが、実際にモノを扱って、实物をつくり、見て触ることができ、それが少しでも社会の役に立つことを考えると、そちらの方が自分にとって、より充実したものになるのではないかと思っています。

全部で7つのコンペ作品が賞に入ったわけですが、大きなものでは里山活性化のための「窓山デザインコンテスト」と、実際に行なう公園整備のための「堂面第二公園学生アイデアコンペ」の2つになります。次に、住宅

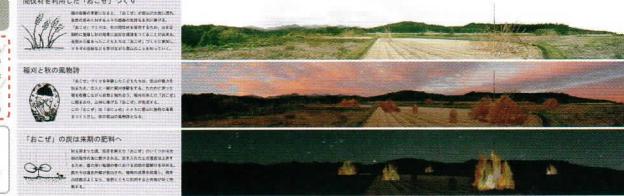
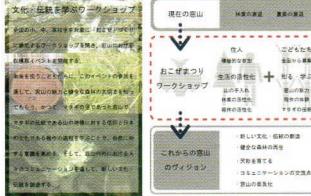
設計のコンペでは、建売住宅の「住宅設計コンペ未来」と、佐賀でクライアントを募集して伝統構法の住宅をつくる「新・木造の家」の2つです。素材のポテンシャルについて考えるものでは、ファブリックの可能性を追求する「インテリアデザインコンペ2007」と、杉の生産量全国1位の宮崎県における「杉コレクション2007」の2つになります。この2つについては、イベントなどで展示し、商品化なども視野にいれたものです。「六花亭中札内美術村座ってみたい北の創作椅子展2007」は、北海道の洋菓子メーカーである六花亭が経営している帯広市中札内の美術村に常設展示する、椅子をテーマにしたアート作品です。



六花亭主催 中札内美術村 座ってみたい北の創作椅子展2007 入選「花の絨毯」



窓山デザインコンテスト特別賞 株内田洋行賞受賞



「天から降りてくる神様をお迎えする場所」に、オコゼを模した
縄掛けで自然の恵みに対する感謝を表現し、新しい風景をつくりだす。



窓山授賞式は窓山の大自然の中で
おこなわれました。



窓山で田植えを体験

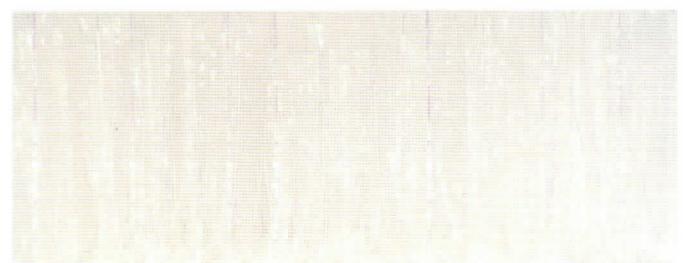
白神山麓・窓山景観創造実行委員会主催 窓山デザインコンテスト
ランドスケープ部門 特別賞 株内田洋行賞「おこぜまつり」

受賞するためにどんな工夫を考えましたか？

「おこぜまつり」と「堂面花舞台」では、完成した直後だけ注目されるようなものは、つくりたくなかったんです。このような場合、建物をつくってしまうと注目されるのは最初だけになってしまい可能性があります。実際、公開審査で見た他の多くの提案がそうでした。それよりも新たに住民の生活に根付いた持続性のある文化をつくることで、その場所におけるウチとソトの人々の自然な関係を考えたほうが有効ではないかと思いました。次に「花の絨毯」では、椅子という枠組みを超えた楽しさをアピールしたもので勝負しています。「フトコロの大きな家」では、新興住宅地で均質な存在にならない生活の楽しさを考えたのですが、建売住宅というリアリティを考慮しすぎて、ややコンセプトの芯がピンボケした感じが残ってしまったのは残念でした。「雨を束ねて」は、だれもが手軽に自由な空間を生成して、その痕跡を空間に刻み、手軽にリセットできる空間のシステムみたいなものを、ファブリックを通して考えた提案です。「ぐるりん」では、一種類の材による組み合わせのポテンシャルを模索した結果生まれてきたものを、遊具としてデザインしています。「高床的住居」は、日本の伝統的なヴォキャブラリーを利用しながら、伝統構法の軸組が持つ開放感とガラスの融合で浮遊感をつくり出したいと思いました。ただ、どれも共通しているのは出来たものが見た目のカッコよさよりも、面白いアイデアによってつくれだされる楽しさがなくちゃダメだということです。

歴史の研究室から学ぶ、コンペの極意は、何かありますか？

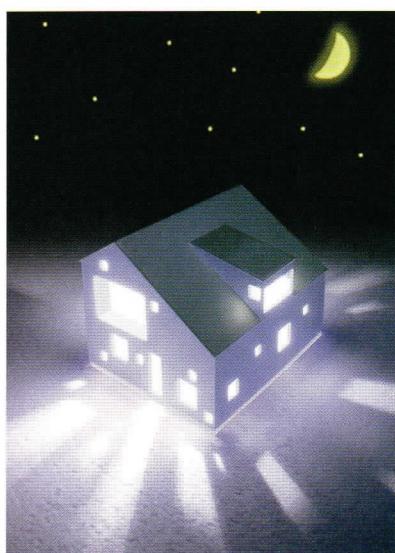
まず、課題に対する歴史的なコンテクストを読み取ることに苦労は少ないですね。



(社)日本インテリアファブリックス協会主催インテリアデザインコンペ2007
入選候補作品「雨を束ねて」



日本造園学会大会（日大藤沢キャンパス）にてコンペ授賞式とシンポジウムが行われました。



Ishikawa group2007 住宅設計コンペ 選外佳作賞「フトコロの大きな家」外観



「フトコロの大きな家」内観

建築史を学ぶということは、単純に建築のデザインモチーフの変遷を追うことで、知識や教養を深めることではなく、過去のある時点での社会一般を、建築を通して視点から読み解いていくことが基本になるので、マクロ的な視点で課題を分析するコツみたいなものは把握しやすくなると思います。もう一つは、過去の建築家たちが、その時代と社会における大きな流れの中にあって、それらに対してどのような解釈を持ち、どのような回答をもって臨んだかというスタンスを学ぶことができました。それは常に、その時代の主流的なやり方ではないような気がします。過去の建築の名作と呼ばれるものは、置かれた時代や社会性とセットにして考えるべきものであって、これから建築に適応できるとは思っていません



(社)日本造園学会主催 堂面第二公園学生アイデアコンペ 優秀賞「堂面花舞台」ボード1



「堂面花舞台」ボード2

ん。特にコンペのような場合では、やはりどこか今までにない新しいものが一つあって、それが戦略的に中心に据えられているかどうかが重要になってきます。その次元は、提案の内容によっていろいろあると思いますが、過去と断絶されたものでなければならないと思います。



第3回「木・木造の家」設計コンペ 最優秀・佐賀県知事賞「高床的住居」外観



杉コレクション 2007in 都城 入賞「ぐるりん」子供たちに大人気でした。

今回短時間にコンペに受賞されたご感想が ありますか？

提案までは少人数のチームの作業ですが、一次審査を通過したり、入選したりすると、どれも実現化を前提としているので、企画に関わっている人々の多さに驚きました。「おこぜまつり」や「ぐるりん」では、地域を活性化したいと思う地元の人々の他、全国からも様々な人たちが関わっていて、そのコミュニティの凄さに圧倒され



「高床的住居」内観 2階廊下と軒裏から外部の反射光が入り込む。

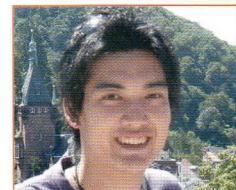
ました。「おこぜまつり」の授賞式があった秋田では、白神山地の見学や林業体験、田植えの体験までさせていただいたのは楽しかったですね。「ぐるりん」では、小泉誠氏などの家具を手掛けていられる職人の桑畑さんに制作していただき、その技術レベルの高さに驚かされました。「堂面花舞台」では、造園学会の大会のシンポジウムにチームで出席し、様々な意見交換ができたのは貴重な体験だったと思います。「花の絨毯」では、実物の制作作業をしてくれた初田研OBの松田君の協力が大きく、資金面でも初田先生や谷口先生が声をかけていただいた校友会の他、多くの人々から助けていただくことがなければ実現できなかったものです。この場を借りてみなさんにお礼を申し上げたいと思います。たった一、二枚のボードや小さな模型がきっかけとなって、いくつもの貴重な経験を得ることができて、僕を含めたチームのメンバーも素晴らしい充実感が得られたと思います。



主なメンバー 左から安島裕香、平井充、山口紗由、猪野俊幸
「花の絨毯」は林昌二さんからも制作の寄付と模型に「必勝」のサインをいただきました。



ドイツの旅

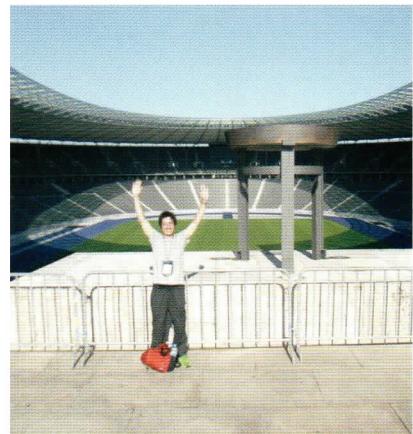


もりもと いたる
森本 之

2004年 玉川学園高等部卒業
2004年 工学院大学建築学科建築学コース入学
現在 建築学科建築学コース3年 藤木研究室
2008年 工学院大学建築学科建築学コース卒業予定

日本の現状を認識するため日本から離れ、あえて異なった視点から物事を考え比較する事で、日本を改めて認識し今後新たな可能性へとつなげることを目的とし、今回ドイツを旅した。対象国をドイツにした理由は、歴史的に日本と似た面を多く持っていたからである。日本と同様に第二次世界大戦で街や都市が破壊され、戦後再び

都市計画が行われ、立派な町並み(風景)や建物は残しつつ、壊された建物は元通りに再建されていった。ベルリンにおいては戦後も、東と西で対立しながらもベルリンの壁崩壊後、再び見事に都市計画が行われ現在では立派なドイツの首都となっている。そんな新旧が混在するドイツを今回渡航の対象国とした。



ケルン大聖堂

環境

ドイツでの第一印象は、自然環境の良さであった。ドイツでは都心部でも自然が多く残されており。人々は自然を積極的に楽しんでいた。特に印象に残っているのが、ミュンヘン オリンピック公園である。自然と建築が一体となって存在していた。ドイツでは国全体で積極的に緑化を進めている。市民レベルでは緑をふやし生き物を呼び起こすために建物の屋上や側面を緑化している。ドイツで暮らす人達の環境に対する考え方は我々日本人の環境に対する考え方よりもより前に進んでいるように感じられた。例えばゴミ回収においても日本と異なっていた。日本ではゴミ収集場には毎日のようにゴミがある。しかしドイツでは公共の場所にゴミが置かれることがなく、また分類も細かく回収も2週間に一回とゴミの削減とリサイクルを促進している。最も驚いた環境対策はUバーン（地下鉄）での省エネ対策であった。天気の良い日ドイツ国内を走るUバーンに乗って地下から電車が外に出ると電車内の明かりが突然消えた。外に出ると電車内に光が入り明るくなるので、電気を消すのである。日本では経験したことなかったので、少し驚いたが意外に晴れた日では電車内の電気がなくとも不便ではないと感じた。



ハイデンベルクの街並



オリンピック公園



集合住宅の中庭



おわりに

ドイツを旅して新しい物だけが価値を見いだしていくわけではなく、古い物にも価値があるのだと改めて感じた。社会が大きくなるにつれ一体性が保たれにくくなるが、ドイツではそれぞれの場所に応じて一体性が保たれていた。環境対策が進んでいるドイツでは、政府だけが行動を起こしているわ

けではなく市民も積極的に参加していた。日本が今後見習わなくてはならない点が多くある。

今回のドイツの旅で様々なことを経験することができた。経験することそしてできたことの大切さを改めて感じた。今回の海外渡航を支援していただいた方々に感謝したいと思う。



ゴミ箱



緑あふれる住宅



船の中での生活

この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。
詳しくは NICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku> をご覧下さい。



大都市 NY と自然の 共生計画を体感する



きのした しは
木下 志帆

出身高校 私立江戸川学園取手高等学校卒業
大学 工学院大学工学部 建築都市デザイン学科卒業
現在 工学院大学大学院 工学研究科建築学専攻
修士2年 東研究室所属
Email : orange_chocorate@msn.com

はじめに

いわずと知れた大都市 NY に私は初日から驚かされることになる。夜に JFK 空港に到着した私を留学中の友人が迎えに来てくれ、そのまま夜のタイムズスクエアへ連れて行ってくれた。こんな時間に外を出歩いていい街なのか・・・そんな不安を抱きつつも初めてみる街の様子に目を奪われ、気づくと 24 時を回っていた。終電を気にし始めた私に友人が平然と答える。「メトロは 24 時間動いているから大丈夫。深夜は 30 分に 1 本くらいに本数が減るから面倒だけどね。」24 時間メトロが動いているということに私は衝撃を受けた。

「決して眠らない街」についてやつて来たことを改めて実感した。

そんな大都市での旅の目的は、都市と自然の共生計画を体感することである。NY の自然と言えばセ



「CHELSEA PIERS」 古い港湾倉庫を再開発した複合スポーツセンター。施設を利用しなくとも、中に入って水辺を散歩することができる。

ントラルパークを思い起こす。大都市の真ん中に広大な緑地を有する NY は、セントラルパーク以外に自然とどのように関わりを持っているのかを体感したいと思った。特に、四方を海や川に囲まれている（市の全面積の 35 % を水面が

占める）地理的要因を受けて水辺がどのように計画され、利用されているのかを体感したいと考え、水辺の地域を重点的に歩き回った。

古い町の記憶

今や高級ショッピング街として有名になったソーホー地区も、もともとは倉庫街だった。倉庫の高い天井に目をつけたアーティストたちが利用するようになったのがきっかけである。倉庫に在るのは荷だけとは限らない。本来の用途と違う使い方がされると、建物としての見方も価値も変わるように思える。

ソーホーの北西の川沿いの地区、切尔西にはギャラリーが多い。それらの外観は古い倉庫のままのものが大半である。しかし一歩中に足を踏み入れると内観は近代的



「CHELSEA MARKET」

元ナビスコの工場を再開発したショッピングセンター。躯体のみならず、重機すらもテーブルとして再利用している。



「THE PARK」

駐車場を改装したレストラン。アトリウムに木が茂り、気持ちがよい。



で、外観と内観のギャップに興味をいっそう掻き立てられた。

切尔西から少し南へと足を運ぶと、倉庫街跡地の色を濃く残したミートパッキングディストリクトに辿り着く。ここは開発中ということもあり、無骨な空気が漂っていた。精肉を吊るす遺構が残っているところが多く、街を特徴付けるアクセントとして面白いと感じた。この地区では建物だけではなく、廃線の高架をランドスケープに利用していて、その発想に驚いた。現在のハイラインと、完成予定CGを以下に載せる。参照していくとわかるように「高架は陽や視線を遮る邪魔なもの」という固定観念がこの計画を見ると吹き飛んでしまう。

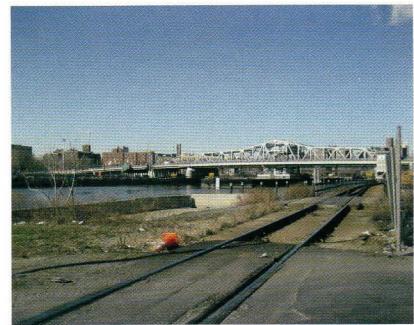
地区を全てまっさらにして大開発するのではなく、古いものをコンバージョンして残している様子を至る所で目にすることことができた。かつては倉庫街として市民の生活を支えてきた街の記憶を後世に伝えていくような計画が積極的に取り入れられていることに、人や街



MEAT PUCKING DISTRICT

再開発されつつあるかつての精肉工場街。精肉を吊るしていたであろう遺構も残されたまま利用されている。

の考え方があらわれているように思え、魅力を感じた。



プロンクスから見たハーレムリバーの様子
廃線、廃工場が広がり、人影もなく殺風景な印象を受ける。

多くの人が利用するということは、水辺への関心も今後大きくなるということにつながるのではないかと思われる。

このように、生活のなかに水辺との関わりが溶け込んでいる様子が随所に見受けられた。

マンハッタンから30分ほどメトロやフェリーに揺られると、そこには人の手の入る余地もないような自然が広がる。枯れ草が生い茂り、水面には厚い氷が覆う、荒涼とした景色を前に立ち尽くすことしか出来なかった。



THE HIGHLINE

現在は廃線となった高架。長く続き、存在感がある。現在再開発計画進行中、2008年完成予定。



THE HIGHLINE 完成予定CG。

<http://www.dillerscofidio.com/highline.html>
より引用。

水辺への関心

近年NYで人気のスポットを見聞きしているうち、それらが水辺に多いことに気づいた。ストリートを抜けると、建築物で遮られる事なく水辺に出ることができる。それらの水辺は商業施設であったり、公園であったり、散策道であったり、工場の跡地であったりする。例えばサウス・ストリート・シーポートや切尔西ピアというレジャー施設が港湾再開発によってオープンし、人でにぎわっていた。マンハッタン島から出てブルックリンやクイーンズ、ニュージャージーに渡ってみても、水辺には細長い公園が続き、気持ちのよい眺望が得られる。公園にはベンチがたくさん並んでおり、その様子は水辺の散歩を楽しむ人が多いことを象徴しているように感じられた。

商業施設や公園など楽しむことを目的とした計画だけでなく、生活に必要な交通の要としての水辺の計画も見られた。グラウンド・ゼロでは着々と建設が進んでおり、完成した暁にはニュージャージーへの連絡の要であるパストレインのターミナルとして多くの人に利用される。スタテン島フェリー乗り場周辺も整備されており、自由の女神を臨むバッテリーパークとのアクセスが容易になるだろう。

広大な自然保護区

マンハッタンからフェリーで30分のスタテン島にあるフレッシュキルズ埋立地は、NY市のごみ処理場として使われ、2002年に閉鎖された。当初は国際コンペで跡地が公園として利用されることが決定し2001年に閉鎖される予定であったが、2001年9月11日にテロ攻撃により大量の瓦礫が発生したため、フレッシュキルズに搬入されることとなり閉鎖が延期された。私はその背景を知るうち、現在の「公園」としての姿がどうなっているのかを自分の目で確かめたいと思った。私のイメージでは、同じ埋立地跡地である「夢の島公園」のようなものだったが、フレッシュキルズには驚くほど何もなかった。「公園」というと、人がすごしやすいように小道や植栽や施設を整備するこ

とが日本では当然のように行われる。しかし、この「公園」には、少なくとも私が見て歩いた範囲には人間の為だけに造られたものは管理事務所くらいしかなかった。3年前にドイツのシュバルツバールトに行った時にも感じたことだが、木が倒れたなら倒れたまま、あるがままの姿を、手を加えず見守るという自然との関わり方が、欧米と日本との違いであると思った。

今度はメトロで約1時間、JFK空港の近くにあるジャマイカベイ自然保護区にも足を伸ばした。ここはアメリカの大都市圏では最も重要な保護区の一つとされており、小道を歩きながら野鳥が観察できるようになっている地区である。ジャマイカ湾の中央をメトロが走り、見渡す限りの水と枯れ草の合間に水鳥が飛び立っていく様子を眺めることができる。ジャマイカ湾の中央、中洲にある broad channel 駅で降りるとすぐに住宅街が広がる。その街区をのんびり歩くと、程なくしてジャマイカ湾に行き当たる。水面は厚い氷に覆われてところどころ隆起し、その上を水鳥が歩く姿が間近で見られた。湾に張り出した住宅にボートが横付けされ、氷を割って作業している住民の様子を見ると、自然を侵害することなく隣り合って日々を送る生活が伺えた。



ルーズベルト島から望むマンハッタンの様子 水辺ぎりぎりまでビルが押し寄せ、車道が走っているマンハッタンに対し、島側は芝生が茂りゆったり散歩が楽しめる。

この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。
詳しくは NICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku> をご覧下さい。



ルーズベルト島トラムウェイ
バス同様、tramにもメトロカードで乗ることが出来る。

おわりに

私は今回の旅で、生活面でも面白い経験をすることができた。ま



「BROOKLYN HEIGHTS PROMENADE」
眼下には水際まで倉庫が並ぶ二段式のプロムナード。マンハッタン側のレジャー施設「SEA PORT」も見渡せる。



フレッシュキルズ埋立地跡
かつて世界最大の埋立地はグリーンベルトになっていた。



ジャマイカベイ自然保護区
ジャマイカ湾の中州を電車が走り、見渡す限りの大自然である。住宅が高床の橋の上に並び、湾に張り出している。

ず訪れた時期が極寒の冬だった。肌を刺す冷気の中、建物の暖かさ、コーヒー一杯の温かさ、人の温かさひとつひとつに感動を覚えた。宿泊は現地の人が普通に生活するアパートの一室を借りて一人暮らしをしたので、スーパーで食材の買い物をしたり、NYの人々の生活を肌で感じることができたし、普段実家暮らしの私には家族のありがたみが再確認できる機会でもあった。

帰国便が悪天候でキャンセルになるトラブルにも巻き込まれたが、そこでできた仲間や経験も私にとって貴重なストックとなった。

NYのような大都市でも、街を少し歩けば気持ちのよい公園や水辺に行き当たることができ、メトロに乗れば大自然のなかに身を置ける環境が守られているということがとても印象的であった。今までに訪れた国々とは違った、新たな経験を積む機会を得られたことを幸せに思う。

海外渡航を支援してくださった先生方、同窓会の皆様、応募を勧めてくださった東教授、励ましてくれた仲間、そして旅で出会った沢山の人に、感謝致します。貴重な経験を、どうもありがとうございました。



「環境と建築の融合を求めて」 オランダ・オーストリア・ スイスを巡る



おやま ようた
小山 洋太

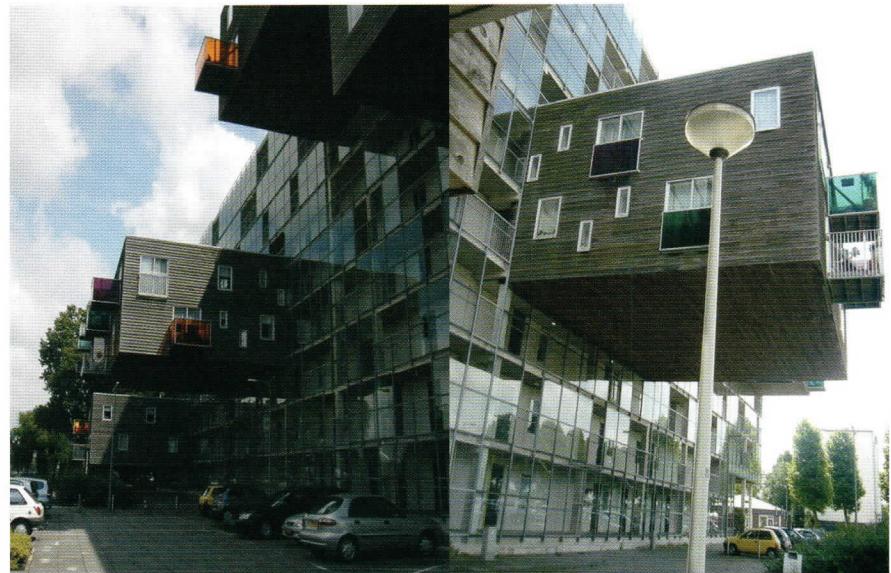
出身高校 日本大学第二高等学校
大学 工学院大学建築系学科 建築学環境
コース 2006年卒業 藤木研究室
現在 工学院大学院修士課程 2年在学中
Email : oyoyo4210@yahoo.co.jp

はじめに

2007年6月20日から7月12日までの3週間、オランダ、オーストリア、スイスの3ヶ国、計16都市を訪問しました。渡航目的は「水」との関係の深い3カ国から、水を取り巻く建築や町並みを通して、外国における建築や自然環境と人間の関わり方を体感してくることです。



パークランドビルディング
オランダでは集合住宅建設ラッシュ。各地で建設が進められていた。



オクラホマ高齢者集合住宅

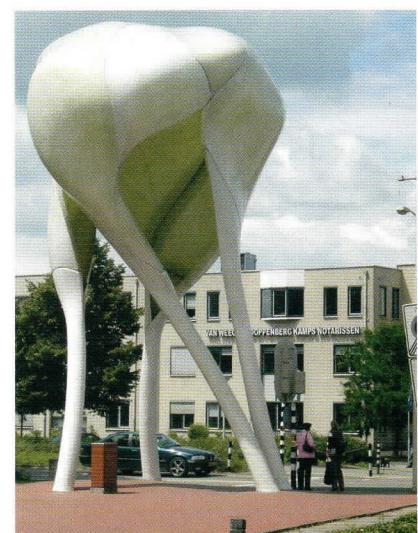
山河と調和する国、スイス

3ヶ国の中から、本稿では国土の大半が山脈に覆われ、豊富できれいな水に恵まれた国スイスを取り上げ、ご報告させていただきたいと思います。

首都ベルンでは至る所に泉が設けられ、その全ての水が飲用可能で、人々が頻繁にそれらの泉を利用しています。旧市街は世界遺産にも登録されており、美しく整備された町並みに調和した泉は、都市のアメニティ向上と共に美観形成に大きな役割を果たしていました。どの都市に流れる川も水質は良く、チューリッヒの様な大都市に流れる川でも、暑い日には泳いでいる人がいるほどです。

また、都市から離れた集落では、ほとんどの家屋が、地元の材料を用いたと見受けられるスレート葺

で、景色に溶け込んだアルプス特有の景観を形成しています。随所で自然界と人々の生活の間で、無理のない関係が築かれているのが非常に印象的でした。



D-tower 有機的形態を持つパビリオンが交差点にそびえる



Son-O-House
工場地帯の一角にパビリオンが。小さな建築だが内部の空間は何分いても飽きなかった。



クンストハウスグラーツ

壮大な自然を前にして

今回の旅の大きな目的のひとつが大自然を体感することです。スイスの南東サンモリツからマッターホルンの麓の町ツエルマットまで、8時間かけて山岳地帯を走破する氷河特急からは、起伏に富んだ地形や、美しい湖等豊かな自然環境を体験することができました。最も楽しみにしていたマッターホルンの姿はずっと雲に阻まれ、なかなか観ることができずにいましたが、滞在最後日の夕方、突如として雲が晴れ、はっきりと姿を望めた瞬間はそのスケールの大きさに感動しました。大慌てで、一番遅い時間まで運行しているケーブルカー乗り場へと駆け込み、展望台から雄大な姿を堪能しました。夏は日本より日の長いヨーロッパでは、まだまだ明るい夕方6時。展望台からつながるひと気のない林の中のハイキングコースをマッターホルンを横目に歩くことは最高に心地良く、気持ちが満たされました。



世界遺産グラツ市街の町並みを望む



山岳地帯のスレート葺き住宅



宿泊したドミトリの一例。
清潔で居心地はとても良い。



ゴルナー氷河
大自然の迫力に圧倒された。



早朝のサンモリツ湖・スイス



マッターホルン・スネカ展望台より



ヴィトラデザインミュージアム
内部空間も非常に魅力的であった。



ルツェルン文化会議センター 巨大な片持ち梁屋根。素材の反射を巧く使っていた。



チューリッヒ市内の眼鏡屋の前にあったベンチ。
かわいいらしい。



ベルン旧市街の町並み
通りの中央に泉が連続して配置してある



最後に

低予算の旅行であったため、宿泊の多くで利用したドミトリの部屋は最初こそ抵抗がありました。特に危険な目にあうこともなく、日数を重ね、慣れてくるにつれ快適に過ごすことが出来ました。海外の建築や壮大な自然環境に触れることも非常に有意義なことでしたが、同部屋に宿泊した世界各国の旅行者とのやりとりは、ホテルの個室を利用したのでは出来ない刺激的で、貴重な経験となりました。一生涯、大切にできる貴重な経験を積む機会を設けてくださった建築学科の先生方、建築学科同窓会の方々。また、応募を勧め、契機を与えてくださった東先生には、大変感謝しております。今回の経験を活かし、日々精進していきたいと考えております。ありがとうございました。

この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。
詳しくは NICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku> をご覧下さい。



独自の個性・魅力を もつロンドン・パリ



まるやま きえ
丸山 希恵

出身高校 神奈川県弥栄東高等学校

大学 工学院大学建築学科環境建築

コース（旅行時）2年

Email : kie.maruyama@jcom.home.ne.jp

はじめに

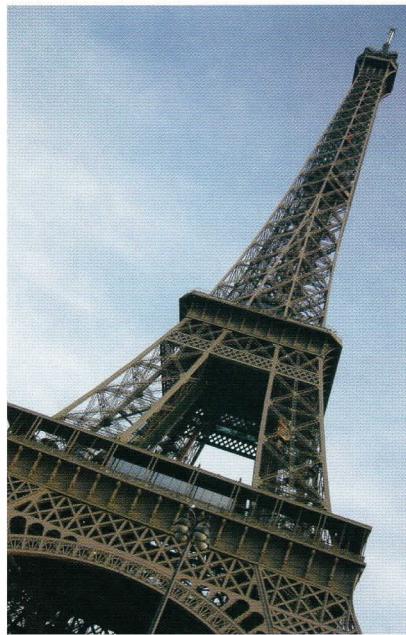
入学して2年がたち建築は国内だけではなく、数多くの建築物を実際に見て知識を蓄えるべきだと日々感じるようになっていました。また、自分が建築分野でどの専門に興味があるのか具体的にはまだ決まっていなかったので、これからのお進路にむすびつけていけるような建築見学旅行計画を立て2007年2月中旬にロンドン・パリ10日間の旅に行ってきました。



タワーブリッジにて



赤信号であろうと車が来なければ横断するロンドンの歩行者向けに'LOOK RIGHT'



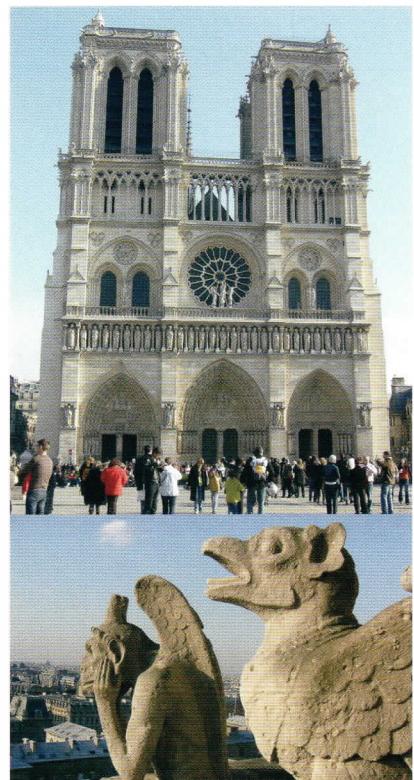
エiffel塔

教会

教会は建築見学では欠かせない場所。あの空間の重みというか空域の重圧感・光・音すべてにおいて旅行に来てよかったです！と感覚的に思いました。途中日本の無宗教の感覚で見学しないでキリスト教について勉強してくれれば良かったなと後悔しました。ロンドンの教会で印象的だったのは、埋葬されている人物彫刻の足元に動物が蹲って家系を象徴していました。サッカーのイングランド代表にライオンが標されていたのを思い出し文化と同時に国民性を感じました。

新旧が入り交じる街ロンドン

歴史ある寺院や教会と現代建築とが見事に融合した都市がロンドンだと思いました。石造の建物街かと思いきや、唐突に構造躯体や回転扉の金具まで見えててしまうようなガラス張りのオフィス棟が街並みに入り混んでいるなど、要所に個性を持つ建物があり知らない街なのに比較的歩きやすい街だと感じました。また、古い建物の改装でガラスを使った建物は少なくなく、セントポール大聖堂やグリニッジ天文台からロンドンを一望した時のタワークレーンの多さには驚かされました。何年後かに訪れたら、今回と異なる印象を受けるような気がします。



ノートルダム寺院 今にも動きだしそうなシメール

古きを重んじるパリ中心市街

パリに到着しメトロの出口を出てパリの街並みに驚きました。どの建物も同じ?!建物は窓の位置や大きさから屋根の高さ・色・形まであまりに似すぎていて、隣の建物と高さが違うなど建物の横壁面が見えると違和感を覚えるほど揃っていました。ロータリーに出ても自分がどの道に進みたいのかわからなく、日本にもイギリスにもなかった感覚で街計画がされているので始めはすごく戸惑いました。ルーブルのガラス張りの三角形が異端だと言われている意味が身にしみて解りました。

メトロ

街の外観をそのまま残すためにパリ中心市街はメトロが主で、地上で列車を見ることは少なく、橋の上を通る箇所などわずかでした。都市の外観を重視するために看板や標識は最小限で、メトロの入口探しは思いのほか大変でした。しかし、建物もメトロも外観に気を配っていても中に入ってしまえば、ニーズに合わせるよう合理的にできているものが多かったように感じました。



オルセー美術館内部 1日いても飽きない構成



テムズ川とピックベン



一面ガラス張り。このすぐ横にはウエストミンスター大聖堂がある



ロンドン中心市街で自転車通勤そして道路



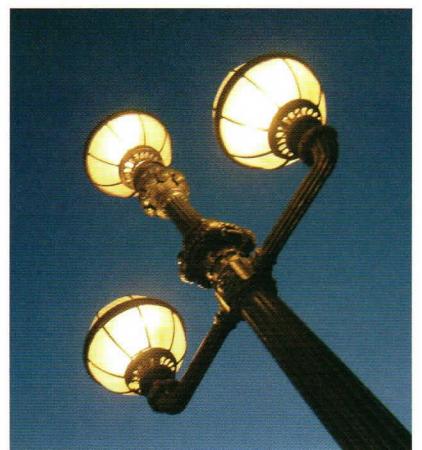
ミレニアムドーム。ドックランド再開発も興味深い



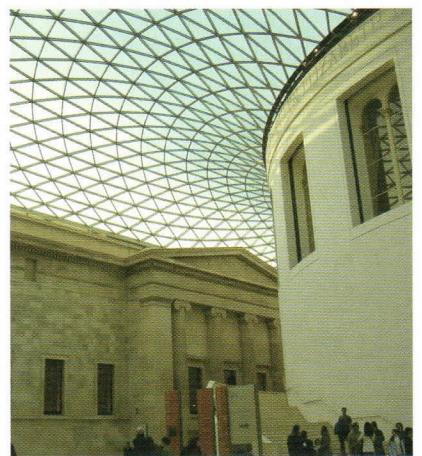
ヘルシーな日本食が人気



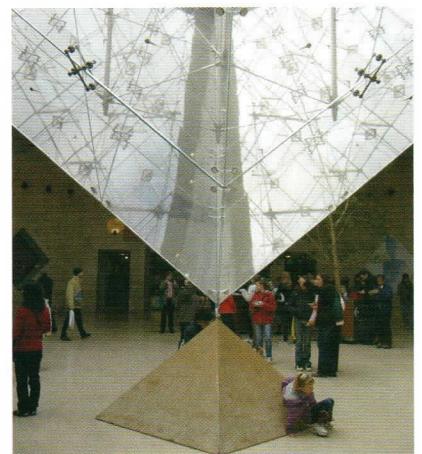
グリニッジ天文台にてリスにお弁当を狙われる



雰囲気をかもしだす街灯



大英博物館内部 夜の光の加減もなかなか



ルーブルにて

おわりに

イギリス・フランスの2つの都市は独自のカラーを持つつも歴史ある建築や街並みがありここでは書ききれないほど興味深い都市構成でした。とても刺激的な旅で建築の意味深さとスケールの大きさを感じ、もっと勉強しなければならないと思いました。



マイク
真秀鈴木

中国での 作品と計画案

- 一级建築士免許（日本）
- ニューヨーク、ニュージャージ、コネティカット 建築士免許
- National Council of Architectural Registration Boards (米国全州に設計士の登録が出来る) メンバー
- American Institute of Architect (AIA) のメンバー
- 工学院大学建築学科 武藤研究室 1969 年卒業
- ニューヨーク市立大学 都市デザイン科研修
- 設計家としての道は清水建設・東京本社・設計部より始まり、その後アメリカの設計に興味を抱き渡米
- アメリカ大手の建築設計事務所 S O M (Skidmore Owings & Merrill) で 10 年間多種多様な経験を積んだ。デザインディレクターとして都市開発、住宅開発、デパート、ホテル、ショッピングモール、銀行、オフィスビル、等様々な著名なプロジェクトの設計の指揮を執る
- 個人で応募したコンペではニューヨークディベロッパー協会よりデザイン優秀賞を授与される
- 日米両国の建築士免許、そして日米両国の大手の設計事務所での豊富な経験を基に 1988 年 8 月にプロの集団、MG Design International を開設
- 景気は低迷しニューヨーク政府のレポートによると 1993 年迄に 80% 位の設計事務所が倒産／閉鎖された。丁度その頃当事務所は中国の設計に参入しニューヨークのプロジェクトと平行してアジアの都市開発、高層ビルの設計に携わって今日に至る
- Suite 1603, 1239 Broadway, New York, New York 10001 TEL/212-447-7111 FAX/212-447-7115
- E-Mail : suzuki@mgdesign-usa.com
- URL : <http://www.mgdesign-usa.com>

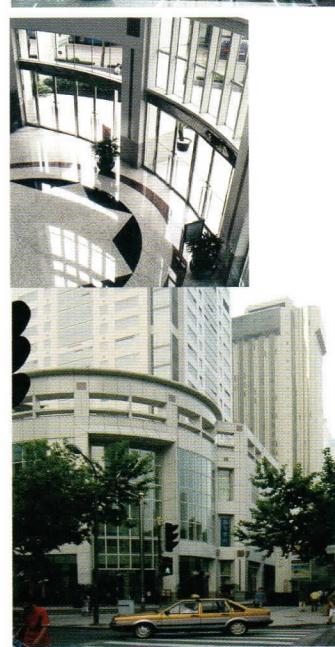
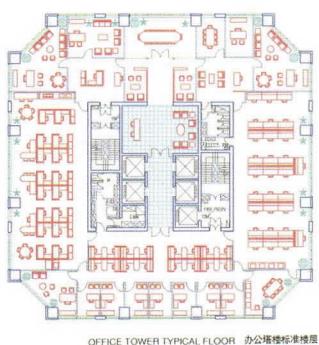


1. リッププラザ (Lippo Plaza) ● 上海



上海市の淮海中路 (Huai Hai通り) の新再開発計画郡の一つ。日本の商社と香港のディベロッパーとの出資で、外資系の会社及び中国のトップクラスのテナントをターゲットとしたオフィス、ショッピングの複合ビル。

40階建て（延べ面積 75,000m²）のオフィスビルはプレステージな本社ビルをイメージにさせるため歩行者はランドスケープされた前庭 (Forecourt) を通ってビルに入る。車の人はビルの反対側（北側）にある車寄せで下車しビルに入る。



Podium は（地下 1 階から 3 階までを商店、レストランが入り 1 階でビルのロビーにつながっている。オフィスタワーは正方形、タワートップ（クラウン部分）は中国の繁栄と将来への進路に光を与える灯台のようでありたいというイメージを表現しました。実施設計は上海大手の華東設計院、工事は大成建設。

2. 松江 (Songjiang) センター ● 上海

上海市を構成する1つの区、松江区（中国では Song Jiang District という）は約7校の大学が新設され（語学、経済貿易学、会計学、技術大学、政治法律学、医学など）、またマンションや個人住宅などの新しい住宅地域で発展しているところです。

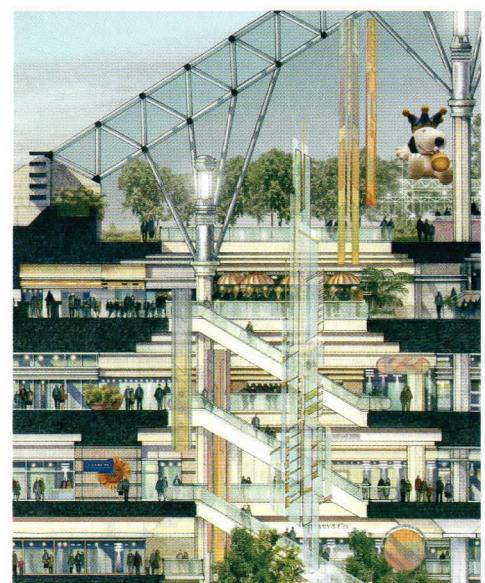
上海中心地に直結するLRT（軽電車）での場所に「新大学城」という駅、市のバスターミナル（約40の路線がここに集まる）、中国主要都市へつながる約30路線の遠距離バスターミナルの計画が決まりました。

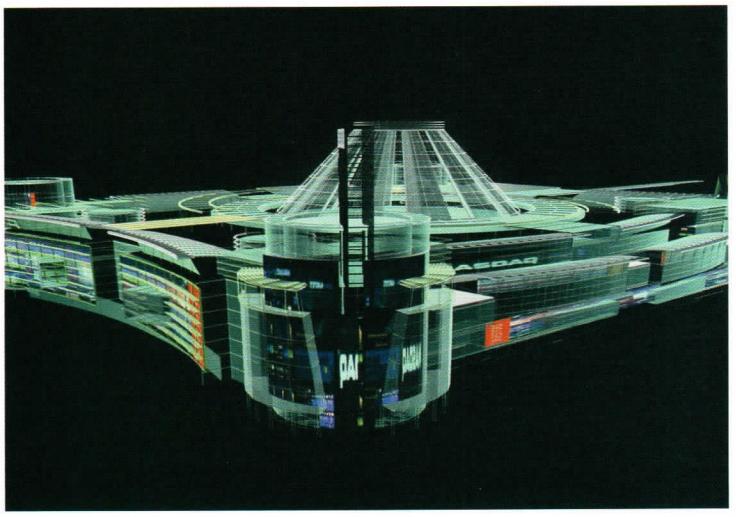
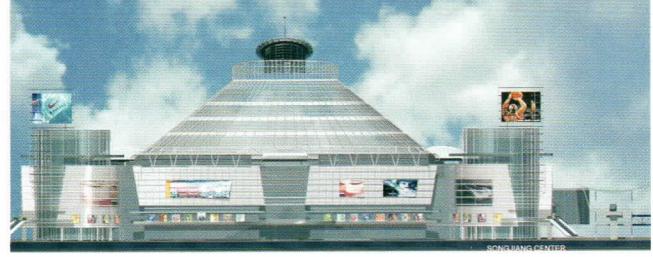
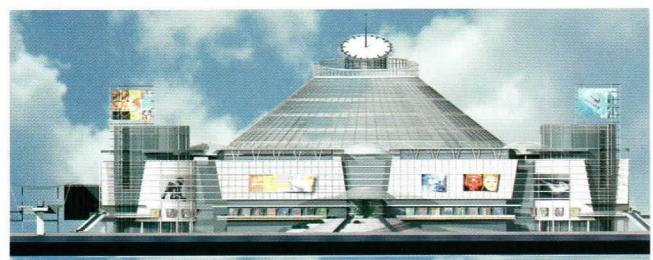
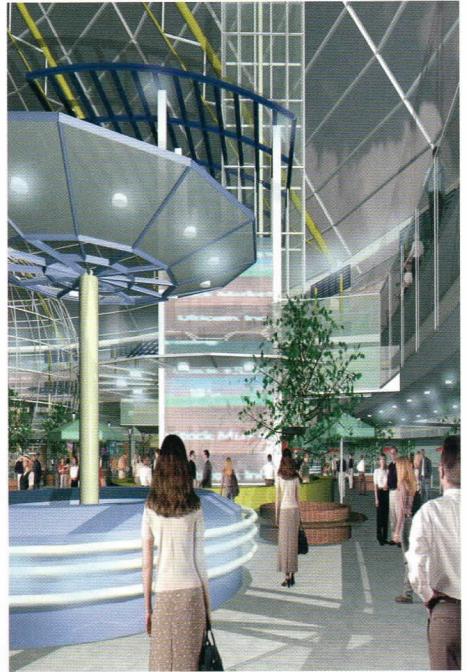
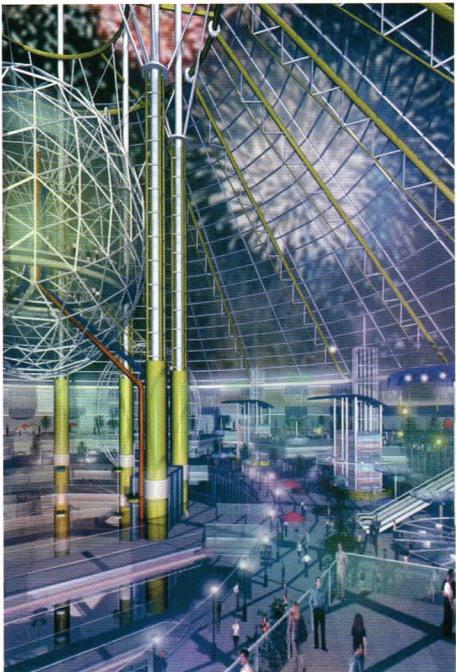
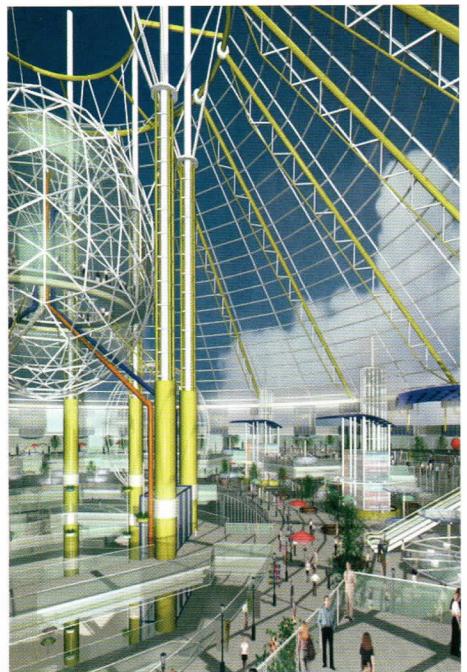
このプロジェクトは一日約10万人の交通客が見込まれる交通センターに大型ショッピングモールを組み合わせることにより、この地区のセンターのみならず、上海中心部、他県や市からもこのショッピングセンターに集ま

りショッピング、ファッショント、娯楽、文化、教育的イベント等を一日中楽しむことが出来るセンターが可能となりました。

交通センター通りは駅、市バスターミナル、遠距離バスターミナルの3点を幅28mの通路でつなぎショッピングモールのメイン通路と併用させています。

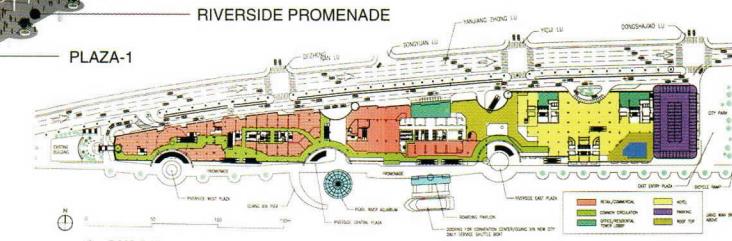
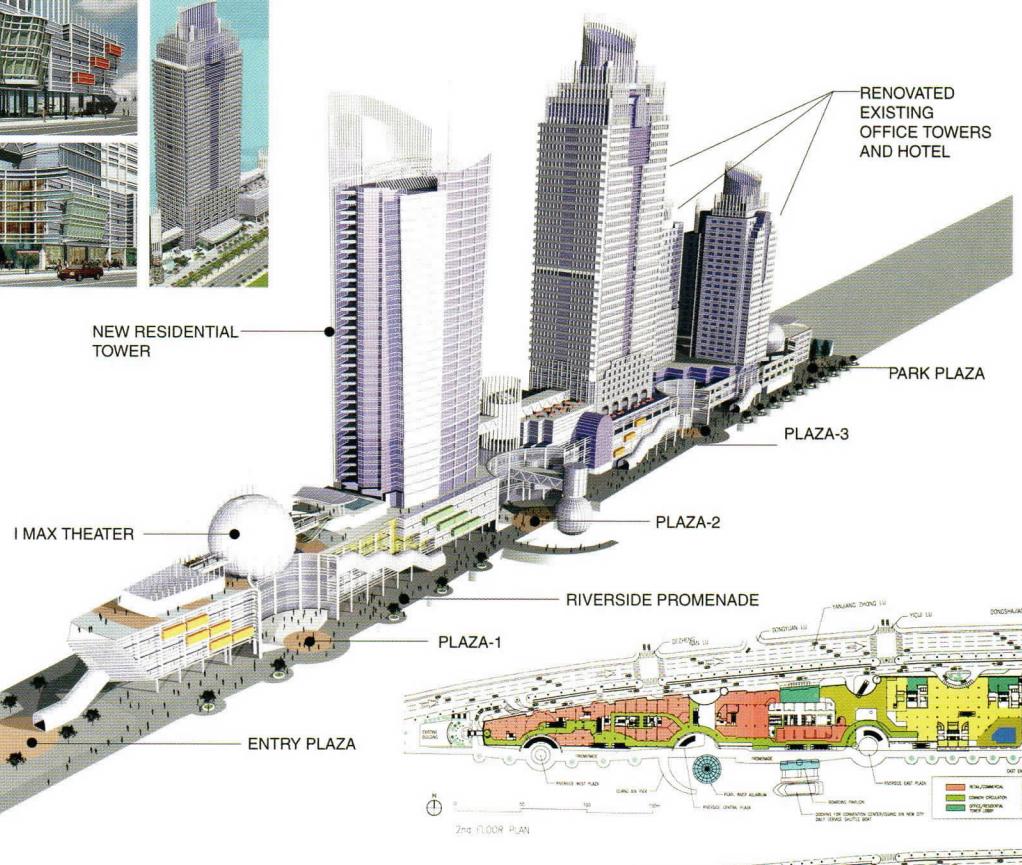
40,000m² のデパート、25,000m² のスーパーマーケットが2軒（Wal-Martなど）、20,000m² のメガ家具ストア（Ikeaなど）、20,000m² の家電、照明のメガストア、20,000m² のRetail（小売店）、15,000m² のフードコートとスカイアミューズメントパーク、15,000m² のレストランモール、10,000m² 展示ホール、5000m² の6軒の映画館群が要求され、延べ面積450,000m² の規模です。





3. リバーサイド・ニューシティ ● 広東省、広州市

パールリバー（珠江）に沿った土地（500m × 60m）に2000年頃に開発された50階建のオフィスビル、2棟の20階建オフィスビル、30階建のホテル、38階建高級マンション（未工事）が経営不振で倒産したのを他の会社が買い、今回未工事だった高級マンションを建設し、既存のオフィス、ホテルの外装を全面改修しイメージアップの為の増改築を行う企画設計。



デザインポイント

- 川の対岸から見るとパールリバーを通って海へ向かう大船を感じさせるイメージを作ることによって、そこに行ってみたいという気持ちが湧き人が集まるようにした。
- 船にはパールを象徴する球形のオブジェクトを抱えながら航路している様にみせる。ここから広州展示センターへの遊覧船が開通する計画がある。
- 敷地が500mの長さあるので、川側とストリート側に130mごとにプラザを設ける。川側を商店街のウォーターフロント遊歩道とした。
- 1階から4階のPodium（低層部）を出来るだけ川の見える商店街、レストラン、娯楽、シネマなどを各プラザの催しものと連動させて活気を呼び込む建物とした。
- 建物のトップ（クラウン部分）を無数のパイプで幾何学的な立体を感じさせ建物と空とをつなげ、朝日、昼の太陽、夕日を幻想的に反射するユニークなものにした。

4. International Media Avenue (国際メディア・アベニュー) ● 北京

北京の故宮から 1km ほど離れた大通り（宣武門外大街）を地域の個性化と活性化を兼ねて幅 500m、長さ 3.2km の地域をインターナショナル・メディア・アベニュー開発地区としたアーバンプランニング（都市開発）を依頼された。

同時に、この Avenue に面して 244,000m² の土地を所有しているデベロッパーからオフィス 7 棟、ショッピングモール、高級マンション 2 棟、大型ホテル 2 棟、テーマパーク、ウォーターパークのデザインも含めた開発計画の要望があり、これらの建物を各種のメディアをテーマにしたものでまとめインターナショナル・メディア・アベニュー地区のビジネス街の出発点かつ誰もが楽しめるショッピングモール、テーマパークを Destination (究極点) と位置づけたデザイン。延べ面積は約 1,580,000m²。

メディア・アベニューとしてのアーバンプランニング（都市開発）の内容は：

- Visitor が気軽に訪れることが出来るミュージアム化したシンボル・タワーの設置。
- ハイテック・メディアリサーチ通りを設ける。

● World Media Forum ワールドメディア広場。広場の上に直径 130 m の屋根をかけその下に世界中から集まるメディア産業を主体とした広場、オフィス、シアター、レストラン、エンターテイメント、ホテルなどを設置する。

● プラザの一角に World Theatre を設け大型 LED Screen でいつも世界の情報が放映されている。

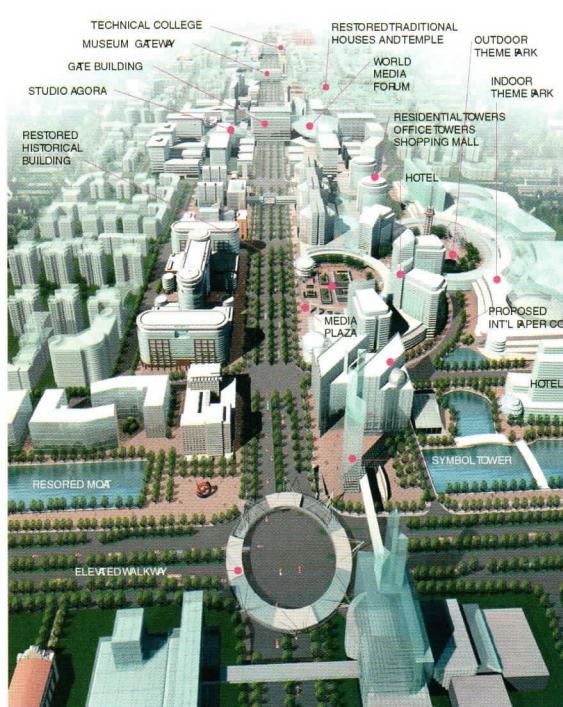
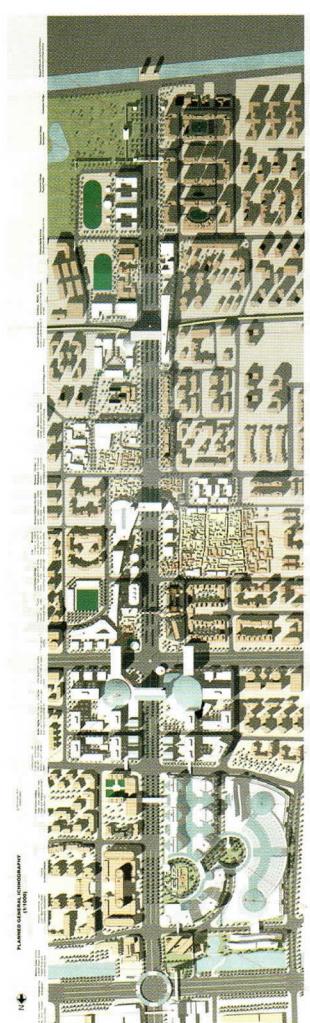
● Studio Agora。世界からの主要なテレビ局がここに集まり生放送などを一般市民が見られる広場を設置。

● この地区にある歴史的な建物を保存しメディア化されたプラザと組み合わせて、市の博物館としての役割を担う。

● 古い住宅街を出来るだけ保存し歴史的な付加価値を持たせた住居地域の環境を作り出す。

● メディア・テクニカル大学を設立し、将来のために学生を養成する。学内にメディアのリサーチオフィスを設け世界中から専門家を集める。

以上の内容を盛り込んだ都市計画を提案した。



View 3: Looking north at crossing of Guang An Men/Lao Ma Shi Ave. World Media Forum to left. World Theatre uses programmable advertising screens for coordinated presentations.

フィンランドの建築家 アルヴァ・アルトと武藤章



南迫哲也
工学院大学名誉教授

武藤章先生は、昭和6年生まれで、昭和60年に早逝されました。工学院大学に建築学科が出来た創成期に天野太郎助教授の助手として本学に来られたのでした。武藤さんは東大の建築学科でフランク・ロイド・ライトの卒業論文を書いたときから天野先生と昵懇の間柄で、樋口清、波多江健郎、山下司の諸先生方と工学院大学建築学科の設計教育に力を注いでいた先生でした。

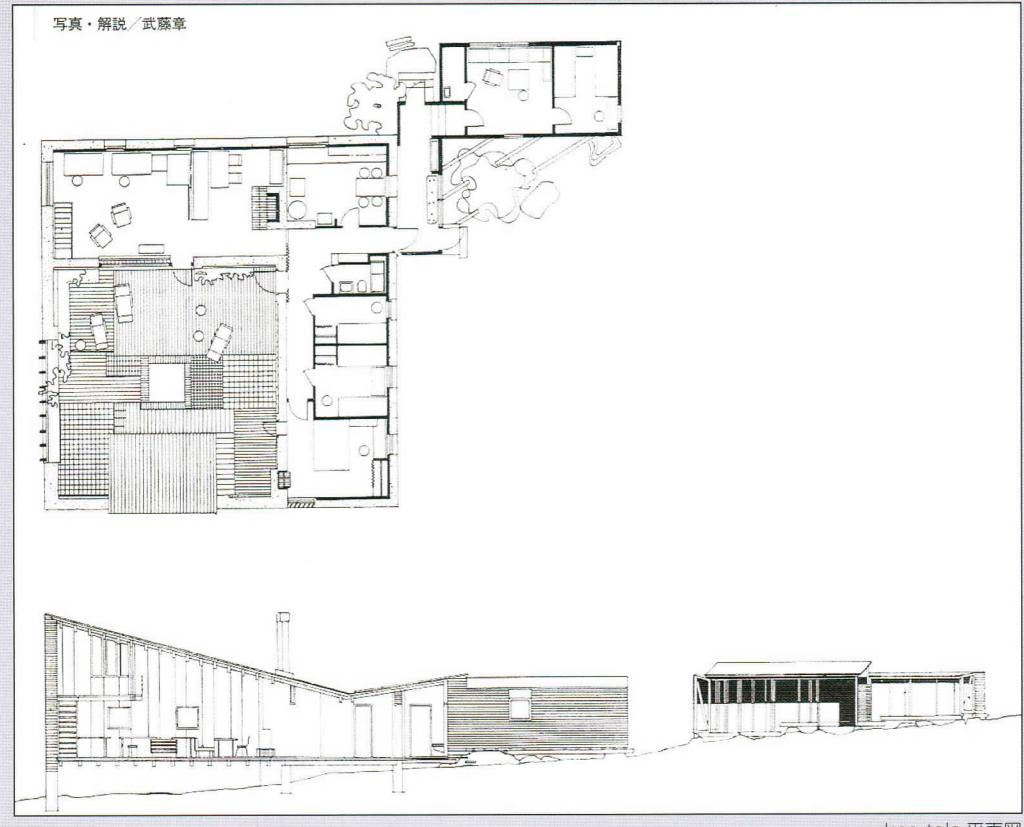
そんなある日、私たちの前に一冊の白い黄金比例の縦長の本があったのです。あれはおそらく樋口先生が購入してきた本で、書名は‘Atelier Alvar Aalto 1950/1951’であった。その中に1948年、アル



koe-talo

トが競技設計で入選し実施設計した作品が掲載されていた。

ヘルシンキの中央大通りの交差点にある Erottaja 広場にある防空壕地下入り口階段の小さな建物であった。低い腰壁に立てられた、ミース



『この実験住宅（Koe Talo）と名づけられている建物は、アルヴァ・アールトの別荘であり、彼の有名な村役場のあるセイナッツアロの近くのムーラッツアロという所にある。文字通りの原始林の中で、湖水に面して岩の上に建っていて、出入り口にはモーター・ポートを使っている。陸づたいにこの建物に近づくのはまず不可能である。私は、冬陸づたいに行つたことがあるという友人と一緒に陸路を辿つてみたが、夏であったため草が繁茂していて道がわからず、長い間原始林の中をさまよつてようやくたどりついた時には露で下半身ぐっしょり濡れてしまつた経験がある。日本人の常識からみればこんな不便なところに家をたてるのはずい分物好きだということになるが、フィンランドでは、別荘は不便なところにある程価値があるらしい。フィンランドでは、大部分の人が夏、別荘暮らしをしに田舎へ出かけていく。ヘルシンキでさえ、たった人口 40 万の平和な小都市で、何も田舎にわざわざ出かけていくこともないようなものだが、それでも老いも若きも 6 月が来るのを待ち切れないように競って田舎へ夏を過ごしにいく。あるフィンランド人の説では、フィンランド人は極最近まで森の生活をしていたので、いまだに森への郷愁が彼らの血の中に残っているのだという。いわれはともかくとしても、彼らのこの夏の田舎の自然の中での生活が、フィンランド文化の、特にフィンランドのデザインの基盤としてどれ程深い意味をもっているかははかり知れないようである。それは、あらゆる社会のビジネスから離れた、いわば静止の生活であるが、この自然の静止の生活の中に貯えられた力が、次の瞬間の彼らの創造の火花となるのである。』

アルヴァ・アールトも夏の 6・7・8 月はこの別荘にどっかり腰を落着けている。時には製図板に向かってスケッチしたりするが、大半は中 2 階のアトリエで油絵を描いて過ごすそうである。そしてミセス・アールトの話では、毎日約 1km ほど泳ぐそうである。彼はもはや 60 代の半ばで、まさしく年寄りの冷水だが、それでも毎日 1km 泳ぐスタミナは大変なものである。そのような肉体の鍛錬のみならず、原始林の中の孤独な生活で、彼は自分の造形感覚を研ぎますましているにちがいない。彼の建築にはつねに、もはや都会生活者がもたない人間の原始的な触覚が見事に働いているのもこの生活があるからであろう。彼は裸で湖畔の岩の上にたつ。そして全身でフィンランドの自然を感じる。彼の造形の出発点はそこにある。この実験住宅にはレンガのいろいろなはり方を試みた壁があるが、これも単なる造形遊びというよりも、触覚の探求という方があたっているだろう。幼児が積木をいじったり、クレヨンであちこちに落書きしたり、泥をこねたりして自分の感覚を育していくあ的人生の初期の経験を、彼は毎年この別荘で繰り返しているのである。そういうえば、レンガの壁でかこまれた庭は子供の遊び場そっくりである。というのは、子供の遊び場にふさわしいだけの安心感があるという意味である。前号で、私は北欧の建築は壁の建築だといったが、この庭をとりまくレンガの壁は、壁のシェルターの典型的な例ということが出来よう。原始的な自然の中での人間の本能的な不安を四角く切り取る壁である。（雑誌「建築」1963 年 11 月号「実験住宅」武藤章）』



アアルト アトリエ

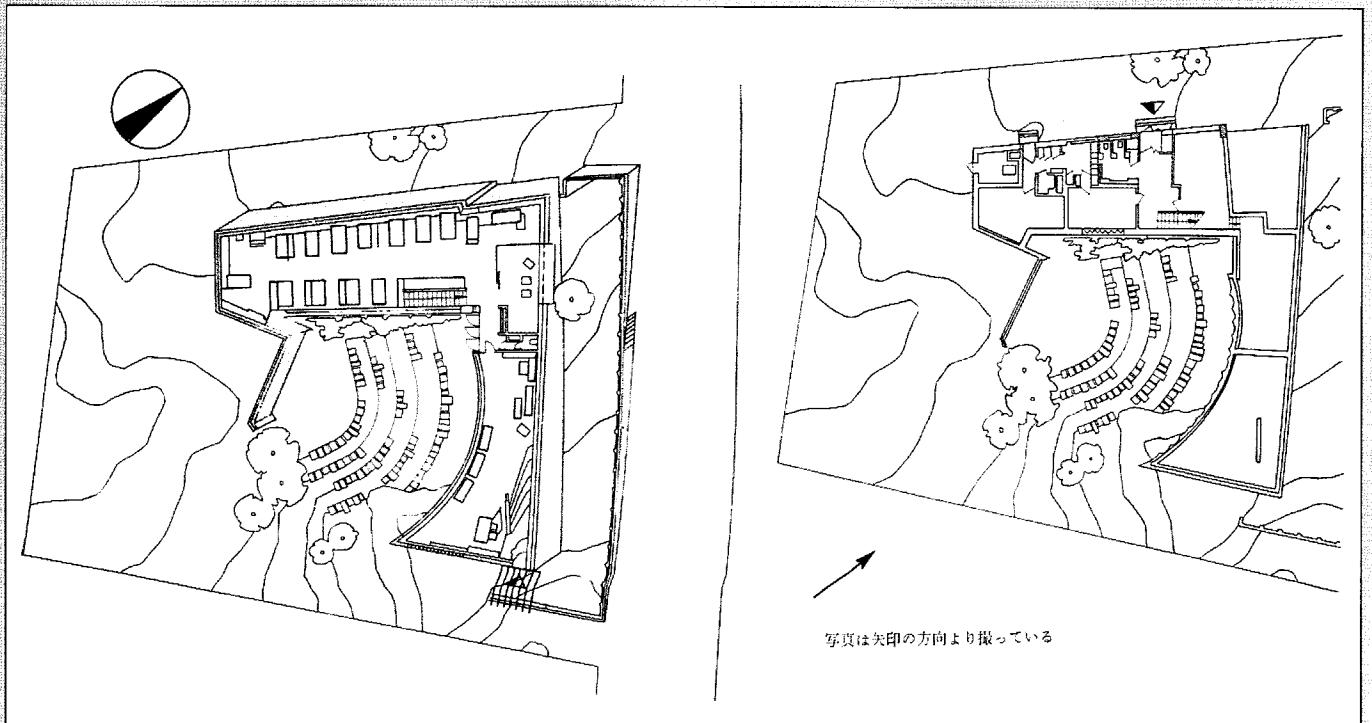
『アールトの建築に興味のある人は、アールトがどういう人間であるかに关心を持つだろう。時たま、雑誌に彼の写真が出るが、それを見る人は、朴とつて人の良い、温和な人となりを想像するかもしれない。たしかに、彼にはそういう一面もある。しかし実際にあって見た時の印象は全く違うものである。フィン人特有のすんぐりした体つき、偉大な頭部、不適な光をもつ大きな眼は、もつとずっしりとした、あらあらしいものを感じさせる。そしてまたそういう粗野な容貌と不釣合いに彼につきまとつ一種独特の気取ったポーズは、彼の持ち前の傲慢さと反面天性の無邪気さを印象づける。それを見る弱い者は視線をそらし、強い者は闘志をもやす類の人間である。

こんな文学的な眼でなく、造形的な眼で彼を見たらどういうことになるだろうか。私は彼を最初に会い握手した時の手の感覚を忘れない。それは厚ぼったく、あらく、しかも柔らかい手だった。それは、ある時は固い握りこぶしになり、ある時にはやさしく他の物の上を滑るというように、日々の状況に敏しょうに応じられるような柔軟さに満ちている手である。手だけではなく、彼の全身もその種の生き物である。そしてまた彼の建物も、ほかならぬ彼自身であり、つねに厚ぼったく、あらく、柔らかいといえるだろう。

アトリエ・アールトはヘルシンキの郊外にある。フィンランドには都会はない。ヘルシンキは首都だが、都会ではない。都会特有の濁った空気も、騒音も、雜踏も、非行少年も、ヘルシンキには無縁のものである。そこには淡い陽光と、木々の白ばんだ緑と、それをぬう微風と、人々の丹精のこもった色とりどりの草花とが満ちている。アトリエ・アールトの庭では、夏、それらの自然の幸がひとりわづやかで、白い建物とけあっている。

写真に見える庭に面した製図室の白壁は高く、窓は高窓になっている。これを見て奇異に感じる人がいるかもしれない。これは少なくとも庭を見たがる日本人の常識からはずれている。私も一冬を製図室で過ごしてみるまで、この高窓の意味がわからなかった。冬のある日、私は、曇天が続いて長い間日の目を見ることの出来ない極北の冬の毎日に疲れて、うんざりしながら仕事をしていた。その時、ふと製図室の上が急に明るくなったので、思わず高窓の方に眼をやると、湿気の凍りついたガラスごしに、足早に流れしていく白い雲が見え、そしてまもなくその雲の切れ目から澄んだ青い空がのぞき、それがみるみるひろがっていって、その青空を背景にし、雲をかぶった木の梢が明るく日を浴びてくっきり浮かび上がるのが見えた。その時、私はこの南面の視界をさえぎる頭の隠れる程の高い壁の存在理由がわかった。暗い冬の毎日、雪に覆われて死んだようになっている庭を見たところで、心も身体も休まりはしない。それより高窓をつくって、日々でもその窓いっぱいに拡がる青空と明るい木の梢を見る方がどれ程ましだろう。

夏にはまた、この高い壁は日光をうけとめて、色とりどりの花の咲く日だまりをつくる。フィンランドでは、人々は夏はつとめて戸外で生活する。出来るだけ日光を浴びておくことは、長い冬に耐えるために必要である。製図室で働く人々も、昼の休みには必ずこの庭に出て、野外劇場の観客席風につくられた段の石の上に並んで腰をすえる。その小一時間の路間を、この製図室の高い白壁と、次から次へと咲いては散る絶えない花の群がどれ程充実させてくれるかわからない。ごろり横になると、日本の秋風を思わせるような青空が顔に覆いかぶさり、頬のあたりにふれる草や花の感覚は皮膚にアトリエの建物の外壁の感触、そしてまた、人間アルヴァ・アールトの感触をよびおこさせる。(雑誌「建築」1963年9月号「アトリエ・アールト」武藤章)



アトリエ図面

のガラス張りの建物に似てその中に階段室が納まっているだけの建物であった。

道路を走る装甲車や戦車と自動車が互いに他の動きを見れるように視界を妨げないように建物が透明に作られているのでした。ただ、その内部には、三本のガラスのパイプと大柄の投網のようなものが垂れているのであった。パイプは地下室の給排気管であり、網は蔓ものの植物を這わせるためのものであった。空襲の火に追われて生活してきた私たちの生活実感からすると、なんとゆとりのある文化程度の高い生活を彼らがしていたのか、建築とはかくも人々の生活を根源から考え僅かな心使いから大きな喜びを生み出すものかと、皆で感慨に浸ったものであった。

建築の真実の姿を強く求める私たち若者にとって、それは実に強くうたえるものがあった。キレイナモノとか、見てくれよさ、目新しいものだけを追い求めるマスコミに迎合するのだけは止めよう、とそのとき思うのでした。

元ラグビー部員の武藤さんは実行力があった。即刻アルトのいるフィンランドへ旅立つのであった。当時まだ留学が珍しかった羽田空港に、主任教授の下元連先生をはじめ皆で見送りに行ったのが思い出される。特に新婚ほやはやの武藤夫人の泣きの涙が事体の重要性を示して印象的であった。

アメリカ大陸を横断して、ライトの建築作品を観て、大西洋を渡り、ヨーロッパを北上、武藤さんは1960

年の11月にはもうまだ出来立てのアトリエ・アルトで図面をひいていたのでした。

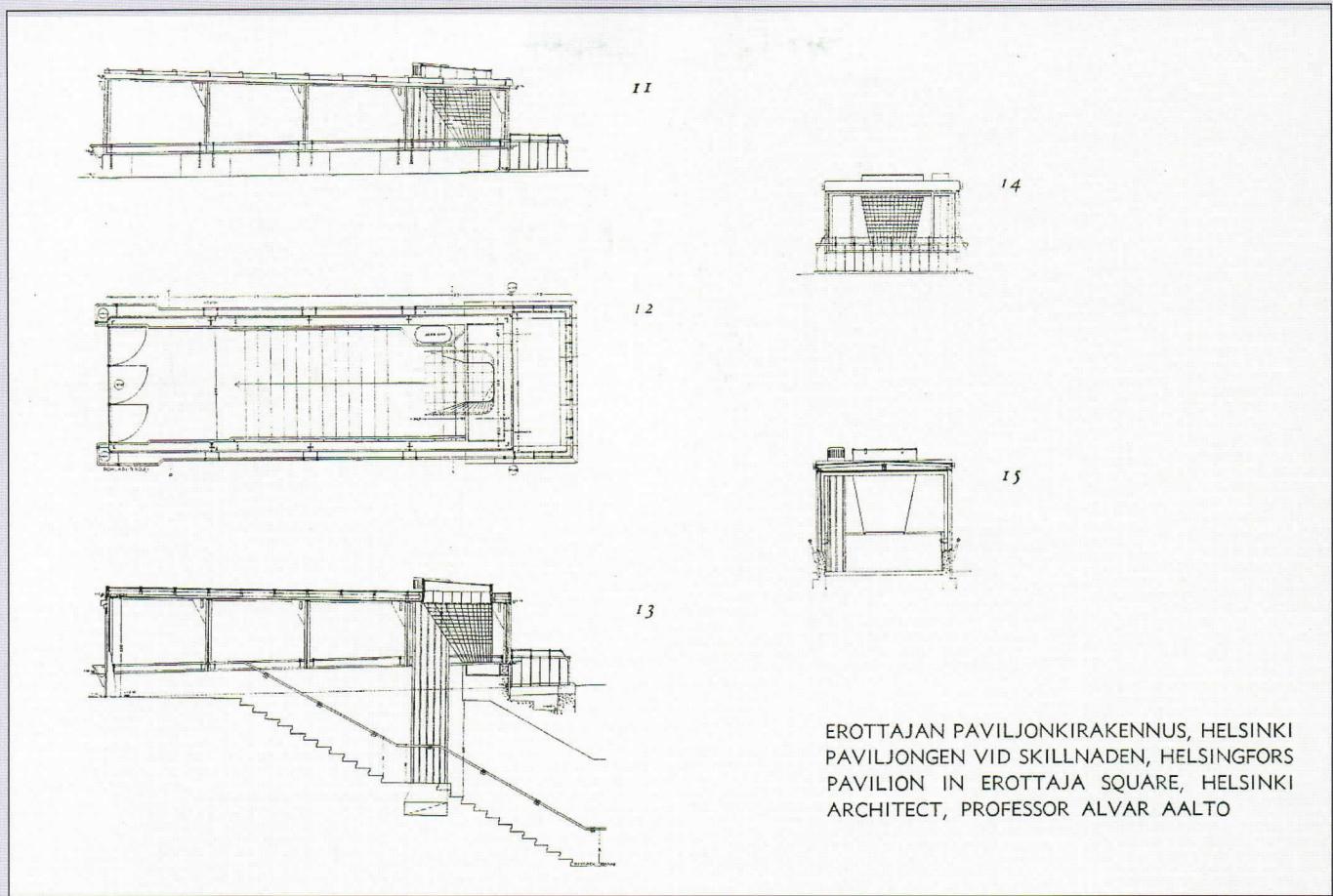
「お教えすることは何もありません、私はフィンランドの建築を作っているのであなたは日本の建築をお作りなさい」と言いながらトアルトは握手をしたという。

武藤さんがアトリエ・アルトで描いた図面はヘルシンキの事務所建築エンソゲートツァイトの実施図面であった。上部階の社員食堂を担当して図面を描いたと、帰国後話してくださいました。

食堂のセルフサービス用のカウンター沿いの人の流れと食卓との間を仕切る手摺は武藤さんの設計で図面を描いたという、「それぞれの手摺に手摺子をそれぞれに床から立ち上げて、水仙の花びらが両方に少しうつむいているような図面を描いて、了解を得たのだが、出来たものを見たら、両手すりの間を斜めの面を板でつなげられていたよ」と武藤さんは複雑な面持ちで話された。

しかし、「あれがアルトで俺の建築はあれでよいのだ」とでも言いたげであった。ガッシリと力強く作るアルトと、軽やかタッチのツヤヤカさを好む武藤流との違いでもあった。晩年武藤さんはカルメラ焼きのようなCRISPな感じをを出したいというのが口癖のようであったが、やや、アルトに引き戻されたのかな、と私は思った。

この種の感覚については、こんな話もある。私がまだ武藤助教授の助手をしていたころ、天野太郎先生が武藤研究室に来られて、「この上の招き屋根と下屋の片流れ



エロッタヤ断面図

EROTTAJAN PAVILJONKIRAKENNUS, HELSINKI
PAVILJONGEN VID SKILLNADEN, HELSINGFORS
PAVILION IN EROTTAJA SQUARE, HELSINKI
ARCHITECT, PROFESSOR ALVAR AALTO

とは、離してくっつけない方が好い」と言われた。武藤先生は即座に「そんなことをしたら中の空間の流れと形がガウソになりますよ」と反論したのであった。

このことは、以前からのお二人の間での論争であり、今始まったことではなかった。

ゴルフクラブの屋根の扱いで、かつて、「新花屋敷」と「武藏嵐山カントリー」にその違いがハッキリとあらわされている。前者のスラブが低い屋根から滑らかに連続して高い屋根に折れ曲がって行く武藤式屋根に対して、後者の低い屋根と高い屋根の二枚に分けた天野式屋根とはお二人の間の永遠の物別れとなってしまった。

武藤さんはフィンランド滞在中、アルトの作品をいくつか天野さんを案内したが、天野さんは先に帰国、武藤さんはさらにその後イタリアのウディネの建築家 ジノヴァッレのアトリエで更に研鑽を積まれて帰国された。

帰国第一作の「成城の家」はアルトというよりもこのジノヴァッレの工場建築の作風に近い機械的な重みを与えていた。水周りの塊の大きさがそれを感じさせていた。

しかし、武藤章といえば、アルトということでマスクミは決め込んでいたが、ご本人はいかに自分流を創り出すかに懸命であった。



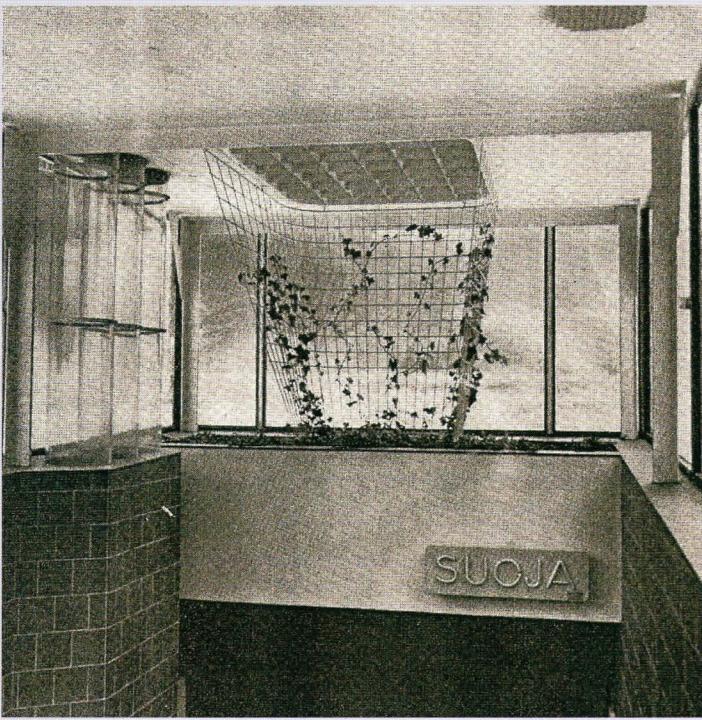
エロッタヤ柱



エロッタヤ手摺



エロッタヤパビリオン



エロッタヤ柱

工学院大学の八王子校舎図書館の設計をしていたとき、武藤先生から「トップサイドライトからの光を反射させるのには反射壁をどこまで垂らしたらよいとおもうか？」という質問をされたことがあった。「アアルトなら天井面で下面をおさえるでしょうし、ライトならうんと垂らして、装飾をつけるでしょうが、日本流なら、その出し加減に微妙なニュアンスを感じさせるのではないかでしょうか？」と答えたことがあった。結果は皆さんご存知の通り、450ミリという面白い寸法の垂れ下がりをつけて、単調になりがちな天井面にすがすがしい明るい雰囲気をつくりだしたのであった。

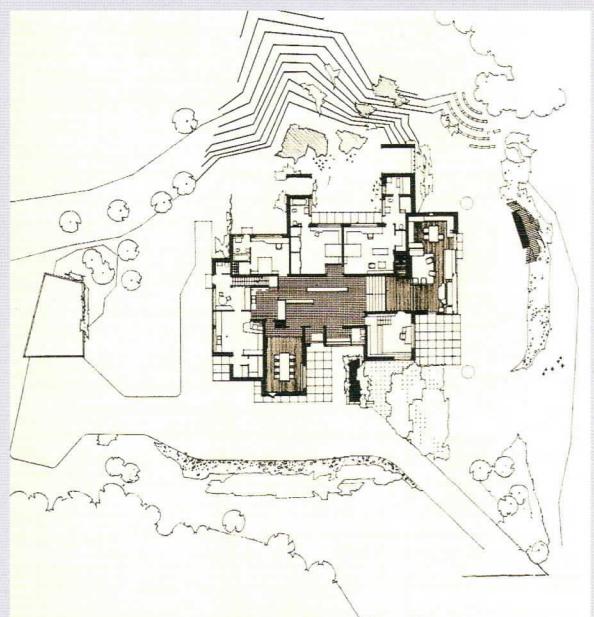
武藤章はライトに学びそこから出て、アアルトと渡り合い自分流の建築をつかみかけたところで終わってしまったといえるのではないか……。はじめ小説家になろうとしたほどの感性をもっていたのは母方の狂言・野村万蔵家の血筋がそれを促していたのだと思う。アアルトが「よい線をしている」と言ってほめたのもうなずけることであった。帰国後フレッシュな気持ちで書かれたアアルトの作品に対する気持ちをここに最後に掲げ鑑賞することにしよう。

雑誌「建築」1963年9月号 P.21, 22「アトリエ・アールト」

同10月号 P.34, 35, 36, 37.「メゾン・カレ」

同11月号 P. 24, 25, 26, 27, 「実験住宅」

工学院大学建築学科草創期のあのアアルトへの感動を建築に最後まで持ち続けた人であった。



メゾン カレ平面図

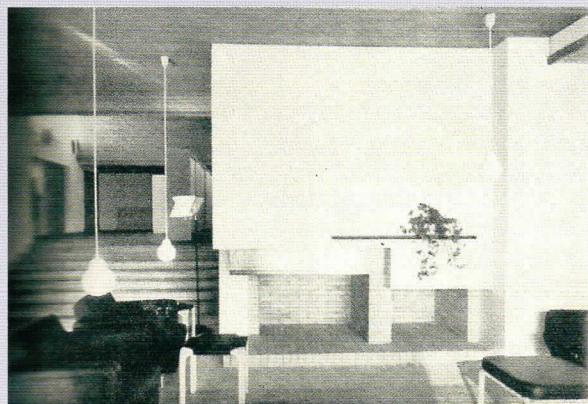


メゾン カレ外観

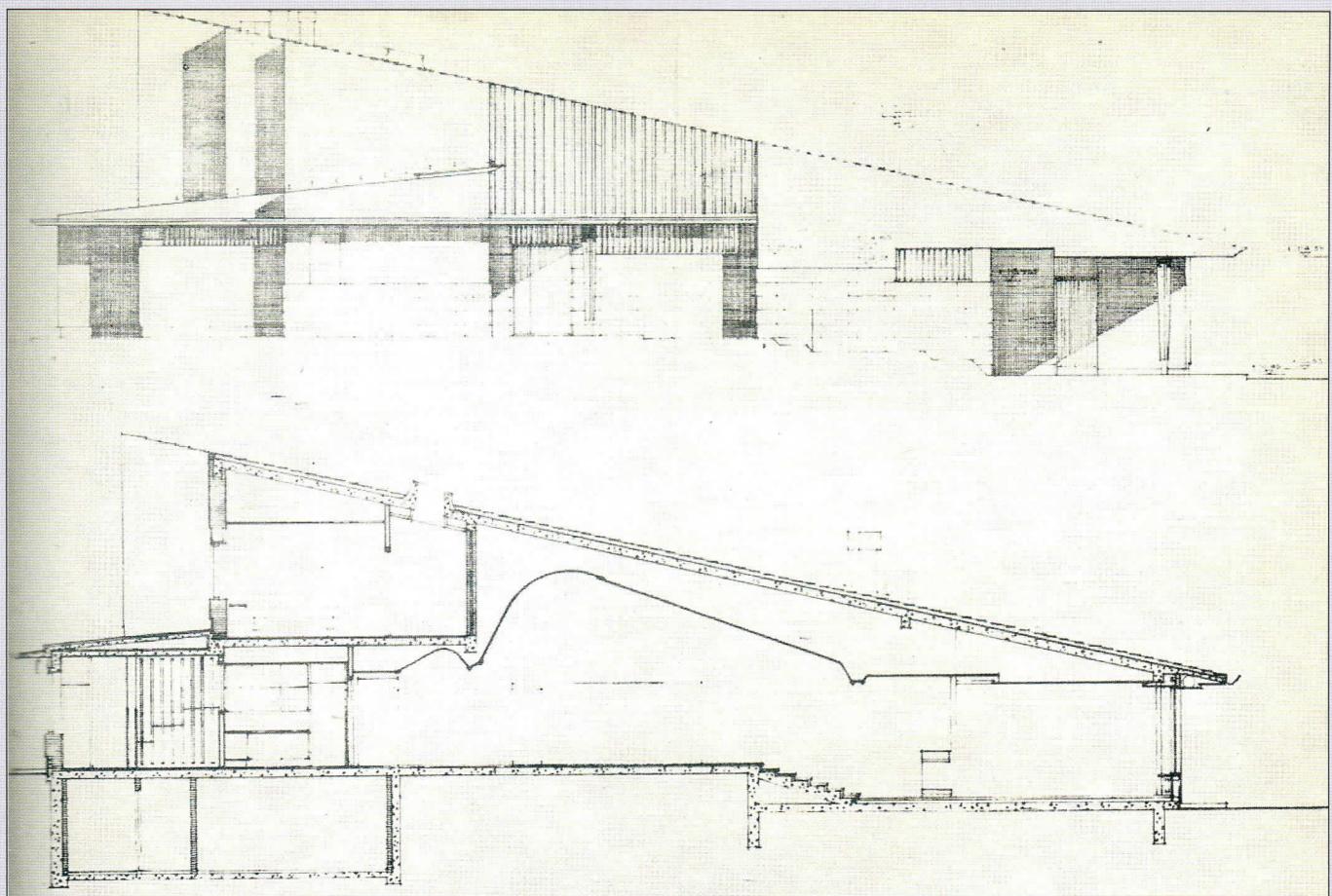
『こういういい方は少し極端かもしれないが、北欧の建築は壁の建築である。というのは建物の外観を見た時に、重々しい壁が一番先に目につくという意味である。これに対してわが国の伝統的な建物は屋根の建築ということができよう。天地根元造りや、豎穴住居を見てもわかるように、わが国の建物は屋根をつくることから始まった。後に柱によって屋根を地面から浮かされ、通風が行われるようになったとはい、雨露をしのぐという本来の意味はその造形表現から失われることなく、屋根が常に建物の造形の主要部をなしていた。北欧の建築には、こんな意味での屋根はない。その代わりにぶ厚い壁がその造形のモチーフとなる。わが国の古来の建物が木造で、北欧の建物がレンガか石造りだからだろうと想像するのに早計で、北欧でもつい最近まで大部分の建物は木造で、その木造時代においてすら、わが国と北欧の建築の違いははっきりしていた。すなわち、わが国では外気を遮断するために倉だけに使われた校倉造り式構法が北欧では一般的であった。つまり、木をつかっても壁を厚く築きあげるということがこの冬の寒い地方では寒風を防ぐために何より必要だったので、雨はごく少ないので、屋根は工夫の対象にはならなかったのである。

アルヴァ・アールトの建物はこの北欧の建物の伝統的な表現にごく忠実である。彼の造形のモチーフも常に壁にある。アトリエ・アールトの屋根は方流れであるが、それは白い壁の上部が斜めに一直線に切れているというだけで屋根を感じさせない。他の多くの作品においても、屋根は壁のマップの一面にしか過ぎない。どこが、彼の作品で、屋根が大変重要な表現として用いられているのが二つある。ひとつは、知っている人もあまりないだろうが、エンソ・グートツァイトという会社のクラブ・ハウスであり、もうひとつが、このメゾン・カレである。

この建物では、2階から1階へと北から南へふき下ろす大きな天然スレートの屋根が、造形の主要な要素になっている。プランを見るとこの建物は実に複雑なとりとめのない形をしているが、実際の建物は単純な形態にまとまっているのもこの大きな屋根の働きに訳であり、逆にこの大きな方流れの屋根を単調に見せないために東西にしかるべき凸凹をつけたともいえるかもしれない。この建物の敷地は南側がゆるやかな傾斜になって下っており、その傾斜の下の方から建物を見ると、その屋根はスキーのシャンツェを思わせるように敷地の傾斜となじんで美しい。いろいろな雑誌に紹介されているこの建物の写真を見ると、その写真の扱い方から判断してこの建物を見る人はその東西のプロフィルに関心を奪われているようだが、この建物の一番の美しさは南側の敷地の少し下の方から見たところにあると私は思う。アールト自身の関心もここにあったらしいということは、彼のラフ・スケッチの中にこの南側のエレベーションが見られることからもうかがわれる。（雑誌「建築」1963年10月号「メゾン・カレ」武藤章）



メゾン カレ内観



メゾン・カレ断面図



中央：アルヴァ・アアルト、右：武藤章

内 井 進

内井昭蔵を息子に持つ

河村伊藏を父に、



某邸立面図



金成町上町の集落に「金成ハリストス正教会」はある。小さな白亜のビザンチン様式の建物だが広い庭の芝生の中に建ち、落ち着いた雰囲気である。当地の村長を努めた川股松太郎が、内井進の設計により現在の教会を建設した。

(『教会のある風景——日本の教会美を訪ねて』／亀田博和／MBC21／2000年)

この「落ち着いた雰囲気の小さな白亜のビザンチン様式」の「金成ハリストス教会」を設計した内井進は、わが工学院大学建築系学科の“輝かしき先輩たち”の一人であった。内井は、アカデミズムの日本近代建築史上には登場していないけれども、その近代を支え、そして現代につなげる実に貴重な存在の建築家だったのである。

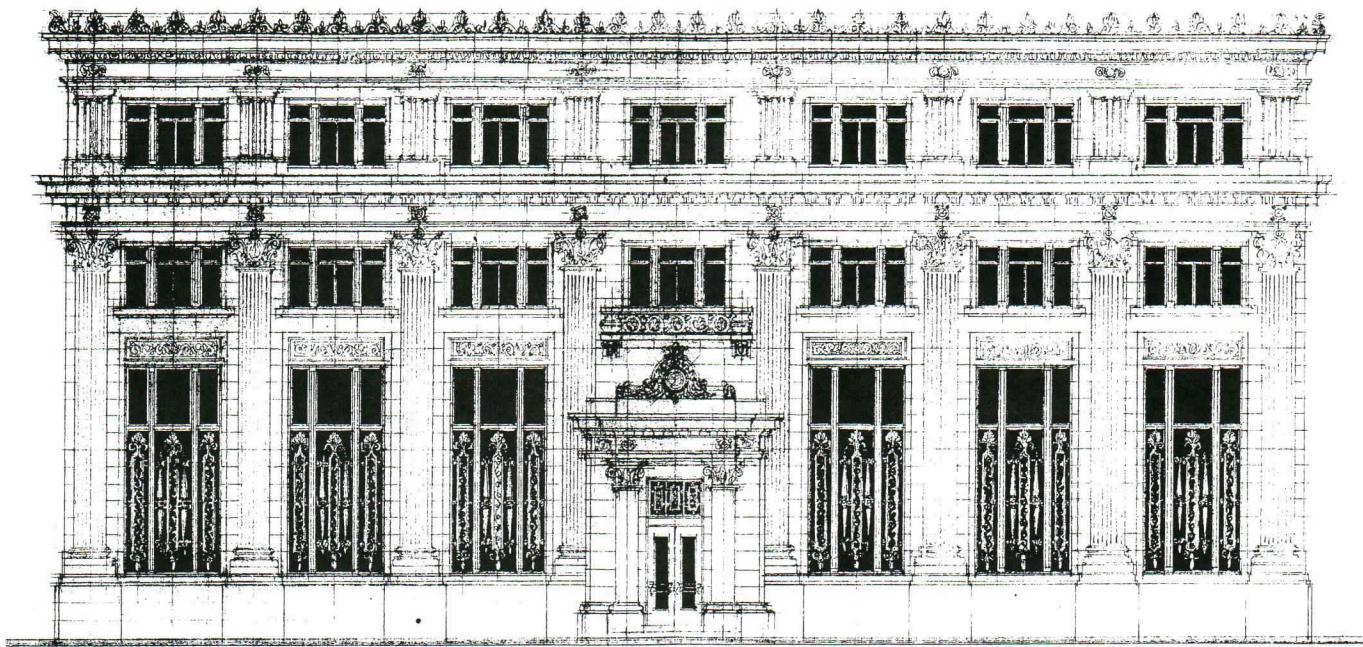
1 「ニコライ堂」が“学校”であり“遊び場”であった

内井進は1902年（明治35年）、東京都文京区の、見上げれば「ニコライ堂」のドーム屋根が見える家に生まれた。“見上げれば「ニコライ堂」”は、単なる故郷の様子を伝える形容詞ではない。「ニコライ堂」で育った、といってもいいのだ。なぜなら、進の父親は「ニコライ堂」の司祭をしていたのだ。

進の父親の名を、河村伊藏という。建築家ではないが、日本近代建築史上に堂々と刻まれている。

河村伊藏（1865～1939）——伊藏は、慶應元年、愛知県半田に生まれ、明治16年ニコライにより洗礼を受け、昭和14年に没するまで聖職者としての生涯を送るが、明治末年頃から建築に深く魅せられるようになり、以後、大正・昭和初期を通して、日本ハリストス正教会の營繕課長のような役割を果たし、各地に、ギリシャ正教独特的の平面とドームを持つ教会を献堂していく。

伊藏が大工出身であったという証もないし、ロシアに



某銀行立面図

渡って直接学んだこともないが、おそらく建築の素養を持つロシア人司祭や書物を通して設計を身につけたと思われる。代表作には今や函館名所となった白亜の「函館ハリストス正教会」(大正5年)他がある。各地に残る大正・昭和初期のハリストス正教会は、設計者の名が伝わらないものでも、ほとんどは河村の手になったと考えてもよい。(『日本の建築家』／新建築 1981年12月臨時増刊)

進の父親の伊藏は、建築家ではない。「ニコライ堂」の司祭である。伊藏の司祭としての主な仕事は施設の管理・保全——即ち“宮緒”であったようだ。その仕事が、伊藏の建築家としての才能を開花させる。やがて、日本各地のハリストス正教会の設計をしていくことになる。それを、進は見ていた。「ニコライ堂」が“学校”であり“遊び場”であった。進の身体に、ハリストス正教会……いや“建築”が原風景というより、もっと濃密な色彩で形づくられていたのは想像に難くない。

ちなみに前出の引用では“代表作には「函館ハリストス正教会」他がある”と一作しか挙げていないが、“他の代表作”をフォローしておく。「白河ハリストス正教会」(福島県／1915年)、「修善寺ハリストス正教会」(静岡県／1912年)、「豊橋ハリストス正教会」(愛知県／1913

年)。読者の皆さんも、一度は出会っているのではないかと思われる。どれも宗教施設を越え、さらには国や県の重要文化財すら越えて、日本の風土の一部となっている。

折角いろいろと調べたのだから、少し蘊蓄を傾けさせていただく。伊藏が奉職した「ニコライ堂」は、ハリストス正教の日本における総本山である。ジョサイア・コンドルの設計にて、1891年(明治24年)に竣工した。現在の姿は、関東大震災で被災した後、1931年(昭和6年)に岡田信一郎の設計にて再建された。旧聖堂とはシルエットを随分と違えているという。伊藏は、旧聖堂および再建の現場を目の当たりにしている。進は旧聖堂で遊び、再建された時は29歳であった。二人は、再建された聖堂を、建築家としてどんな想いで見ていたのだろうか。

主人公の内井進になかなか話がいかないが、それほど父親の河村伊藏の存在が大きいのだ。伊藏は、“大河ドラマ的素材”としても、実に興味深い。

父親と息子の、河村と内井で“性”が違うのは何故か。残念ながら、ここにはドラマティックな物語は、ない。進をとりあげたお産婆さんには子どもがおらず、進を養子にした。だが、それは戸籍の上だけのこと、進は伊藏の元で育てられた。

2 唯一、現存する 「金成ハリストス正教会」

さあ、内井進の登場だ。

進は、1920年（大正9年）に工学院大学建築学科を卒業する。第61回生で、同級生は47人いた。卒業と同時に、進は矢部又吉事務所に入所する。矢部又吉——と聞いて、何人の読者が覚えておいていただけたろうか。そう、又吉も我が母校の出身者で、本欄の第3回（2001年／vol.25）で紹介しているのです。

進は、銀行建築の新境地を開拓する矢部又吉の下で、チーフ・デザイナーとして腕を振るう。そして、在職中の1934年（昭和9年）に、冒頭で引用した「金成ハリストス正教会」を設計する。1934年は、矢部又吉事務所の代表作の一つである「川崎第一銀行横浜支店（現・東京三菱銀行横浜中央支店ビル）」を世に問うた年もある。

「金成ハリストス正教会」——。所在地は宮城県栗原郡金成町字上町西裏60—1。東北新幹線の高原駅からタクシーで約20分、ありきたりな表現で恐縮だが、閑静な住宅街のなかに建っている。実は、この“住宅街のなか”が、「金成ハリストス正教会」の重要なポイントであった。

緩い上り坂の通りからは、まず石垣からせりあがる東面が見える。門を入ると、南面の長手の外観を見ながら右に迂回して玄関に至る。つまり、玄関は西面になり、道路からは真反対の位置になる。通りに面して玄関を設けず、少し歩かせるのは「玄関は西向き」というような作法がロシア正教にあるのか、あるいは設計上の演出なのか。いずれにしろ、このアプローチの絶妙の“間”^まが、世俗の垢にまみれた私を、敬虔な気持ちにさせてくれた。

外壁は、真壁工法で柱を露し、南京下見板張りである。^{あらわ}屋根はスレート葺き。雄勝産で、辰野金吾の東京駅（1914年）に葺いた素材と同じという。玄関は前室風で、切妻



屋根が架かっている。破風には、漆喰で葡萄が彫刻されている。その向こうに鐘楼の四角錐の屋根が鋭い勾配で天に走る。十字架までの高さ17m。東側にも寄棟屋根の棟に銅板葺きの十字架が立つが、ともにビザンチン様式でおなじみの玉葱型だ。

内部（中堂）は、腰壁が板張りで、壁と天井は漆喰塗





り。玄関上の葡萄の漆喰彫刻と、この内部の仕上をした左官職人が2003年7月まで生きていた。陸前高田の在で、菅野精一という。人間国宝であった。

床は畳敷き。イコン（聖画）のなかには、あの山下リンのオリジナルもあった。

取材に訪れたのは、偶然にも聖体礼儀の、しかも聖水

式という年に一度の聖祭の日であった。幸いに、式を執行されたマルコ小池裕幸司祭の言葉をいただくことができた。小池司祭は、日本ハリストス正教会の東日本主教区宗務局長もつとめられており、本拠地は一関である。

「金成ハリストス正教会は、個人が建てた教会としては、とても規模が大きいです。その性格や立地からみて、地域と一緒にとなっているといえます。社会性を持った教会ともいえます。

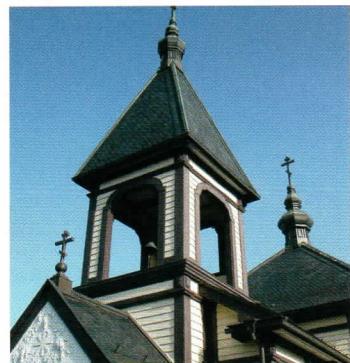
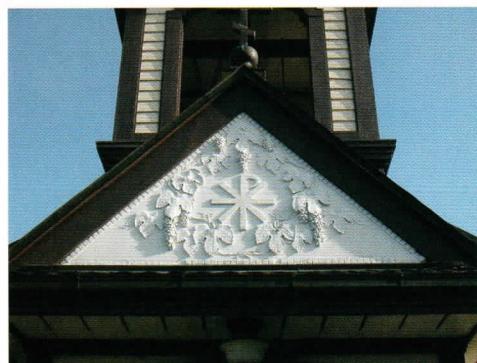
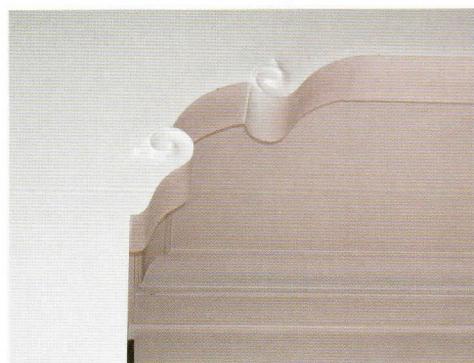
建築的には、よく調和がとれていると思います。信者の方たちも、聖堂の形が気にいられているようです」。

小池司祭の言葉を正しく理解するためには、「金成ハリストス正教会」の歴史に触れるのが礼儀なようである。

「金成ハリストス正教会」は、1872年（明治5年）、金成町出身の医師・酒井篤礼が函館でニコライより洗礼を受けて故郷に帰り布教をしたのを発祥とする。ご承知のように、キリスト教の日本での播種の時代は迫害の歴史といっていい。金成にも迫害は及び、1879年（明治12年）に教会はことごとく破壊された。現在の聖堂は、酒井篤礼の遺志を継いだ村長の川股松太郎が自費を投じて建設したものである。松太郎は、現在はくりはら田園鉄道として第3セクターの運営により宮城県北部の鶯沢町～石越町を結ぶ栗原軌道電鉄を興した企業人としても村民から慕われていた。

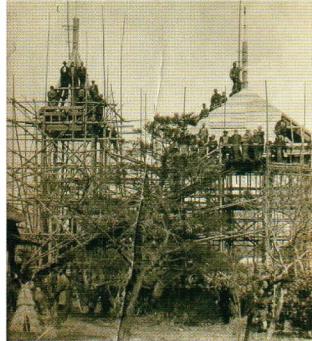
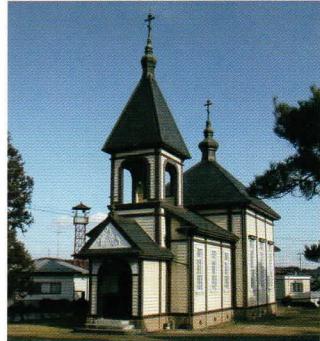
松太郎は、土地2反6畝を提供した。現正教会は床面積38坪を持ち、1934年（昭和9年）10月17日に落成した。工事費は1万8000円であった。数字を現代語に翻訳すると、敷地23.85a、床面積125.4m²、工事費1800万円となる。

そして、この「金成ハリストス正教会」からは、民衆憲法として注目された「五日市憲法」の起草者・千葉卓三郎、日本労働運動の父として日本に最初の労働組合「友愛社」を創立した鈴木文治らが、洗礼を受けて世に出ている。

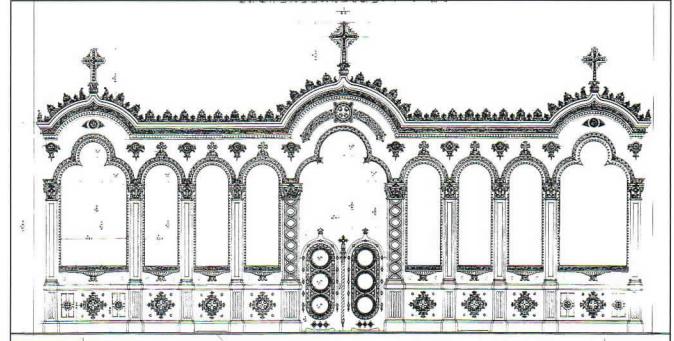


小池司祭の言われる「地域と一体」「社会性を持った教会」が力強く伝わってくる。

「私が小学校の1年生のときに、この聖堂はできあがったんですよ」と、聖水式に参列されていた一人の婦人がおっしゃられた。その小学校は1910年（明治43年）に竣工し、現在、歴史民俗資料館として、「金成ハリストス正教会」の東隣に保存されている。ご婦人は、こうも言った。「あのときの大工さんの金野三郎さんは、まだ生きておられるはずです」。——当事者がまだ生存していた！ 私が心のなかで快哉を叫んだのはいうまでもない。が、残念ながら、消息は叶わなかった。



トス正教会」の東隣に保存されている。ご婦人は、こうも言った。「あのときの大工さんの金野三郎さんは、まだ生きておられるはずです」。——当事者がまだ生存していた！ 私が心のなかで快哉を叫んだのはいうまでもない。が、残念ながら、消息は叶わなかった。



3 祖父・父・息子は、今、どんな話をしているのだろう

「金成ハリストス正教会」が竣工する前年の1933年（昭和8年）に、進は子どもを授かっていた。男の子であった。この息子こそ、後に「世田谷美術館」や「国際日本文化研究センター」の設計者にして、「健康な建築」を提唱した内井昭蔵に他ならなかった。進がそうであったように、昭蔵もまた父親の製図板に向かう姿を身直に見ていたのだ。

ものについて以来、私の父親に対するイメージは常に大きな製図板に向かって鉛筆を走らせている姿であった。その製図板の下は私たち子供の格好の遊び場でもあった。今でもあのころの匂いをなつかしく、またはっきりと想い出すことができる。……時折、夜中に目がさめるといつも鉛筆の芯を研ぐ音が父の部屋から聞こえてきたものだ。それを聞くとなぜか安心したのを想い出す。大きな製図板を父は、角材を三角に切った枕を下に敷き傾斜させて使っていた。それに、大きな黒光りする柿の木のエッジのついたT定規をカチカチいわせながら図面を書いていた。赤い葉巻きの空缶の内側にペーパーのヤスリを張りつけ、それを片手に持ち鉛筆の芯をせわしく研ぎながら、図面を書いていた。使っていた鉛筆はたしかビーナスのマークが入っていて濃い緑色のアミ目が入り、芯はギザギザの細かい筋が入っていて、小学生だった私が使っているものよりもずっと上等なものに思えた。

ほしくて仕方がなかったことを覚えている。父は紅茶が好きでそれをロシア式にガラスのコップで飲んでいた。図面の匂いと紅茶の香りに取り巻かれた父親の記憶が、強く今でも心の中で蘇ってくる。

（「建築の道」内井昭蔵／『建築—私との出会いI』／彰国社／1988年）

“赤い葉巻きの空缶” “ビーナスのマークが入っていた鉛筆” “ガラスのコップの紅茶” ……進は、なかなかハイカラな生活を送っていたようである。

1941年（昭和16）に矢部又吉が亡くなり、事務所も閉鎖された。すぐに木田建業に勤める。ここもすでに閉鎖されているが、「深礎工法」を開発するなど、なかなかユニークなこの中堅ゼネコンで、進がどんな部署についていたかは定かではない。その後、東京・銀座の協立事務所に移る。ここでの仕事ははっきりしている。銀座のバーやレストランのインテリアの設計を任せられている。商業施設の、特にアーケンサスのディテールなどは、矢部事務所で西洋様式を身体で覚えた進にとっては、まさに自家薬籠中にものであったに違いない。が、本意ではなかったと思う。彼は、インテリアの、しかもディテールなどではなく、“建築”的”の設計をしたかったのだろう。

ここに、進の直筆の図面が残っている。旨いものを口にした時にそうなように、この図法の華麗なテクニック

を見て、すぐに言葉が出てこない。そして、作風にはフランク・ロイド・ライトが垣間見えないだろうか。思い出して欲しい。内井昭蔵が強烈なF.L.ライトの信奉者だったことを……。昭蔵のライトへの傾斜は、進の影響だったのかもしれない。

1964年（昭和39年）1月13日、進は世を去った。享年63歳であった。

祖父・親・子3代の建築家のなかで、“親”の進は建築史的にみると地味である。不遇といつてもいい。何しろ、祖父は建築家でもないのに“日本の建築家”として堂々と名を残し、息子は日本芸術院賞・毎日芸術賞の受賞者である。

「親父は、時代が悪かった」と、昭蔵はよく言っていたそうだ。確かに、いちばん油が乗って精力的に仕事をしようという時期を戦争で奪われてしまったのだ。本当に無念であったろう。その昭蔵も、2002年（平成14年）

8月3日、急逝する。

今、天国で祖父・親・子3代の建築家は、何を話しているのだろう。ひょっとしたら、彼の地に、三人の合作で、「ニコライ堂」を凌ぐ「ハリストス正教会」を設計しているのかもしれない。

（レポート：類洲環）

◆レポートをまとめるにあたり、内井昭蔵さんの奥様であるインテリア・デザイナーの内井乃生さんに、いろいろとお話をうかがった。貴重な写真（＊印）と図面の提供も乃生さんからである。

また、「金成ハリストス正教会」の取材にあたっては、同正教会の執事長・イリヤ川股峰輝さんに多大な便宜を計っていただいた。峰輝さんは、現聖堂の建設に尽力された川股松太郎さんの孫である。

お二方に、誌面を借りて、お礼を申しあげます。



親戚の結婚式にて（後方の中央が内井進、抱かれているのが内井昭蔵、進の向かって左が河村伊藏）

旧「日本火災横浜ビル」の工事に携わつて



旧建物と馬車道通り



1961年 神奈川県立小田原高等学校 卒業
1965年 工学院大学建築系学科 建築工学科 保岡研究室 卒業
メールアドレス s.t.c.co@nifty.com

略歴

1965年4月 (株)熊谷組 横浜支店入社 建築部勤務(現場担当)
1981年 「日本生命横浜ビル新築工事」
(作業所長) 神奈川県建築コンクール 優秀賞受賞
1984年 「七沢老人リハビリテーション病院新築工事」(作業所長)
神奈川県建築コンクール 優秀賞受賞
1987年 「横浜市立大学医学部校舎新築工事」(作業所長) 神奈川
県建築コンクール 優秀賞受賞
1990年 「日本火災横浜ビル新築工事」
(作業所長) BCS 賞受賞 神奈川県 建築コンクール
優秀賞受賞
1991年 「横浜市立大学附属病院新築工事」
(作業所長) 神奈川県建築コンクール 優秀賞受賞
1996年 横浜支店建築部技術担当 部長
1998年10月 (株)熊谷組 退社
2007年 (株)エス・ティー・シー 勤務 現在に至る

1. 工事概要

(1) 歴史

旧日本火災横浜ビルは、旧川崎銀行横浜支店として大正7年から同11年にかけて建築された、ルネッサンス様式の石造建築である。

(2) 設計

設計は横浜生れの矢部又吉先生で、明治大正の銀行建築で名を馳せた人です。

(3) 復元のいきさつ

建築主の日本火災は、昭和60年4月改築を決定し、同年10月新聞発表するや地元商店街、横浜市、日本建築学会から保存の声が起り、地元・行政・学会三者の保存要望が出そろう形となった。

(4) 保存調査委員会の設置

横浜市とオーナーとの会合は何



回となく行われたが、両社の溝はなかなか埋まらなかった。横浜市は、10月に『市街地環境設計制度』の改訂を行い、歴史的建造物の保存に対して「容積率の割増」「形態制限の緩和」などいくつかのメリットを与える全国ではじめての制度をオーナーに提示し、解決の糸口が見えてきた。又、地元馬車道商店街の「保存」に対する大変熱心な対応が行政・オーナーを動かす大きな原動力となった。このプロジェクトの可能性に見通しが立った時点では今は亡き村松貞次郎法政大学教授を委員長とする『日本火災横浜ビル保存調査委員会』が設置された。委員会は、日本火災・横浜市・馬車道商店街・学識経験者・設計者から構成された。日本建築学会からは故村松貞次郎先生と坂本勝比古先生、設計者として日建設計が参画し発足した。

(5) 保存再利用調査

昭和61年4月から失われてしまった設計図に代わる実測図作成と、構造調査を行った。コアボーリング、研り出し、コンクリート強度試験、中性化などの物性試験を中心に行った。その結果、当初RC造と考えられていた建物は純然たる組積造である事が判明した。一方ボーリング調査では、GL-2~3mの位置に薄い砂礫層があり、旧建物はその砂礫層に支持されていた。しかし、新しい建物はGL-40~50mにある土丹層に支持させなければならず、当初イメージした自立保存工法は、困難だと判断された。

(6) 『解体復元工法』

いったん外壁を個々の石材に解体し、必要な補強と加工を施した上



※この工事は、着工前から話題となり、色々な雑誌に紹介されてました。

関連記事掲載雑誌

| | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| 1987年5月18日号 | 日経アーキテクチャー | 1989年12月号 | 建築の技術“施工” |
| 1989年5月15日号 | 日経アーキテクチャー | 1990年3月号 | 建築知識 |
| 1989年6月号 | 新建築 | 1991年12月号 | 建築仕上技術 |
| 1989年9月号 | 建築保全 | | |



で、現代の材料として再利用する方法である。歴史的に価値のあるものを単に保存するのではなく、現代建築の中に新しく蘇らせることを可能にする、文字通り「再生」と呼ぶにふさわしい工法である。この工法の採用により設計の自由度は飛躍的に高まり、C.Gを駆使し追及した。

2. 解体工事

(1) 仮設工事

解体に先立ち一般の外壁面より大きくてねだしているコーニス（軒蛇腹）、ペディメント、ストリングコース（胴蛇腹）など落下の恐れがあるものは、予め支保工を組み、取り外した石を下ろすためにタワークレーンを設置するなど、一般の解体工事では考えられない仮設工事が必要となった。

(2) 番付け

取外す約3,200個の石には予め作成した石の番付図に従い、ひとつひとつに番号をつけ、外形、寸法を記録した。

(3) 外壁目地には、全てカッターを入れ、取りはずしやすいようにした。

(4) 破損のはげしい石

正面玄関のブーソアール（アーチ迫石）キーストン（要石）は、戦災で破損がはげしく、モルタルで補修してあったので、これを石膏で型取りし実大模型を作成した。

(5) 裏込めレンガの研り

解体は、裏込めレンガを研り取り、ひとつひとつクレーンで吊り上げ搬出した。

(6) 仮置場

取り出された石は、御影石の生れ故郷である茨城県岩間市の仮置場へ運んだ。この仮置場は、当然予想された補充石材、加工、仮組みなどの条件が満たされるよう1万m²の農地を借り整地し、取り出された3,200個の石を各階別、種類別に平置きにしたため壯観であった。

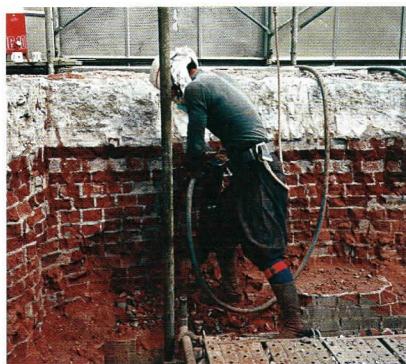


番付け



目地カッター入れ





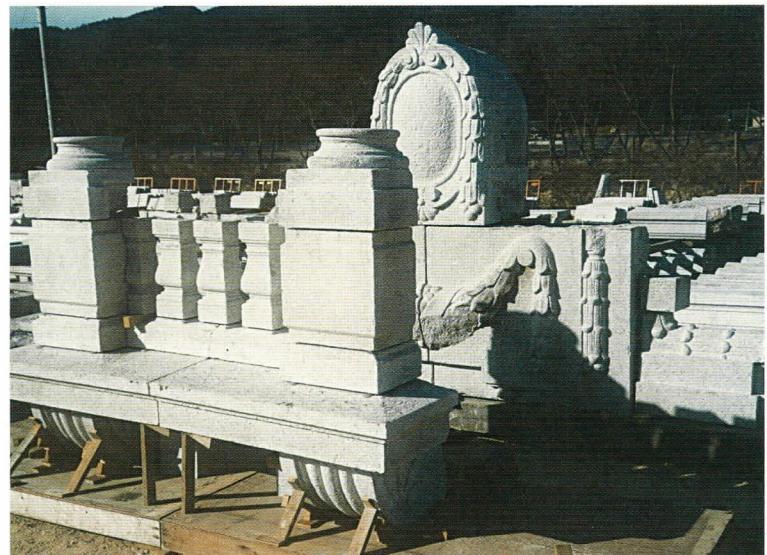
裏込めレンガの研り



保存石物性試験



仮置場



仮組み



象嵌加工



柱型石の鉄骨ユニット



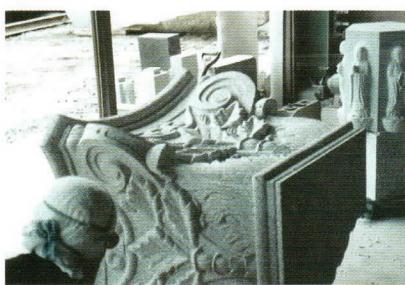
丸柱の加工



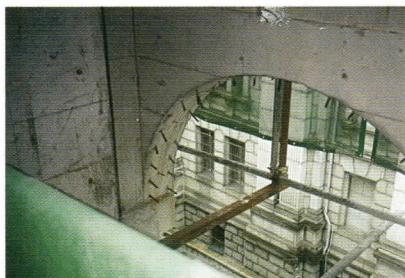
新しい建物の写真



三角破風、庇石のPC化



彫刻の加工



RC造の工夫

(2) 保存石の物性試験

取外した石が再利用にどれだけ耐えうるのかの判定をする必要があり、その基準を作るのに多くの時間を費やした。

(3) 仮置場での仮組み

石の選別、種別けが終了した時点で、これから作業する石工職人全員が解体前の状態を把握すると共

に、現場取付作業の合理化をするための工法検討を行う目的であった。仮組みは、長期間置き石工職人にとどまらず、設計者、現場技術者、技術研究所職員らがたびたび足を運んで新工法の開発の参考とした。

(4) 加工、復元工法の決定

①石の火害程度評価の基準により、破損程度を大・中・小に分け、補修方法を変えた。

「小」の場合は、ステンレス釘を埋め込みエポキシモルタル塗りとした。「中」は、破損部分を取り取り新しい石をはめ込む「象嵌加工」とし、「大」は破棄処分とした。

②柱型石の鉄骨ユニット化

建物の角にある石は、比較的単純な型をしていることと数量が多いことも有り、工場でユニット化し乾式で取付ける工法とした。

③丸柱の加工取付

窓の左右に立つ丸柱は、直径27cm高さ2.5mで32本あった。一見無傷のように見えたが、横ヒビ割れが多く再利用に不安が残ったので、特別に考案した架台を利用し、特殊ビットにより竪に50φのコアー抜きし、貫通し25φのステンレス棒を入れ、無収縮モルタルを充填して端部をナット締めし鉄骨に固定した。

④三角破風及び庇石のPC化

三角破風や庇石は、石のバランスを保つのが特に難しいため、数個の石を一つの集合体として、PC工場にてプレキャストコンクリート化し現場へ搬入し、予めあけておいた躯体の壁に埋込み鉄筋コンクリートで補強した。

⑤正面玄関彫刻石の加工

解体前に石膏で形取りした実大模型を見ながら原石を彫刻したが、これだけの彫刻が出来る職人は見当たらず、半年がかりで腕のたつ職人を探し出し、3ヶ月を要し復元した。

⑥RC造の工夫

復元する石は、大小さまざまな形をしていたので、これら固定するため、石の裏側のコンクリート壁は穴をあけたり、掘ったり、突き出したり色々な形を工夫した。

4. 現場作業

現場では、施工前に石工職人全員を集め、解体前の写真、竣工後の写真をもとに、イメージアップ作戦を展開した。この説明会は頻繁に行い、納りの悪い所、難しい所など分からない所などが発生した場合は直ちに関係者を集め、皆の知恵を出し合った。

今回の「解体復元工法」を経験して、旧材の再利用の難しさを痛感した。

1万m²の敷地に整然と並べられた情景を目の当たりにした時の戦慄は生涯忘れられぬものであった。全身に鳥肌が立ち、身体の震えがしばらく止まらない程であった。「大変な事をしてしまった！」と言うのが本当の気持ちで、「果たして元通りに出来るだろうか？」全く自信などなかった。完成してしまえば何事も無かったように整然と街並みに調和して建っているが、工事に携わった者は、ひとつひとつの石積みに歴史の重みを実感した。

東京大学柏キャンパス環境棟における環境配慮計画

東京大学柏キャンパス全景



小内 實
おないみのる

略歴

1971年 埼玉県立熊谷工業高校卒業
工学院大学工学部1部建築学科建築設備工学コース鈴木研究室卒業

1975年 株式会社 日本設計入社

連絡先

株式会社 日本設計
住所：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー29階
電話：03-5325-7607 (ダイヤルイン)
メールアドレス：onai-m@nihonsekkei.co.jp



基本理念

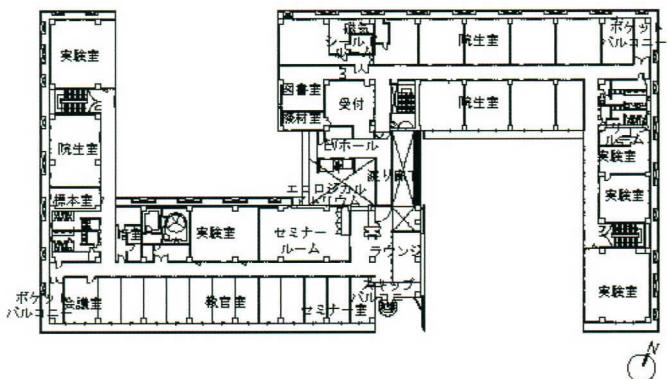
本建物は PFI^{※1}によって設計、建設され運営されている。PFI事業者選定の際に、大学内で検討された要求水準書が示された。その内容は S 字型ブロックプランを前提とした部屋配置、学融合の場としてのインフォーマルな集いの場の確保、上下階を繋ぐ吹抜けの配置などの建築計画的なものと、実効的な省エネルギー計画の提案とその外観での表現の工夫に基づく 100 年間の想定エネルギー使用量と LCC の算出というものであった。

LCC・LCCO2 最小化に向けた 建築・設備計画

長寿命建築とし実効性のある省エネルギー技術や自然エネルギーを活用して LCC・LCCO2 を最小化することが大きなテーマであった。

1) スケルトンとインフィル

スケルトンとインフィルを分離し建物の更新性、可変性を高める。外壁は R C 純ラーメンのスケルトンに鋼製高断熱サ



建物全景・5階平面図

ンドイッチパネルをサッシ枠に直接留める工法を採用し、下地鉄骨と内装仕上げを省いて、経済性・環境性・将来対応の柔軟性を同時に実現している。

2) 外壁ルーバー

各方位の日射特性に応じてルーバーの取付け方法を使い分け、日射負荷の低減を行っている。冷房

負荷を36%削減することが計画時に試算された。またこのルーバーは建築外観を特徴づけているとともに、実験室の排気ダクト、配管の目隠しとしての役目もしている。

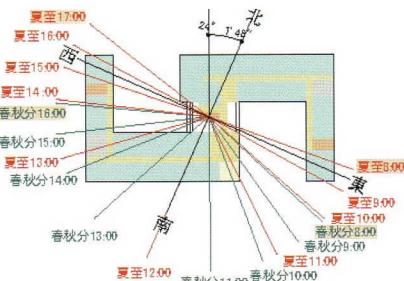
3) 自然換気による空調負荷低減

アトリウムと階段室上部にガラス室を設け、その上にベンチレータを設置し風の誘引効果、気圧差、

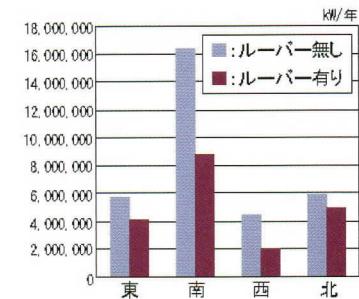
空気の温度差を利用した自然換気システムを導入している。研究室の窓、廊下の窓およびクールチューブから外気が取り入れられ、廊下、アトリウムを経由して屋上のベンチレータから排出される。計画時にコンピュータによる気流と温熱シミュレーションの実施した。昨年9月の実測で共用部（廊下、アトリ



■建物と太陽方位の関係



■ルーバーの有無による年間冷房負荷の比較



■各方位の特性と窓面の機能

<東面>

- 東面は約24° 北に振れているため、東から東南東方向の日射を防ぐことが有効である。
- 夏期において入射角が約31°と低いため、開口部の斜め前に垂直ルーバーを設置することで午前中の日射が窓面に当たるのを防ぎ、空調の立ち上がりの負荷も低減する。

<南面>

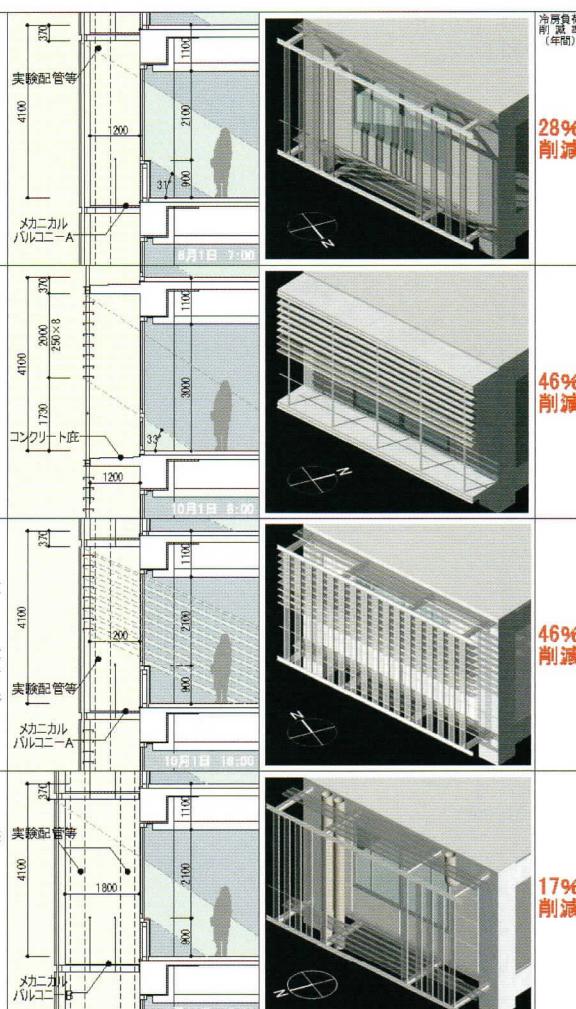
- 夏期は太陽高度が65~85°と高いため、日射量はあまり大きくなく、むしろ春秋分の日射負荷が大きくなる。
- 負荷が最大となる時期の入射角約33°の日射を有効に遮る位置に水平ルーバーを設置し、冷房負荷を削減する。
- 冬期は日射を探り入れる事が可能。

<西面>

- 西面は約24° 南に振れているので、夏期の午後の日射量は大きくなる。
- 水平ルーバーと垂直ルーバーを組合せて設置し、夏期の午後の高い太陽高度の日射と、太陽高度の低い日没時の西日を効果的に防ぐ。

<北面>

- 北面は約24° 西側に振っているため、特に夏期の西日の影響を受ける。
- 開口部の斜め前に垂直ルーバーを設け西日の差込みを防ぐ。
- 垂直ルーバーは配管類の目隠しとしても有効である。



外壁ルーバーの方位ごとの形状と省エネルギー効果



ソーラーチムニー、ベンチレーターの換気原理

ウム) の換気回数が 3.5 回 /h 以上確保できることが確認できた。

4) クールチューブ (ピット)

地中熱を利用した外気負荷低減手法である。アトリウムへの給気と講堂の外気取入れに利用している。昨年の 9 月の実測では最大 10°C の温度降下が計測された。

5) 地熱エネルギー利用空調設備

基礎杭周囲に埋めたパイプに水を循環させて、恒温性の地中熱を水冷ヒートポンプの熱源に利用した空調システムを導入し、エントランスホールの輻射熱冷暖房に利用した。

6) その他

トイレ、廊下の照明に人感センサーを利用して点滅。学生が管理している院生室などは原則 2 時間で照明、空調の電源が切れるようになっていて、消し忘れなどによる無駄なエネルギーの使用を防止している。

7) フィードバック

維持管理業務まで含んだ PFI 事業では、LCC の低減が運営に直結する。実際に運用を開始した



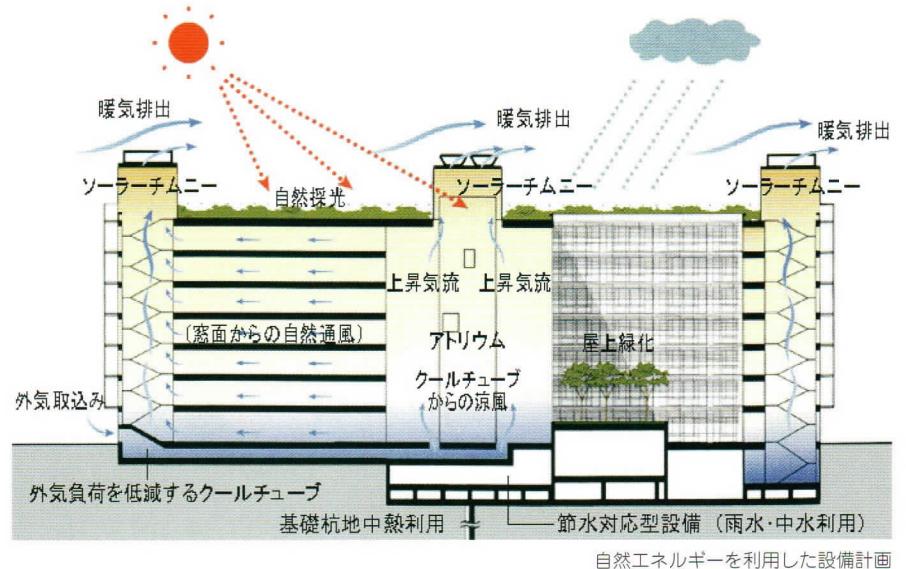
アトリウム見上げ



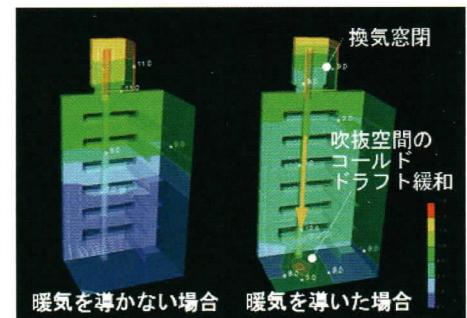
温熱環境の実測データを建物の運用にフィードバックする仕組みが重要である。そのための検証を大学と共同しながら始めている。

建物概要

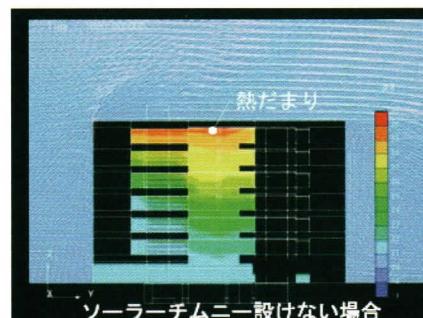
| | |
|---------------------|--|
| 所在地 | 千葉県柏市柏の葉 5-1-5 |
| 主要用途 | 大学、研究施設 |
| 事業者 | (株)とうきょうアカデミック サービス (PFI 特定目的会社) |
| 規 模 | 地下 1 階 / 地上 7 階 / 塔 屋 1 階 |
| 敷地面積 | 237,452 m ² |
| 建築面積 | 3,490.36 m ² |
| 延床面積 | 21,031.77 m ² |
| 構 造 | 鉄筋コンクリート造 |
| 空調設備 | マルチパッケージ + 全熱交換器 |
| 計画コンセプト・建築設計ディレクション | 大野秀敏 + 東京大学大 野研究室 |
| 設 計 | 日本設計・大成建設設 計共同企業体 |
| 監 理 | 日本設計 |
| 施 工 | 建築・空調・衛生設備 大成建設千葉支店 |
| 電気設備 | 関電工千葉支店 |
| 事業期間 | 2003 年 10 月 ~ 2018 年 3 月 |



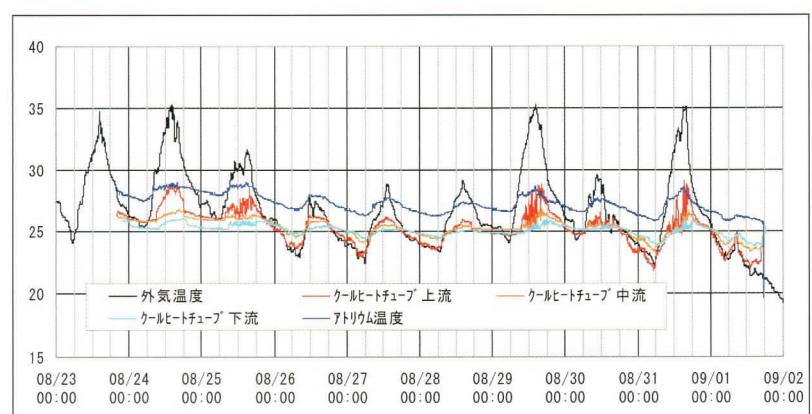
ソーラーチムニー



ソーラーチムニーの効果（冬期）



ソーラーチムニーの効果（中間期）



ヒートチューブの冷却効果

※ 1 :

PFI(Private Finance Initiative) :
公共施設の建設や運について、民間の資金や技術を活用してコスト軽減や質の向上を図る仕組み。90年代初めから英国で広がった。
PFI 事業者の(株)とうきょうアカデミックサービスが設計・施工・建物管理の資金調達から建物の維持管理を担い、東京大学は委託費を支払う



同窓生から便り

左官工事の潜在能力

最近左官の仕上げについてメディアに取り上げられることが多くなりました。今回は本校出身の左官職人、鈴木光氏を訪ねて、氏の研究テーマである『現代左官事情』についてお聞きしてきました。訪ねた事務所は、様々な鍛と左官関連の書籍とに囲まれており、ここで、左官の研究をしているそうです。鈴木氏には、現在の左官業界に関わる動きを左官施工者の立場として以下のように述べて頂きました。

現代左官事情

『最近、左官が注目をあびています。工業化建築の反省やそれに伴うシックハウス問題が大きな要因になっていると思います。また、社会全般が日本の伝統を再帰する気運も根底にあります。その意味では昔からの自然素材を中心とした

左官材料・仕上げは時運の旗手的存在にあると言えるでしょう。私は、難波研究室卒業後も先生と共に研究を続けており、先生が退任後（社）日本左官業組合連合会（日左連）の講習会や書籍の執筆を現場作業の合間にぬって活動しています。また、設計者や若手左官技能者のみならず一般ユーザーに左官技術をわかりやすく伝えていくワークショップにも積極的に参加しています。その一例が今回の東京建築士会の講習会（写真下）であり、例年、新宿にあるオゾンでも行っています。（写真右）参加された方々が、実際に鍛を握って塗つてもらうことで、左官の楽しさを体験してもらいます。特に『土はやさしさの手触り感がある。』と好評です。左官仕上げは無限大の表現ができる事を各講習会、大学、ワークショップで伝えております。工程・構工法・材料・道具の組み

合わせで、様々な形態、表現ができますが、これが反対に左官管理の難しさにもなります。列挙した写真は左官の可能性の一例です。

室内環境ラボ 健康な住まいづくりワークショップ
“塗喰”を極める

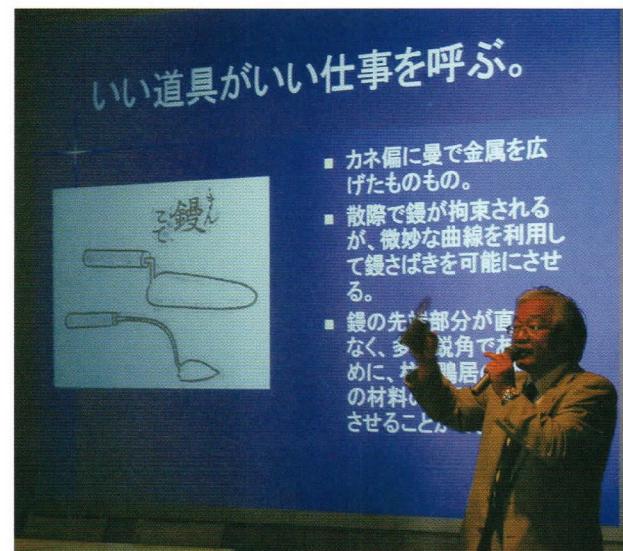
平成18年オゾンワークショップより
本日お世話になる方々

| | | | |
|-------|-----------|--------------|---|
| 資材の提供 | 富沢建材㈱ | 03-3362-7774 | http://www.tomizawakenzai.com/ |
| | 田中石工業㈱ | 088-882-1158 | http://www.taeikai.co.jp/ |
| | 田川産業株式会社 | 0947-44-2240 | http://www.slikkui.com/ |
| 講師の方々 | ミヤビ工芸 | 大久保雅一 | 042-584-6605 |
| | 諸岡左官店 | 諸岡永長 | 03-3337-7264 |
| | 南西栄工業所 | 西村眞一 | 03-3330-3602 |
| | 鈴木建塗工業（株） | 鈴木 光 | 03-3398-4335 |

オゾンワークショップのレジュメ。
左官のDIYをわかりやすく紹介したのです。ご希望の方は以下メールにてPDFで配信いたします。
kent@eu.ejnet.ne.jp
鈴木建塗工業株

現代左官事情

- (1) 左官仕上げはシームレス、曲面壁をつくれる。
- (2) 左官仕上げは防火性、調湿性等の性能がある。
- (3) 様々な表現が可能である。
- (4) 工期が長くなり、職人によって出来映えが異なる。
- (5) 施工管理が難しい。
- (6) 左官は戦後工業化によって数十年間低迷した。
- (7) 左官材料・工法の開発。
- (8) 後継者の育成と再教育。
- (9) 積極的な性能評価書の取得。
- (10) 責任施工。
- (11) 企業連携（他の専門工事業者設計事務所等）総合工事業化。
- (12) 基幹技能者・多能工の育成。
- (13) 左官の塗壁を見直す気運がある。

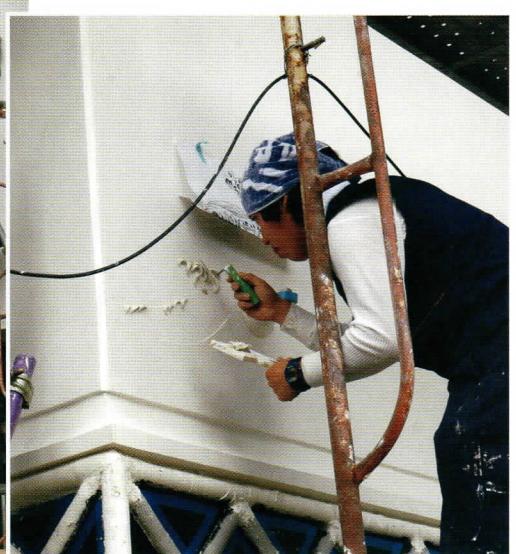


2007 銀座建築デザイン大学の講習会
鍛をもって説明する著者。



●伝統建築の復元

改修中の伊那の土蔵（海鼠壁は砂漆喰中塗り作業中。平壁には錫絵を描かれる。）
土蔵建物を中心として各地で復元工事が行われており、またそれに伴う講習会も開催されている。伝統建築の工法技術を継承しようという気運があるのは確かだ。



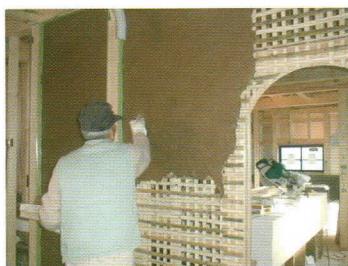
土蔵に錫絵を描いている。

今後の左官工事

私は、JASS15 や公共工事建築標準仕様書の改定委員を努めています。特に今回、JASS15 の大改定では、足かけ 4 年に渡りようやく脱稿いたしました。大改定の根底にある主題は「耐久性向上、はく落の安全性確保」であります。次世代に左官技術を伝えことは、伝統工法のみならず、左官自身が充分生活できる仕事を残すことでも重要であり、皆様の塗り壁の起用が大きな糧となります。ここは節におねがいするところです。今後、左官の方向性は、塗り壁の要求性能・機能に対してその品質を確保することであります。今までの「よし」とする定性的左官概念を実験等による裏付けのある性能・機能を定数化して施工する必要があります。これは、恩師難波先生がいつも私に言い聞かせてくれたことでもありますが、息子が跡を取るようになってやっと理解できるようになりました。』



小舞掻き作業



ネット状小舞下地の荒壁塗り

●土物仕上げの復活

小舞壁は費用、工期、耐久性等の要素で、設計仕様から姿を消していました。しかし、最近の各研究機関により、JASS15 の規準で施工すれば、壁倍率 1.5 倍、 $1/120\text{rad}$ の層間変形角でも剥落しないことが判明している。写真のネット状小舞や、貢工法を工夫すれば問題が解決することが多い。



●土間を土で仕上げる。

三和土工法の規準が JASS15 に新設された。新素材・地場の土を応用したものもあるが、ここで使用された三和土は中島裕輔先生の研究材料で、建築の設計は谷口宗彦先生である。



東京都立杉並高校卒業
昭和 49 年工学院大学建築学科
難波研究室卒業
鈴木建塗工業(株) 代表取締役
(社)日本左官業組合連合会 理事
一級建築士
略歴

昭和 49 年工学院大学工学部建築学科卒、

卒業後左官職人として家業を引き継ぐ、社会人として工学院大学工学部修士課程卒業。現在鈴木建塗工業(株)代表取締役、ものづくり大学・職業能力開発総合大学校非常勤講師。JASS15（左官工事）、左官事典、伝統的左官施工法等を執筆、日左連誌等で『現代左官事情』連載中。日本建築仕上学会賞の技術賞受賞。



鈴木光



同窓生からの便り

近代住宅の保存と再生 ～今泉篤男邸（旧飯箸邸）の移築事業について～

【せたがや街並保存再生の会】

世田谷区は南西部に国分寺崖線を擁し、富士山を望む土地柄から近代になって要人の別邸が数多く建てられました。1997年、世田谷美術館が主催した連続講座「世田谷近代住宅考」に参加し、見学の機会を得ました。その時「名建築」の多くが失われていく現実を突きつけられ、強い危機感から有志による「せたがや街並保存再生の会」が生まれました。近代住宅のみならず、その周辺環境を含めた街並みの新しい保存方法や、再生の道を探るべく世田谷区内での支援活動を続けています。

活動を始めるにあたって「世田谷の近代住宅」（世田谷区1987年発行）掲載の近代住宅の残存状況を確認し、地図を塗りつぶしながら、世田谷区全域を網羅した独自の悉皆調査をしました。区内の正確な現状を会全体で把握する事が目的であり、現在も本会の基礎資料となっています。さらに現状をより多くの方々に知るために、月に一度のまち歩き見学会を実施し、2007年11月で89回になりました。

【今泉篤男邸（旧飯箸邸）の保存活動】

「今泉篤男邸」は1941年建築の坂倉準三設計の住宅で、彼がフランスから帰国後初めて木造モダニズムを体現し、前川國男も自邸の建築にあたってこの住宅を見学したときいています。等々力渓谷至近に実業家の別邸として建てられ、

建築界では「飯箸邸」として広く知られていましたが、その後高名な美術評論家で日本における近代美術館設立の中心的役割を担った今泉篤男の所有となり、以来殆ど手を加えられることなく、個人住宅として等々力の地に静謐な佇まいを見せっていました。

2005年夏、まち歩き見学会のためにお訪ねした折、住宅を手放される計画であることを知りました。この建物はまた住宅地として発展してきた世田谷区の歴史と文化を象徴する典型的別邸建築でもあります。是非とも後世に残すべく、直ちに様々な方法への模索が始まりました。

現地保存が難しい現況から何とか世田谷区内で移築し、広く公共の文化施設として使われていく事を目標に署名活動や、設立した基金への募金活動などをはじめ、同時に個人事業者や個人で再利用してくださる方々を募りました。

世田谷区の回答は「区内に新しい施設の建設予定はない」「建設のための予算計上はない」「部材保存も出来ない」というものでした。

より多くの方々のご協力を仰ぐべく「現地確認」や「見学会」などを重ね、2006年7月にはシンポジウムも開き、今泉篤男氏ゆかりの方々をも訪ねました。またDOCOMOMOjapan2005年度の15選の指定を受け、建築家協会からも世田谷区に要望書が提出されましたが、なかなか光を見出せませんでした。

しかし、この7月のシンポジウムをきっかけに、同年9月にあらためて坂倉建築研究所およびOBの方々から声が上がり、緊急シンポジウムが開かれ、そこからあらためて「旧飯箸邸記録と保存の会」が生まれました。このときコーディネーターを務めてくださったのが本学建築学科藤木隆明准教授です。



一刻一刻と解体の時期が迫る中、坂倉アトリエによる移築計画が具体化し、ついに解体移築の実現に至りました。

2007年7月、今泉篤男邸（旧飯箸邸）は軽井沢信濃追分でフレンチレストランとして再生し、新たな歴史を歩み出しました。移築先の事情もあって、完全移築にはなりませんでしたが、背景に山なみを抱く佇まいは、かつて世田谷で富士を眺めた日々にも似て、深く心動かされ、ここに至るまで、多くの方々の協力があったことに心から感謝する思いでいっぱいでした。

【課題】

地域のシンボルとして、或いは長く親しまれてきた風景を支える要素としてたいへん大きな役割や意義を持つ建築は、全国各地に数多く存在していますが、その維持管理は個々の所有者の負担になっているのが現実です。多くがこの時代のもつ厳しい現実を受け入れざるを得ない状況におかれている今、それらを周りの力で支えていく事こそが重要であり、現在最も求められていることでもあります。

この度の今泉邸のように歴史的かつ文化的資産としての価値が多くの人々に認められた建物が、現地での維持管理に困難な状況が生まれた場合、再生の機会が少しでも広がるためにには、今後、情報を共有するための新たなネットワークが必要であると思います。地球規模の環境劣化の問題が問われて



いますが、人々の生活の営みの中にあって、決してゼロからのスタートではない意義ある創造こそ今、多くの建築家に望まれていることではないかと思います。

本会は本年より世田谷一丁目ににおいて、近代建築店舗の一角を借り、近代住宅所有者の相談窓口として、「世田谷一ハウス」を毎週土曜日の午後、オープンしています。

これまで残念ながら解体されたいくつかのお宅から寄贈された昭和初期のステンドグラスや照明器具、建具なども展示しております。これからも地道ではありますが、良好な街並の維持保存のために活動を続けてまいります。今後の活動においてご協力を仰ぐことも多々あろうかと思いますが、その折はどうぞよろしくお願ひいたします。

北海道滝川高等学校 1969年卒業
工学院大学建築学科建築学コース
伊藤鄭爾研究室
E-mail address oikos_nk@yahoo.co.jp
略歴 1974年株式会社アルフレックスジャパン入社
1978年オイコス計画研究所入社
1998年より特定非営利活動法人せた

がや街並保存再生の会理事

特定非営利活動法人世田谷街並保存再生の会
事務局 〒157-0066 世田谷区成城7-8-8
TEL/FAX 03-3482-9800
<http://www2.ttcn.ne.jp/~setagayamatinami/>
E-mail : setagayamatinami@mx2.ttcn.ne.jp



永井敬子



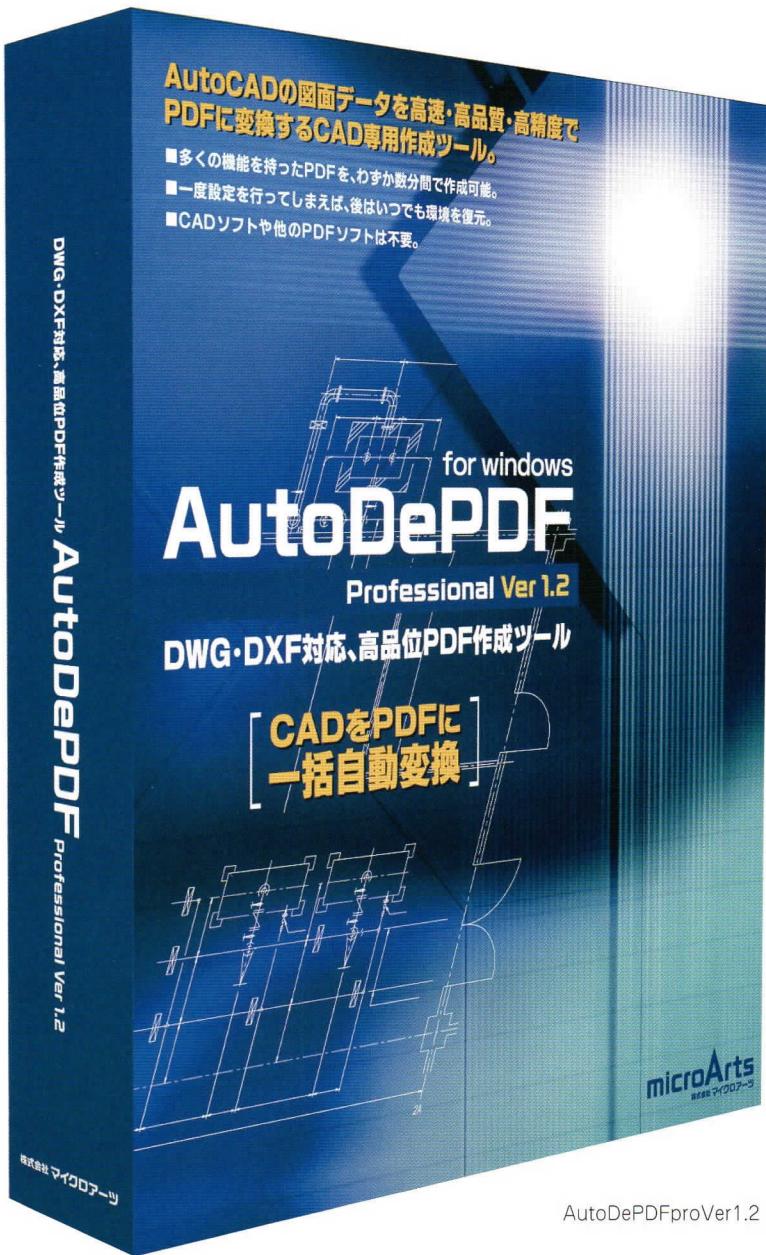
同窓生からの便り

施工図事務所から ソフトハウス設立へ

正木研を1986年に卒業しました千葉と申します。専攻は構造系でしたが卒業後は地元にUターンして地場の建設会社に就職いたしました。6年ほど現場施工に携わっていましたが、どちらかという現場よりは図面を書いたりしているほうが好きでしたので独立しまして、個人で設計事務所らしきものを始めました。なぜ設計事務所らしきものかと申しますと、実は建築設計よりもソフトハウスをやりたいという目論見があったからです。

構造技術者には多いと思うのですが、私もコンピュータが好きで、今は懐かしいシャープのX1という8BITマイコンを使って構造計算のプログラムなどを作っていました。当時はまだ手作業だった構造計算をプログラム化したところ、計算そのものは数秒で終わってしまいます。手作業だと何日もかかっていたのが数秒で終わってしまうのですからこれは劇的です。こうしたプログラムを作つて売ればビジネスになると思い、さっそく建設関連のソフトを作つて販売を開始したのですが、残念ながら販売ルートというのがありませんでしたので、地元以外で売れるということまでは到達できませんでした。

ソフトが売れないならということで当時公開されたばかりのJW_CADを使ったCAD施工図事務所に鞍替えしたのですが、こちらは大盛況でした。CADで作図効



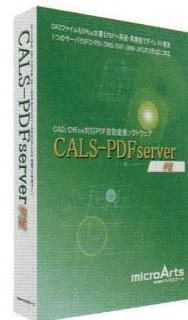
AutoDePDFproVer1.2

率が上がったのと、当時の好景気から相当量の受注がありました。

このようにして、10年程度はひたすら図面を作つていたのですが、やはり以前に失敗したソフト開発

には未練があり、新しいソフトウェアビジネスをいろいろと模索していました。こうした中で、どうせなら図面に関するソフトということで、試験的に作成したのが

JW_CAD 図面を PDF 化するソフトです。PDF 変換ソフトはいろいろとありました、大体はプリンタドライバという仕組みを使っています。ところがプリンタドライバを使うと、複数の図面を一括処理できなかったり、品質が悪かったりといろいろと問題がありましたので、もっと良いソフトということで JWtoPDF というフリーソフトを作成してインターネットで公開したところ、かなり良い評価をいただきました。通算で 35 万本程度のダウンロードはあったと思います。次に作ったのが AutoCAD 対応製品ですが、こちらは大手の清水建設に持ち込んだところ、その場で導入が決まったというエピソードがありました。現在は自動変換を可能にしたサーバ型製品が主力で、建設業、製造業の他、国や都道府県、政令市にも導入が進んできまして、ようやくソフトハウスとして基盤が出来た状態です。現在はスタッフも増えてずいぶん会社らしくなりましたが、なかなか図面を書いたりソフトウェアを作る暇が無いのがたまにきずです。



CALS-PDFserver FX

microArts
マイクロアーツ

ZumenPDFserver Ver2 FX

CADファイルからPDFへ高速・高精度・高付加価値でダイレクト変換。
これ1本でDWG・DXF・JWW・JWCの2形式に対応。
さらにOfficeファイルにも対応したFXバージョンも新登場！

CAD専用PDF自動変換ソフトウェア

ZumenPDFserver Ver2 FX

CADデータを変換フォルダにドラッグ & ドロップするだけでPDFに高速変換!!
閲覧性に優れた高付加価値PDFが全自动で作成できます!!

ドラッグ & ドロップ → 一括変換 PDF出力

クライアント サーバ共有フォルダへコピー サーバ共有フォルダへ出力



ZumenPDFserver FX

▶ クライアントPCの負担を軽減
クラウド構成では、サーバの変換機能で CAD ファイルを移動するだけ、PDF の作成オペレーションで負担が軽減されます。
クラウド側に、各 PDF ドライバをインストールの必要はありません。

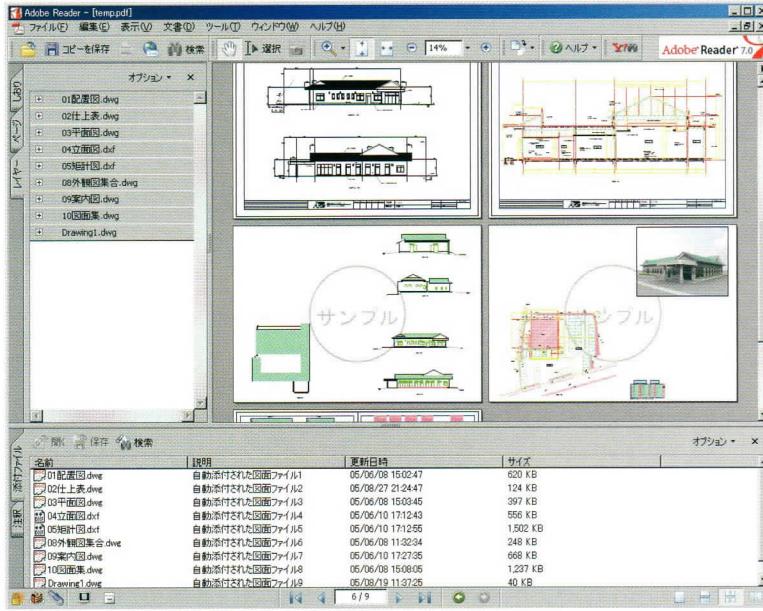
▶ CADアドイン機能による直接変換
CADアドイン機能により直接PDFへ変換が可能になりますので、経路を変更せずに、1時間あたり、1,000枚以上を自動変換できます。(400kbyte の DWG の場合)

▶ ファイル添付機能で図面の管理が可能
CADデータを、PDF 内に直接挿入できますので、PDF を参照すれば同時に CAD データも見れます。PDF フォルダースetしやすいので、離したまま CAD データの表示も出来になります。

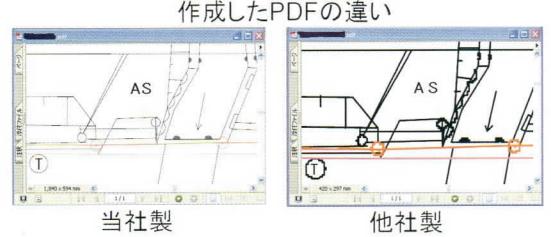
▶ レイヤ機能や連結機能など優れた実現性
実現性でのて、PDF から利用して正確な図面が印刷されます。
もちろん複数で印字することもできます。

▶ 画像ファイル対応
BMP・TIFF・PNG・JPEG の各種画像ファイルの PDF 変換に対応します。
さらに、CSV 形式のデータ一覧とリンクで PDF ファイル名の付け替えと
キー一覧の読み込みと一緒にできます。

ZumenPDFserver カタログ



作成した PDF



略歴

昭和 36 年 3 月 30 日生
福島県会津高等学校卒業
1986 年 工学院大学建築学科
正木研究室卒業
chiba@microarts.jp

地元ゼネコンに就職

1992 年 個人事業 千葉システム設計を設立
1994 年 有限会社 千葉システム設計を設立
1997 年 有限会社マイクロアーツに名称変更
2002 年 ソフトウェア製品の開発開始
2003 年 株式会社マイクロアーツに組織変更
2006 年 ソフトウェア製品を出荷開始
2007 年 東京事務所開設



たいせい おおなり
『大成の大成です！』



(株)サンエー化研掛川工場 2階スラブコンクリートの打設状況

中学の授業で住宅模型を造ったのがきっかけで建築に興味を持ち、将来建築家になりたいと思うようになりました。そんな折大成建設という会社があるのを知り、そこで働けば「大成（たいせい）建設の大成（おおなり）です」っていえるなあなんて思い当時は冗談で「俺、大成建設入るわ」なんて言っていました。大学には設計がやりたくて入学し、望月大介先生の研究室に入りましたが、現場の施工管理に興味が出てきたこともあり大学院では生産系の遠藤和義先生の研究室に進みました。冗談で言っていたことが現実となり大成建設に入社、現場での施工管理について9年目になりました。



同上、内部仕上げ状況（搬入前室）

何現場かやってきた中で印象深いのは、今年6月までやっていた静岡県掛川市にある(株)サンエー化研掛川工場の現場でしょうか。一昨年1期工事を担当させて頂き竣工後は次の現場にいたのですが、第2期工事をやるから大成を呼び戻してくれとお施主様に言われ当時いた現場の完了と同時に2期工事に合流しました。合流といっても私の着任と同時に前任者は引継後他の現場へ・・・1期工事の時3人でやっていたのに今度は一人で担当することになってしまい最初のうちは右往左往していましたが、慣れてくると工事全体を見ることが出来るというのが楽しくて仕方なくなってきました。お施主様、当社設計部、専門工事業者とも1期工事を担当していた人たちばかりだったので一人で不慣れな部分を助けて頂きスムーズに工事



鉄骨建方時の様子

を進めることができました。担当者がほかにいませんのでお施主様や設計監理との打ち合わせでも決断は自分でしなくてはいけないですし、専門工事業者との打ち合わせも今までなら施工に関係する部分だけしか見れなかったものが計画から施工、お金の折衝まで自分で決めてやらなければなりませんが、自分の裁量で決めることができる範囲が広がる事で本当の意味

で現場全体を見る事ができるようになつたのではないかと思っています。品質・コスト・工期・安全・環境(QCDSE)を全て把握して現場を組み立てていく、そんな現場の仕事の醍醐味を実感できた現場でした。

名刺を見た時のインパクトが相當あるらしく、多くの方に名前を覚えていただきみなさんとかわいがってもらっています。



外装工事の様子



引渡し直前の全景



大成 壮

経歴

大成 壊 (おおなり そう)

1992年 東京都世田谷学園高校卒業

1997年 工学院大学建築学科卒 (望月大介研究室)

1999年 工学院大学大学院修士課程修了 (遠藤和義研究室)、
大成建設㈱入社

今までの配属現場

- ・玉川聖学院校舎改築工事 (東京都世田谷区)
- ・京王閣競輪場バックスタンド改築工事 (東京都調布市)
- ・三菱電機名古屋製作所工事 (愛知県名古屋市)
- ・明治製菓東海工場 3号館新築工事 (静岡県藤枝市)
- ・御幸町伝馬町第一地区市街地再開発工事 (静岡県静岡市)
- ・サンエー化研掛川工場 (1期, 2期) (静岡県掛川市)
- ・トヨタ自動車技術第10工場建設工事 (愛知県豊田市)
- ・パナソニックエレクトロニクスデバイス 松阪工場
ALIVH生産ライン導入工事 (三重県松阪市)

現在

- ・松下エコシステムズ(株)春日井新技術管理棟建設工事
(愛知県春日井市)

連絡先 onari@bcd.taisei.co.jp (会社)

nnr52024@nifty.com (自宅)

My Favorite Time



武井
伸吾

1988年 神奈川県立相模原高等学校 卒業

1992年 工学院大学建築学科（谷口研究室）卒業

現在、日建設計勤務。 amedio@mb.infoweb.ne.jp

小学生の頃より星空に親しむ。1997年、極寒のモンゴルで皆既日食とヘル・ボップ彗星（C/1995 O1）を見たのを機に天体写真撮影を始める。1998年頃より天文雑誌等に作品を発表。現在は、“星と人とのつながり”をテーマに「星空のある風景写真」＝「星景写真」を中心に撮影している。星空の美しさを捉えることはもとより、フィールドの静謐な空気感や孤独感を含め、星空の向こうに心象風景を描く。星景の幻想的な写真世界を多くの人々と共有したいと想い、撮影活動を続けている。

星と人とのつながりを星景写真で表現

1997年、モンゴルで皆既日食とヘル・ボップ彗星を撮影したのを機に天体写真を撮るようになりました。小中学の頃のプラネタリウム通いやむさぼるように眺めた図鑑を通して、星座や天体に関する知識はすでにありました。写真に関するスキルはここ10年で独学で身につけたものです。

当初、主に撮っていたのは星座や望遠鏡を使った星雲・星団の写真で、所謂“天体写真”と呼べるものでした。でも、そういう写真是撮影者の個性を出しにくいものでした。当然なんですが、オリオン大星雲は誰が撮っても同じ姿で写ります。それが次第に物足りなくなってきて、撮影者の感性がより写真として具現化できる“星空のある風景写真”＝“星景写真”に傾倒していきました。テーマは「星と人とのつながり」。画面に人家の明かりや道などの人工物を配することで、人の気配の感じられるような写真にしています。宇宙と地球を1枚におさめ、そこに人の気配をも同時に写しこむのです。4年前に初めて写真展を開いた際、多くの方々に感動や激励の言葉をいただきました。その体験は、自分の求めていた方向性が間違っていたといった自信にもつながり、写真集としてまとめることを考え始めました。



星の降る場所

武井 伸吾

写真集「星の降る場所」

自分の撮った写真たちを写真集という形で世に送り出せたことは、創作活動における大きなマイルストーンになりました。出版不況の折、写真集を出すということは容易なことではありませんでしたが、フォトコンテストで腕を磨き、その先にあったのが写真展であり、写真集であり、活動のフィールドを広げることだったのです。自分の表現をもっと幅広い層の方々に見ていただきたいという想いが強くなっていたのです。

写真をご覧になった方から「あなたの写真に癒されました」「元気をもらいました」という言葉をいただくことがあります。自分の写真が誰かの役に立つこと。ほんのささやかでいい、誰かを元気にしたり、癒しを与えられたら良いなと思うのです。大袈裟かもしれないですが、一枚撮ったら一枚分だけ誰かが元気になる。そして世の中がほんの少しだけだけど平和になっていく。そんな写真を撮っていきたいと思っています。

星の降るまち



二束のわらじ、そして、これから

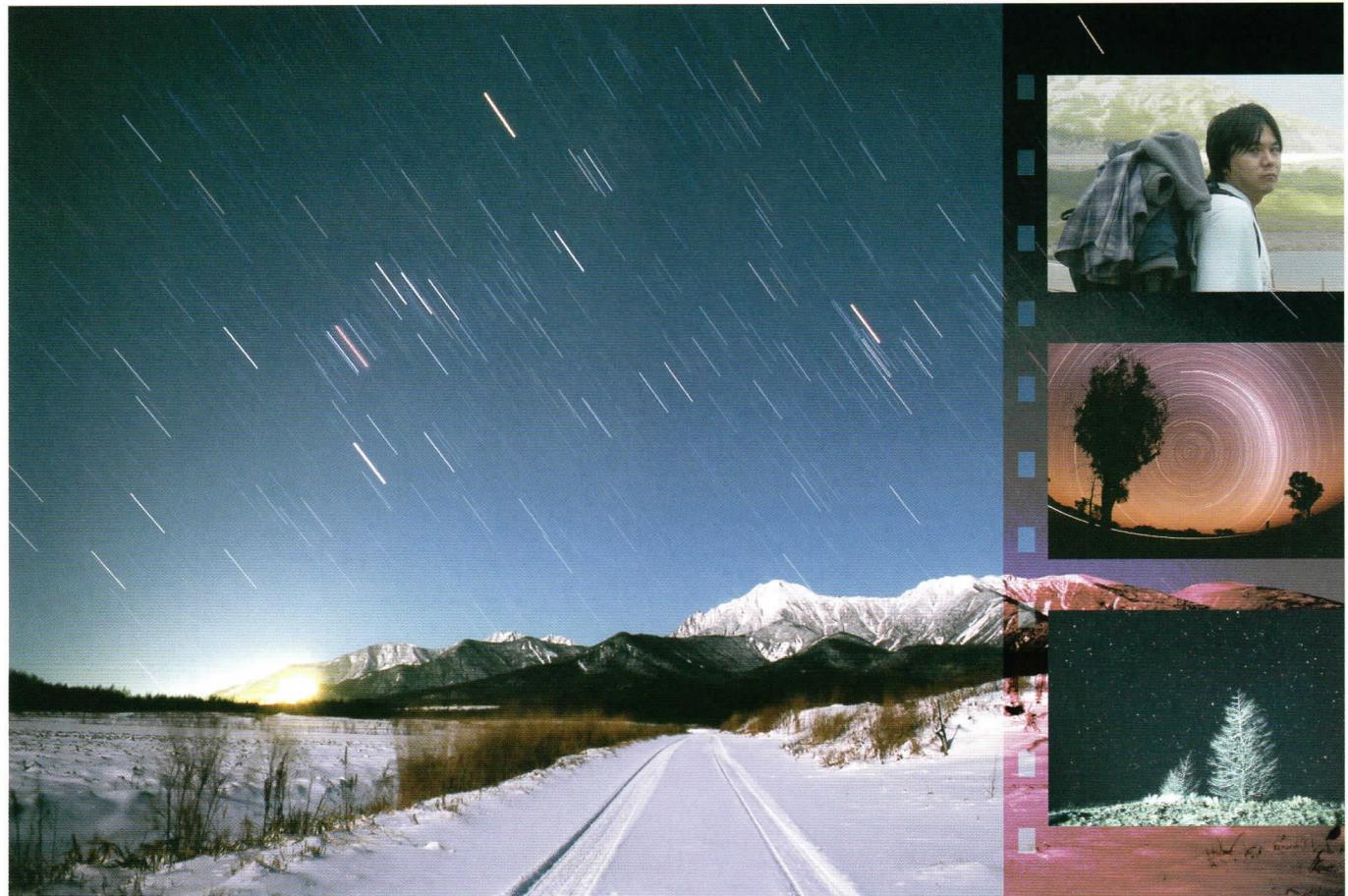
建築学生だった頃から実務を重ねる現在に至るまで、建築から得てきたものが、きっと写真作りにも影響してくるんだろう……と思うこの頃です。どうやら、自分にとって建築と写真とは不可分の両輪のようなのです。



写真集データ

「星の降る場所」 / 武井 伸吾

- ・ピエ・ブックス 刊
 - ・A4判変型 (220mm × 265mm) / ソフトカバー
 - ・104ページ (96 in color)
 - ・2,520円 (本体2,400円+税)
 - ・ISBN 4-89444-555-7
- 「星と人とのつながり」をテーマに作品作りに取り組んでいる。「星の降る場所」は初の写真集。長野や山梨などで撮影された“星空のある風景写真” = “星景写真”88点を収録。所謂“天体写真”にはない、人の温もりが感じられるのが特徴。





構造の役割とその可能性



とざわ ともひと
戸澤 知仁

修士2年(旅行時)
出身高校 東京都立新宿高校
2002年 工学院大学建築学科 入学
2006年 工学院大学大学院 入学 小野里研究室
Email : dm06042@ns.kogakuin.ac.jp

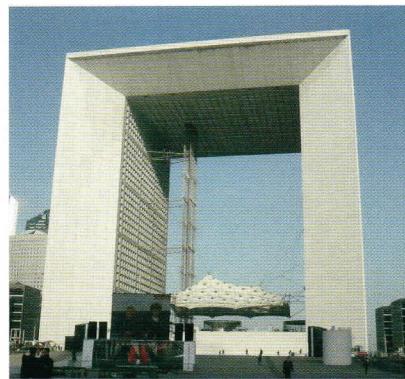
はじめに

「本当に来てしまったな…。」フランス、シャルル・ド・ゴール空港に降り立った時、改めて思いました。初めての海外、ましてや一人旅という不安と期待とが心の中で行ったり来たりしながら私の旅は始まりました。

2007年9月11日から9月21日にかけて、フランスはパリ、イギリスはロンドンとマンチェスターの2カ国3都市を旅しました。旅の目的は構造設計者として世界的に有名な、O・アラップやP・ライスが設計した作品を見て周り、その構造表現、スケールやディテールの緻密さを体験することでした。

構造エンジニア

皆さんはO・アラップをご存知でしょうか?アラップはシドニー



テットデフランス



ジャパンブリッジ

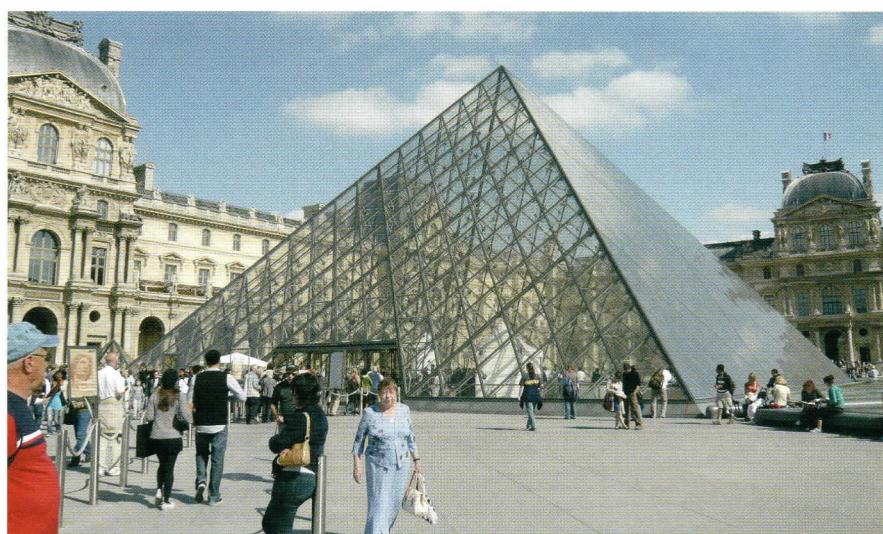


ポンピドーセンター

ロンドンオープンハウス

ロンドンでは9月中旬の土曜と日曜の2日間、オープンハウスといって公共、民間を問わず、およそ500もの建物が公開されるイベントで、2007年は9月15、16日に開催されました。オープンハウスは普段は立ち入り禁止されている建物の中に入ることが出来るため、有名建築の前には行列ができる程の人気イベントで、私はロイズ・オブ・ロンドン(以下ロイズ)とロンドン市庁舎を見学しました。

なかでもロイズの中に足を踏み入れた時の感動は忘れられません。ロイズは1986年にR・ロジャースとアラップ社が設計したオフィスビルで、外部に配管や設備類が露出した大胆な外観で世界を驚かせ



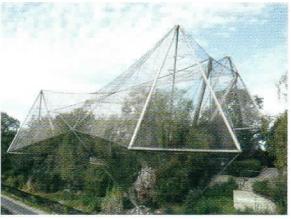
ルーブル美術館



ロイズ外観



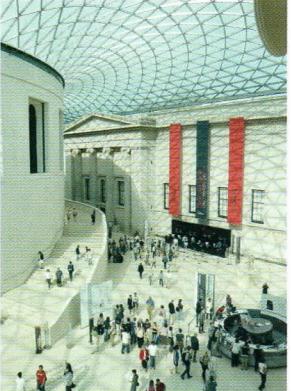
BA ロンドンアイ



ペンギンプール & ロンドン動物園



ロイズ オブ ロンドン



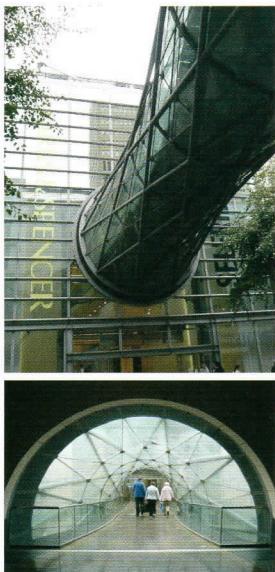
大英博物館

ました。このロイズやポンピードゥーセンターに代表される過剰なまでに機械的なデザインは、現代建築の分野でハイテックと呼ばれています。ロイズはチャールズ皇太子が、そのメタリックな外観から「石油コンビナートみたいだ」と批判するなど何かと物議を醸す建築で

す。しかし、中に一歩足を踏み入れるとそこにはゴシック様式を髣髴させるコンクリートの列柱が吹き抜けの天井まで伸びた空間に圧倒されてしまいました。これこそが実際にその場に訪れ、その空間を体験しないと得られない経験でしょう。



City Hall



Corporation Street Footbridge



ミレニアムブリッジ

おわりに

今回の旅では名建築と言われるものは意匠と構造との強いパートナーシップのもとに生まれると言う至極当然なことを痛感し、また、この数日間でその好例に多く巡り会えたことを嬉しく思います。構造は意匠の厄介者などではなく、両者の共通解を得た時に最高の建築が生まれるのだと思います。私も将来は構造設計者として意匠、設備と協力しながらよい建築を残せたらと思います。

このような貴重な体験の機会を与えて下さった同窓会の方々、並びに建築学科の先生方に厚く御礼申し上げます。また、指導教員の小野里先生が構造のおもしろさを教えて下さったおかげで、この旅がこんなにも素晴らしいものになりました。ここに記して感謝申し上げます。



トルコの神聖な建築群の空間体験記



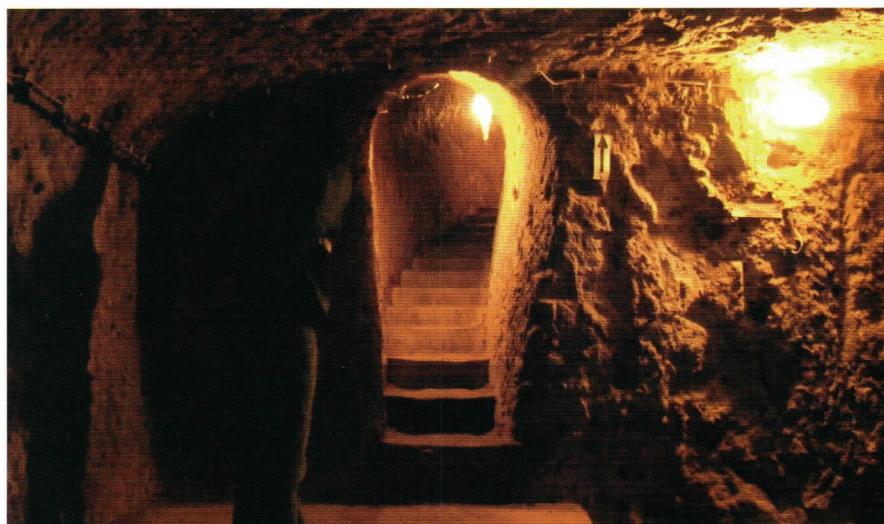
しぶや ありさ
渋谷 有紗

出身高校 神奈川県新城高等学校
大学 工学院大学建築学科建築
コース 2006年編入学 2007年在学中

「学生の間にイスタンブールへ行きなさい」恩師のこの言葉をきっかけに、2007年3月、トルコのイスタンブールとカッパドキアへと旅をした。トルコは紀元前1800年からの歴史を持ち、ヨーロッパとアジアの中間に位置する上キリスト（ビザンチン帝国）の時代とイスラム（オスマン・トルコ帝国）の時代を併せ持つ大変特異な国で、2つの宗教それぞれの建築はもちろん美術、成り立ち、空間の作り方を生で見ることが旅の第一の目的であった。

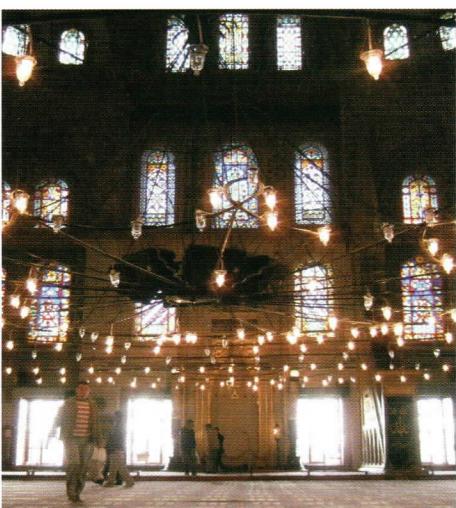
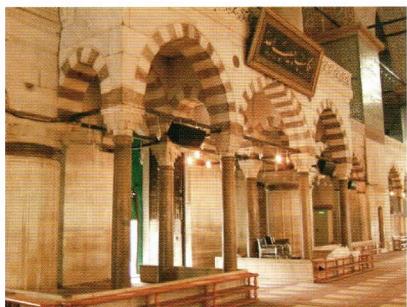
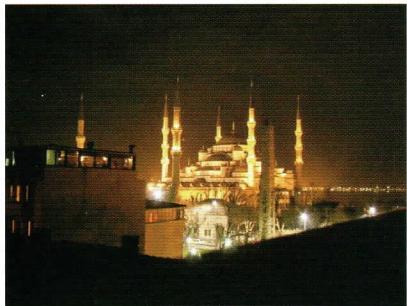


イスタンブールは、ボスフォラス海峡を隔てて旧市街と新市街に分かれている。この旧市街の高台に位置するのがトプカプ宮殿（『大砲の門』の意）である。1460年頃コンスタンティノープルを征服したメフメット2世の命によって建てられたオスマン・トルコ時代の先駆けともいいうべき建築物であ



る。特筆すべきは、この宮殿の至る所にふんだんにあしらわれている石材の多彩さ、組み合わせの美しさである。スルタン（オスマン時代の大帝の呼び名）がその権力を誇示するために遠方の地で採れる石材を取り寄せてあしらったのだが、庭園と庭園の間にある中廊下の柱などは緑色、赤褐色、なめらかな白色の石材を使った太い円柱が様々に配され、贅沢さを醸し出していた。ブルーモスクも同じ時期に造られた宗教建築であるが、こちらはタイルやアーチなどの細かな装飾が美しく、神聖なメッカの方向に向いているのが建築様式だけでなく絨毯の模様にさえも反映されていることに目を奪われた。私はヴォールトの下や庭先で、また宿泊先のバルコニーから、時間の許す限り何時間もスケッチを楽しんだ。

カッパドキアでは、火山後にできた凝灰岩を利用して造られた地下8層にもなるデリンクユ地下都市や、9～11世紀頃キノコ型の岩に造られた小さな教会が並ぶギヨレメ野外博物館などのかつての隠れキリスト教徒たちの住処を訪れた。イスラム教徒の迫害から逃れた生活を強いられたからこそその知恵と工夫が暗い地下空間や洞窟の至る所に見え、当時の彼らのキリストに対する従順な思いが忍ばれた。



この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。
詳しくは NICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku> をご覧下さい。

このトルコ渡航では他にもたくさんのがすばらしいイスラムやキリストの建築を見たが、私はアヤソフィアのような偉大で巨大すぎる建物よりもむしろ、空間の隅々まで目が届き届き、静かで、建物を造った人々の息づかいが壁伝いに聞こえてきそうな大きさの空間に身を置く方を好んだ。この地で私は、トルコの時間の流れに身を任せながら、少し危険で、神聖な「空間体験」を存分に味わうことができたのである。



建築×教育 ～シュタイナーの足跡から 学ぶ旅～



もりとう さとこ
森藤 智子

大学：初等教育学科を経て建築学科へ。
1年半中国へ留学。
職歴：主に国際交流の仕事。過去に特許図面
作成や、カメラマンの経験もあり。
Email : morito_ag05b@yahoo.co.jp

旅のはじまり

ルドルフ・シュタイナーという人物はゲーテ研究者、哲学者、教育学者、社会思想家、そして建築家でもある。シュタイナーはこのように言っている。「建築とは有機的で象徴的なもの。建築とは魂の棲む場所だ。」「教育とは認識、感情、意志という三つの能力を調和させること、なかでも芸術的な感情を重視し、すべての教科の教育が芸術的な仕方でなされねばならない。」建築学と教育学を学んでいける自分にとって、それが融合されているシュタイナー建築を見ることは、まさに今後の自分の道を探る旅のはじまりであった。

フランス→ドイツ、そして スイスへ

パリから夜行列車に乗り、最初に訪れた土地はフライブルグというドイツ南の都市である。「環境都市」としても有名であるが、今回はフライブルグ駅からトラムに乗り、郊外の終着駅にある「FREIE WALDORFSCHULE ST.GEORGEN FREIBURG (ヴァルドルフ)」という学校を訪れた。いわゆるシュタイナー学校である。まさにこの思想が現れた建築物が、フランスとドイツの国境、スイスのバーゼルにある劇場建築、「GOETHANUM (ゲーテアヌム)」である。



雪の中のゲーテアヌム



ノートルダム大聖堂



シュタイナー学校



ポンピドゥー・センター

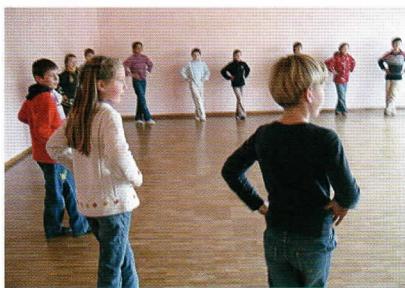


グランド・アルシュ

WALDORFSCHULE (シュタイナー学校)

シュタイナー教育は12年制の一貫教育である。基本的に教科書がなく、テストもない。エポック授業という、朝の最初の2時間を利用し一教科を数週間続けて勉強する授業があるのも特徴的である。今回は建物だけではなく、授業も一日見学するチャンスをいただいた。

化学、音楽、手芸、語学、数学等の授業を見学したが、その中で印象に残っているのは音楽である。



オイリュトミーの授業



実験授業



授業の1コマ

子どもたちは音楽に合わせて芸術的なダンスをするのである。これはシュタイナー教育の特徴の一つであり、それが後に紹介するゲーテアムスで行われているオイリュトミーと呼ばれる空間運動芸術である。

学校の校舎もやはりシュタイナーらしい建築で、その中で育った子どもたちの感性が磨かれていくのも想像ができる。授業が終わると、その教室の出口で教師が子どもと一人ずつ握手をしながら挨拶をする。暖かい交流がその建築の中では行われていた。このシュタイナー学校は、ドイツの各都市に必ずあり、ヨーロッパ、そしてアメリカ、アジア、オーストラリア、アフリカにも存在する。日本にも年々増加している。

この海外視察には、工学院大学建築系学科学生・大学院生海外渡航奨励金が支援されています。
詳しくは NICHE HP <http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku> をご覧下さい。

GOETHANUM(ゲーテアヌム)

スイスのバーゼル駅から更にスイス国鉄に乗り、小さな駅ドルナッハで降りた。着いた時はすでに夕刻で、丘を登る時には雪がちらつき始めていた。ゲーテアヌムは人智学協会の集会所として、また神秘劇やオイリュトミーの上演のための劇場として活動の拠点なるべく建設された。その外観は、どこかガウディの建築を彷彿とさせる。内部空間も階段、廊下、ドアに至るまで独特な様相をしており、魅力的に迎え入れてくれる。階段を上ると共に、その壁の色彩がグラデーション状に変化し、最上階まで惹きこまれていった。ここは芸術のシンボルとして存在し、実は日本人も多くオイリュトミーを学んでいる。窓の外を見ると辺りは時間的に真っ暗なはずであるが、ほんやりと明るい。それはゲーテアヌム内を歩いている間に雪が降り積もり、ドルナッハの丘はすっかり雪で覆われていたのである。



ゲーテアヌムの外観



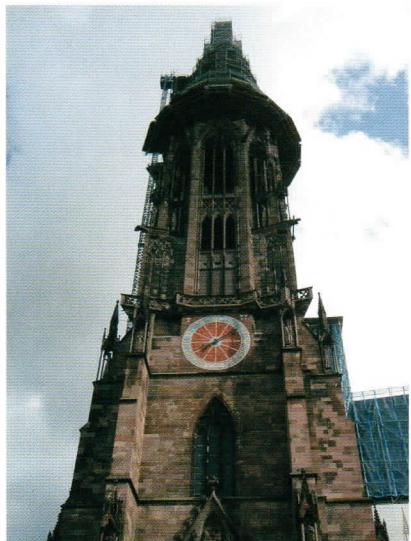
ゲーテアヌムの内部空間



ドルナッハの家



ドルナッハの丘



フライブルグの教会

建築×教育

魅力的な建築、魅力的な教育、今回の旅でそれは単独で存在するのではなく、様々な事象と有機的に結びついて初めて表現され、人の心に入ってくるのだと思った。現在建築を学んでいるが、ただ設計や構造を考えれば良いのではなく、身近な出来事、風景、人々の想い等を常に感じ取り、それを自分のものにしてから再表現する、そのような力が必要なのではないであろうか。今回、感性を磨く旅に出るチャンスを与えていただいたことに感謝する。



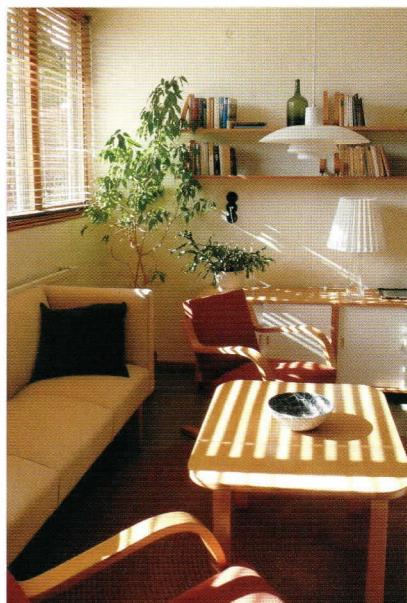
北欧の高齢者と、 内部環境を体感

ささはら さとこ
笹原 怜子

出身高校 岡山県 岡山芳泉高等学校
 大学 工学院大学建築学科 第二部建築学科
 4年在学中 赤木徹也研究室
 Email : mongoose77228@hotmail.com

はじめに

日本で北欧の家具や照明、雑貨の人気が高まっている。ショップや雑誌でも目に見る機会が多い。不思議に落ち着くデザインや色遣いが印象に残る。また福祉先進国として世界の高齢化社会を迎える国々のモデルとなっている。私は仕事上で高齢者の生活と関わる場面が多い。冬が長い北欧の内部環境を体感し、日本の高齢者に反映できるものを発見したい。



アアルト自宅

フィンランドの建築

ヘルシンキ市内をいくつか回ったうち、印象的だったのは、以下の二つである。

MYYRMÄKI CHURCH

ユハ・レイヴィスカの設計による、芸術的でガラス細工のような繊細さをもつ教会。



アアルト自宅

残念ながら曇り空だったため、太陽光の入り方は分からなかったが、照明を点灯してもらうことができ、無灯の時との違いを感じることができた。4つ組の明かりは暖かく空間を演出し、高めの吹き抜けのちょうどよい空間に収まっている。真っ白の壁と光が、気持ちを不思議に落ち着けてくれた。

教会の周囲の環境は、白樺の樹木に囲まれ、駅の目の前にもかかわらず、喧騒とは無縁だった。こんな教会ならば毎週ミサへ通うのも楽しみだと思う。市内から離れたところにあるためか、学校帰りの子供たちからは珍しそうに眺められ、貴重な体験をした。

市内のインテリアショップで、同じ建築家がデザインした照明を見つけたが、日本へ無事に持ち帰る自信がなく、諦めた。今はやはり後悔している。

同設計者による図書館にも行ってみたが、この教会と同様、繊細で芸術的な建築だった。内部が明

るく、開放的な感じが印象的だった。

AALTO HOUSE

要予約のため、現地で前日に予約を取った。実際に行って、はじめてその素晴らしさが分かった。市内の集合住宅が立ち並ぶ街並みとは異なり、明らかに高級な住宅が並んでいた。教会や図書館もあり、一帯がひとつの住区として完結している印象を受けた。ここでも緑が多く、歩道が広いため、街歩きが楽しかった。注意していないと見逃してしまいそうなところに、建築家アルヴァ・アアルトの自邸がある。

外観からは想像できない、明るい内部だった。見学の途中から晴れ間がさし、光が入ると、リビン



ミュールマキ教会

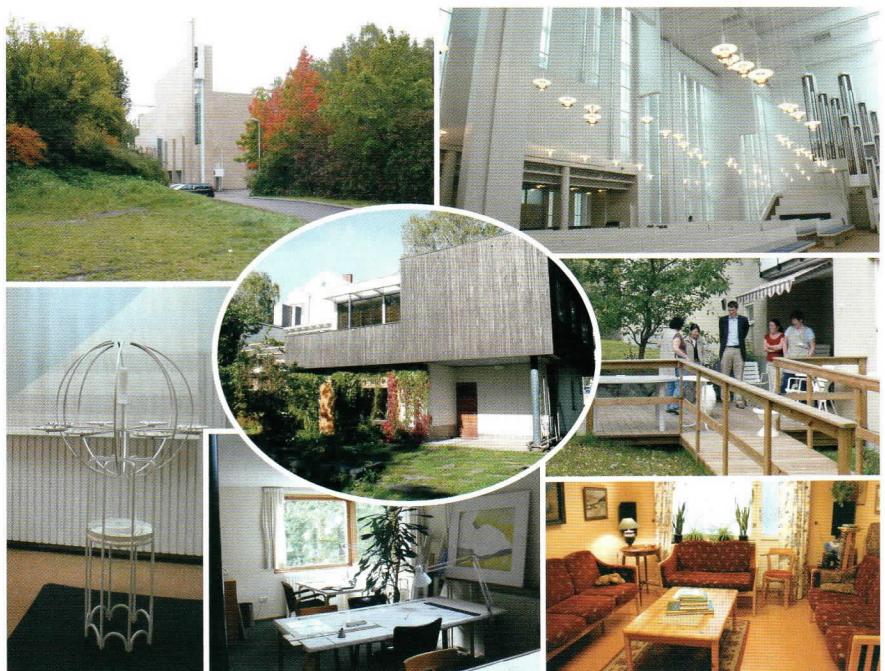
グはかなり明るかった。

2階のバス・トイレの円形トップライトが印象的で、北側に位置しているが明るかった。庭の緑と置き石は、なぜか日本の感じを受けた。アルトがデザインした照明や椅子などの家具も配置されていた。中から自然を感じられ、建具や家具も自然素材を使っている。夕方5時には帰宅するフィンランドの人々が、長い冬を快適に過ごす工夫から生まれた知恵なのだろうか。少しも古さを感じなかった。外が寒かったせいか、むしろホッとした。

スウェーデン福祉見学

せっかく北欧に出向くので、福祉施設見学をしたいと思って探したが見つけられず、諦めかけていたところを、渡航の1週間前に予約し、とても楽しみにしていた。グループホームなど他のプランもあったが、私が選んだのは認知症のデイケアセンターである。日本ではデイケアというと、障害者も認知症高齢者もひとまとめにしている。ところがスウェーデンでは、デイケアセンターも高齢者・障害者・認知症と3つに分かれている。どのようなActivityやケアがなされているのか、認知症ケアについても先進国といえるスウェーデンの現状を見たいと思っていた。

まずは通訳の方を通じて、職員の方から施設の概要やサービス上で注意していることなどを質問した。忙しい中、丁寧に返答頂き、とても勉強になった。中でも印象に残っているのが「よいケアには教育が大切」ということ。センターの経営会社により教育レベルが異なる。高い教育レベルを保っている施設が良いとされるのは、認知症のケアには同じ人が担当することが非常に重要であるからであ



る。このセンターでは、運転手も同じ人が担当し、利用者のグループ分けにも個人の好き嫌いを尊重している。

センターの建物は、元は住宅であったのを改修したため、道路を歩いているとディケアが行われているとは思えない外装である。内装も普通の住宅のようにキッチンやソファやチェストがあり、食事の準備やケーキなども焼くことができる。私が見学した時間はちょうどお茶の時間で、一緒にコーヒーを頂き、利用者の方が作ったクッキーを頂いた。

デイケアセンターに隣接して、サービスハウスというケア付き高齢者住宅があった。そちらに居住している利用者の方の見送りに、職員の方に付かせていただいた。部屋まで送り、別れ際に利用者の方と職員の方が抱き合い、キスを交わしていた。深い信頼関係の存在を感じた。自分の仕事に置き換えて考えると、そこまでの関係を築くことができるのは、努力と熱意、教育と経験、時間も必要である。専門職の一人として、今の自分を省みるよい機会となった。

おわりに

計画通りに建築の見学ができる、現地の方々の親切な対応にはとても感謝している。中には、工学院の学生証を提示すると、学生割引で入館や乗車を許可してくれた心の広い方もいた。

私にとって初めての欧州旅行で、建築を目的とした旅行ができる満足している。外観・内部、街並やサイン…、大学に入学して自分の視点が大きく変化したことが、旅の写真を見直してみて分かった。建築を通して、自分が知覚できる世界が驚くほど広がった。自分をここまで成長させてくれた方々に、この場をお借りして感謝したい。そして、新しい貴重な経験を心の引き出しに仕舞い、ゆっくりあなたで直してゆきたい。



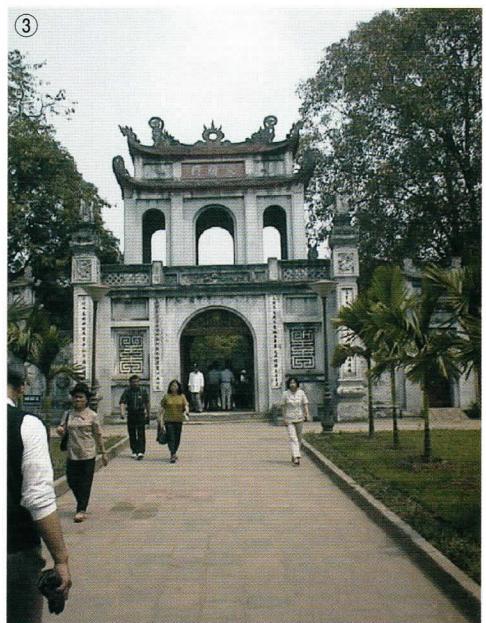
見学後、見送りをした先のサービスハウス一室にて



1. 東京都明治学院高等学校 1971年卒業
2. 工学院大学建築学科 萩原研究室 1976年卒
3. 工学院大学大学院 修士課程 1978年修了 萩原研究室
4. 略歴
米国ミシガン大学 建築・都市計画学科 修士課程 1980年修了
1980年～1988年
ミノル・ヤマサキ アンド アソシエーツ (Troy, Michigan)
グンナー・バーカーツ アンド アソシエーツ (Bloomfield Hills, Michigan)
クリング パートナーシップ (現クリング・スタビンズ) (Philadelphia, Pa.)
CUH2A (Princeton, New Jersey)
他 勤務
1988年～現在
株式会社大林組 東京本社 設計部 勤務
資格：一級建築士、米国 New Jersey 州登録建築士、APEC Architect

師訓

Learning from Vietnam



●ベトナム

2001年から2002年にかけて、キヤノン（株）のベトナム・タンロン工場（写真⑧）の設計に携わった中で受けたベトナムの印象をお知らせします。

●第一印象

2001年3月、ハノイ・ノイバイ国際空港に初めて降り立ちました。現在使用されている新ターミナルビルは建設中で、2階建の空調も効いてなく、（たまたまだったとは言え）トイレは扉を開けると給水管が破裂し、トイレ中にシャワーを撒き散らしている古いターミナルビルで入国審査を済ませ、車でハノイ市内へ向かいました。空港からの高速道路の両側は、殆どが水田（写真①）で、耕されているところでした。高速道路とは言え、水牛に農耕機を引かせて当たり前の様に横断する光景を目の当たりにして、何とも言い知れない“力強さ”を感じました。

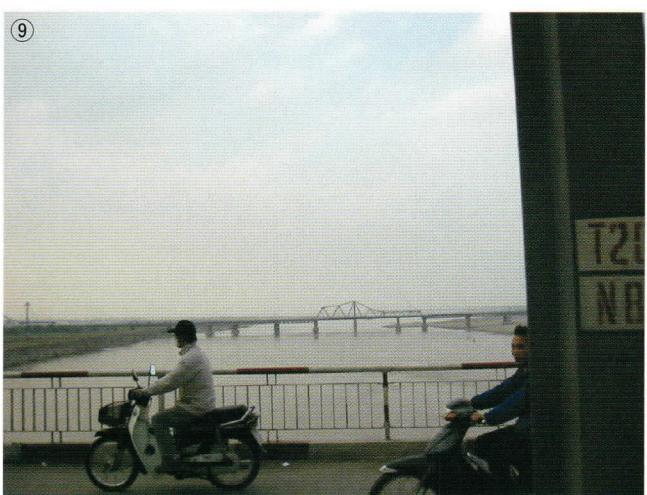
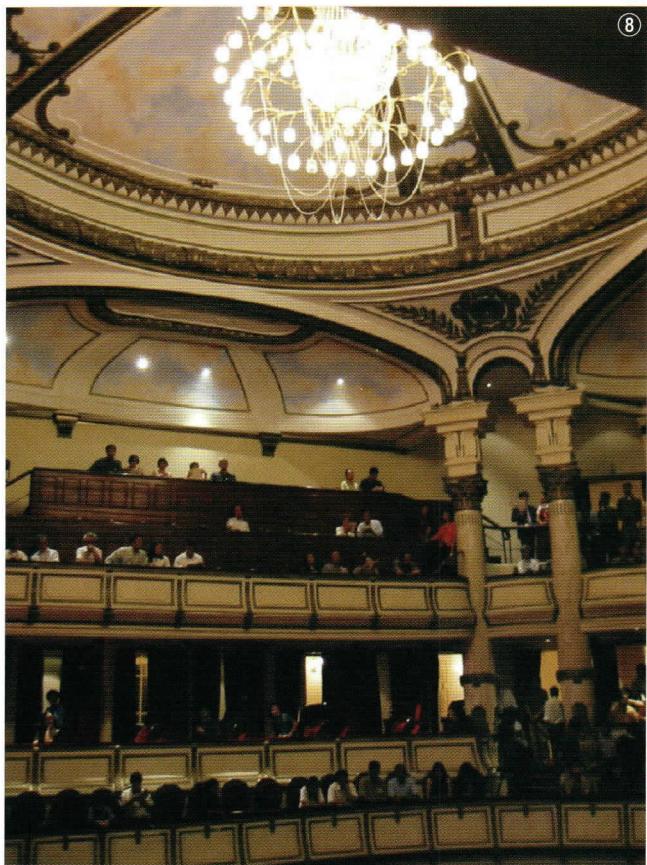
●ハノイとホーチミン

ベトナムの歴史は、ご存知の様に、他民族からの侵略と征服の歴史で、中国による約1000年間の支配、続いてフランスによる支配、第二次世界大戦集結後のベトナム独立宣言、フランスによる再侵略に端を発する南北ベトナム戦争、サイゴン陥落によるベトナム社会主義共和国の誕生から現在に至っていますが、中国支配時に建てられた寺院では、社会主义国とは言え、仏教への根強い信仰心（写真②）を感じ、“文廟”と呼ばれる寺院（写真③）では、沖縄の首里城を思わせる建築（写真④）と、琉球音楽に近い演奏・楽器（写真⑤）に出会いました。フランス支配下では、1911年に建設され、1997年に改修されたハノイオペラハウス（写真⑥・⑦・⑧）、ハノイ（河内一紅河デルタの内側に位置する）を象徴するホン（紅）河に架かる、パリエッフェル塔の設計者エッフェルによる、ベトナム戦争時の空爆痕も生々しいロン・ビエン橋（写真⑨）と、建築物が歴史の流れを物語っていました。

ハノイでは、夕涼みを目的に夜通し市内を走り回る途切れることの無いバイクの列と、非常に高い湿度から発生する靄に覆われた街（写真⑩）が印象に残っています。一方ホーチミンは、ハノイとの対比からか、カリフォルニアを思わせる青く抜けた空（写真⑪）が印象的でした。

2001～2002年当時は、端的に言うとホーチミンは大都会、ハノイは地方都市と、経済的な格差が大きく、ハノイで出会った多くの若者がホーチミンに移りたいと言っていましたが、格差は徐々には縮まってきている様です。





●風土と建築

タンロン工場の設計に先立ち訪れたベトナム現地の工場の中に、日本の自動車工場（写真⑫）がホーチミン郊外に有りました。昔から有った古い建屋と、新規に建設した建屋の混在する工場でしたが、新規に建設された工場は、典型的なシステム建築にモニター換気を取ったもの（写真⑬）でしたが、古い建屋の造りには目を見張るもののが有りました。レンガ造りの外壁の外に強い日差しを遮る回廊（写真⑮）を設け、温度を下げた空間で建屋を取り巻き、モニター換気（写真⑯）への給気を取っていて、その形態は、周りの環境に溶け込んで見える（写真⑭）ものでした。新しく建った別用途の建物でも、同等の手法が使われている（写真⑰）のを見た時には、（涼しかった為か？）ホッとした記憶が残っています。建物は、その建つ気候・風土に基づく生き物である事を痛感させられ、世界標準で建つ建物の限界を感じたのもこの時でした。

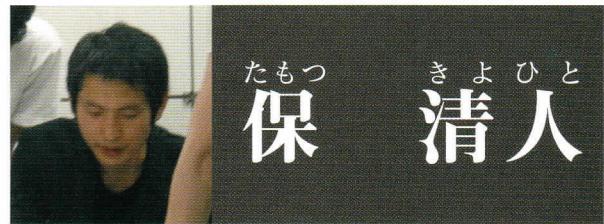


●ベトナムの今後

タンロン工場完成後も、世界を代表する企業が続々とベトナムに進出しています。他の東南アジア先進国が歩んで来た道（工業国化）を進み始めた様に思えます。タンロン工場の設計・工事期間をとおして受けたベトナムの人々の印象—“勤勉さ”一と、冒頭で述べました水田から受けた何とも言ひ知れない“力強さ”からは、底知れないベトナムの今後の発展が見える気がします。大袈裟かも知れませんが、かのローマ帝国の衰退が、一つには（奴隸制に頼ってはいたものの）大農場の衰退により経済的地位の低下に繋がった為、と言う説もあります。

今、改めて、農業の力強さを感じながら、30年近く前に、荻原先生と米国ペンシルバニア州の農園地帯を通り抜ける高速道路を走っていた時、「農業を忘れない（棄てない）国は強い。」と言われた先生の言葉を思い起こしています。





Better City for Better Life!

Urban Forestry & Urban Greening Master Program in University of Copenhagen and Swedish University of Agricultural Sciences

ここ50年間、世界中で都市化が急激に進み、世界の人口の80%は都市圏で暮らしている。地方や里山であっても、都市の外形に位置しているだけで、そこでも都市化の影響を受けているのだ。自然是、地球はもはや人間化（都市化）しているといつてもいい。自然を支配した人々によって、環境問題が顕在化し、特に温暖化などはその最たる現象である。ミドリが必要だ。

Urban Forestry & Urban Greening Master Program (UFUG) は、その都市化によって脅かされた自然環境（ミドリ）を、人間の手でどうやって再生するか、そしてそれをいかにして実行するかを考える Master Program である。北欧の国々の大学が連携し、世界中の有志を募って構成された、多角的なプログラムだ。受講者は、建築からランドスケープアーキテクト、園芸、地質学者、森林学者、生物学者、社会学者やアーティストなどを、ヨーロッパ、アメリカ、アジアから募り、その中10名に絞られた。授業は、多岐に及び、ミドリに関する政治、経済、社会学、心理学、マネジメント、コミュニケーション、マーケティングなどを、多様なメンバー

で構成されたチームで取り掛かる。一本の木から、アーバンデザイン、森林公园まで、ミドリに関することをすべて学び、実際のプランニングまでつくるのだ。

そのプランニングを机上の空論で終わらせず、地域住民、市町村、企業などにプレゼンテーションをし、議論し、皆で本当によい都市の環境、自然の環境を考える。

その中に私は、UFUG 2期生として参加できたのだが、多様なフィールドが集まる中、建築という私のバックグラウンドはとても特殊であった。それは、“自然を守る”ことと懸け離れているからだ。建築活動こそ、自然を脅かすのだ。チームでは、よくそれについて紛争が起きた。当初は、その矛盾に苦しめられた訳だが、UFUG ではその矛盾を矛盾としない。喧嘩させない。なぜならば、建築がなくなるということは、人間を生かさないことと同じだからだ。“建築し、ミドリを守る（管理する）。”この矛盾を矛盾として受け止め、その対極の分野に関わる人々、スペシャリストの知恵を結集し、すべての人が協力して、よい環境をつくる。それがUFUGのテーマである。



Communicative Planning (CP) でのプランニングのCG（スウェーデン農業科学大学 (Swedish Agricultural Science University) にて）。ランドスケープデザインからマネジメントを含め、総合的な提案をしました。実際、Hoor というスウェーデンの小さい市に出向き、市長、市役所の職員、居住者などの（ステークホルダー）にインタビューをして、その土地に何が必要かを提案します。

鹿児島県生まれ

ランドスケープアーキテクト、二級建築士

鹿児島県立松陽高等学校卒業、工学院在学中にアメリカ、ヨーロッパへ遊学。大学卒業後、池坊お茶の水学院にて、華道、香道、裝道を学び、雪和会にて裏千家茶道を学ぶ。のち、デンマーク、スウェーデンに修士留学。

学部：工学院大学、建築環境コース 東研究室

修士：コペンハーゲン大学、スウェーデン農業科学大学にて Urban Forestry & Urban Greening Master Program

就職：オーストラリア・シドニー ランドスケープアーキテクトオフィス、Mcgregor+partners（渡航日未定）

現在：父の会社、株式会社リフォーム鹿児島、保住建株式会社にて、UFUGで学んだアイディアを盛り込んだ新規プロジェクト LOSFEE project (Lifestyle of Social, Function, Ecology and Economy Project) を立ち上げ、国内外のステークホルダー（仲間）と協力してよりよい環境をつくろうと奮闘中。

お問い合わせ：kiyomail4@yahoo.co.jp

それに気がつけば、よい環境をつくる為に、世界中の人々の声に耳を傾ける必要がある。相対するような意見でも、そこには問題を解決するための糸口が見つかるかも知れない。

よい環境をつくるためには紛争が尽きない。しかし、その紛争を無くす努力を惜しんではいられない。そんなことを学んだ、私のUFUG。皆でよい環境をつくりたい。そんな仕事を世界中の人々と…

Better City for Better Life!



コペンハーゲン大学 (University of Copenhagen)



SLUのキャンパス



左から保、UFUG (Urban Forestry and Urban Greening) のスウェーデンでのリーダー、ローランド (SLUの教授。ランドスケープアーキテクト)。その隣は City Planning のナタリー (ベルギー)、一番右は中国人の建築家。

● Urban Forestry & Urban Greening (UFUG)

(<http://www.nova-university.org/ufug/>)

- ・北欧、コペンハーゲン大学とスウェーデン農業科学大学で行われる1年のマスタープログラム。
- ・北欧すべての農業大学が協力して作られた、実験的、未来型ランドスケーププログラムであり、ミドリに関して建築、ランドスケープ、森林学、園芸学、生物学、地質学、都市計画、社会学、アートに加えて、政治、経済、社会学、心理学、マネジメント、コミュニケーション、マーケティングまで幅広く学ぶことができる。
- ・キャンパスはコペンハーゲン大学 (2007年1月デンマーク農業大学とコペンハーゲン大学統合) とスウェーデン農業科学大学 (マルモ近郊の小さな町 Alnarp に位置する。本校はウプサラ)。

<コペンハーゲン大学での講義>

● Urban Forestry & Urban Greening Thematic Course

UFUGの基本的概念を学ぶ。コペンハーゲンの都市化された郊外にある公園を再生するプロジェクトで、その基本概念の理解を深める。公園に関しての政治、経済、ランドスケープ、マネジメント、マーケティングなどの必要性を学ぶ。

● Conflict Management

都市化が引き起こす、環境紛争を解決する術を勉強する。心理学もさることながら、実際に紛争している地域に赴き、渦中の人々にインタビュー。紛争の原因を探る。

● Urban Woodland Silviculture

都市におけるグリーンリソース（ミドリ資源：街路樹、公園、森など）を100年のスパンで再計画、マネジメントの方法を勉強。特に、自然の森をレクリエーションフォレストにするための、木々の選定、コントロール、経済性も考える。

<スウェーデン農業科学大学 (SLU) での講義>

● Communicative Planning

都市化する里山に対して、市町村、住民と議論しよりよい町とミドリが共存できる空間を考える。子供から大人まで楽しめるグリーンをプランニングする。市町村にてその成果をプレゼン。よい案ができれば、そのプランは実際に採用される。

● Degree Project (論文)

それぞれ、UFUGを通して学んだことを中心に修士論文を書く。私の論文は、Great Landscape into Urban Forestry and Urban Greening (風景画研究)。学部での論文を続けることができた。

ほかの学生は、アフリカのグリーンマネジメントの研究、屋上緑化、アイスランドの森デザイン、ドイツの安価なグリーンマネジメント、コペンハーゲンの森、パークマネージャーの研究など…



スウェーデンでのプロジェクト。子供たちのための森をつくろう！というプロジェクト。子どもたちと一緒に森づくりを行う。

クイーンズメドウ・ カントリーハウスの 馬付住宅(馬100頭) プロジェクト

所在地／岩手県遠野市附馬牛町

プロデューサー／今井隆(株) アネックス

デザインディレクター／田瀬理夫(株) ブランタゴ

プロジェクト規模／馬付住宅1棟 本館1棟 乗用馬6頭

バドック 山林 放牧地 水田(実験実証期)

設計／ランドスケープ／田瀬理夫(株) ブランタゴ

担当 小橋浩子(元所員) 小田部真由美

設計／馬付住宅／永田昌民/N設計室 + 谷 英樹/谷設計所

設計／本館／高木雅行(有)アルキノーバ

担当 千葉真樹子(谷口研卒) 川村知嘉(元所員谷口研卒)

施工／林崎俊勝(有)林崎建設

マネージャー／徳吉英一郎 徳吉敏江

推進・広報／鶴島孝一(株)未来風景舎

馬ブリーディング・有機農法／岩間敬／岩間牧場

QUEEN'S MEADOW
COUNTRY HOUSE

たかぎまさゆき 高木 雅行



一級建築士事務所 有限会社アルキノーバ
電話：03-5333-6604
ファックス：03-5333-6605
e-mail：info@archinova.jp
URL：http://archinova.jp

1955年 茨城県笠間市出身

1974年 東京都立雪谷高校卒業

1979年 工学院大学建築学科卒／山下研究室

1982年 工学院大学大学院修士課程建築計画学専攻 修了

1982年～1995年 株式会社SUM建築研究所

1995年 一級建築士事務所 有限会社アルキノーバ 設立

1991年～2000年工学院大学建築系学科同窓会会長

1998年～2005年 工学院大学建築学科非常勤講師

受賞

1980年 大和ハウス工業主催 住宅設計コンペ 佳作

1980年 横浜市主催 横浜21世紀の未来像 入賞

1981年 UIA国際建築家協会主催 国際学生コンペ 最優秀賞 フランス賞

1983年 OISTT国際劇場技術協会主催 国際コンペ 第一佳作

1993年 宮城県大河原市主催大河原公園周辺整備計画コンペ 特別奨励賞

2002年 『記憶を継承する住まい』でグッドデザイン賞

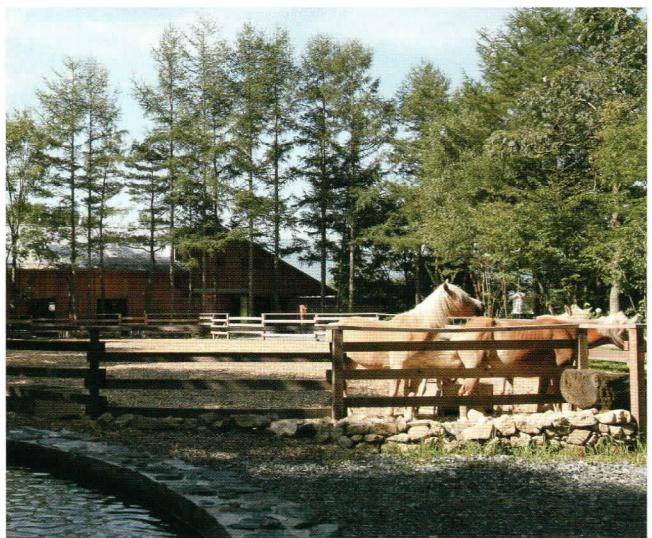
2003年 あたたかな住空間デザインコンペティション 新築の部佳作

2007年 『クイーンズメドウ・カントリーハウス』で グッドデザイン賞

岩手県遠野はかつて人よりも馬の数が多い、日本一馬密度の高い地域だった。現在、かつての馬文化を象徴する「曲り家」を収集した民家園（ふるさと村）があり、数頭の馬もいる。また競走馬の調教師のトレーニングや乗用馬の育成調教センター「馬の里」もある。だがそれらは遠野の人々の日常の営みではない。本計画は毎年仕事を求めて都会へ出て行く若者が留まり、生き生きと暮らすことのできる遠野の新産業基盤構築のプロジェクトである。「水と馬」をテーマとし、水は環境の象徴、馬は生活文化の象徴。二つとも昔から受け継がれてきたものでありながら、今、失われつつある大切な価値。その価値を守り、再生させ、復興させ、未来へ繋げるためのプロジェクト。こうしたプロデューサーの今井隆氏、デザインディレクターでランドスケープアーキテクトの株式会社プランタゴ田瀬理夫氏の強い意志の元、本館担当建築家として参加させていただきました。本事業は、財団法人日本産業デザイン振興会主催 新領域部門 2007年度グッドデザイン賞受賞が確定し出稿時現在特別賞金賞にノミネート中です。また、このプロジェクトには卒業生の千葉真樹子さん、川村知嘉さんも設計担当者として参加しました。

■ 現代版曲り家

遠野はかつて日本一の馬産地で人と馬がひとつ屋根の下に住み、曲り家、屋敷周り、田や畑、草刈り場、放牧地、



手前の一次 貯留池越しの馬付住宅全景。パドックには3組の親子馬

駒形神社と馬溜まり、といった人と馬との関わりが連続的に営まれていた。1955年の馬農家2000戸、馬4000頭は、1975年までに60戸、75頭に激減した。数百年培ってきた馬と人とが関わる環境の形成システムは、20年でなくなってしまった。

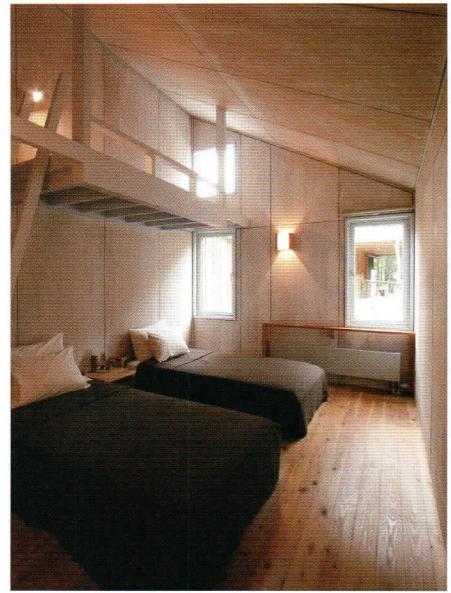
本計画は馬付住宅を核とした地域再生プロジェクトであり、新しい農的発想に基づいた「住宅・生産・観光」事業の展開により、遠野馬文化復興、環境再生、地域経済の新基盤構築を目指すプロジェクトです。1.自然循環型土地利用による開発手法。2.住み主の経済を支える住



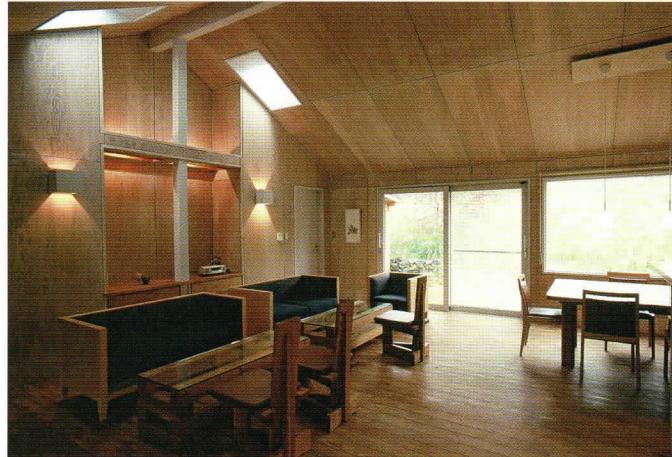
本館ドマリウム 乗馬ブーツのままくつろぐことが出来る。正面は囲炉裏と暖炉の機能を併せ持つイロダンロ



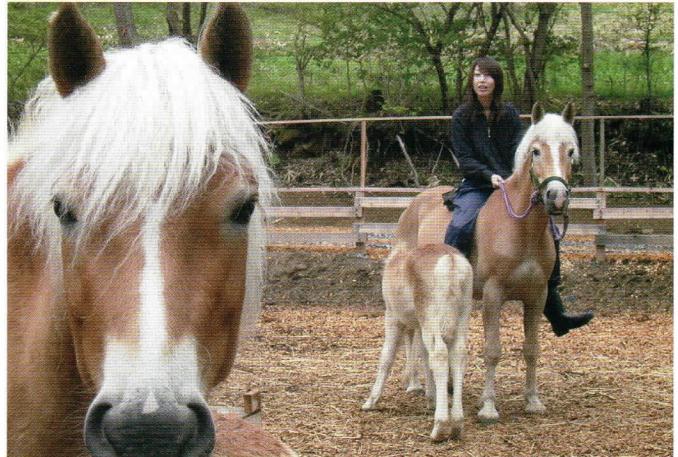
馬付住宅の通り土間から見た本館



本館ゲストルーム。家族で利用可能なロフト付



本館リビング 地元産カラ松材のフローリングや家具、照明器具



パドックでの乗馬体験。
ハフリンガーは丈夫で優しく、誰でも乗りやすい。

宅の開発（Bed & Breakfast 事業の運営）。3. 乗馬文化を創出する品種馬の導入・生産・育成・管理事業の開発（調教、breeding）。4. 乗用馬文化と山間生活を中心とした滞在体験型観光事業の開発。などが行われている。

■ 水

水系の保全・農薬や化学肥料で汚染されていない水系（沢）から取水し、自然流下で馬用に給水、人用には一次貯留池を介して浄化活性化プラントで貯留・浄化し供給している。汚水・雑排水は浄化槽で一次処理後水生植物の繁る水質浄化池を2カ所経由して河川に放流している。

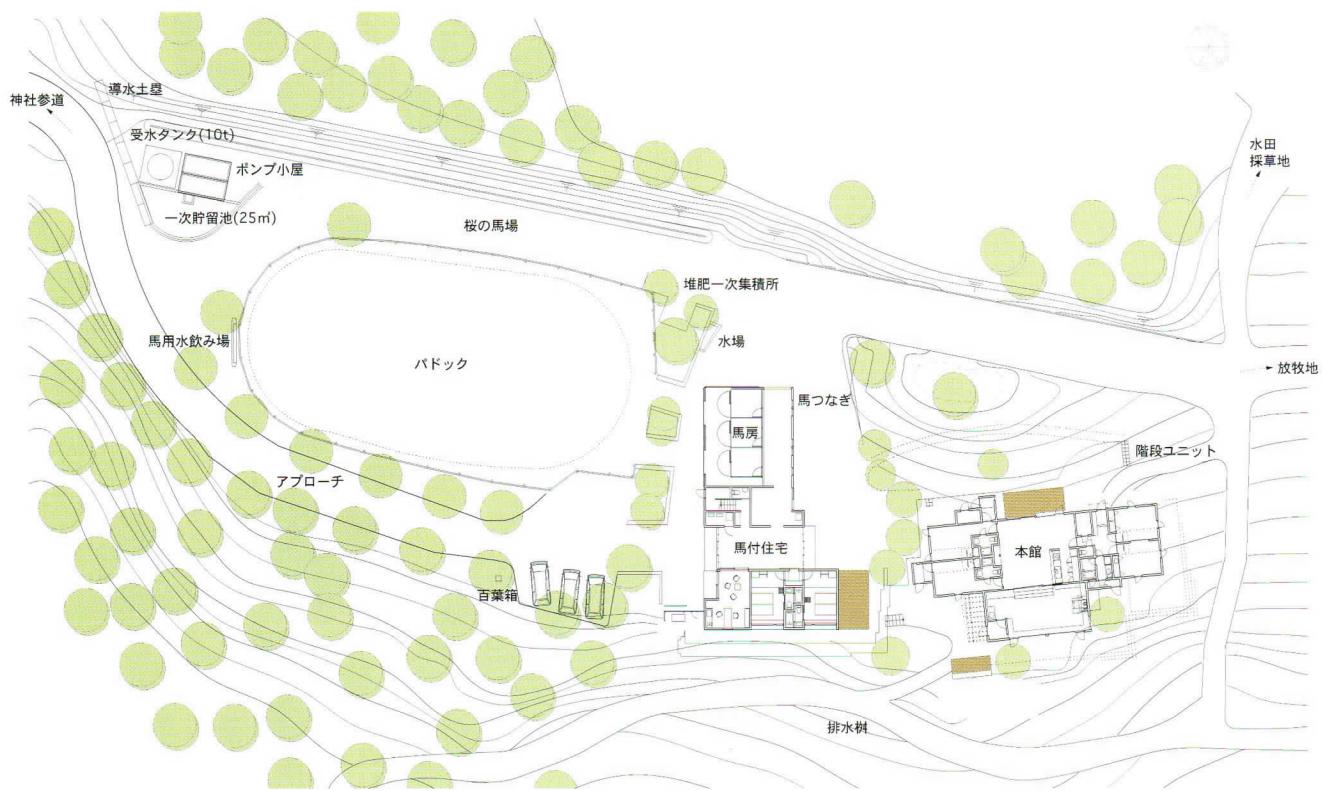
■ 馬

事業敷地は開祖700年の駒形神社に近接し、施設へのアプローチは神社の参道である。倒れかけた鳥居を新しく敷地山林の材を馬でひいて奉納、例祭には馬で参詣し、数十年ぶりに子馬安産祈願の本格的な絵馬を奉納する

等、途絶えていた伝統的馬文化の行事の再生に積極的に関与している。2005年5月オーストリアチロル地方の世界ハフリンガーショウを視察し、ハフリンガー種の性質、運動能力、環境適応能力等確認した。視察メンバーの一人は遠野市長の特使として参加。ハフリンガー協会本部との公式なコミュニケーションを開始し、2006年9月極東で初めて同種の繁殖牝馬3頭を買付け、同年11月遠野に到着。3頭とも無事出産した。

■ 馬付住宅

永田昌民先生と谷秀樹氏により設計。様々な場所に様々な規模で展開されることを踏まえ、その変化に対応できるよう、建物の機能をゲストルーム、管理室ブロック、馬房、納屋ブロック、そして住居ブロックとし中心に生活を支える場として土間をもつパイロットハウスとして計画された。



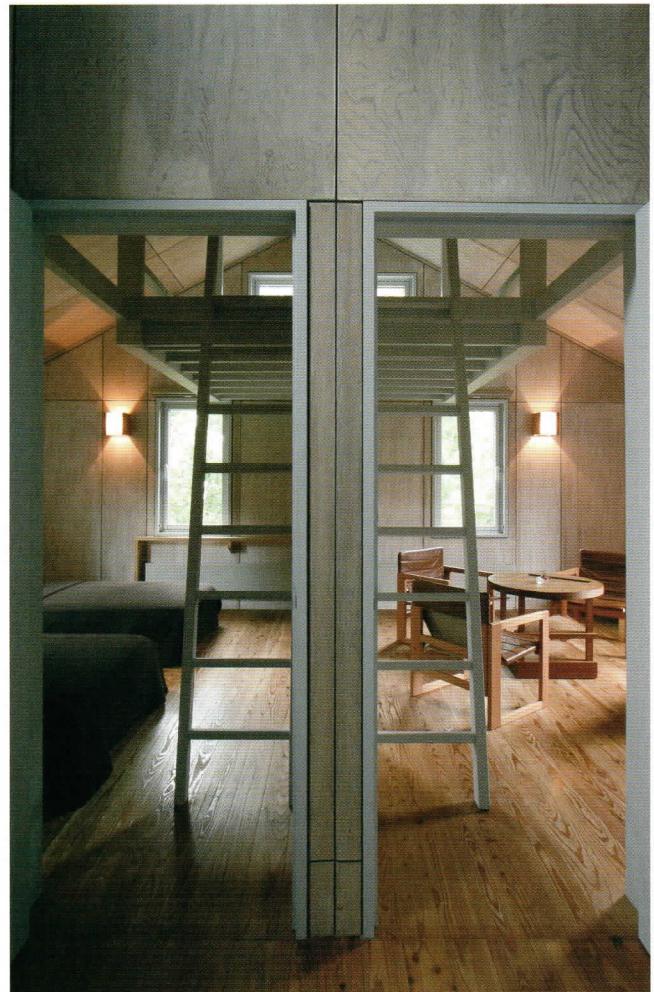
配置図（中心部分）馬付住宅、本館、パドックを中心に、周辺に水田、採草地などがある

■ 本館

パドックの南側、東から西に下る斜面に等高線に平行に配置された平屋の建物。施設全体のリビング・ダイニングの機能をもつ土間と最大10名が宿泊可能な3つのゲストルームで構成される。建物は単純な切り妻でパドックと同じレベルにセットされた居間・食堂と両側に開口部を抑えたゲストルームを配置。居間からは東側、桜の馬場越しにスカイラインまで見通せる。西側は800下ったレベルを開放的な土間とし眺めの良い斜面を見下ろすプランとしている。ゲストルームには違うグループが宿泊した場合を想定しそれぞれ専用の出入口を備えた。こうした構成は馬付住宅数棟毎に設置するセンターハウスの基本プランを想定している。ドマリュウム（土間のアトリュウム）にはイロダンロ（囲炉裏の機能を持つ暖炉）、カマド、ベンチ、ライブラリー等を備えている。本体の構造的外壁とフレキ板の間に20ミリの空気層をはさみその上に地元に自生するツル植物（ツルマサキ）を誘引し湿度や日差し等環境負荷を軽減している。内装、家具、照明には地元産唐松を積極的に使用し、白熱灯の木に反射する明かりの空間としている。

■ オープンデスク

今年弊社には3名の学生がオープンデスクに参加した。様々な体験を通して、設計事務所の役割や業務を感じ取ってくれたようだ。学生さんは積極的に設計の仕事を体験して、ものづくりの楽しさを感じて欲しい。



本館ゲストルーム（スイートルーム）滞在型セミナー等にも利用



木の中学校



や た か ず ひ ろ
矢 田 和 弘

690-0855 島根県松江市浜佐田町 982-1
TEL 0852-36-8266 FAX 0852-36-9133
e-mail:kankyou@ceres.ocn.ne.jp
<http://www11.ocn.ne.jp/~kankyou/>

1944年 島根県生まれ
1962年 島根県出雲産業高校 卒業
1966年 工学院大学建築学科（波多江研究室） 卒業
1976年 環境計画建築研究所 設立
1981年 有限会社に改組 現在に至る

JIA（日本建築家協会）の大会には、旧家協会以来ほとんど出席してますが、工学院の先生や同窓生に会えるのも楽しみです。若い時ローマにホームステイしていましたが、UIA2008年トリノ世界大会に参加し久々にイタリア各地を巡りたい。

業務経歴

- ◆山口邸（第1回島根県建築賞 大賞）
- ◆陶芸家の家邸（旭硝子全国住宅作品 最優秀賞）
- ◆浅野小児科（第1回しまね景観賞）（第2回松江賞）
(解体復元) (2007年6月国登録有形文化財に指定)
- ◆重国住宅団地（第6回しまね景観賞）
- ◆松江大橋南詰公園（第6回しまね景観賞）（共同設計）
- ◆松江市立中央小学校・幼稚園（第8回松江市優良建築賞）
- ◆末次公園レストラン（第1回しまね建築文化賞）

以下コンペ実施例など

松江東キリスト教会・レストラン「シェリール」
西郷小学校・山陰セキスイハウス「家学館」・月照寺「高真殿」
横田町ポケットパーク

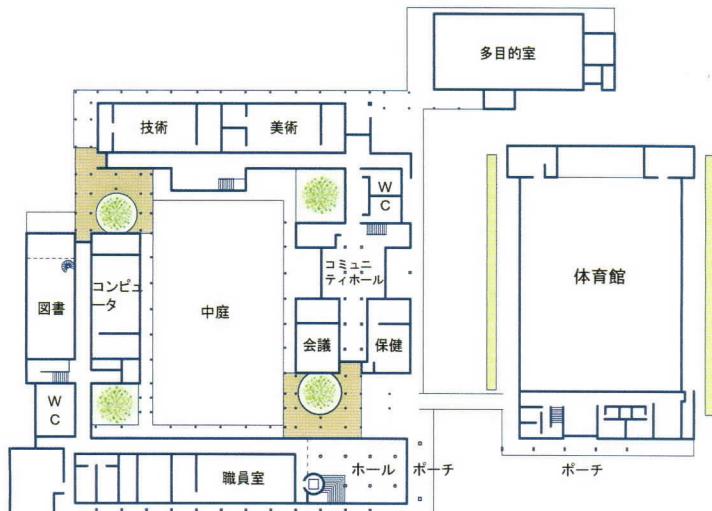
由志園「菖蒲亭」 「現代日本の建築」に掲載
鹿島CATV放送局舎 「現代日本の建築」に掲載





【地元の木で造った木造校舎】島根県安来市立広瀬中学校

■木の学校



1階平面図

島根県安来市立広瀬中学校

●校舎棟：木造一部RC造2階建

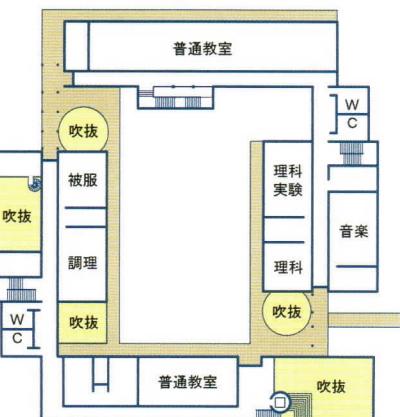
敷地面積 38,600 m²

●体育館棟：RC造一部S造2階建

延べ床面積 4,204 m²

●部室他付属棟：木造

延べ床面積 1,726 m²



2階平面図

2007年に開校したばかりの島根県安来市立広瀬中学校は、旧広瀬町（現安来市）内の4つの中学校が統合された新設校で、地元の木を使い、地元の大工が大勢参加して建設した学校だ。2003年春、旧広瀬町によって鳥取・島根両県6社指名の設計者選定プロポーザルが実施され、我社が最優秀に決定。設計を手掛けることになった。この木の中学校ができるまでには、実にさまざまな糾余曲折があった。当初はRC造での建築を予定していたが、設計をほぼ終えた頃に旧広瀬町と旧安来市が合併。今まで旧広瀬町にあった主導権が旧安来市に移る形となり、大幅な計画の見直しが行われることになったのだ。一度業務が完了し、支払いを受けた後に、規模等を再検討した。当時、旧安来市では「木造で公共建築をつくろう」という気運が非常に高まっていたこともあり、RC造を

木造に変更して規模を縮小しようという方向に計画が変更された。改めて設計契約が取り交わされ、結果的には校舎を1000 m²、体育館は300 m²縮小することに。そして「徹底して地元の木を使った校舎」が建設されるという、市を挙げての大事業がスタートすることになった。

とはいって、1600 m²もの木材が実際に調達できるのか？また、これだけの量の切り出しをノウハウもない状態でできるのか？正直、当初は不安だらけだった。しかし、市の担当者、設計者、森林組合の三者が市内14ヶ所の山林で調査した結果、樹齢50～60年の杉を中心に伐採時期を迎えた木が大量にある事が判明。また、森林組合や木材協会、建築組合の大工達と何度も協議を重ねた結果、この計画が実行可能であることが確認でき、本格的に設計を開始した。

2005年秋、桧の大木が林立する山中でひときわ見事な立木にしめ縄がかけられ、厳かに「斧入れの儀」が執り行われた。この「斧入れの儀」とは、神主の先導のもと関係者が樹木に斧を入れるという大変珍しい儀式で、当日々市長と議長、そして設計者、森林組合、木材協会の各代表者の5人が、大勢の列席者が見守るなか、力強く斧を各3回ずつ大木に入れた。儀式を滞りなく終え、早

速径80cm程の桧1本を切ってみたが、その切り口から桧特有の香りがあたりいっぱいに広がったことを今でも思い出す。

約7000本もの大木を山から切り出し、建築用材として利用した木材は、杉が1400m³で桧が200m³。梁は強度上の問題から米松を使用しているが、体育館も積極的に地元の木を使い、部室など付属棟は木造に。RC造で



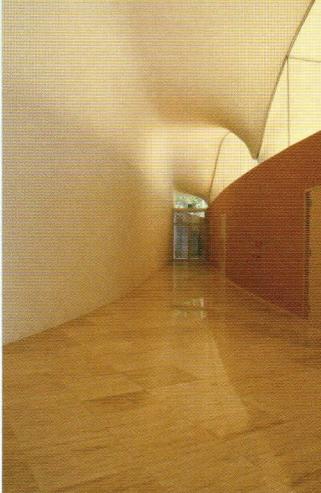
設計した当初案は、教室棟を教科教室型にしていたが、
1000 m²縮小したため、図のような形になった。

そして2007年4月、いよいよ木の香りの中学校が開校。
太い柱に抱きつき、喜ぶ生徒達の様子が、始業式翌日の
新聞各紙に掲載された。木の提供者や工事関係者のなか
には、現在子供がこの中学校に通っている人もいれば、
将来孫が通学する人もいる。「あそこの柱は、うちの山

から切り出した木」「ここはお祖父さんが手がけた場所」
など、この学校づくりの諸々が土地の人々に今後語り継
がれていくであろうことを思うと、この仕事に関われた
ことを大変嬉しく思う。スタッフ共々、本当に建築家冥
利に尽きる仕事であった。



瞑想の森 市営斎場



よこた れい
横田 歴男

連絡先 東京都三鷹市北野1-1-29
TEL / FAX 0422-45-7472
Email leo@pj9.so-net.ne.jp

1970年 東京都生まれ
1989年 茨城県立藤代高等学校卒業
1994年 工学院大学建築学科卒業（山下研究室）
1997年 東京芸術大学大学院修了
1998 - 2006年 伊東豊雄建築設計事務所勤務
2007年 横田歴男建築設計事務所設立

伊東豊雄建築設計事務所在籍時の主な担当
99年 せんだいメディアテーク
00年 Blurring Architecture 展
01年 まつもと市民芸術館
04年 瞑想の森 市営斎場
06年 伊東豊雄 | 新しいリアル展

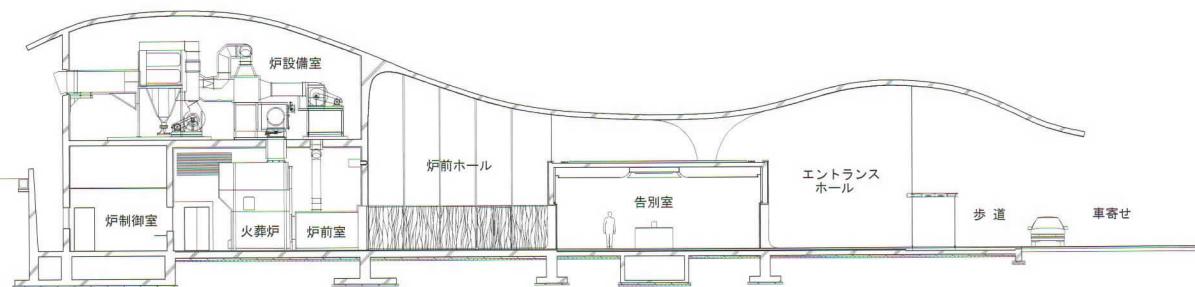
8年間在籍した伊東豊雄建築設計事務所で関わった公共建築のうち、せんだいメディアテーク、まつもと市民芸術館に続く瞑想の森市営斎場は、所員として最後に担当したプロジェクトであった。

岐阜県各務原市の北西部、緑豊かな環境に建つ火葬場の計画である。周囲には里山が連なり、前面には溜め池の拡がる静かな敷地に対し、故人との最期の別れの場として、また、公園墓地として整備の進むランドスケープとも調和した建築のあり方が求められた。そのような場に対してイメージしたのは、いわゆる火葬場然とした重厚かつ閉鎖的な建築の姿ではなく、喻えるなら空を悠々と流れる雲が形を変えながら敷地を覆っていくような、やわらかい場の形成である。

なめらかな凹凸を繰り返す屋根はRC自由曲面シェル造であり、自然界に存在する有機的な形を単に表面のみ真似るのではなく、植物のような有機体が成り立つ過程そのものを空間デザインに結び付けよう試みた。初期のスタディモデル（天井高さや柱壁位置などの空間構成

を示すモデル）をもとに、構造上最も有利な形状をコンピュータで生成する最適化手法を用いている。そのプロセスは、あらかじめゴールを設定し、その目標に向かって合目的的に作業を進める従来の手法とは全く異なり、草花が自然の摂理に従い徐々に成長を繰り返す過程に近いことから「進化」と呼ばれる。自然界に存在する花に一つとして同じ形が生まれないと同様に、建築家にも構造家にも最終形のわからぬ解析プロセスは実に刺激的であった。

意匠・構造・設備の諸条件をもとに数百回の進化を経た結果、表面積 2630 m²、スラブ厚 20cm の、ランドスケープそのものとも言えるような大らかな曲面が得られた。その形状は 1 m ピッチに配された計 3690 個の点で定義されており、施工時には光波測定を繰り返し、全ての点でレベル誤差 ± 10 mm 以内となるよう厳密な精度監理を行った。屋根の下には計 4 つの構造コアと計 12 本の円錐柱をバランス良く配置し、それらを頼りに儀式の場を点在させている。

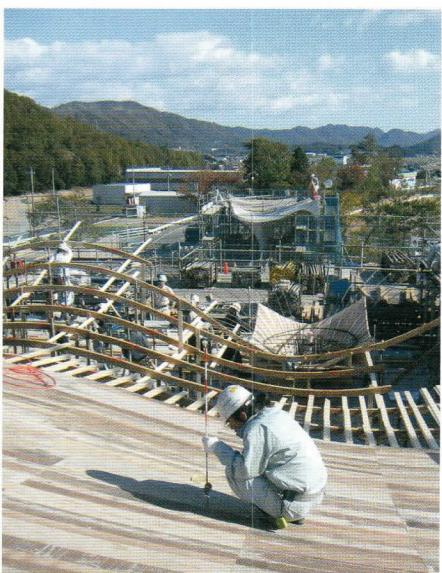




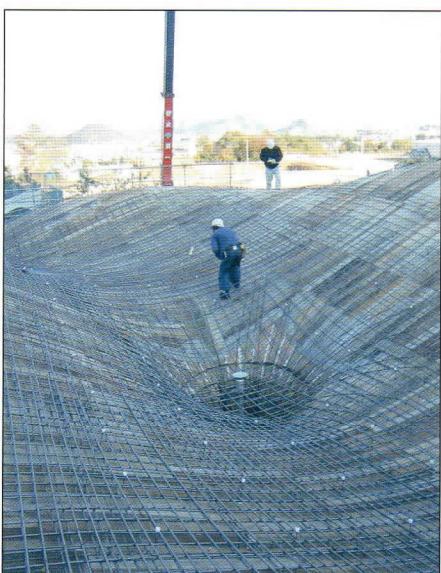
告別室



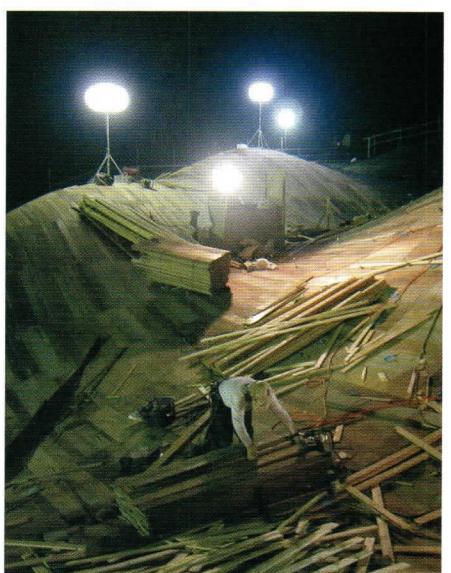
待合ロビー



± 10 mm以内のレベル精度監理



D13 の現場曲げ配筋工事



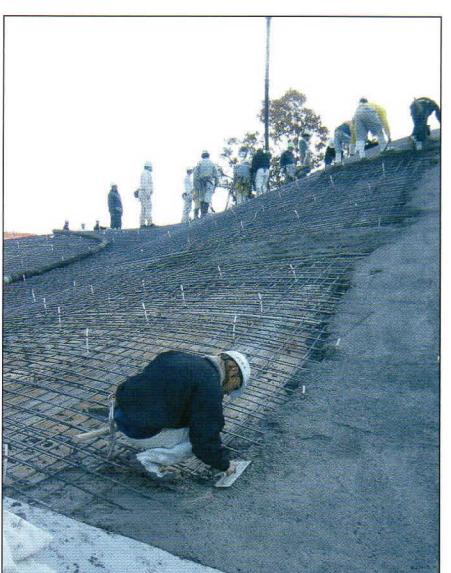
曲面屋根型枠工事



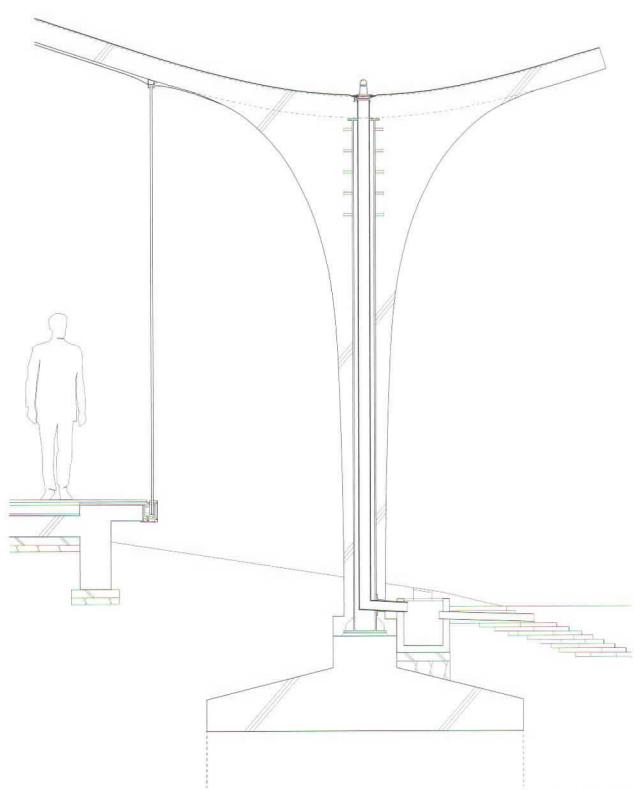
円錐柱の型枠脱型



屋根型枠を支持する大引と根太



繊細さを要するコテ押さえ作業

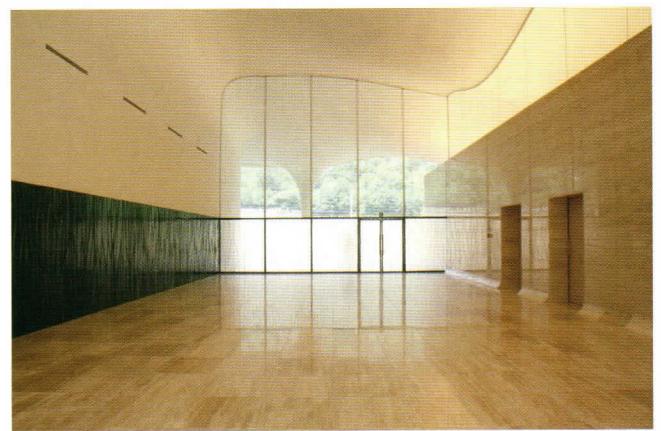


柱断面図

天井面となめらかに連続して立つ計 12 本の円錐柱には、構造・意匠・設備の各要素が最もシンプルな形で統合されている。

柱内部には屋根の自重を受ける構造鋼管があり、さらにその内側に雨水用配管を通す構成となっている。屋根の庇先端に雨樋を設けていないため、雨水はこの柱を通して溜め池へと排水される。

空間を成立させる諸要素を統合することは、この建築を単なる形遊びの彫刻作品ではなく、あくまで建築として成立させるためにも必要不可欠であった。



炉前ホール

30年前の今— ベンガラ塗りをテーマにした 一連の住宅群について



ふじもと ゆきみつ
藤本 幸充

220-0023 横浜市西区平沼1-40-9-1015
TEL 045-312-6604 FAX 045-316-1453
e-mail:info@kamakobo.com
http://www.kamakobo.com

1950年 鎌倉生まれ
1968年 神奈川県鎌倉高校 卒業
1971年 横浜市立大学商学部 中退
1978年 工学院大学建築学科（伊藤研） 卒業
1981年 鎌倉設計工房設立

鎌倉市大船で生まれ育った家は、8帖と6帖の和室が続き、庭に面した縁側が2間をつなげていた。縁側は雨の日、子供達4人の遊び場となった。今、考えると15帖の平家に一家7人が住んでいた事になる。住宅の設計に当たり、その時感じていたあたたかさや振り返ってみての落着きを表現するようにしている。

業務経歴

- ◆建築の企画、設計、監理業務
- ◆まちづくり支援コンサルタント業務
- ◆古建築の調査資料作成業務（古民家の保存再生利用）

受賞作品

| | | |
|------|--------------|----------------|
| 1981 | 神奈川県建築コンクール | 最優秀賞一大磯の家 |
| 1983 | 神奈川県建築コンクール | 優秀賞—藤沢の家 |
| 1984 | 神奈川県建築コンクール | 最優秀賞—能見台の家 |
| 1986 | 神奈川県建築コンクール | 優秀賞—藤沢の家 その2 |
| 1988 | 神奈川県建築コンクール | 佳作—横須賀の家 |
| 1990 | 神奈川県建築コンクール | 奨励賞—横浜の家 |
| 1994 | 神奈川県建築コンクール | 奨励賞—逗子・県営久木団地 |
| 1998 | 神奈川県建築コンクール | 奨励賞—鎌倉古陶美術館 |
| 1998 | 横浜市優良建築設計者表彰 | ズーラシアアマゾンセンター |
| 1999 | 第7回住宅金融公庫賞 | 金賞—グリーンコート江古田 |
| 2000 | 神奈川県建築コンクール | 優秀賞—港南台の家 |
| 2004 | 神奈川県建築コンクール | 優秀賞—鎌倉二階堂の家 |
| 2005 | 神奈川県建築コンクール | 奨励賞—ぎゃらりー「Yui」 |

+ kamakobo



ギャラリー Yui + KAMAKOBO
道路側外観



ギャラリー Yui + KAMAKOBO
西庭。木部ベンガラ。



ギャラリー Yui + KAMAKOBO
西庭をみる。玄関部が室内に入り込む。

30年前、夏の暑い時期に岡山県、倉敷美觀地区の旅館に宿泊していた。

当時工学院大学伊藤研究室で行っていた倉敷調査もほぼ終わりに近く、建物以外の石灯籠など地区内の景観エレメントの調査を補うべく現地を訪れていた。

「いいところに連れて行こう」、研究室を知る旅館のご主人に誘われ車に乗り込むと、倉敷からは北西部にある吹屋（川上郡成羽町）に辿り着いた。ここは明治末から大正にかけて日本三大銅山のひとつであったが、その後衰退し、昭和47年には閉山。繁栄していた頃は街道沿いに180ほどの家々が連なり、それに病院、社宅、劇場までがあったという。

訪れた当時の吹屋は閉山後10年近く経ち、家々は戸が閉まりゴーストタウン状態。

付近にまったく人の気配がない。

「ここの中庭がいいんだよ！」、とある家の木戸を開けるご主人。奥座敷の雨戸を開放すると、灯籠ひとつが光を受ける坪庭が現れた。光庭となって周囲の座敷を照らし出す。2階床板が天井板も兼ね、支える根太や梁が浮かび、ベンガラで赤茶に塗られ影さえも染まったような独特の空間を漂わせていた。

吹屋は繁栄当時、他の鉱山から硫化鉄も多量に産出し、これを原料としたベンガラの生産も著しく、陶磁器、漆器の顔料や防腐剤として建築木部に使用され、吹屋でもベンガラで財を築いた豪商の家をはじめ、連なる家々の内外が赤茶色、或いは煤（スス）を加えた黒色で塗装されている。

このベンガラと白壁とのコントラスト、30年前の色彩体験は心の奥に強く残っていた。

1998年度、神奈川建築コンクール受賞の「鎌倉古陶美術館」（福井県の古民家移築）設計の頃、構造体を担当した岐阜郡上八幡の山石古民家工社からベンガラ塗装の現場を紹介され懐かしく眺める機会がであった。当美術館でも化粧軒裏と一階部分外壁に施すことにし、黒に近い濃紫色を塗ってみた。二階部白壁とのコントラストが強烈で吹屋の体験を思い浮かべ、美しさの印象が重なった。

「多様な色彩の現代住宅にあって、ベンガラの赤茶色や黒紫色とその陰影、特に白壁との美しさを伝えてゆきたい。」、湘南地方の建売住宅などにヨーロッパ風のレモンイエロー サーモンピンクなど地中海風の色が目立つこの頃から強く意識するようになった。

2000年度神奈川建築コンクール受賞の「港南台の家」では、分離発注だったこともあり自らベンガラを塗ってみた。

3畳ほどの玄関まで屋根で覆われた外部アプローチスペース、ここに入り込む外壁や塀、化粧軒裏や下駄箱、全てベンガラで塗った。栗の柱にもあえて塗った。時にご主人の喫煙場所ともなるこのスペースは暗くなつた分、外は良く見え、町屋の千本格子の座敷から外を見る安心感に近い。

2004年度コンクール受賞の「鎌倉二階堂の家」http://www.tv-tokyo.co.jp/dreamhouse/lastweek_030801.htmlでは、もっとも赤に近いベンガラを塗った。使用している塗料は事前に調合された製品で粉を混ぜる本格的なものとは異なる。表面が化粧の外羽目に塗装する場合、剥がれやすい。現場でのコストコントロールもあり、外壁ラスモルタル下地に使用する木摺板を外羽目に使用した。



「鎌倉二階堂の家」
北側玄関アプローチ
塀は3段おとした色



「鎌倉二階堂の家」外観

表面の粗いこの板が、よく塗料を吸い込み、しかも取れにくい。外壁に陰影をつける大和張りにして予算にゆとりのない限り以後標準仕様としている。

毎日というわけには行かないが日光浴を兼ねた外での塗装作業はいい気分転換になる。塗装部位を見つめるので垂木、母屋、面戸、軒裏の隙間チェック、釘の確認なども同に行う。

2005年度受賞の「ギャラリー Yui + KAMAKOBO」でも一階部分の外壁板を塀にまで延長、延べ11mの壁としている。木摺板の荒さがテクスチャーとして生きる事が判明。また南側塀を室内まで延長し、テーブルやカウンターなど家具もウレタンをかけたベンガラ塗装、外部とインテリアを繋げている。

2006年9月にテレビ放映された千葉の田村邸(http://www.tv-tokyo.co.jp/dreamhouse/special11_060903_01.htm)は「団塊世代、定年後の第二の人生を田舎暮らしで」、今日的なテーマもあってか反響は大きかった。

外壁、軒裏のみならず内部の吹き抜けなど柱梁、構造材すべてをベンガラで塗った。塗装面積は過去最大。素地仕上げにこだわり大工は反対、施主も及び腰、天井小屋組を塗った山梨の現場を見学し、ようやく了解を得る。吹き抜けなどの高所は内部足場を架け我々が塗ったが外壁の木摺板200枚の表裏はすべて施主の塗装。月明かりのさす吹き抜け開口や庭側の開口があるので暗過ぎず明るすぎない。大工は不満そうだが、施主、客人にはすこぶる評判が良い。

ベンガラ塗装によって丸太の膨らみ加減、柱梁角材の角の線群、そして木目がはっきりする。陰影もベンガラに染まった感じを天井面に見て30年前の吹屋での体験を思い出した。

昔はベンガラ(酸化第二鉄)の粉を一ヶ月ほど水につけ、雑巾がけのように塗り、乾いてから菜種油を擦り込むように塗る。2、3ヶ月の油分の乾燥を待って、さらに数回のからぶきを行ったそうだ。

今はあらかじめ、「調合されたベンガラ」【ベンガラ-酸化第二鉄を800度の特殊釜で焼いた赤い鉄の微粒子を原材とした無機顔料、と溶剤-水溶性エマルジョン、天然樹脂(カルナバ樹脂)界面活性剤など】をスポンジで擦り込む。カラ拭きすれば艶が出、圧倒的に工期が短い、維持管理が楽と時代に沿う。

渋い感じのベンガラ住宅だが3軒に一軒は若い夫婦である。

歴史が一巡りし、昔の素材が目新しく映るのだろうか。



「鎌倉古陶美術館」外観



「鎌倉古陶美術館」2階展示室



「港南台の家」外部丸窓の内側
奥行 90cm 程度の庭があり手前の座敷地マドとつながる。



「港南台の家」中央が喫煙スペース（玄関アプローチ）



「千葉田村低」外観
茅葺き屋根の門から見る。外壁板は全て施主の塗装。



ながさわ
長澤 やすし
泰

PROFILE

工学院大学工学部建築学科教授（東京大学名誉教授）
工学博士（東京大学）、Dip. HFP（英国）、一級建築士、インテリアプランナー
工学院大学新宿校舎 2573 号室
TEL/FAX:03-3340-3441
e-mail:donya@pop13.odn.ne.jp
1944 年 福島県生まれ（東京都立小石川高校卒業）
1968 年 東京大学工学部建築学科卒業、卒業設計賞（辰野賞）受賞、

JIA 学生デザイン賞金賞受賞、芦原義信建築設計研究所所員
1974 年 厚生省病院管理研究所研究員
1977-78 年 北ロンドン工科大学医療施設研究所留学（ブリティッシュカウンシル奨学生）
1980 年 厚生省病院管理研究所主任研究官
1989 年 東京大学工学部助教授
1993 年 東京大学工学部教授、建築学会賞（論文）受賞
1996 年 東京大学大学院工学系研究科教授
2007 年 工学院大学工学部建築学科教授
著書に、建築地理学（東大出版会 2007）、建築計画学（市ヶ谷出版 2005）、建築設計資料集成拡張編・福祉・医療（丸善・2002）、Theoretical Perspective in Environment-Behavior Research (Kluwer Academic/Plenum・2000)、新建築学体系－31 病院の設計（彰国社・2000）、The Geography of Hospitals (University Studio Press・1999)、District Health Facilities (WHO・1998)、パリア・フリーの生活環境論（医歯薬出版・1997）、SPACE DESIGN SERIES - 4 医療・福祉（新日本法規出版・1995）ほか多数

新しい風に聞く

新任の挨拶

2007 年 4 月に建築学科専任教授として着任した長澤です。建築計画学を専門としています。

講義は、学部では、第一部公共建築計画、地域施設計画、環境・建築概論、そして建築設計、第二部地域施設計画、大学院では、医療施設計画特論、社会福祉施設計画特論の担当です。

これまで、学校、病院、福祉施設といった各種建物別の計画研究を行なってきました。特に、少子高齢社会で重要な「健康」の問題に着目して、近年注目されている居住・医療・福祉に関する建築（構築）環境の歴史・現状、そして将来の姿を「実感」としてとらえたいと考えてきました。最近は、新しい建築計画学の方向性を発見して、「地理的環境」をキーワードとして横断的研究を開始しています。そして「建築地理学」を学問として体系化することに努力しています。

研究室では、現実の社会の中で建築の企画・計画・設計に携わりたいと考えている学生諸君と共に、建築計画に関する内外の文献・論文の講読や見学会等をおこない、特に建築以外の分野の研究者・実務者との交流を計ることも重要であると考えています。

と言いますのは、これまで大学卒業後、民間の設計事務所で設計の実務を経験し、国立の直轄研究所や国連機関

での研究を実施し、次に国立大学で研究・教育に携わるといった経歴を通して、内外の民・官・学のさまざまな分野の人々と交流を図ってきましたが、そのことが研究の視野を広め、社会に役立つ成果を創造するための秘訣であると感じたからです。

現在は、医療福祉施設計画に関連する全世界の研究者・学生のネットワーク GUPHA (Global University Programs in Healthcare Architecture : 保健医療建築地球規模大学間フォーラム) を組織して、その事務局長として、世界各地の研究者・実務家そして学生の皆さんとの情報交換、研究協力を行なっています。

学外では、日本医療福祉建築協会 (JIHA) と日本建築マネジメントセンター (JCMC) の会長、国際病院設備連盟 (IFHE)、日本医療福祉設備協会 (HEAJ)、日本医業経営コンサルタント協会 (JAHMC) の副会長を勤め、日本医業経営コンサルタント協会上級ビジネス研修所の所長、そして国際建築家連盟 (UIA) 公衆衛生グループ、日本病院管理学会 (JSNA)、日本病院管理研究協会の理事を兼務しています。

研究室は新宿校舎 25 階ですので、明治神宮の森越しに丹下健三のオリンピック競技上の吊屋根が望めます。ご興味のある方はどうぞお気軽にお立ち寄りください。



きのした ようこ 木下 庸子

PROFILE

1956年 東京都生まれ、1977年 スタンフォード大学卒業、1980年 ハーバード大学デザイン学部大学院修了、1981～1984年 内井昭蔵建築設計事務所、1987年 設計組織A D H設立、2005年～2007年3月 UR都市機構 都市デザインチームチームリーダー、現在 工学院大学教授。主な作品：N T (1999)、白石市営鷹巣第2住宅 シルバーハウジング(2003)、アパートメンツ東雲キャナルコート(2005)。

主な著書：「孤の集住体」(共著、住まいの図書館出版局、1998)、「集合住宅をユニットから考える」(共著、新建築社、2006)。

メールアドレス
adh01@zaf.att.ne.jp

新しい風に聞く

新任の挨拶

本年四月より建築系学科建築学コースの教授として就任しました木下庸子です。建築の意匠設計を主として担当しております。

海外と日本の経験を経て

私は子供のころから日本とアメリカを行き来して育ち、建築教育は全てアメリカで取得しました。おそらく日本で育ったならば「建築」という分野が私の選択肢になかったのではないかと思うと、アメリカの教育がまさに私の一生を築いてくれたわけです。

帰国後は内井昭蔵建築設計事務所で故内井先生の下、日本における建築の実務の進め方を学びました。今から四半世紀も前の、日本が国際的に世界から認め始められて間もなくの頃に、私に日本の建築界への一歩を踏み出すチャンスを与えてくれた内井先生には大変感謝しております。

その後1987年より設計組織A D Hという建築設計事務所を設立、共同主宰して参りました。住宅の設計を通して「住まいづくり」という、いわば建築の原点から始めた事務所ですが、現在は戸建住宅のみならず、集合住宅や公共施設など様々な建築の設計を通して実務の実践を取り組んでいます。

また、2005年4月から2007年3月までの二年間、独立行政法人都市再生機構の本社に在籍し、2005年4月1日に発足した「都市デザインチーム」のチームリーダーを務めました。ここでの業務を通して都市の環境や景観を考える、いわゆる「街づくり」の重要性について深く認識させられました。

今後は大学教育を通じて、私の得た多くの経験を次のジェネレーションに伝えることで社会に生かすことができればこの上なくうれしく思います。

「住まいづくりと街づくり」を研究室のテーマとして上記のような背景から研究室のテーマは「住まいづくり」と「街づくり」というふたつの基軸で設定しております。これらふたつは個々のテーマとしてではなく一体的に捉える必要があると考えます。住まいは都市を形成する建築の基本単位であり、それら住まいによって成り立つ街や、更にはそれら街の複合によって形成される街並みや都市景観についても考察を展開していくことを目標としています。そしてこれらの考察を具体的な設計に反映させることで建築が社会の中で果たすことのできる役割について考えていきたいと思っています。

谷口研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|---|
| 1部 建築コース | 伊勢谷孝祐 | Re: ~団地は単位を変えて再生する~ |
| 1部 建築コース | 大屋 晴平 | Color・Space |
| 1部 建築コース | 白川 健 | PLAY WITH |
| 1部 建築コース | 月岡 星紀 | liberty・ジユウ |
| 1部 建築コース | 菱田 真仁 | ミチ・ゲキジョウ |
| 1部 建築コース | 中島 知彦 | Gateless Station |
| 1部 建築都市デザイン | 今井久美子 | High way city |
| 1部 建築都市デザイン | 岡田 和人 | With green, with a city |
| 1部 建築都市デザイン | 小川 弘清 | ANTENNA FIELD MUSEUM 「MITAKA "BUS STOPS"」 |
| 1部 建築都市デザイン | 横川 順子 | jumble of city |
| 院 | 北村 岳彦 | 劇場における主機能と従属機能の関係性に関する基礎的研究—台東区浅草六区地区におけるケーススタディー |
| 院 | 豊川 智彰 | 現代都市におけるユニバーサルな共同生活空間の研究—日本におけるコレクティブハウジングの現状把握と、空間計画に関する問題点及びこれから展望について— |

望月研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|--|
| 1部 建築コース | 垣内 健吾 | 輝くまち |
| 1部 建築コース | 佐藤 勇輝 | SHOW CASE |
| 1部 建築コース | 染谷 大成 | Activity of ROKA ~Rokkoen Project~ |
| 1部 建築コース | 高橋 謙太 | coexistence and co-prosperity SCHOOL |
| 1部 建築コース | 友常 助隆 | so many people, so many mind |
| 1部 建築コース | 八島 重郎 | Activation of Nijo street shopping distinct |
| 1部 建築コース | 大和 大介 | WORK×PARK |
| 1部 建築コース | 田畠 大輔 | new relations -外国人と高齢者の新たな関係性を築く- |
| 1部 環境コース | 山崎 智之 | community station -行動すること、つながること、伝わること- |
| 1部 環境コース | 山田 周平 | 記憶のかたち |
| 1部 環境コース | 西川 将広 | 集い |
| 1部 建築都市デザイン | 伊藤 淩 | common life |
| 1部 建築都市デザイン | 宮澤 恵亮 | ・・・静岡県浜松市における・・・ブラジル人移民との交流施設計画 |
| 院 | 桑原 卓介 | 河川とまちづくりの手法に関する研究—多摩川支流 浅川流域についてのケーススタディー |
| 院 | 菅原 良介 | パビリオン建築の恒常化に関する研究—日常化によって構築される空間— |
| 院 | 船原 友子 | 集合居住のコミュニティー形成のあり方 |
| 院 | 山崎 勉 | 団地再生を媒介としたマチの活性化 |
| 院 | 勇田 泰 | 集合住宅における路地の形態特性に関する研究—阿佐ヶ谷住宅再開発計画についてのケーススタディー |

安原研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|----------------------------------|
| 1部 建築コース | 加藤 建司 | BESIDE WATER |
| 1部 環境コース | 松本 隆宏 | 大宮水川参道プロムナード 大宮駅東口地区活性化計画 |
| 1部 建築都市デザイン | 井上かおり | ARM IN ARM |
| 1部 建築都市デザイン | 金森 優 | うみのいえ |
| 1部 建築都市デザイン | 北原 晴子 | collector meet creator |
| 1部 建築都市デザイン | 澤入 正和 | MOSAIC |
| 1部 建築都市デザイン | 染谷 葵実 | BLOCKS |
| 1部 建築都市デザイン | 高田 和弥 | BACK IN THE DAY. |
| 1部 建築都市デザイン | 千葉 寛子 | PLACE of DISPATCH ~水辺から発信されるもの~ |
| 1部 建築都市デザイン | 藤島 昭子 | FriendShip & USA in FUSSA YOKOTA |
| 1部 建築都市デザイン | 村田 真一 | Re: |

後藤研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|--|
| 1部 建築コース | 林 遼 | 郡上八幡町地区における町家の調査・研究／町屋路 まちや+みち |
| 1部 環境コース | 香川 祐司 | 香川県綾歌郡宇多津町旧街道沿いに関する調査・研究／まちなかキャンパス |
| 1部 建築都市デザイン | 佐藤恵利子 | 群馬県旧利根村星野邸に関する調査・研究／まもりたい |
| 1部 建築都市デザイン | 瀧原 千秋 | 三池炭鉱有明坑施設に関する調査・研究／炭都活用計画～有明堅坑櫓保存～ |
| 1部 建築都市デザイン | 中村 出 | 愛媛県宇和島市津島町岩松小西家住宅に関する調査・研究／蘇生～既にあるものを作生すために～ |
| 1部 建築コース | 津川素仁彌 | 和歌山県福勝寺の構成部材品質についての調査・研究 |
| 1部 建築コース | 原田 良幸 | 茨城県つくば市の四間取り民家の編年に関する調査・研究 |
| 1部 環境コース | 高橋 衍貴 | 高齢RC造建物の保存・修復技術に関する調査・研究 |
| 1部 建築都市デザイン | 櫻原 史子 | 岩手県一ノ関市横屋酒造に関する調査・研究 |
| 1部 建築都市デザイン | 野路 直毅 | 山形県南陽市熊野神社拝殿の変遷について |
| 1部 建築都市デザイン | 横山 賢司 | 千葉県白井市の一間社流造本殿について |

小野里研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|----------|-------|---------------------------------------|
| 1部 建築コース | 浅見 純一 | 鉄筋コンクリート造耐震壁の壁筋の定着に関する実験的研究 |
| 1部 建築コース | 吉田 岳大 | 鉄筋コンクリート造耐震壁の壁筋の定着に関する実験的研究 |
| 1部 建築コース | 石崎 祐司 | 木工用ボンドを用いたセメント系接着剤についての実験的研究 |
| 1部 建築コース | 大木 降寛 | 折板屋根の遮熱シートの強度に関する研究 |
| 1部 建築コース | 杉谷 裕美 | 角型鋼管の面外力で伝えるガセットプレートの接合耐力に関する研究 |
| 1部 建築コース | 鈴木 育典 | 集成材壁式工法の接合耐力に関する研究(その2) |
| 1部 建築コース | 高野 哲也 | 発泡スチロール製ボイドを用いたボイドラブに関する研究(その2) |
| 1部 建築コース | 中田 達也 | インターネットを利用した教材の作成建築データベース・アプリケーションの構築 |

小野里研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|------------------------------|
| 1部 建築都市デザイン | 鈴木 貴久 | RC中層建築物の解析方法の違いによる降伏メカニズムの比較 |
| 1部 建築都市デザイン | 熊木 健太 | |

高研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|----------|-------|----------------------------------|
| 1部 建築コース | 渡辺創一郎 | エコセメントコンクリートの諸性質および打重ね部の性状に関する研究 |

中島(裕)研究室

| 学部学科名 | 氏名 | 卒業設計・卒業研究題目 |
|-------------|-------|---------------------------------------|
| 1部 建築コース | 柳川 昌大 | 品川区における都市環境モニタリングシステムの環境教育的活用手法に関する研究 |
| 1部 環境コース | 余原 温子 | 品川区における都市環境モニタリングシステムの環境教育的活用手法に関する研究 |
| 1部 環境コース | 今泉 千恵 | 寒冷地住宅の設備の違いによるエネルギー消費特性と住まい方に関する研究 |
| 1部 環境コース | 谷川 壮太 | 建築系廃棄物における複合建材の処理実態と再資源化に関する調査研究 |
| 1部 環境コース | 中川健太郎 | 住宅エネルギー表示モニタを利用した省エネルギー手法に関する研究 |
| 1部 環境コース | 村上摩希子 | リフォーム工事における住宅インフィルのリサイクルに関する研究 |
| 1部 建築都市デザイン | 鈴木 良祐 | NHL(天然水硬性石灰)を使用した住宅の環境性能に関する実測調査研究 |
| 1部 建築都市デザイン | 寺田 大輔 | |
| 1部 建築都市デザイン | 松岡 美帆 | NHL(天然水硬性石灰)の各種ガス吸着性能とLCCO2評価に関する研究 |
| 1部 建築都市デザイン | 吉田 大志 | ヒートアイランド対策技術としての各種舗装材の実測調査研究 |

～荻原先生喜寿を祝う会開催案内～

既にご案内を差し上げましたように、荻原研OB会を兼ねて「荻原先生の喜寿のお祝い」を、来る平成20年6月28日、下記の要領で開催致します。まだ、出欠のご返事のない方は、5月末日迄にご出席の有無を事務局まで、ご一報下さい。また、手違いでご案内が届かない諸兄姉につきましては、下記宛までご連絡下さい。

荻原研究室OB会

| | |
|-----------|---|
| 日 時 | 6月28日(土曜日)、午後2時～4時 |
| 場 所 | 新宿「京王プラザホテル3階 グレース」 |
| 会 場 連 絡 先 | 03-3344-0256(担当 磯 裕之) |
| 会 費 | 金 一万円 同伴者 五千円 (お子様は無料) |
| 事 務 局 | 荻原研究室OB会 担当 望陀・米津 TEL / 03-3226-8919 FAX / 03-3226-1819 東京都新宿区左門町13-2 望陀ビル内 |

建築系学科 同窓会総会開催

新宿キャンパス5階の広い563教室内一杯に同窓生が集まり、定刻に笠原克さんの司会で開会。田野邊幸裕同窓会会长の挨拶に引き続き議題が審議されました。議案1、第41期(2006年度)事業結果(決算額

758万円)の報告、運営委員の改正、NICHEの発刊、H.Pの充実、資格支援事業などについて各担当者から報告がありました。議案2、第42期(2007年度)事業計画(763万円)(案)の報告。前期と同様の活動内容の報告がありました。出席者から「資格・支援事業は非常に大切で、新入社員が2級建築士を取得しても戦力になる」。先輩の事務所に学生がでかけるインターンシップ制度の説明



田野邊幸裕会長



資格支援事業を説明する谷口宗彦教授

や、建築学科の新学部構想などについて意見交換が行われました。最後に議案及び同窓会役員新規人事について、全員の拍手をもって承認されました。

(取材/NICHE編集部)

工学院大学建築系学科同窓会 2008年度—運営委員会名簿

●建築系学科同窓会役員

| | |
|----------------|--|
| 顧問 | 北澤興一 |
| 会長 | 田野邊幸裕 |
| 副会長 | H.P担当 加藤隆弘 NICHE担当 大場光博 NICHE副担当 楠昭 資格支援担当 小野里憲一 イベント担当 後藤敏明 |
| 幹事 (会長補佐兼務) | 高木雅行、初田亨、谷口宗彦、 伊藤真人、三好薰、高橋昭彦、高城文一 関谷真一、笠原克、齊藤敏博、田中正裕 |
| 会計 | 柴田卓次、佐々木秀史 宮澤健二、大橋一正、南雲正博 |
| 会計監査 | |

●校友会理事

| | |
|--------|---------------------|
| 政策諮問委員 | 北澤興一 |
| 常任理事 | 田野邊幸裕、笠原克、加藤隆弘 |
| 監事 | 楠昭 |
| 理事 | 後藤敏明、田中正裕、大場光博、谷口宗彦 |
| 理事補欠 | 初田亨、齊藤敏博、高橋昭彦 |

●校友会役職者・評議員

| | |
|---------|--|
| 副会長 | 田野邊幸裕 |
| 監事 | 楠昭 |
| 企画・広報部会 | 部長 田野邊幸裕 理事 大場光博 |
| 学園連携部 | 部長 笠原克 理事 後藤敏明 |
| 組織・事業部 | 副部長 加藤隆弘 理事 谷口宗彦 |
| 総務部理事 | 北澤興一 |
| 財務部理事 | 田中正裕 |
| 評議員 | 初田亨、齊藤敏博、高橋昭彦、小野里憲一 三好薰、伊藤真人、高城文一、関谷真一 柴田卓次、佐々木秀史、宮澤健二、大橋一正 南雲正博、神前健、佐藤保廣、渡部莊児 望陀宣夫、板谷信、菅家幹、武田昌宏 |

ついに2009年 建築士法改正！

1級建築士の試験制度が変わる!!

今年が今までの試験制度で受験できるラストチャンスです！

いつでもどこでも学習可能！ 受験対応Web講座

インターネットブロードバンド専用



いつでもどこでもうんづかく！
WEB学習

ワンタッチでフルスクリーン表示対応

Nikken Gakuin

工学院大学 建築系学科『同窓生』特別割引

本校建築系学科同窓生のみ、資格取得へ向けた講座が、実績のある日建学院と同窓会との連携で、この度、特別割引受講価格が誕生致しました。

| 講座名 | 一般学費 | 工学院大学同窓生学費 |
|---------------|----------|--|
| 1級建築士 学科bb講座 | 315,000円 | 日建学院コールセンターへ、在学中の学籍番号と所属研究室名、氏名をお伝えの上、特別価格をご確認下さい。 |
| 2級建築士 学科bb講座 | 294,000円 | |
| 宅地建物取引主任者bb講座 | 105,000円 | ※学籍番号等お忘れの場合は、特別価格をお伝えできません。 |

(税込)

「特別割引受講価格」での受講条件

この「特別割引受講価格」は、毎年同窓会費の支払が規定通り行なわれている方に適用されます

- 受講申込（右記へTEL）の際は、在学中の学籍番号と所属研究室名、氏名をお伝え下さい。 日建学院コールセンター ☎ 0120-243-229
- その後、本人確認等のため、最寄の日建学院から連絡が入ります。その上で、日建学院の面接（意志確認・受講説明等）を受けて下さい。
- この価格は、毎年同窓会費の支払が規定通り行なわれている方に適用されます。

特別割引講座の講義内容

1級建築士 学科bb講座

合格必勝講義

主に出題頻度の高い
重要問題に対する理解を養成する、
過去問題・類似問題対策 講義

問題解析講義

近年の出題傾向の検証・分析を
基に応用力を養成する、
応用問題・新規問題対策 講義

個別学習対応講義

「問題集（計2000問）」の
「ズバリ解説」により、
解らない問題を即、解決！

2級建築士 学科bb講座

合格必勝講義

主に出題頻度の高い
重要問題に対する理解を養成する、
過去問題・類似問題対策 講義

フォローアップ講義

理解しづらい分野にしぼった、
テーマ別ポイント講義で、
弱点分野の強化ができます。

個別学習対応講義

「問題集（計1200問）」の
「ズバリ解説」により、
解らない問題を即、解決！

宅建 bb講座

入門民法講座 アプローチ主要科目

●民法の考え方をマスター
●民法・都市計画法、業法等試験の重要な法律について、制度趣旨や仕組みを理解する基礎講座

重点講座

●宅建bbコースメイン講座。試験範囲全体にわたって必須重点項目を中心インプットを行う講座

個別学習対応講義

「項目別問題集（計600問）」の
「ズバリ解説」により、
解らない問題を即、解決！

配信期間 平成20年度 学科本試験日まで

配信期間 平成20年度 学科本試験日まで

配信期間 平成20年度 本試験日まで

自宅のインターネットブロードバンド（bb）を活用し、いつでも自分のやる気次第で、思う存分まなぶ事が出来るWeb学習システムです。

bb体験版へGo!

<http://www.ksknet.co.jp/nikken/bb>

※体験版で、ご自分のPC動作環境を確認して下さい。

講座に関するお問合せ

日建学院コールセンター ☎ 0120-243-229

同窓会に関するお問合せ

工学院大学工学部 建築都市デザイン学科 谷口研究室 Tel.03-3340-3529

主催／工学院大学 建築系学科 同窓会

Union Kenzai Builder

会社概要

社名 株式会社ユニオン建材ビルダー
設立 1996年10月24日
資本金 3,000万円
売上高 183億円（2007年度 第12期計画）
190億円（2008年度 第13期計画）
200億円（2009年度 第14期計画）
役員 代表取締役社長 伊藤正一
従業員 212名（平成20年1月1日現在）

事業内容

- 建築用材料の工事付き販売
- 建築の設計・施行
〔東京都知事許可（般-10）第110691号〕
- 建築材料の物流
- 建築構造用パネル及びプレカット材生産

新卒・中途採用社員募集のお知らせ
木造住宅 設計・積算
現場管理
住宅用建材 営業・商品開発・購買

所在地

- ①東京本社
〒104-0031 東京都中央区
京橋1-10-3 服部ビル8F
TEL. 03-3564-5461（代）
Fax. 03-3564-5462
- ②神奈川物流センター兼営業所
- ③埼玉物流センター兼営業所
- ④栗橋工場
- ⑤古河物流センター
- ⑥水戸物流センター兼営業所
- ⑦千葉物流センター兼営業所
- ⑧八街プレカットセンター
- ⑨大網工場
- ⑩木更津物流センター兼営業所
- ⑪野田物流センター兼営業所
- ⑫名古屋物流センター兼営業所
- ⑬大阪物流センター兼営業所
- ⑭福岡物流センター兼営業所

住宅イノベーション

株式会社 **ユニオン建材ビルダー**

MUTOH

教えるのも、教わるのも、
MUTOHなら安心です。

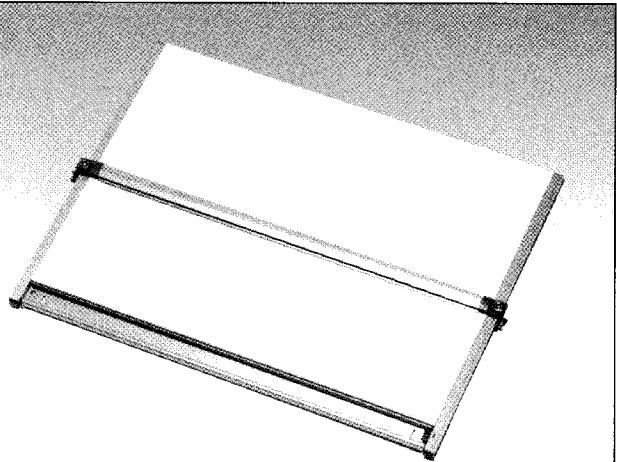
設計現場の即戦力となる人材育成には、優れた教材を使用したい。
そんな声に応えるのは、やっぱりMUTOHです。
あらゆる設計現場で、高い信頼性と
納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、
教育の現場でも活躍してくれます。

LINER BOARD **UM-09NK**

■ 塩ビシート接着鋼板製図板使用

工学院
特別仕様

場所を選ばず高い精度と操作性が得られる
コンパクトな平行定規、ライナーボード。
耐久性に優れ快適な操作性を提供する
シンクロベルト方式を採用した本格派。
A1サイズまでの作図に対応。図面への
固定は、付属のマグネットプレートで
ワンタッチ。しかも軽量・コンパクトで
す。簡単に持ち運びできますので、思い
ついたらそこがワークスペース。アイ
ディアを生み出す頼もしい片腕です。



株式会社 ムトー エンジニアリング 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-21-1第5TOCビル2階 TEL(03)5740-8211 FAX(03)5740-8219

日建学院グループ/建設系総合人材バンク

■職業紹介事業許可:13-ユ-090149
■労働者派遣事業許可番号:般13-090147

建設系職業紹介・人材派遣のエキスパート

「働く場」と「働く人」の出会いをご提供

ニッケン・キャリア・ステーション

Nikken
C.S.

<http://ncs.ksknet.co.jp>

free call:0120-810-298 / e-mail:ncs@to.ksknet.co.jp

■本社/豊島区池袋2-68-1 日建サテライト館5F ■横浜支店/横浜市神奈川区鶴屋町3-32-14 新港ビル4F ■大阪支店/大阪市北区梅田2-5-6 桜橋八千代ビル6F ■名古屋支店/名古屋市中区錦2-15-20 三永伏見ビル3F

NIKKEN
SEKKEI

株式会社 日建設計

代表取締役社長 岡本 慶一

東大名九古支社・支所・その他 〒102-8117 東京都千代田区飯田橋2-18-3 電話(03)5226-3030
京阪屋州 〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 電話(06)6203-2361
〒460-0008 名古屋市中区栄4-15-32 電話(052)261-6131
〒810-0001 福岡市中央区天神1-12-14 電話(092)751-6533

北海道(札幌)・秋田・神奈川(横浜)・静岡・北陸(富山)・京滋(京都)
神戸・中国(広島)・北九州・熊本・鹿児島・沖縄(那覇)・上海・大連
台北・ドバイ・ハノイ・ホーチミン

<http://www.nikken.co.jp/>

幸せや楽しみを演出できる。そんな明かりを考えています。

人と文化を結ぶ絆、電気。
私達は確実に結びます。

東光電気工事株式会社

東京都千代田区西神田1-4-5 TEL.(03)3292-2111

〒101-8350 <http://www.tokodenko.co.jp/>

工学院大学建築系学科同窓会ホームページ

NICHE WEB

- 建築系学科同窓生のホットな話題をお届け！
- 卒業生も現役学生も必見の情報満載！
- ホームページ作成に興味ある卒業生募集中！

資格 WEB 講座のお知らせも！

<http://www.kogakuin.or.jp/kenchiku/>

The screenshot shows the homepage of NICHE WEB. At the top, there's a navigation bar with links for NICHE, TOPICS, EVENT, LECTURE, MAGAZINE, ABOUT, LINEUP, and BBS. Below the navigation is a calendar for the month of August. A large section titled "LECTURE !" features a "资格支援 WEB講座" (Qualification Support WEB Seminar). To the left, there's a thumbnail for "研究室対抗ソフトボール大会2007" (Research Room Competition Softball Tournament 2007). On the right, there's a sidebar with a "CALENDAR" and some text about the seminar.



表紙デザインのコンセプト 石井 真

アイディアを形にするのには特別な道具はいらない
1つのペンがあればいい
ペンはたった1つでアイディアに花を咲かせてくれる
そこに無限の可能性を描くことができる
その花は多くの人々を魅了するだろう

そんな思いでこの作品をつくりました

ペンをとろう

工学院大学大学院修士課程2年 石井真（谷口研究室）
埼玉県立川越西高等学校出身

NICHE の表紙デザインコンペ 募集します —個性ある作品を、期待しています—

- ・締め切り/2008年9月29日（月曜日）午後5時
- ・提出物と提出先/応募するデザインをCDに焼いて、
163-8677東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学建築系学科 都市建築デザイン学科 谷口研究室内
NICHE編集部に提出。Tel 03-3340-3529 Fax 03-3340-0588
- ・デザイン条件/A4版、表紙の表裏と背文字部分のデザイン。タイトル文字や裏のニッチの説明文はVol.31と同一デザインを使用します。応募者のお名前（学年/研究室）電話、住所、メールアドレス、簡単なデザイン趣旨を200～300字にまとめ、記入のこと。
- ・文字の修正箇所/2009 Vol.32
- ・賞金/最優秀賞1点-3万円、優秀賞2点-1万円。
- ・応募者条件/工学院大学建築系学科の在校生、卒業生、学園関係者。
- ・問い合わせ先 谷口研究室内/NICHE編集担当 大場光博 携帯 090-4200-6532
- ・発表時期/編集会議で決定後工学院大学新宿キャンパス26階、谷口研究室前に掲示。
発表まで時間がかかることもありますので、ご了承下さい。

そろそろ、あなたの出番ですよ！ 編集後記

ある朝の工学院大学谷口研究室での電話です。「おはようございます。Aさんいらっしゃいますか」「ハイ、Aです」「工学院大学建築系学科同窓会のNICHE編集部ですが、B先生よりAさんをご紹介戴きました。C欄の原稿をお願いしたいのですが、如何でしょうか」「B先生から電話で話は聞いていました。締め切りは何時頃ですか」「1ヶ月半後の○月○日で如何でしょうか」「ハイ、わかりました」「後でご自宅宛に原稿依頼書を郵送しますので、詳細な事はご覧下さい」。

入稿してからも写真の差し替え、顔写真の未着、出身高校の未記入など、版下完成迄あつという間に時間が過ぎていきます。NICHE 2008 Vol.31は時間的な余裕を考えて、2007年の夏休み前迄に32名の

方々に原稿を依頼しました。次号も、多くの方々に原稿を依頼する予定です。NICHE編集部から連絡が届きましたら、ご協力戴けますように宜しくお願い致します。

今回も多くの方々のご協力を戴きました。卒業生・在校生・教職員をはじめ広告を出稿して頂いた企業の方々、そして多くの関係者の皆様、厚くお礼申し上げます。諸先輩の「いいのができた誇りに思う」の一言が、随分励みになります。NICHEの誌面に関してご意見がございましたら、下記のメールアドレス迄ご連絡をお願い致します。 敬具

NICHE編集長 大場光博
E-Mail:miu@tkg.att.ne.jp

◆訂正のお知らせ

前号 NICHE 2007 Vol.30 の 11 頁の歴代同窓会会长の名前に間違いがありました。下記のように訂正して、深くお詫び申し上げます。

(NICHE編集部)

NICHE 5号（昭和43、1973年）
工学院大学建築学科同窓会
会長 金田昭治。
NICHE 6号（昭和43、1973年）
工学院大学建築学科同窓会
会長 金田昭治。



資格一覧

■建設関連

建築士／建築施工管理技士／建築設備士
土木施工管理技士／舗装施工管理技術者
管工事施工管理技士／造園施工管理技士
コンクリート技士／コンクリート主任技士
給水装置工事主任技術者／測量士補／技術士補
エクステリアプランナー／建設業経理士
電気施工管理技士／電気工事士

■不動産関連

宅地建物取引主任者
土地家屋調査士
マンション管理士
管理業務主任者
■会計・経営・労務関連
ファイナンシャルプランナー
社会保険労務士／日商簿記2級・3級

■構造計算

構造計算
■福祉関連
福祉住環境コーディネーター

■法定講習

監理技術者講習
宅建登録講習*
宅建実務講習*
マンション管理士法定講習*

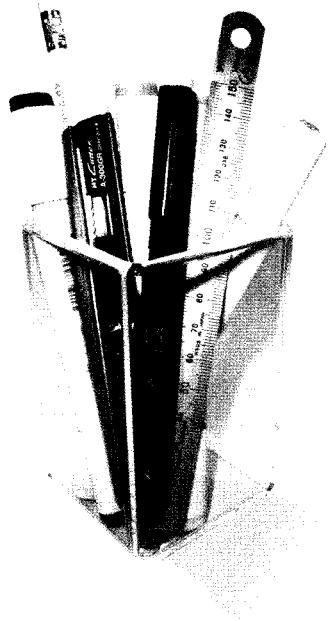
■その他

初級シスアド
CAD利用技術者
秘書検定2級・3級
確認申請
eco検定
Auto-CAD
JW-CAD

※(株)日建学院 実施

あなたの「夢」応援します。

日建学院



NICHE

niche(nich),n. {Fr.niche,form Lnidus a nest}

1.a recess or hollow in a wall usually intended for a statue,bust or vase.

2.a place or position particulary suitable for the person or thing in it.

-webster's New Twentieth Century Dictionary-

校名の愛称「Tokyo Urban Tech」について

工学院大学ではグローバル化の一環に、校名の愛称「Tokyo Urban Tech」を商標登録として申請。